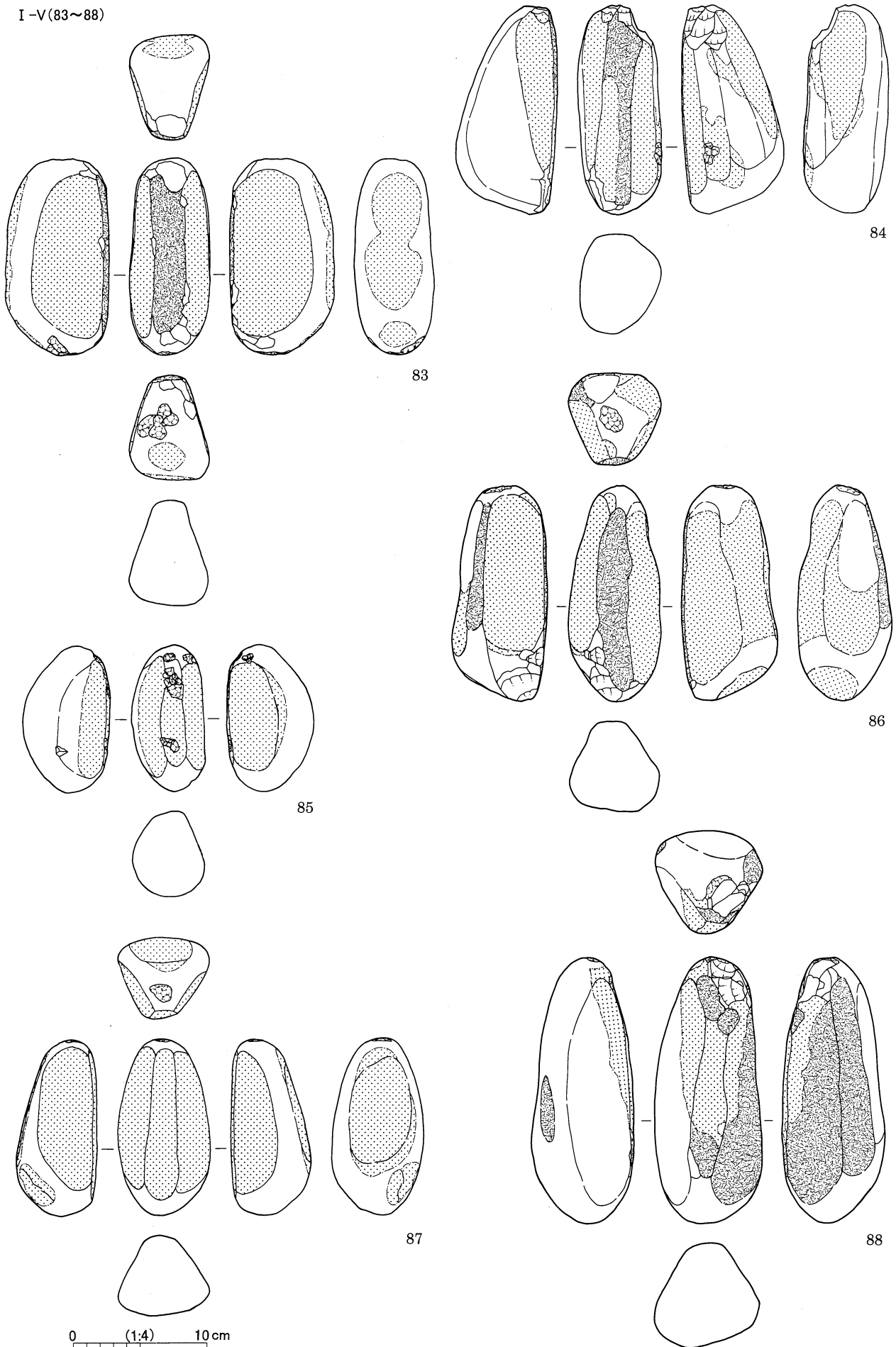
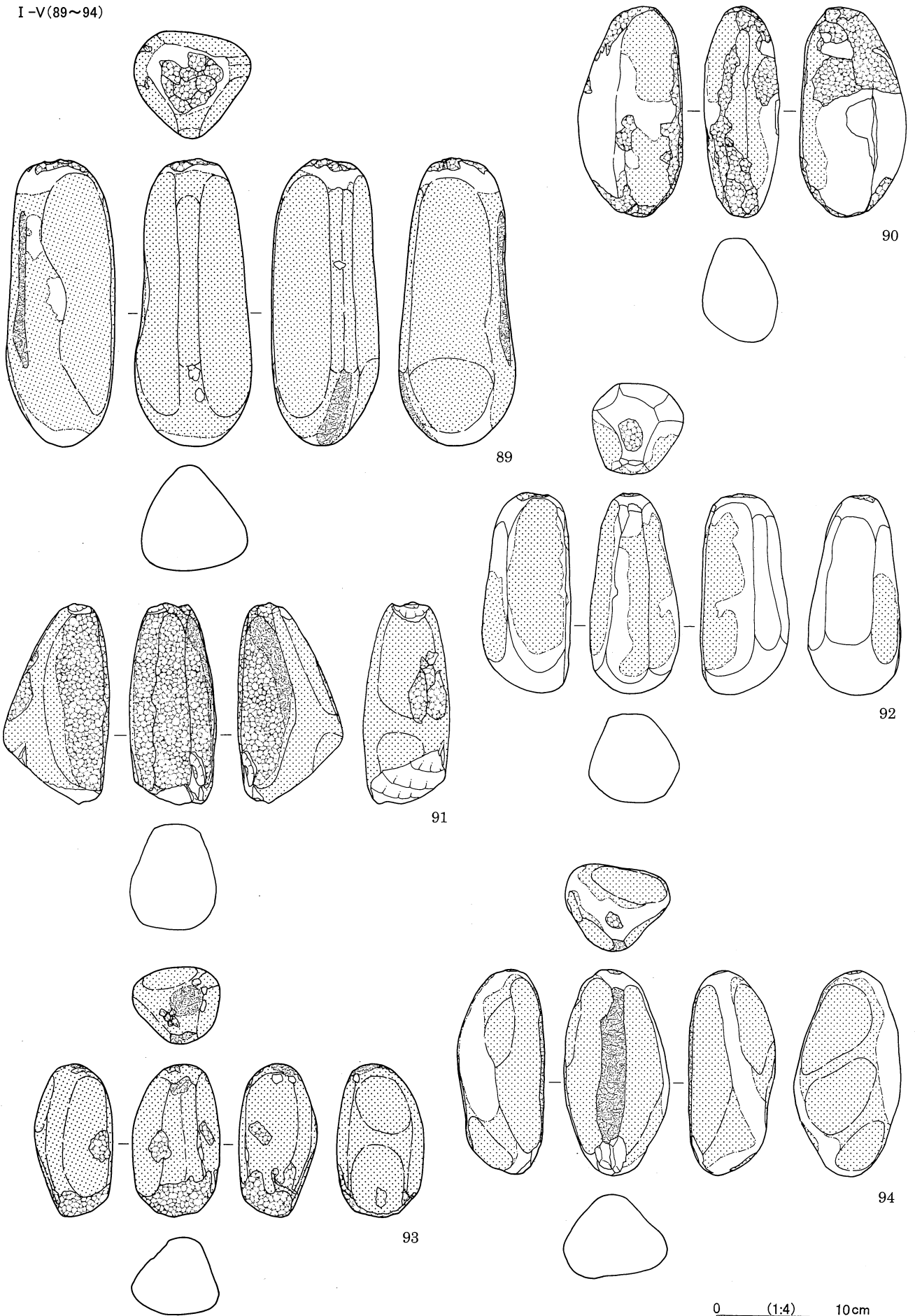


I-V(83~88)

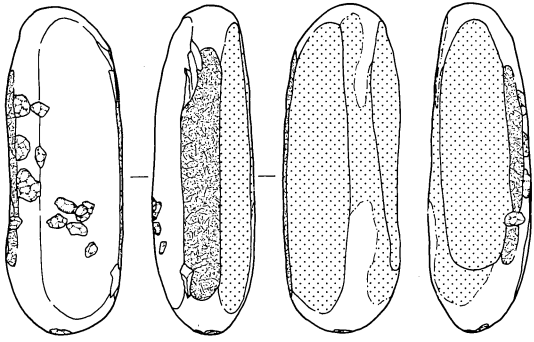


第173図 特殊磨石その15



第174図 特殊磨石その16

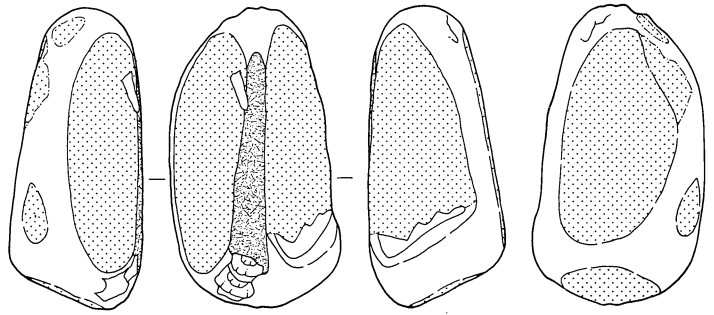
I-V(95)



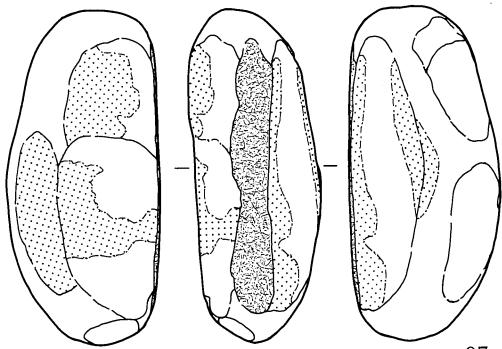
95



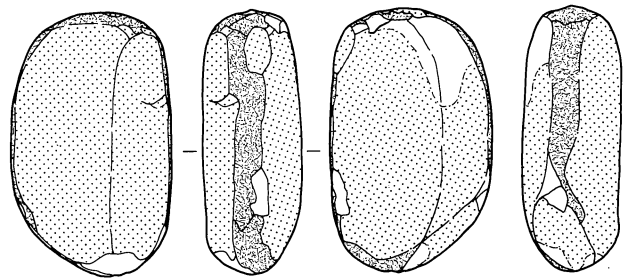
I-W(96~101)



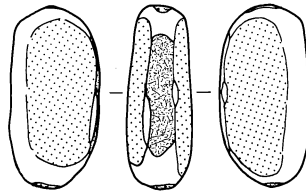
96



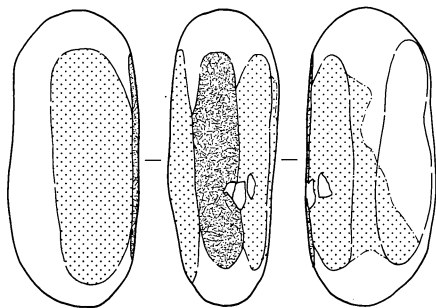
97



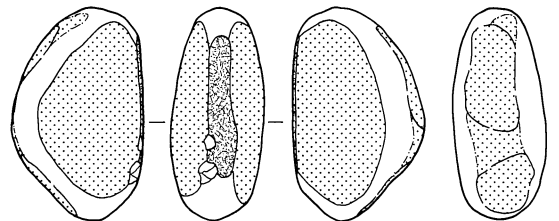
98



99



100



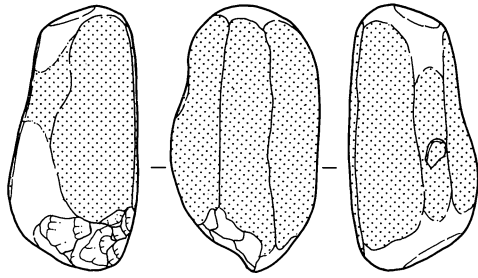
101



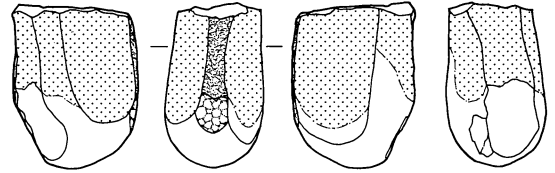
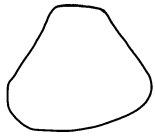
0 (1:4) 10cm

第175図 特殊磨石その17

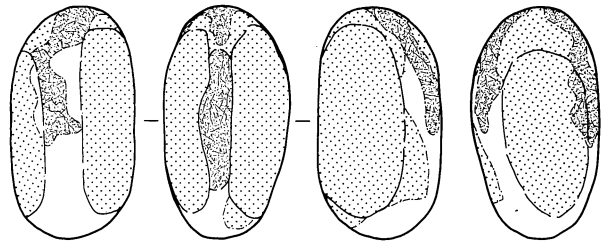
II-B(102~108)



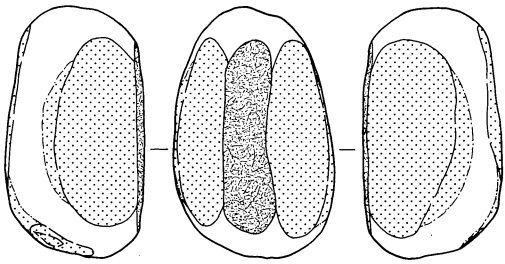
102



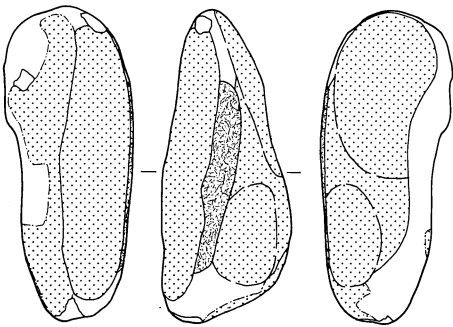
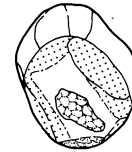
103



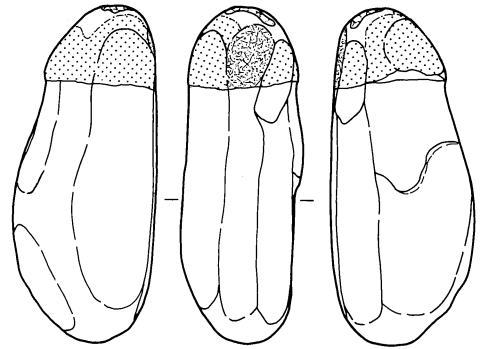
105



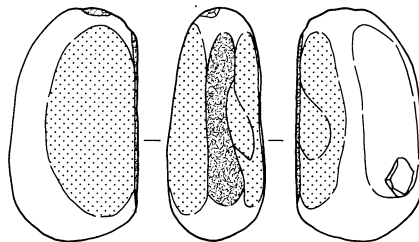
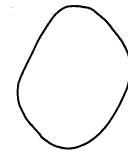
104



106



107



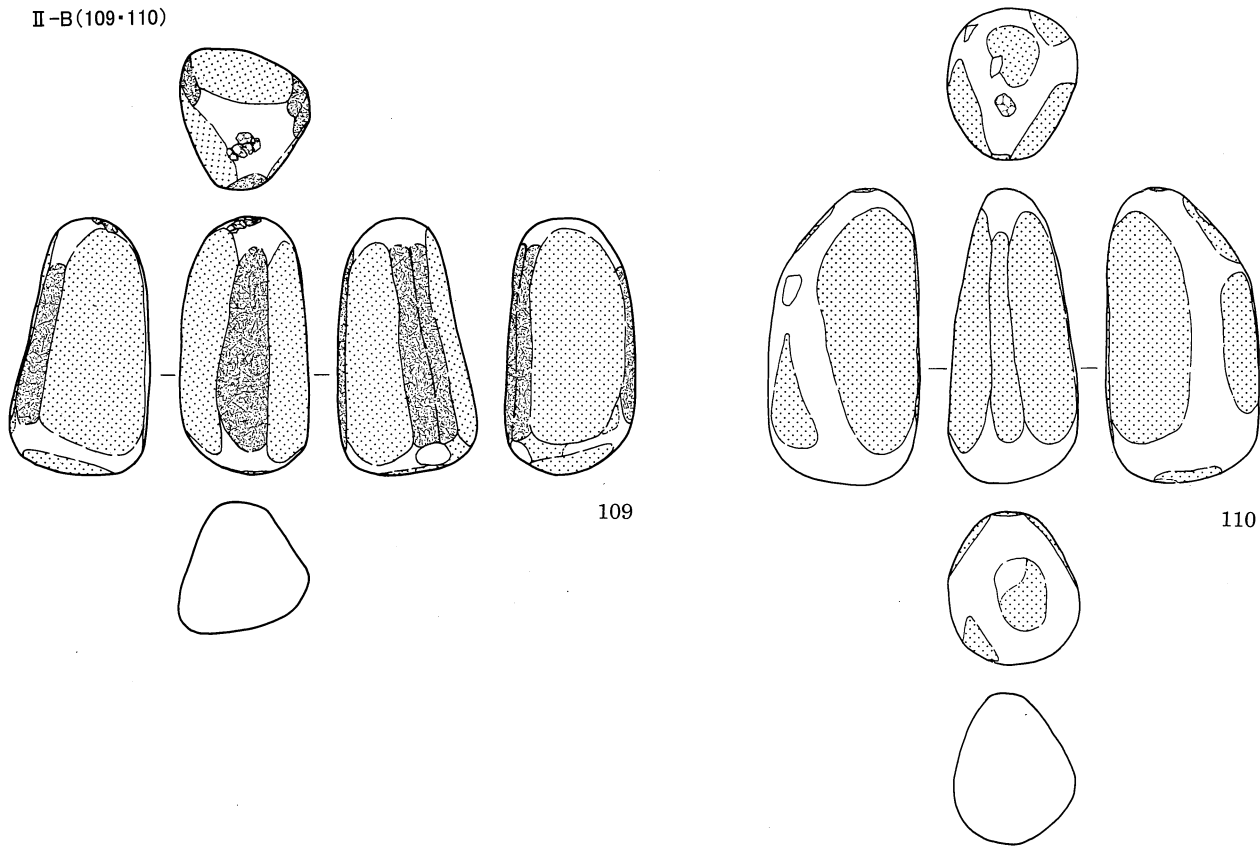
108



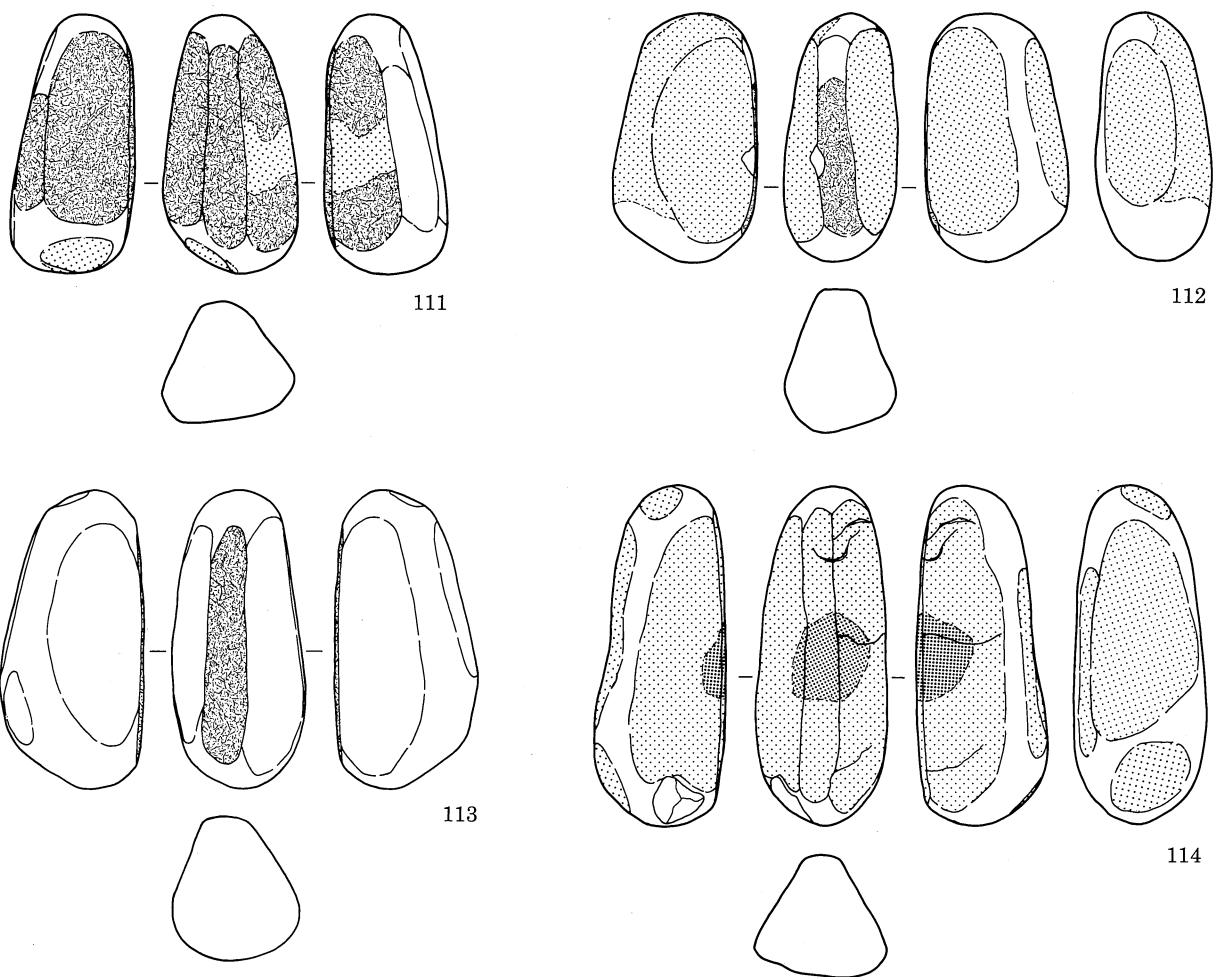
0 (1.4) 10cm

第176図 特殊磨石その18

II-B(109・110)

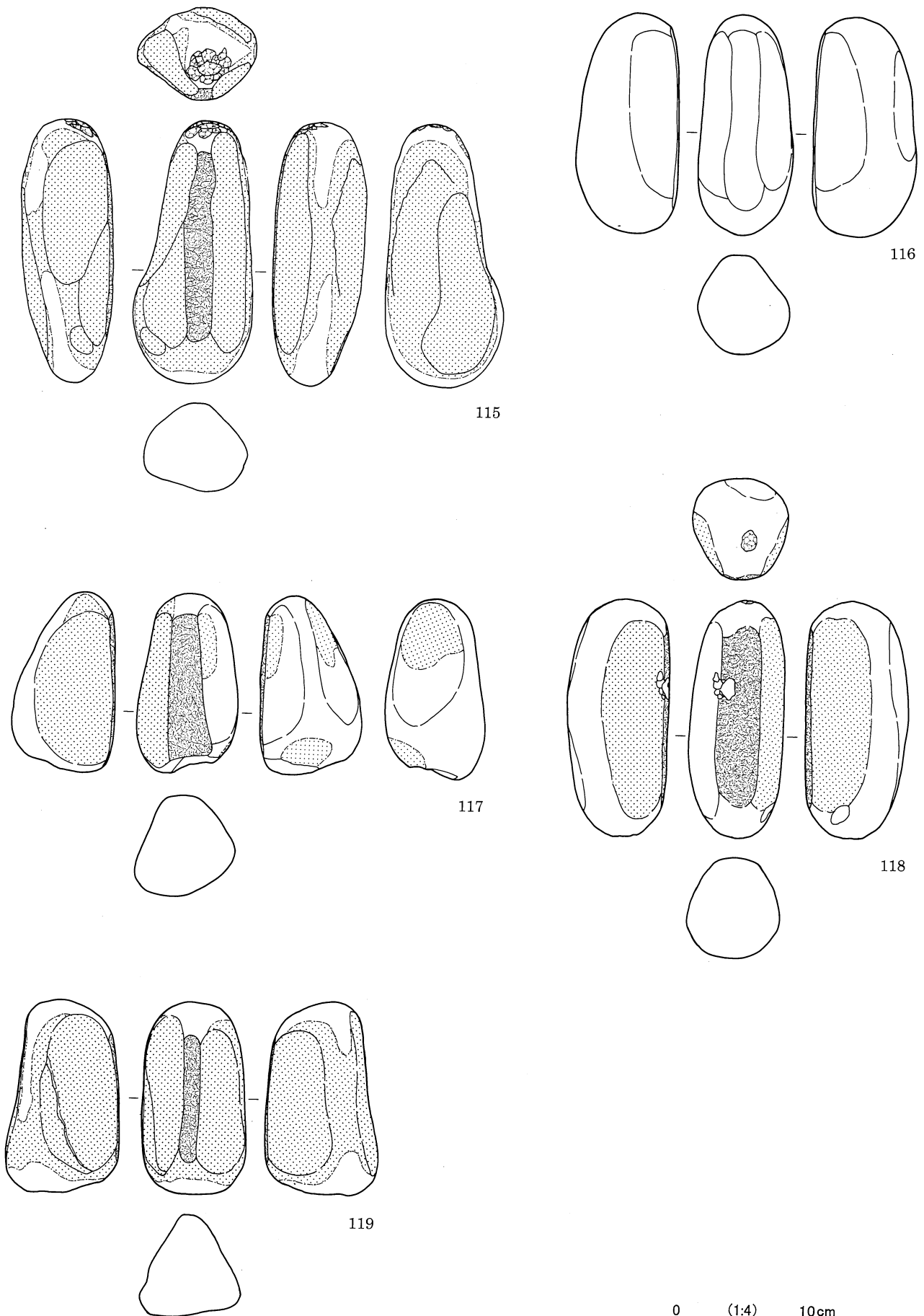


II-C(111・112)



0 (1:4) 10cm

第177図 特殊磨石その19



第178図 特殊磨石その20

平坦面上端に敲打による剥離の単位が見られる。安山岩製。13平坦面2。それぞれの平坦面を挟む両側面に磨面。安山岩製。

14～24土坑出土。14～19SK51a出土。14～18は調査段階でSB14として取り上げられたが、出土状況を検証した結果SK51a出土となった。14平坦面1。平坦面はザラザラ。右側面に磨面。15平坦面1。平坦面はザラザラ。両側、裏面に磨面。16平坦面2。図正面の平坦面は磨面だけの部分と上下端にザラザラ、中央が磨面の部分に分かれる。図右側に見られる平坦面はザラザラ。それぞれの両側、下面に磨面。17平坦面1。平坦面はザラザラ。上面に敲打痕発達。18平坦面2。それぞれの平坦面の両側面は磨面。19平坦面1。平坦面はザラザラ。上面が凸凹しているが、使用によるものか風化によるものかは判別しがたい。20平坦面2。平坦面はザラザラ。それぞれの両側面は磨面。21SK43a出土。平坦面1。平坦面および両側面が磨面。安山岩製。22平坦面1。右側面の部分的に磨面。安山岩製。23・24SK1072出土。23平坦面1。磨面は見られない。24平坦面1。両側および裏面の一部に磨面。

25～50集石・石列出土。25SH01出土。平坦面1。磨面は見られない。26～28SH05出土。26平坦面1。両側、裏、下面に磨面。左側面中央に敲打痕。安山岩製。27はつきりした平坦面1。右側面下側にもかすかに平坦面がある。礫全体が磨面と自然面の間のような様相で、ここでは磨面とはしなかった。28平坦面3。いずれもザラザラ。それぞれの両側面は磨面。図正面の平坦面はさらに左右に面に分かれる。29・30SH09出土。29平坦面2。平坦面とそれぞれの両側面は磨面。上面に敲打痕発達。下端は風化によって欠損したものか。30平坦面1。両側、裏、下面が磨面。31SH06出土。平坦面3。いずれもザラザラ。図面右面の平坦面はさらに左右に分かれる。それぞれ平坦面の両側面は磨面。32～35SH21出土。32平坦面1。平坦面のみが磨面。安山岩製。33平坦面1。平坦、右側、裏面の一部が磨面。上下端に敲打痕が発達。34平坦面1。両側面が磨面。上下端に敲打痕発達。35平坦面2。はつきりした平坦面を正面とした。平坦と両側、裏面が磨面。図面右面の平坦面は自然面と大差ない。安山岩製か。36～38SH32出土。36平坦面1。平坦、両側、裏面が磨面。平坦面の上端にザラザラな部分が残る。37平坦面1。平坦、両側、裏面が磨面。砂岩製。38平坦面1。平坦面ザラザラ。両側面の一部に磨面あり。39SH35出土。平坦面1。平坦面はさらに右側のザラザラした部分と左側の磨面に分かれる。左側、右側一部、下面に磨面。40・41SH54出土。平坦面3。図面右の平坦面はザラザラだが、のこり二つの平坦面とそれぞれの両側面は磨面。上端に敲打痕発達。41平坦面3。平坦面はザラザラ。正面の平坦面の下部と両側の一部に磨面。上端が敲打のために潰れている。42SH46出土。平坦面2。平坦面はそれぞれザラザラだが、両側面は磨面。上端に敲打痕が散在。43SH57出土。平坦面1。両側面は磨面。44SH64出土。平坦面1。平坦、両側、裏面は磨面。石材不明。45SH66出土。平坦面1。平坦面はザラザラ。両側面に磨面。上端は敲打のためか欠損。46・47SH68・69出土。46平坦面1。両側面の一部が磨面。調査段階ではSH68として取り上げたが、出土状況などの検討の結果、SH68・69に変更。47平坦面1。両側面が磨面。上半部欠損。調査段階ではSH69として取り上げられたが、出土状況などの検討の結果、SH68・69に変更。48・49SH73出土。平坦面1。平坦面はさらに右側のザラザラな部分と左側磨面の部分に分かれる。両側および裏面は磨面。下端欠損。49平坦面1。平坦、両側、裏、下面は磨面。上端欠損。50SH75出土。平坦面1。両側面磨面。下端に敲打痕。

51～119遺構外出土。類型に分類するのが難しいので、以下グリッドの順番で完形品を中心に掲載している。51～57グリッドI-U出土。51平坦面1。両側面は磨面。上端は敲打による割れか。52平坦面2。はつきりしている方を正面とした。平坦、両側、裏、下面に磨面が広がる。53平坦面は2。図正面の平坦面ははつきりしているが図裏側の平坦面は明確ではない。正面の平坦面はザラザラ。それぞれ両側に磨面。上端は平坦面から広がるザラザラな面と敲打痕が見られる。54平坦面1。両側面が磨面。55平坦面1。平坦面と両側面が磨面。56平坦面1。平坦、両側、裏面に磨面広がる。上下端に敲打痕。57平坦面1。平坦面

は左側ザラザラした部分と右側磨面に分かれる。両側や裏面にも磨面が広がる。上端にわずかにザラザラな面がある。

グリッド I-V 出土。58 平坦面ははっきりしない。1 ないし 2 か。図面の両側面および裏面に磨面が発達する。59 平坦面 2。図面左側の平坦面はザラザラ。正面平坦、その両側、裏面に磨面。60 平坦面 1。両側および裏側に磨面広がる。上下端に敲打痕。61 平坦面 2。平坦面はザラザラしている。それぞれの両側面および裏側にも磨面が広がる。上端に敲打痕。62 平坦面 2。正面の平坦面には敲打痕が残る。図面右の平坦面は下側がザラザラ、中央が磨面、上側は上端よりの敲打痕がのこる。両側や裏面の一部に磨面広がる。上下端や平坦面、裏面の一部に敲打痕が残る。63 平坦面 1。両側、裏、下面に磨面。上端に敲打痕。64 平坦面 1。両側、裏面は磨面。下端に敲打痕。65 平坦面 3。平坦面およびそれぞれ両側面に磨面広がる。下端に連続した剥離あり。砂岩製。66 平坦面 1。平坦、両側および裏面の一部に磨面広がる。下端や平坦面の一部に剥離（敲打によるものか）あり。安山岩製。67 平坦面 1。平坦面は自然面と大差がない。左側面、右側面の一部、下端に磨面が広がる。安山岩製。68 平坦面 1。平坦面および右側面は磨面。69 平坦面 2。平坦面はザラザラ。図面左の平坦面は中央に緩い稜線がはいる。それぞれの両側、裏、下面に磨面広がる。上端に連続した剥離。敲打によるものか。70 平坦面 1。平坦、両側、裏面に磨面広がる。71 平坦面 1。両側および裏面は磨面。上下端に敲打痕。72 平坦面 1。平坦、両側に磨面広がる。上下端に敲打痕。安山岩製。73 平坦面 1。平坦面はザラザラ。両側面は磨面。上端に敲打痕。74 平坦面 1。平坦面はザラザラ。両側および裏面は磨面。75 平坦面 1。平坦および両側面は磨面。上端に剥離。敲打によるものか。76 平坦面 1。平坦、左側の上半分、裏面が磨面。77 平坦面 1。平坦面ザラザラ。平坦面左側、裏面に磨面。78 平坦面 1。平坦面上半部はザラザラ。平坦面下半部、両側、裏面一部に磨面。裏面の一部に敲打痕あり。凝灰岩製。79 平坦面 1。平坦、左側、右側面の一部に磨面広がる。石材不明。80 平坦面 1。平坦面はザラザラ。両側面は磨面。81 平坦面 1。平坦面はザラザラ。両側および裏面に磨面広がる。上端に敲打痕。82 平坦面 1。平坦面はザラザラ。両側面は磨面。上端と平坦面下端に敲打痕。83 平坦面 1。平坦面はザラザラ。両側面および裏面は磨面。下端に敲打痕。84 平坦面 2。図正面の平坦面は右および上側ザラザラ。平坦面左下および両側に磨面広がる。上端に連続した剥離。石材不明。85 平坦面 1。平坦および両側面に磨面。上端から平坦面の上部にかけて敲打痕が散在する。86 平坦面 2。平坦面はザラザラ。それぞれの両側、下面に磨面。上端に敲打痕。下端に連続した剥離。87 平坦面 1。平坦、両側、裏、下面に磨面広がる。上端に敲打痕。安山岩製。88 平坦面 2。正面の平坦面は上部と下部がザラザラ。右側、図面右の平坦面もザラザラである。正面の平坦面中央と両側面の一部に磨面広がる。先端に連続した剥離。89 平坦面 2。平坦、両側、裏面に磨面広がる。図の左側面一部と右側面下部にザラザラした部分あり。上端に敲打痕発達。90 平坦面 1。平坦面と両側面に磨面広がるが、同様に平坦面と上下端、裏面に敲打痕が広がる。91 平坦面 1。平坦面と両側面の大半、裏面の一部に敲打痕。裏面を中心に磨面広がる。上端に剥離。下端は欠損する。92 平坦面 3。正面の平坦面と両側、裏面の一部に磨面広がる。93 平坦面 1。平坦、両側、裏面に磨面広がる。下端に敲打痕、上端にはザラザラな部分がある。94 平坦面 1。平坦面はザラザラ。両側、裏面に磨面広がる。上端に敲打痕。95 平坦面 2。平坦面はザラザラ。右側、裏面に磨面広がる。上端に敲打痕。

96～101 I-W 出土。96 平坦面 1。平坦面はザラザラ。両側、裏、下面に磨面。97 平坦面 1。平坦面はザラザラ。両側面などに磨面がある。98 平坦面 2。平坦面はザラザラ。それぞれ両側面に磨面広がる。上下端にもザラザラした部分広がる。99 平坦面 1。両側面磨面。上下端に敲打痕。100 平坦面 1。両側面から裏面の一部に磨面広がる。101 平坦面 1。平坦面はザラザラ。両側および裏面に磨面。

102～110 II-B 出土。102 平坦面 2。図正面の平坦面は明瞭。平坦面および両側面に磨面広がる。下端に連続した剥離。103 平坦面 1。平坦面はザラザラ、下部に敲打痕あり。両側、裏面に磨面広がる。上半部欠

損。104平坦面1。平坦面はザラザラ。両側、裏面は磨面。105平坦面1。平坦面はザラザラ、上端から各稜線にザラザラな部分が広がる。両側、裏面は磨面。106平坦面1。平坦面はザラザラ。両側、裏面に磨面広がる。安山岩製。107中央から下部が表面風化著しく、本来の面の状況は不明。平坦面1。平坦面はザラザラ。両側、裏面に磨面が広がるか。上端に敲打痕。108平坦面1。両側面は磨面。上端に敲打痕。109平坦面3。平坦面はザラザラ。図面右の平坦面は中央に緩やかな稜線がはいり左右に二分される。それぞれの両側面は磨面。先端に敲打痕あり。110平坦面1。両側、裏面、上下端は磨面。安山岩製か。

111・112グリッドⅡ-C出土。111平坦面3。図正面および左の平坦面はザラザラ。正面平坦面を挟む両側面にもザラザラな部分は広がる。右側面および下面に磨面。112平坦面1。平坦面はザラザラ。両側、裏面に磨面広がる。

113～119グリッド取り上げ以外。113平坦面1。平坦面はザラザラ。114平坦面1。図面右の平坦な部分にははっきりしない。平坦、両側、裏面、上下端に磨面。面図正面の平坦面の中央にはとくにツルツルした部分がある。砂岩製。115平坦面1。平坦面はザラザラ。両側、裏面に磨面広がる。上端に敲打痕。116平坦面1。面の状況は自然面と大差ない。117平坦面1。平坦面はザラザラ。左側面と右側面、裏面などの一部に磨面。118平坦面1。平坦面はザラザラ。両側面は磨面。上端に敲打痕。安山岩製。119平坦面1。両側、裏面に磨面広がる。

以上図化した特殊磨石計119点、花崗岩94点（79%）、安山岩16点（13%）、砂岩6点（5%）、凝灰岩1点（1%）、石材不明2点（2%）。

第13節 磨石類・台石（第179～184図）

ツルツルした磨面を有し、重量1000g未満（片手で使えそうなもの）を磨石、置いて使うことが想定されそうな重量1000g以上の平たい石を台石とした。なお、磨石には磨面だけでなく、敲打痕も観察されるがこれも磨石に含めた。また磨面がなく敲打痕だけが観察される重量1000g以下のいわゆる敲石も磨石類として扱い、ここに一括して紹介する。

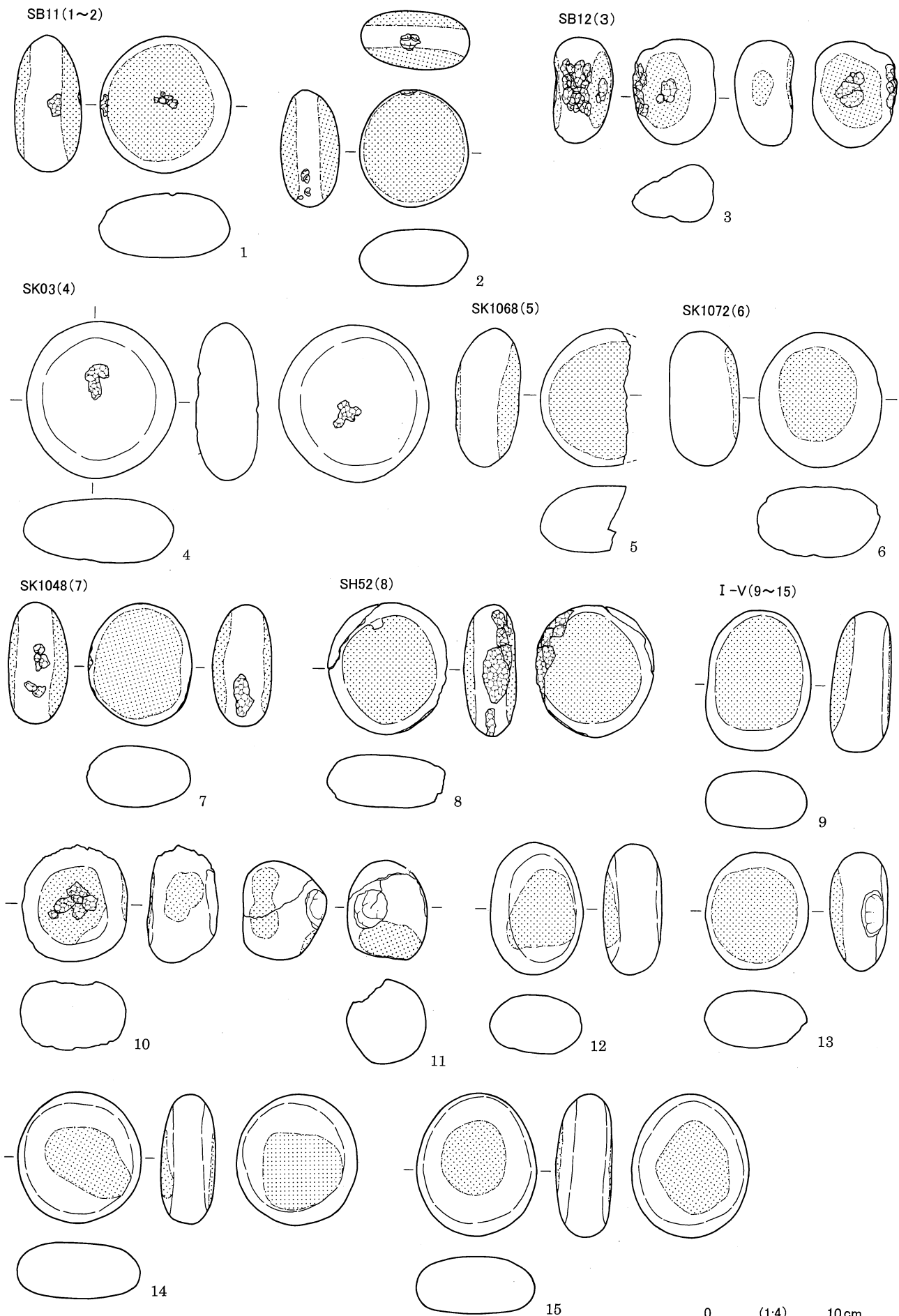
1～19磨石類（第179・180図）。1～8遺構内出土。1・2 SB11出土。表裏面に磨面。1表面中央と左側に敲打痕。花崗岩製。2上端と左側に敲打痕。頁岩製。あるいは原石か。3 SB12出土。表裏面に磨面。表裏面中央と左側に敲打痕。中央は敲打によって凹む。凹石。安山岩製。4 SK03出土。表裏面に敲打痕。敲石。安山岩製。5 SK1068出土。表裏面に磨面。右半分欠損。安山岩製。6 SK1072出土。表面に磨面。安山岩製。7 SK1048出土。表裏面に磨面。両側に敲打痕。安山岩製。8 SH52出土。表裏面に磨面。左側に敲打痕が発達。花崗岩製。

9～19遺構外出土。9～18表裏面両面あるいは片面に磨面。9砂岩製。10表面中央に敲打痕によって凹む。凹石。花崗岩製。11～17安山岩製。11敲打による剥離か。16上端に敲打痕が広がる。表面中央に敲打痕による凹み。凹石。18上下端に敲打痕。敲石。花崗岩製。19表面中央に敲打による凹み。凹石。花崗岩製。

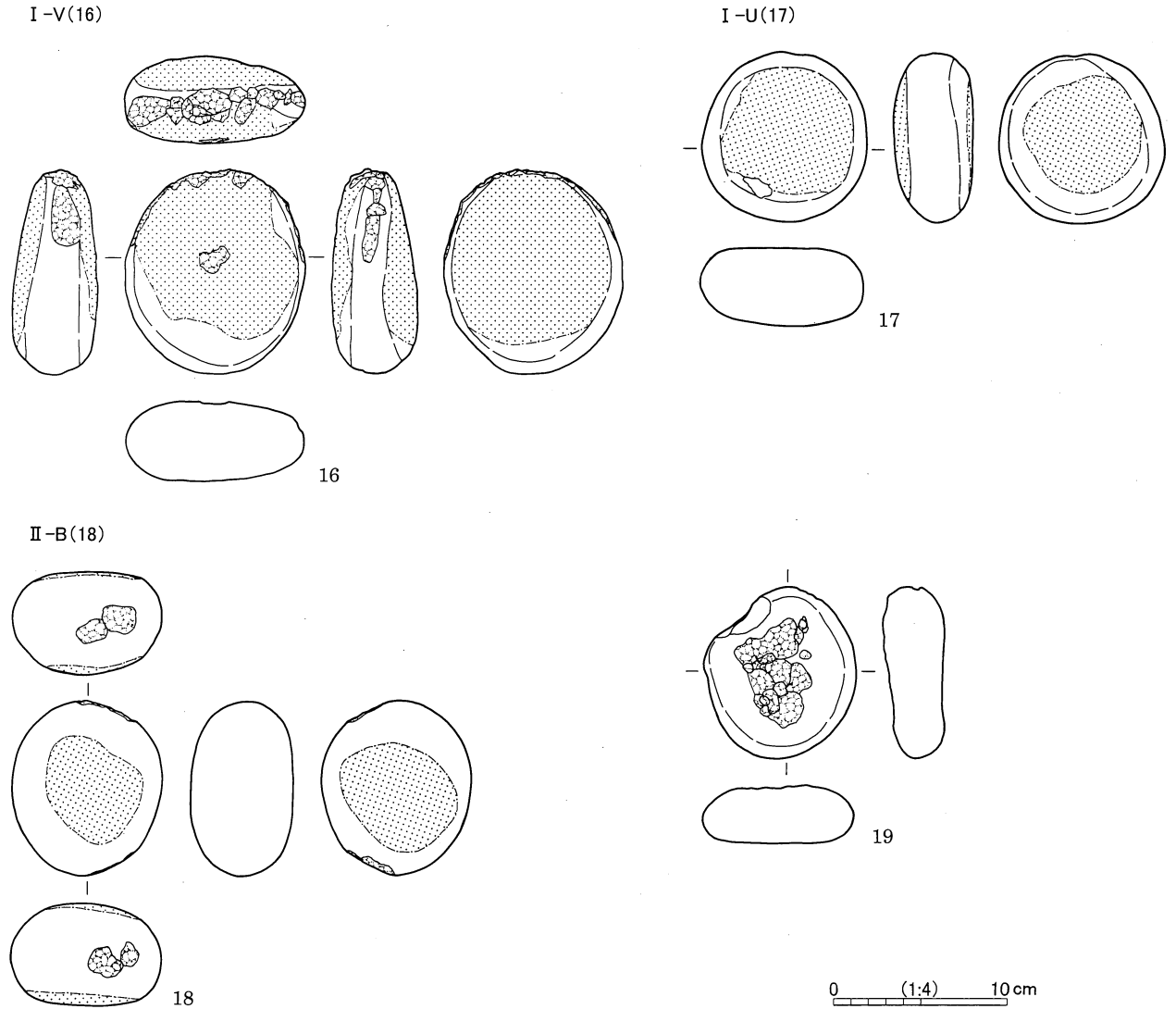
以上図化した磨石類計19点、花崗岩5点、安山岩12点、砂岩1点、頁岩1点。

1～18台石（第181～184図）。花崗岩が大半を占めるので、花崗岩以外の石材のみ明示する。少なくとも片面（表面）に磨面が発達したもののみ掲載している。

1～9遺構内出土。1 SB02出土。2 SB14出土。3 SB12出土。表裏面に磨面発達。4 SK51a出土。5 SK1069出土。6 SK43a出土。平坦面があり、重量が1000gを越えるので、台石としたが、明瞭な磨面は見られない。上面から連続した剥離が見られる。あるいは石核か。この石材で作られた剥片石器は出土していない。安



第179図 磨石類その1



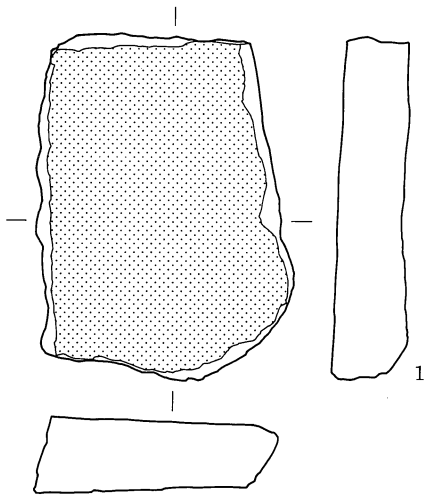
第180図 磨石類その2

山岩製。7・8 SK1061出土。7 安山岩製。9 SH01出土。10SH28出土。11SH42出土。表面が赤化する。安山岩製。

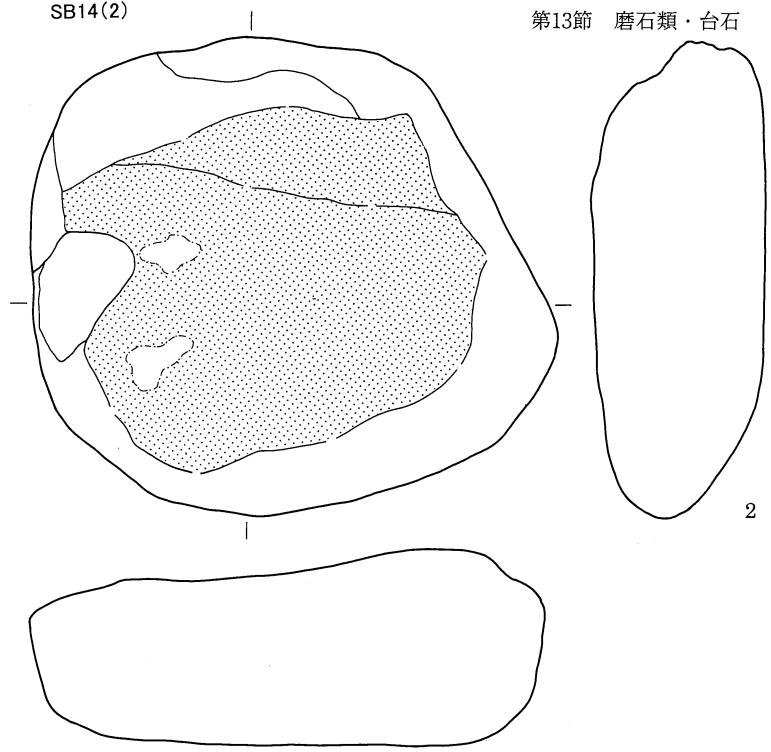
12~18遺構外出土。13表面が赤化する。中央の剥離も被熱によるものか。安山岩製。14石材不明。15表面中央に帯状に磨面が見られる。安山岩製。17表面に帯状に磨面が見られる。

以上図化した台石計18点、花崗岩12点、安山岩5点、石材不明1点。

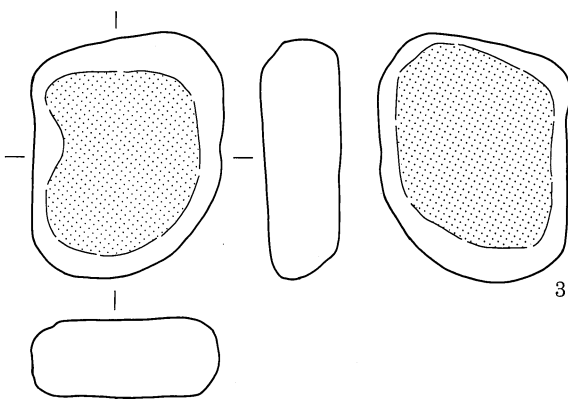
SB02(1)



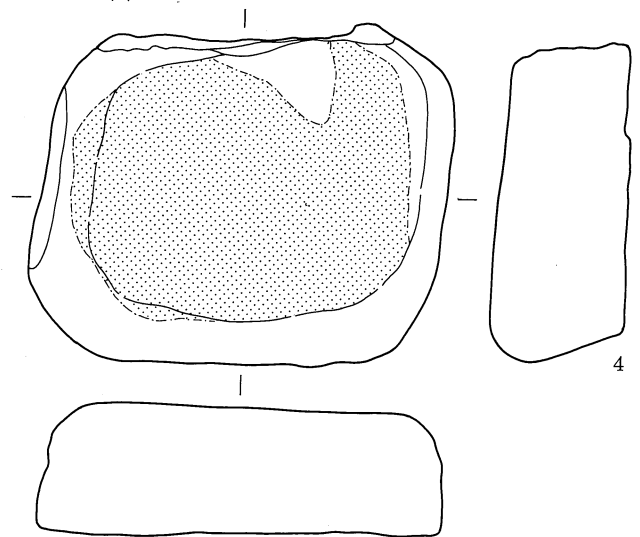
SB14(2)



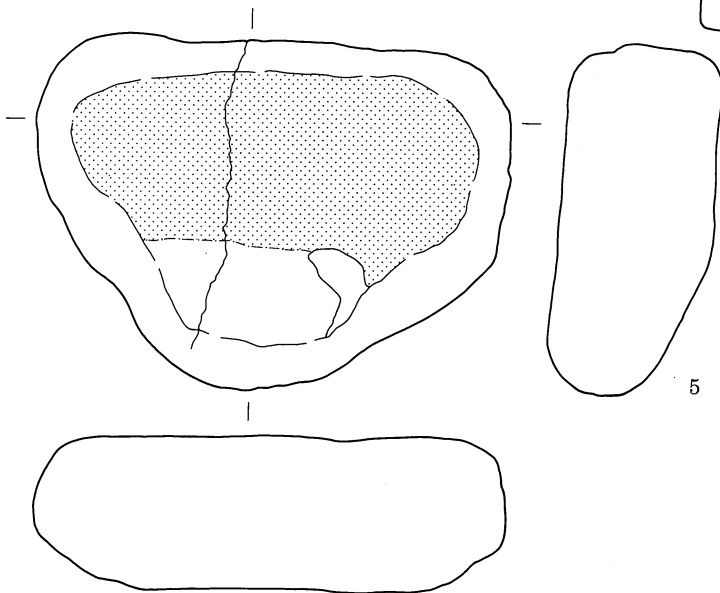
SB12(3)



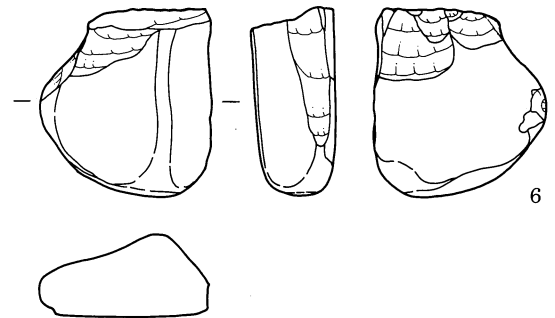
SK51a(4)



SK1069(5)



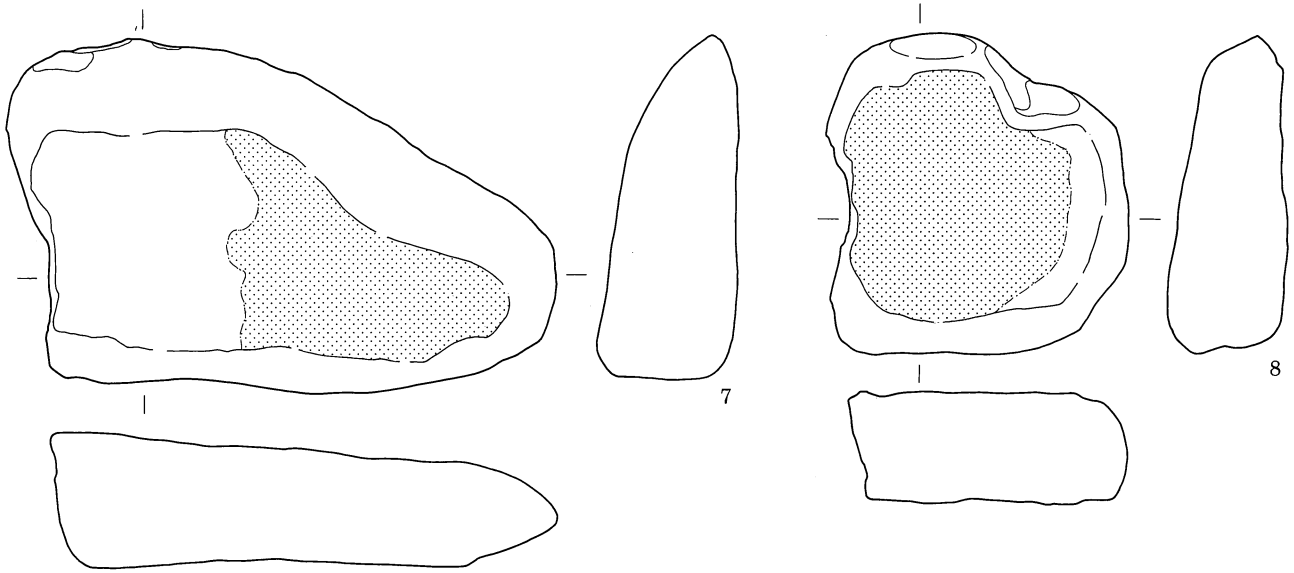
SK43a(6)



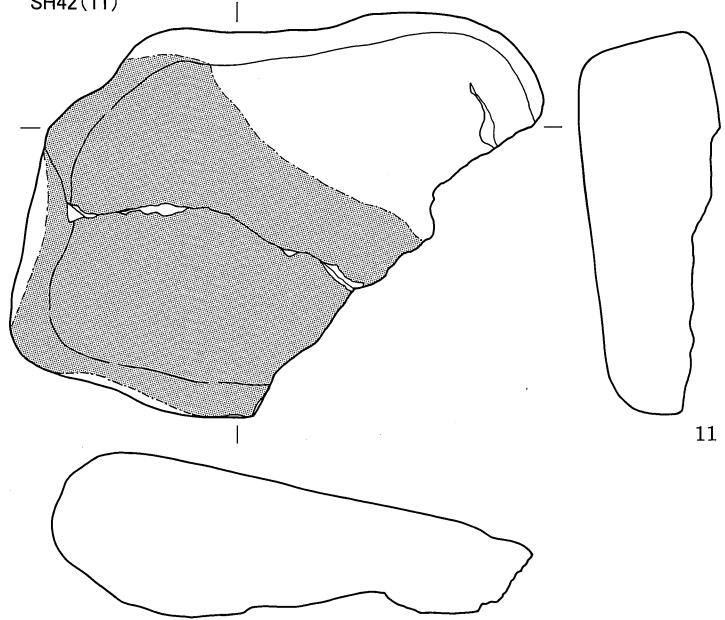
0 (1:6) 20cm

第181図 台石類その1

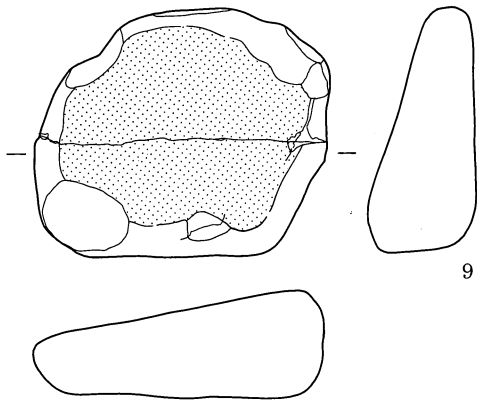
SK1061(7・8)



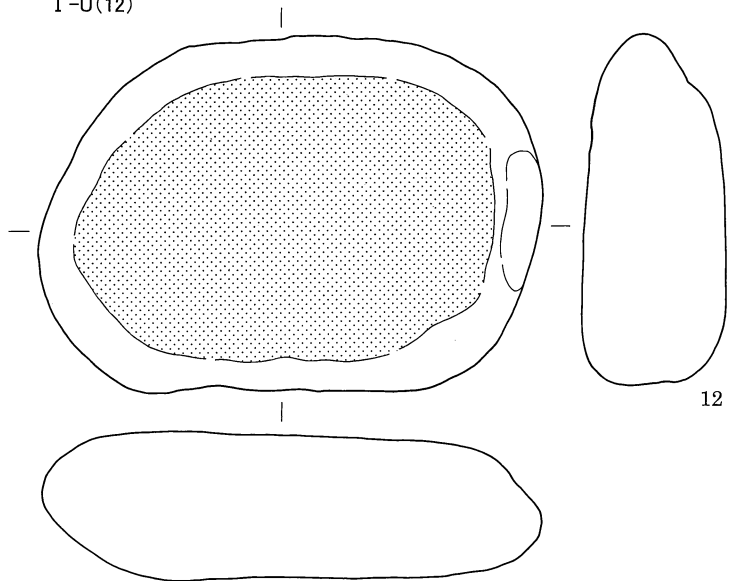
SH42(11)



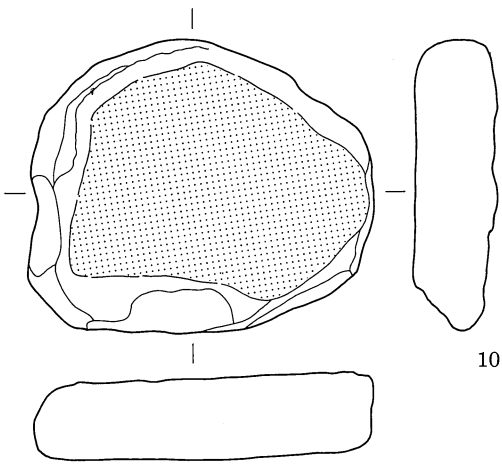
SH01(9)



I-U(12)



SH28(10)

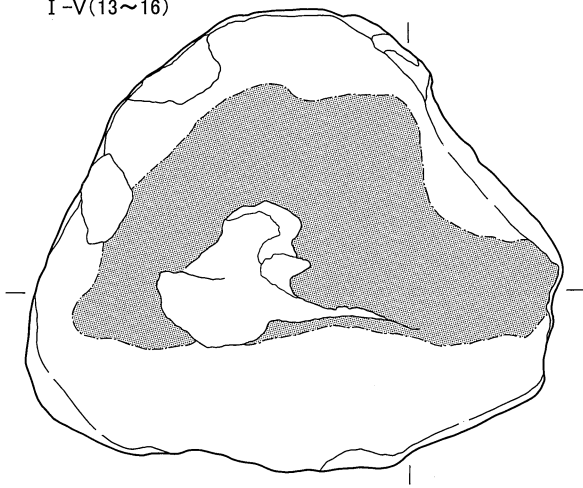


0 (1:6) 20cm

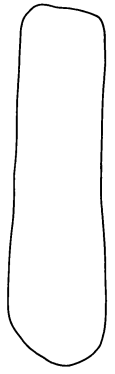
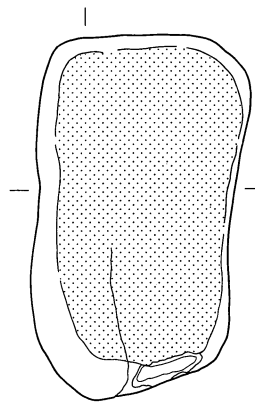
第182図 台石類その2

I-V(13~16)

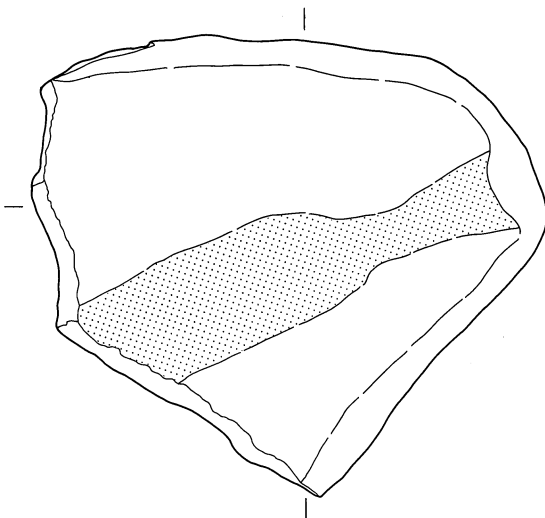
第13節 磨石類・台石



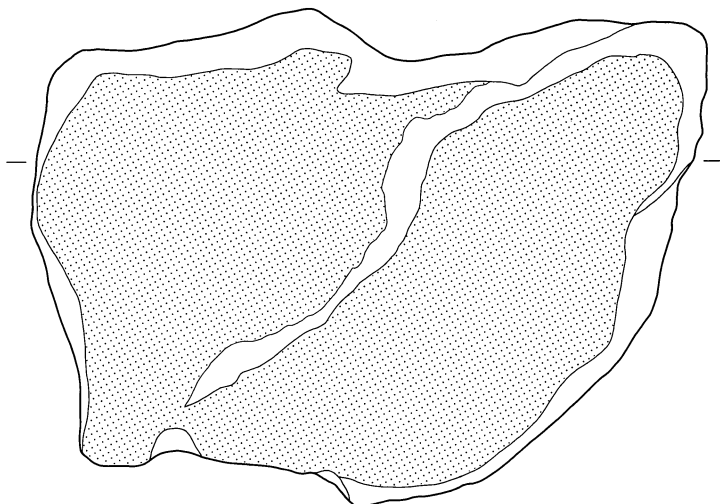
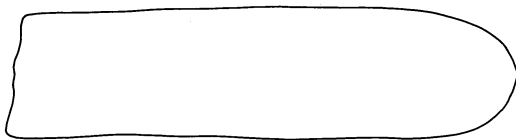
13



14



15

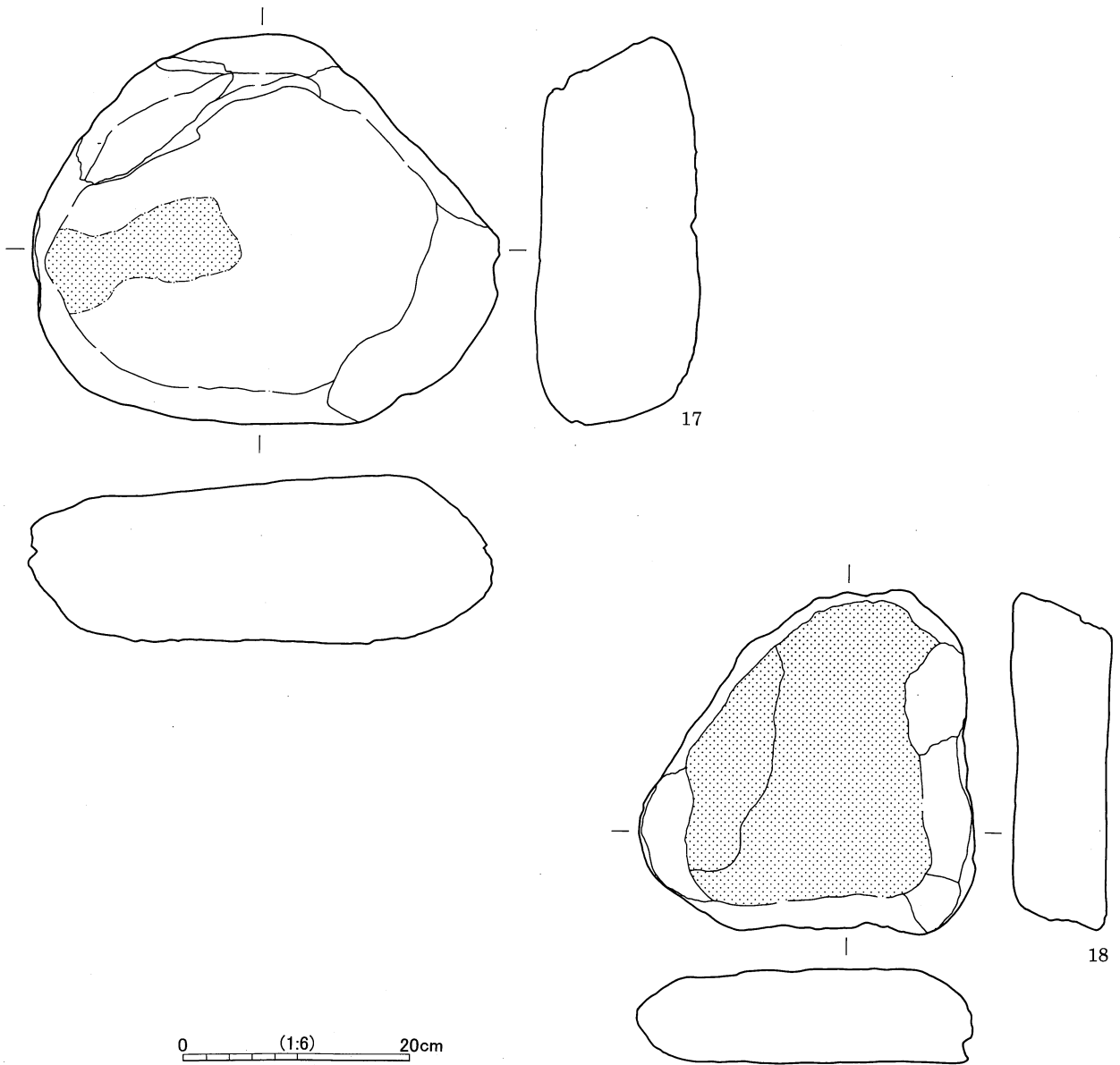


16

0 (1:6) 20cm

第183図 台石類その3

II-B(17・18)



第184図 台石類その4

第7章 自然科学分析

第1節 山の神遺跡・菅ノ沢遺跡の花粉化石群集

新山 雅広 (パレオ・ラボ)

1 はじめに

山の神遺跡は、長野県大町市常盤字山の神7992ほかに所在し、高瀬川支流の乳川の左岸、神明原扇状地に立地する。本遺跡では、これまでの発掘調査により、縄文時代早期の遺構・遺物が確認されている。菅ノ沢遺跡は、山の神遺跡の近隣の遺跡であり、長野県大町市常盤8018-2ほかに所在する。本遺跡は、乳川林道関係で調査が行われ、縄文時代後晩期の遺物や弥生時代後期の遺構・遺物が確認されている。ここでは、両遺跡の古植生復元を目的とし、花粉化石群集の検討を行った。

2 試料

花粉化石群集の検討は、山の神遺跡が2試料、菅ノ沢遺跡が9試料の合計11試料について行った。以下に、各遺跡の試料について簡単な記載を示す。

(1) 山の神遺跡

試料は、南北トレンチ北端のⅢb層、Ⅳa層より採取された。Ⅲb層 (No.1) は、灰黄色小礫まじり砂質シルトで土石流による層と考えられている。Ⅳa層 (No.2) は、黒色～黒褐色小礫混じり砂質シルトで遺物を多く含む層である。時代については、いずれの試料も縄文時代早期と考えられている。

(2) 菅ノ沢遺跡

試料は、トレンチ北壁の10m地点と33m地点の2地点で採取された。各試料は以下の通りである。なお、時代については、両地点ともⅡ層が弥生時代～平安時代、Ⅲ層が弥生時代終末以前、Ⅳ層が縄文時代中期～後期と考えられている。

10m地点 (5試料、No.1～No.5)：Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層より採取された。Ⅱ層、Ⅲ層は各1試料、Ⅳ層は、上・中・下部の3試料が採取された。各試料は、No.1 (Ⅱ層)、No.2 (Ⅲ層) は黒褐色シルト、No.3 (Ⅳ層上部)、No.4 (Ⅳ層中部)、No.5 (Ⅳ層下部) は黒色シルトである。

33m地点 (4試料、No.1～No.4)：Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層より採取された。Ⅱ層、Ⅲ層は各1試料、Ⅳ層は、上・下部の2試料が採取された。各試料は、No.1 (Ⅱ層) は黒褐色シルト、No.2 (Ⅲ層) はオリーブ褐色シルト、No.3 (Ⅳ層上部) は黒色シルト、No.4 (Ⅳ層下部) は黒色～黒褐色礫混じりシルトである。

3 方法

花粉化石の抽出は、試料約2～6gを10%水酸化カリウム処理 (湯煎約15分) による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理 (約30分) による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理 (氷酢酸による脱水、濃硫酸1に対して無水酢酸9の混液で湯煎約5分) の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離 (臭化亜鉛を比重2.1に調整) による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート1～4枚の全面を走査し、その間に出現した全ての種類につ

和名	学名	山の神遺跡		菅ノ沢遺跡・10m地点					菅ノ沢遺跡・33m地点				
		No.1	No.2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.1	No.2	No.3	No.4	
樹木													
ツガ属	<i>Tsuga</i>	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属 (不明)	<i>Pinus (Unknown)</i>	-	-	5	-	1	-	-	-	-	-	1	-
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤナギ属	<i>Salix</i>	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ハシバミ属	<i>Corylus</i>	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カバノキ属	<i>Betula</i>	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	-	-	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属-コナラ亜属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	1	-	10	4	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ属	<i>Castanea</i>	-	-	63	51	1	-	3	2	-	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
カエデ属	<i>Acer</i>	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ属	<i>Aesculus</i>	-	-	7	119	-	-	-	-	-	-	3	-
マタタビ属	<i>Actinidia</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ウコギ科	<i>Araliaceae</i>	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハイノキ属	<i>Symplocos</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
イボタノキ属	<i>Ligustrum</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
草本													
イネ科	<i>Gramineae</i>	-	-	78	5	-	-	-	2	-	-	-	-
カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のタデ属	other Polygonum	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ソバ属	<i>Fagopyrum</i>	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科-ヒユ科	<i>Chenopodiaceae - Amaranthaceae</i>	-	-	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科	<i>Caryophyllaceae</i>	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	<i>Cruciferae</i>	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	<i>Umbelliferae</i>	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
オミナエシ属	<i>Patrinia</i>	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	-	-	241	6	-	-	-	-	1	-	-	-
他のキク亜科	other Tubuliflorae	-	-	1	18	3	1	-	3	-	-	-	-
タンポポ亜科	<i>Liguliflorae</i>	-	-	129	3	-	-	-	2	-	-	-	-
シダ植物													
単条型孢子	<i>Monolete spore</i>	-	-	185	9	-	-	-	-	-	-	-	-
三条型孢子	<i>Trilete spore</i>	1	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
樹木花粉	<i>Arboreal pollen</i>	1	0	114	180	2	0	3	2	0	4	0	0
草本花粉	<i>Nonarboreal pollen</i>	0	1	506	22	1	0	0	7	2	0	0	0
シダ植物孢子	<i>Spores</i>	1	0	197	9	0	0	0	0	0	0	0	0
花粉・孢子総数	<i>Total Pollen & Spores</i>	2	1	817	211	3	0	3	9	2	4	0	0
不明花粉	<i>Unknown pollen</i>	1	0	74	16	0	0	1	3	2	2	0	0

表1 花粉化石一覧表

いて同定・計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉およびシダ植物孢子は花粉・孢子総数を基数として百分率で算出した。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

4 花粉化石群集の記載 (表1)

(1) 山の神遺跡 (第185図)

Ⅲb層、Ⅳa層共に産出した花粉化石はごく僅かであった。Ⅲb層は、樹木のコナラ亜属とシダ植物の三条型孢子が1点ずつ産出した。Ⅳa層は、草本の他のキク亜科が1点産出したのみであった。

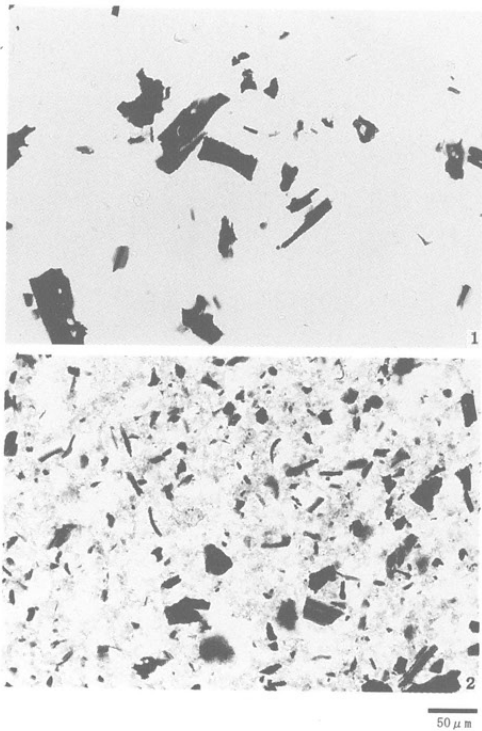
(2) 菅ノ沢遺跡 (第186・187図)

10m地点 (5試料、No.1~No.5) : 同定された分類群数は、樹木花粉17、草本花粉14、形態分類で示したシダ植物孢子2である。No.1、No.2は、花粉化石分布図として示すことができたものの、花粉化石の産出個数や保存状態はあまり良好ではなかった。No.3~No.5は、産出した花粉化石はごく僅かであった。No.1は、樹木花粉の占める割合は、約14%と非常に低率である。その中で、クリ属が約55%と突出し、次いでコナラ亜属 (約9%)、ツガ属 (約7%)、ハンノキ属 (約7%)、トチノキ属 (約6%)、カエデ属 (約5%)、マツ属 (約4%) の順に出現する。他に、コウヤマキ属、ヤナギ属、ハシバミ属、カバノキ属、ウコギ科も低率で出現する。草本花粉では、ヨモギ属が約29%で最も高率であり、タンポポ亜科 (約16%)、イネ科 (約10%) も比較的高率である。他に、カヤツリグサ科、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、カラマツソウ属、他のキク亜科などが低率で出現する。シダ植物孢子は、単条型孢子が約23%とやや目立

つ。No.2は、樹木花粉の占める割合は、約85%と高率である。その中で、トチノキ属が約66%で最優占し、クリ属も約28%と高率である。その他では、コナラ亜属が約2%でクマシデ属ーアサダ属、ハンノキ属、ニレ属ーケヤキ属、マタタビ属、ハイノキ属、イボタノキ属が1%未満の低率で出現する。草本花粉では、イネ科、アカザ科ーヒユ科、アブラナ科、セリ科、ヨモギ属、他のキク亜科、タンポポ亜科が1%未満～

3%で出現する。シダ植物胞子は、単条型胞子が約4%で出現する。No.3は、樹木のマツ属(不明)、クリ属、草本の他のキク亜科が1点ずつ産出した。No.4は、花粉化石は全く産出しなかった。No.5は、樹木のクリ属のみが3点産出した。

33m地点(4試料、No.1~No.4):いずれの試料も産出した花粉化石はごく僅かであった。No.1は、樹木のクリ属、草本のイネ科、他のキク亜科、タンポポ亜科が僅かに産出した。No.2は、草本のタデ属、ヨモギ属が1点ずつ産出した。No.3は、樹木のマツ属(不明)、トチノキ属が僅かに産出した。No.4は、花粉化石は全く産出しなかった。



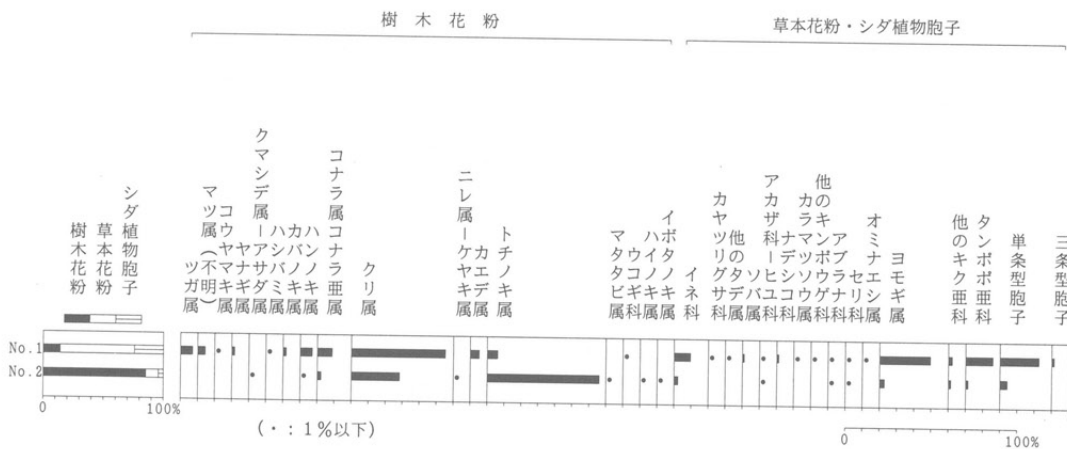
1. No.1(Ⅲb層) 2. No.2(Ⅳa層)

第185図 山の神遺跡のプレパラート状況

5 考察

菅ノ沢遺跡の10m地点のNo.1(Ⅱ層)、No.2(Ⅲ層)以外は、産出した花粉化石が僅かであり、古植生の推定は困難である。ここでは、菅ノ沢遺跡の10m地点のNo.1、No.2の花粉組成から、弥生時代~平安時代(No.1)および弥生時代終末以前(No.2)の古植生の推定を試みる。

弥生時代終末以前は、落葉広葉樹のトチノキ属、クリ属が卓越し、コナラ亜属、クマシデ属ーアサダ属、ハンノキ属、ニレ属ーケヤキ属、蔓植物のマタタビ属、ハイノキ属、イボタノキ属が混じっていた。トチノキ属、クリ属は虫媒花であり、遺跡付近に多く生育していたものが過大評価されている



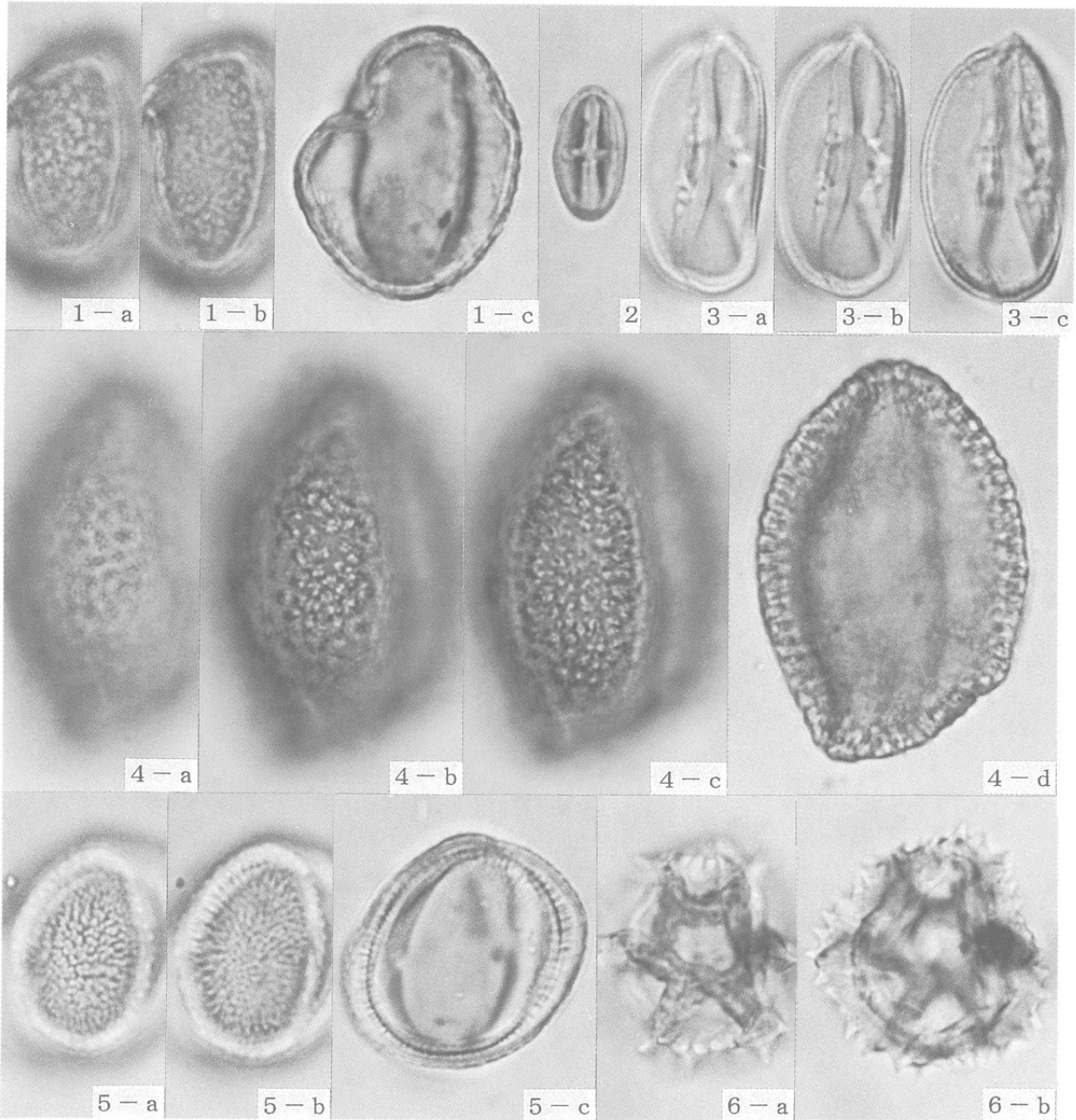
(樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は総花粉・胞子数を基数として百分率で算出した)
(No.1:Ⅱ層、弥生時代~平安時代 No.2:Ⅲ層、弥生時代終末以前)

第186図 菅ノ沢遺跡・10m地点の花粉化石分布図

可能性もある。草本類は、イネ科、ヨモギ属、他のキク亜科、タンポポ亜科などが生育していたが、あまり広い草地的景観はみられなかったと思われる。

弥生時代～平安時代は、クリ属が卓越し、落葉広葉樹のハンノキ属、コナラ属、カエデ属、トチノキ属、針葉樹のツガ属、マツ属などが混じっており、河川沿いなどには、ヤナギ属も生育していたであろう。この時期は、クリ属は依然として卓越していたが、トチノキ属は大幅に林分を縮小した。また、弥生時代終わりより前とは異なり、針葉樹も主要な構成要素になったと予想される。草本花粉・シダ植物胞子は高率であり、ヨモギ属、タンポポ亜科などの幾分乾き気味の場所に生育する分類群が目立つ。従って、この時期は、かなり広い草地のような開けた場所がみられるようになったと予想される。また、ソバ属が産出しており、付近でソバ栽培が行われていた可能性が考えられる。

なお、花粉化石が産出しなかった試料についてであるが、花粉化石は、水成堆積物である場合には良好に保存されるが、花粉化石が産出しないことから、試料とした堆積物は水成環境で安定して堆積したものと考える。これらの試料は、概ね黒色土であること、花粉化石が保存されていなかったことから、土壌と考えられる。また、山の神遺跡の2試料については、砂分が卓越しており、花粉化石が流出してしまったことも考えられる。



1. コナラ属コナラ亜属、10m地点-No.1、PAL.MN 1542
2. クリ属、10m地点-No.1、PAL.MN 1539
3. トチノキ属、10m地点-No.2、PAL.MN 1541
4. ソバ属、10m地点-No.1、PAL.MN 1537
5. ヨモギ属、10m地点-No.1、PAL.MN 1538
6. タンポポ亜科、10m地点-No.1、PAL.MN 1540

10 μm

第187図 菅ノ沢遺跡から産出した花粉化石

第2節 山の神遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1 はじめに

当遺跡は、大町市常盤に所在し、北アルプスの餓鬼岳山麓に広がる乳川扇状地扇央部の標高735m前後に立地する縄文時代早期を主体とする遺跡である。ここでは、縄文時代早期の住居跡・集石炉（屋外炉）・土坑などから出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。性格が異なる複数の遺構から出土した炭化材樹種を明らかにする事は、当時の人々がどのような樹種を生活の中で利用していたのか、どのような樹種を選択していたのかなどを知るための資料となる。

2 炭化材樹種同定の方法

ほとんどの試料には複数の破片があり、できるだけ多くの破片を調べた。試料中の破片は同一樹種であったものが殆どであるが、異なる樹種からなる試料もあった。同定結果は、検出された樹種を列記した。なお、異なる分類群は、それぞれ分けて試料袋に戻してある。

先ず、炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で分類群のおおよその目安をつける。アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリなどは、横断面の管孔配列が特徴的であり実体顕微鏡下の観察で同定した。それ以外の分類群については3方向の破断面（横断面・接線断面・放射断面）を走査電子顕微鏡で拡大して、材組織の特徴をもとに同定を決定した。ただし、前述の分類群でも、年輪幅の狭いぬか目や逆に年輪幅の広い試料などは実体顕微鏡下では誤同定の恐れがあり、このような試料については走査電子顕微鏡で確認した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子(株)製 JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

3 結 果

表2に試料ごとの同定結果を示し、表3には遺構の性格別に検出された樹種を比較した。

樹種同定した試料全体からは、針葉樹のマツ属複雑管束亜属とヒノキ属、落葉広葉樹のコナラ節・クリ・クヌギ節、合計5分類群が検出された。

調査した18試料の中から最も多く検出された分類群は、コナラ節であり12試料から検出され、次にクリが多く7試料から検出された。SH73とSK1072からは、コナラ節とクリの両方が検出されたが、コナラ節の破片数の方が多かった。

遺構別に検出樹種を見ると、コナラ節とクリの両方（集石炉・土坑・遺構外グリット・自然流路）、またはコナラ節あるいはクリのどちらか一方（住居跡、焼土集中）が、ほとんどの遺構から検出された。マツ属複雑管束亜属は集石炉と土坑から検出され、ヒノキ属とクヌギ節は遺構外グリットから検出され、それ以外の遺構からは検出されていない。

以下に同定された樹種の材組織記載を記載する。

(1) ヒノキ属 *Chamaecyparis* ヒノキ科 第188図 1a-1c (V-3 IVa)

放射方向の径が2.2cmの不定形の1破片で、年輪は緻密で約36年輪が数えられた。

遺構・グリット・層位など			樹種	時期
SB03	覆土②	住居跡	コナラ節	縄文時代早期
SB06 (No.32)		住居跡	コナラ節	縄文時代早期
SF02		焼土集中	クリ	縄文時代早期
SH06		集石炉 (屋外炉)	マツ属複雑管束亜属	縄文時代早期
SH38		集石炉 (屋外炉)	コナラ節	縄文時代早期
SH73		集石炉 (屋外炉)	コナラ節	縄文時代早期
			クリ	
SH76		集石炉 (屋外炉)	クリ	縄文時代早期
SK1062		土坑	コナラ節	縄文時代早期
			クリ	
SK1069		土坑	コナラ節	縄文時代早期
			コナラ節	
SK1072		土坑	クリ	縄文時代早期
			マツ属複雑管束亜属	
U-20-3	IVa	遺構外グリット	クリ	縄文時代早期
V-3	IVa	遺構外グリット	ヒノキ属	縄文時代早期
V-17-10	IVb	遺構外グリット	コナラ節	縄文時代早期
V-17-6・10	IVb	遺構外グリット	コナラ節	縄文時代早期
V-24-5	IVa	遺構外グリット	コナラ節	縄文時代早期
I-W-21	IVa	遺構外グリット	クヌギ節	縄文時代早期
B-1-16	IVb	遺構外グリット	コナラ節	縄文時代早期
NR01 (W-17-3)	IVa	自然流路	コナラ節	縄文時代早期
			クリ	

表2 山の神遺跡出土炭化材の樹種同定結果

検出樹種	住居跡	焼土集中	集石炉 (屋外炉)	土坑	遺構外 グリット	自然流路
ヒノキ属					○	
マツ属複雑管束亜属			○	○		
クヌギ節					○	
コナラ節	○		○	○	○	○
クリ		○	○	○	○	○

表3 山の神遺跡の遺構別の検出樹種比較

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。樹脂道や仮道管にらせん肥厚は無い。晩材部の量は極めて少ない。分野壁孔はヒノキ型、1分野に2個が水平に並び、孔口はやや広く開いたものが多い。ヒノキ属のヒノキまたはサワラと思われる。

似た形質を持つ他の分類群とは次の点で識別した。同じヒノキ科のネズコは晩材部の量がやや多く分野壁孔も2～6個あり多い。アスナロは分野壁孔がヒノキのそれより小型で数も2～4個でやや多く放射組織は5細胞高以下が多い点で区別した。スギは晩材部の量が多く、分野壁孔の輪郭は大きな惰円形であることから区別した。モミ属も晩材部の量が多く、木部柔細胞は無く、放射柔細胞の壁には数珠状の肥厚があることで区別できる。

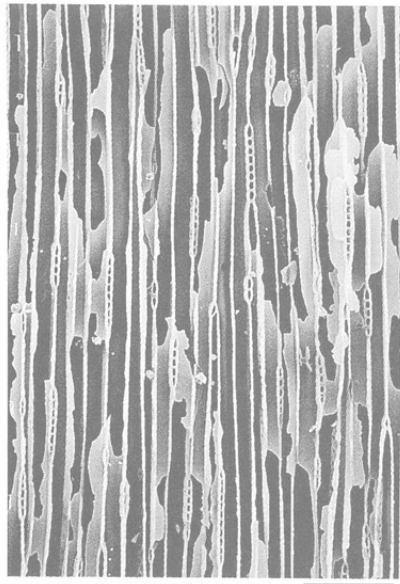
ヒノキ属は福島県以南・四国・九州の温帯の山中に生育する。やや乾燥した尾根や岩上に生育するヒノキと、ヒノキより分布域は狭く東北部から中部地方の沢沿いの岩上に生育するサワラがある。材は耐朽性・切削性・割裂性にすぐれる。

(2) マツ属複雑管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylyon* マツ科 第189図 2a-2c (SK1072)

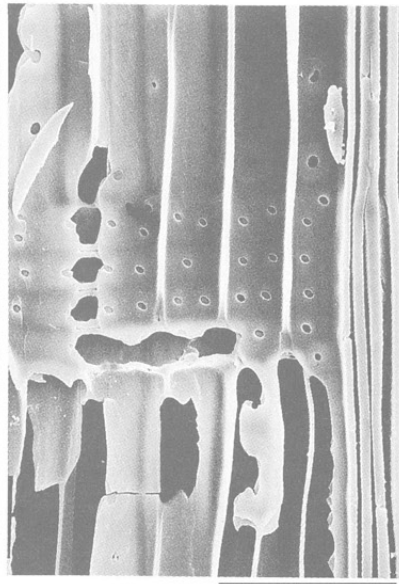
垂直・水平の樹脂道がある針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の量は多い。分野壁孔は窓状、放射組織の上下端には有縁壁孔を持つ放射仮道管が1～3層ほどありその内壁は鋸歯状の肥厚が



1a ヒノキ属(横断面)
V-3IVa bar : 0.5mm



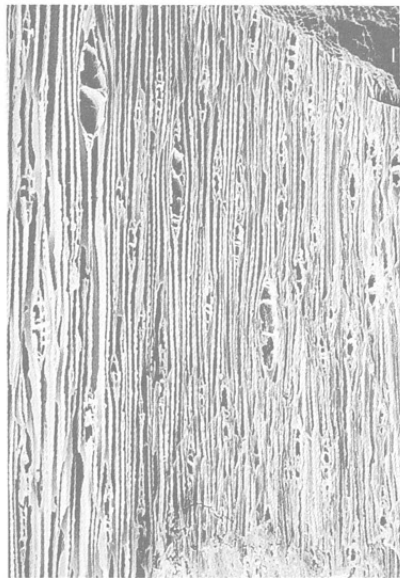
1b ヒノキ属(接線断面)
V-3IVa bar : 0.1mm



1c ヒノキ属(放射断面)
V-3IVa bar : 0.05mm



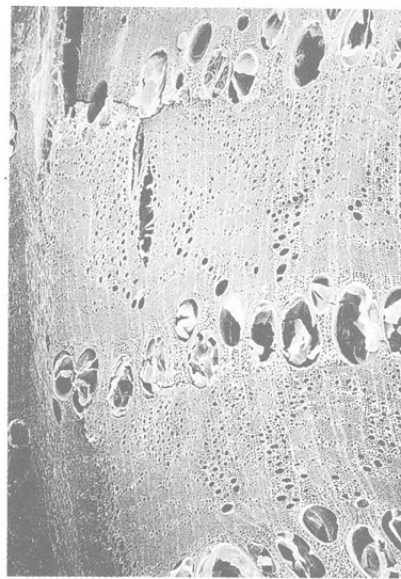
2a マツ属複雑管束亜属(横断面)
SK1072 bar : 0.5mm



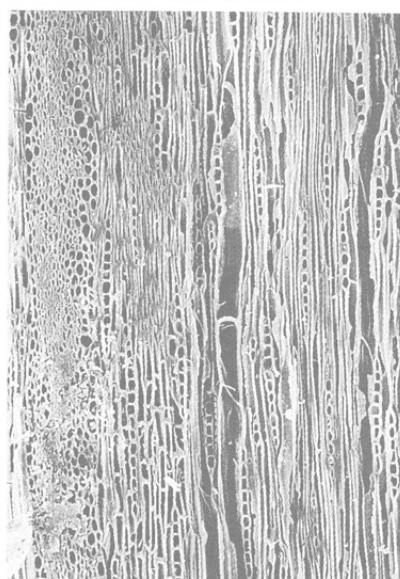
2b マツ属複雑管束亜属(接線断面)
SK1072 bar : 0.5mm



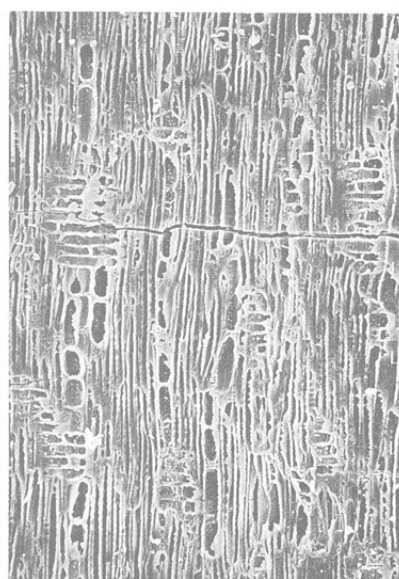
2c マツ属複雑管束亜属(放射断面)
SK1072 bar : 0.1mm



3a コナラ節(横断面)
NR01 (W-17-3) bar : 1.0mm

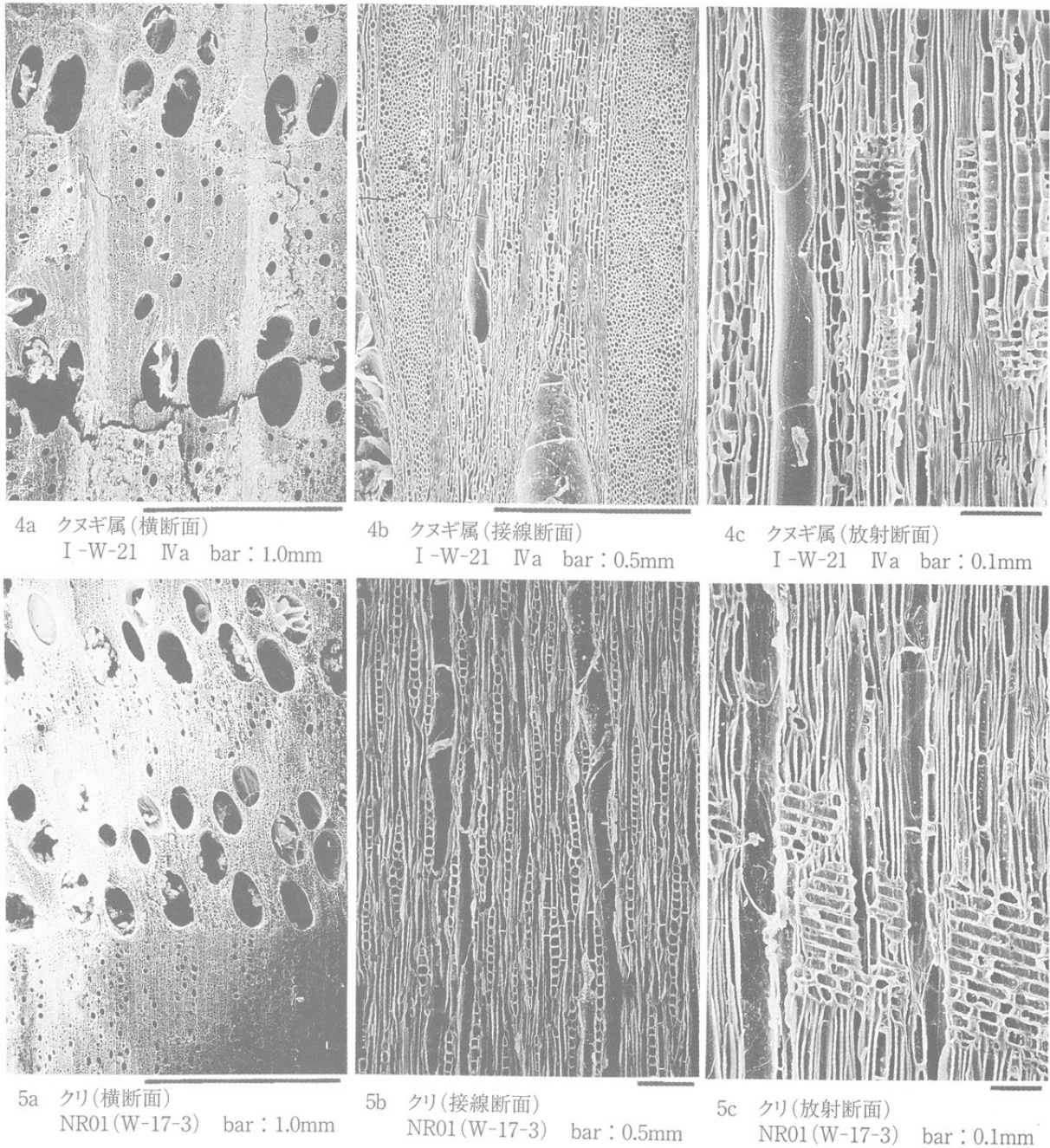


3b コナラ節(接線断面)
NR01 (W-17-3) bar : 0.1mm



3c コナラ節(放射断面)
NR01 (W-17-3) bar : 0.1mm

第188図 山の神遺跡出土炭化材樹種その1



第189図 山の神遺跡出土炭化材樹種その2

ある。マツ属複維管束亜属のアカマツまたはクロマツである。放射仮道管内壁の鋸歯状肥厚の程度により、鋭利なアカマツと比較的ゆるやかなクロマツに識別できることもあるが、炭化材では内腔に張り出した鋸歯状部分は判らない事が多く、識別できなかった。

アカマツとクロマツは暖帯から温帯下部に生育し、人間活動や災害による崩壊地に成立する二次林の主要樹でもある。

(3) コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*

ブナ科 第188図 3a-3c (NR01(W-17-3))

年輪の始めに中型の管孔が主に1層配列し、その後は薄壁・角形で小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にチロースがある。放射組織は単列のものと大きな複合放射

組織とがある。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材の用途は広い。

(4) コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Q. subgen. Q. sect. Cerris*

ブナ科 第189図 4 a-4 c (I-W-21 IVa)

年輪の始めに極めて大型の管孔が1～2層配列し、その後は厚壁・円形の小型の管孔が単独で放射方向に散在する環孔材。そのほかの形質は前述のコナラ節と同様である。

クヌギ節は暖帯に多い落葉高木でクヌギとアベマキが属する。材は重厚で割裂性が良い。

(5) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 第189図 5 a-5 c (NR01 (W-17-3))

年輪の始めに中型の管孔が密接して多数配列し、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材は粘りがあり耐朽性にすぐれている。

4 まとめ

調査試料全体から検出された樹種は、針葉樹のヒノキ属・マツ属複維管束亜属、落葉広葉樹のコナラ節・クリ・クヌギ節の合計5分類群であった。

コナラ節が最多く調査した18試料中の12試料から検出され、次にクリが7試料から検出された。そしてすべての遺構（住居跡・焼土集中・集石炉（屋外炉）・土坑・遺構外グリット・自然流路）から、コナラ節とクリの両方、あるいはコナラ節かクリのどちらか一方が検出されている（表2）。この事から縄文時代早期の当遺跡では、様々な遺構においてコナラ節とクリが多く使われ、特にクリよりはコナラ節が多く使われていたようである。

コナラ節とクリが様々な遺構から検出されたのに対し、そのほかの樹種は出土遺構にやや偏りがあるように見受けられた。つまりマツ属複維管束亜属は、集石炉（屋外炉）と土坑から、ヒノキ属とクヌギ節は遺構外グリットから出土した。集石炉の炭化材は燃料材であったと推測され、検出された樹種も燃料材として有用なクリ・コナラ節・マツ属複維管束亜属であり、遺構の性格を反映していると言える。

遺構外グリットからはコナラ節やクリ以外にも、ヒノキ属とクヌギ節が検出されたことから、コナラ節やクリ以外にも様々な樹種を利用していた可能性が伺えた。

検出された5分類群の内、ヒノキ属以外はすべて二次林要素の樹種であった。当遺跡は、発掘状況から度々土石流に見回れていて、集落も土石流により森の一部が破壊された土地を利用して形成されたのではないかと推測されている。土石流で破壊された跡地には二次林が形成されることから、当遺跡の樹種構成はこのような推測と附合する結果を示している。

広域的には、縄文時代早期の樹種利用や自然環境に関する情報はまだ少ない。当遺跡から遠方地がかつ低地遺跡ではあるが、関東平野南部の千葉市神門遺跡（1991）や近畿地方の滋賀県栗津湖底遺跡（2000）では、縄文時代早期の自然木・加工木・大型植物遺体（種子・果実など）・花粉など総合的な調査結果がある。この2遺跡でも縄文時代早期はコナラ亜属（コナラ節を含む分類群）が優占しクリが随伴する落葉広葉樹林が復元されている。また、栗津湖底遺跡では、炭化材と自然木ではコナラ節が圧倒的に多いが、比較的小さな加工木はクリの方が多かった。また、神門遺跡の縄文時代早期後半から縄文時代前期初頭に相当する自然木や加工木も、コナラ節がクリより多い。中部地方の山地に近い当遺跡でも炭化材樹種構成は、前述の2遺跡と同様にコナラ節とクリの出土が多いが、コナラ節の方が優占する傾向が見られた。広範囲

に前述の2遺跡で復元されたような森林の存在が類推される。

縄文時代の代表的樹種としてはクリが有名であるが、縄文時代早期ではまだ事例が少ないがクリよりもコナラ節の利用あるいは出土例が多い傾向があり、当遺跡においても同様であった。当遺跡では土石流による二次林の形成により、二次林の構成樹種を利用していたとも考えられた。出土炭化材の樹種は、このような立地環境も反映しているであろうが、縄文時代早期に普及していた木材利用の特徴・傾向といった時代性も反映しているのかも知れない。

引用文献

千葉市教育委員会・財団法人千葉市文化財調査協会1991『千葉市神門遺跡－縄文時代早・前期を主とした低湿地遺跡の調査－』

滋賀県教育委員会 財団法人滋賀県文化財保護協会2000『粟津湖底遺跡 自然流路（粟津湖底遺跡Ⅲ）』

第3節 山の神遺跡から出土した大型植物化石

新山雅広 (パレオ・ラボ)

1 試料

大型植物化石の検討は、SK1069 (土坑) およびV-16-3、IVb層 (遺構外グリッド) から出土したものについて行った。以下に、その同定結果を報告する。なお、試料の時代は、いずれも縄文時代早期と考えられている。

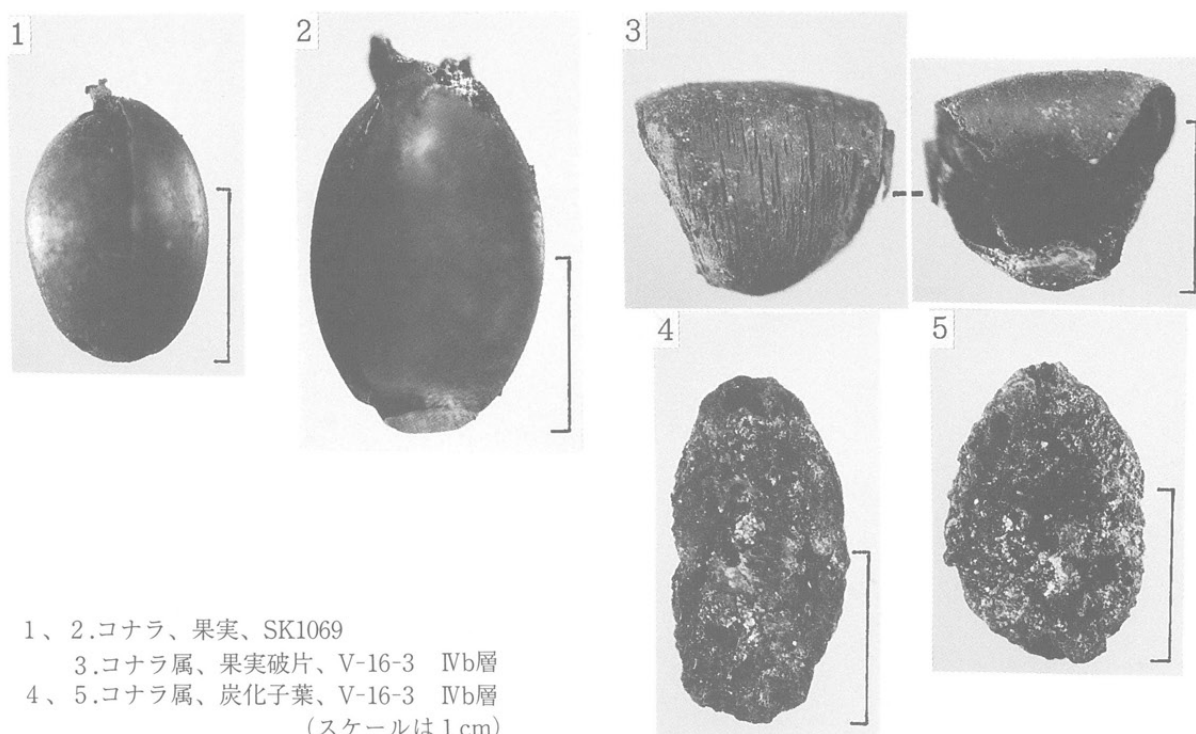
2 結果 (第190図)

・SK1069 (土坑) コナラ *Quercus serrata* Murray 果実 (完形3個、1/2程度の破片6個)

果実は、楕円形で長さ約16~21mm、幅約9~13mm。尻の部分は、果実から自然につながって丸みを帯び、尻の径は約4~5.5mm。果実上部に輪状紋がないので、落葉のコナラ亜属と分かる。尻の占める割合は果実幅の1/2以下と小さく、果実の長さは大きいものでも20mm程度であることからコナラとした。SK1069は土坑であるが、もしかしたら貯蔵されていたのかもしれない。

・V-16-3 IVb層 (遺構外グリッド) コナラ属 *Quercus* 果実 (1/2程度の破片2個) と炭化子葉 (1/2程度の破片2個)

果実は乾燥による萎縮で大きさは分からないが、さほど大きくないと思われる。破片であり、上部も破損しているため、コナラ属としか分からない。炭化子葉は、1つは長さ約20mm、幅約10mm、もう1つは長さ約16mm、幅約11mmである。炭化子葉では、種までの同定は困難である。これら果実と炭化子葉は、コナラ属とまでに同定は控えたが、大きさの点と同時期のSK1069からコナラが出土していることから、コナラの可能性が考えられる。



第190図 出土した大型植物化石

第4節 放射性炭素年代測定

山形 秀樹 (パレオ・ラボ)

1 はじめに

山の神遺跡より検出された炭化物10点のガス比例計数管法 (GPC法) による放射性炭素年代測定を実施した。

2 試料と方法

試料は、SB03覆土② (コナラ節)、SB06 No.32 (コナラ節)、SF02 (クリ)、SH06 (マツ属複雑管束亜属)、SH38 (コナラ節)、SH76 (コナラ節)、SK1069 (コナラ節)、SK1072 (コナラ節・クリ混在)、V-24-5 IVa層 (コナラ節)、B-1-16 IVb層 (コナラ節) から出土した炭化材10点である。

試料は、アルカリ・酸処理を施して不純物を除去し、アセチレンに調整した後、ガス比例計数管 (GPC) にて測定した。測定された¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、補正した¹⁴C濃度を用いて¹⁴C年代を算出した。

3 結果

表4に、各試料の同位体分別効果の補正值 (基準値-25.0%)、同位体分別効果による測定誤差を補正した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代を示す。

¹⁴C年代値 (yrBP) の算出に¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、計数値の標準偏差 σ に基づいて算出し、標準偏差 (One sigma) に相当する年代である。これは、試料の¹⁴C年代が、その¹⁴C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い (¹⁴Cの半減期 $5,730 \pm 40$ 年) を較正し、より正確な年代を求めるために、¹⁴C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と¹⁴C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて¹⁴C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて較正暦年代を算出する。

較正暦年代の算出にCALIB4.3 (CALIB 3.0のバージョンアップ版) を使用した。なお、暦年代較正值は¹⁴C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、 1σ 暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその 1σ 暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。

4 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行った。暦年代較正した 1σ 暦年代範囲のうち、そ

の確からしさの確率が高い年代範囲に注目すると、PLD-1012はcal BC 7490 - 7295 (71.2%)、PLD-1013はcal BC 7350 - 7110 (81.8%)、PLD-1014はcal BC 2640 - 2455 (87.1%)、PLD-1015はcal BC 7380 - 7045 (83.5%)、PLD-1016はcal BC 6510 - 6330 (65.8%)、PLD-1017はcal BC 7650 - 7450 (82.5%)、PLD-1018はcal BC 7850 - 7600 (78.4%)、PLD-1019はcal BC 6705 - 6395 (95.2%)、PLD-1020はcal BC 7650 - 7450 (80.3%)、PLD-1021はcal BC 6710 - 6460 (87.8%)、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

引用文献

中村俊夫2000「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の¹⁴C年代』3-20頁

Stuiver, M. and Reimer, P. J. 1993 「Extended ¹⁴C Database and Revised CALIB3.0 ¹⁴C Age Calibration Program」 『Radiocarbon』 35, 215-230頁

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. 1998 「INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP」 『Radiocarbon』 40, 1041-1083頁

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	¹⁴ C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1 σ 暦年代範囲
PLD-1012 (GPC)	炭化物 EYM SB03 覆土②	-25.9	8310 ± 120	cal BC 7450 cal BC 7430 cal BC 7425 cal BC 7410 cal BC 7400 cal BC 7395 cal BC 7350	cal BC 7490 - 7295 (71.2%) cal BC 7225 - 7185 (13.8%)
PLD-1013 (GPC)	炭化物 EYM SB06 No.32	-26.4	8230 ± 110	cal BC 7300 cal BC 7265 cal BC 7260 cal BC 7245 cal BC 7220 cal BC 7185	cal BC 7350 - 7110 (81.8%)
PLD-1014 (GPC)	炭化物 EYM SF02	-26.2	4020 ± 80	cal BC 2565 cal BC 2525 cal BC 2495	cal BC 2640 - 2455 (87.1%)
PLD-1015 (GPC)	炭化物 EYM SH06	-26.3	8190 ± 160	cal BC 7280 cal BC 7275 cal BC 7180 cal BC 7150 cal BC 7140	cal BC 7455 - 7390 (13.5%) cal BC 7380 - 7045 (83.5%)
PLD-1016 (GPC)	炭化物 EYM SH38	-26.5	7580 ± 150	cal BC 6435	cal BC 6510 - 6330 (65.8%) cal BC 6320 - 6245 (23.2%)
PLD-1017 (GPC)	炭化物 EYM SH76	-27.0	8500 ± 120	cal BC 7575 cal BC 7560 cal BC 7550	cal BC 7650 - 7450 (82.5%) cal BC 7395 - 7350 (10.8%)
PLD-1018 (GPC)	炭化物 EYM SK1069	-25.8	8710 ± 120	cal BC 7735 cal BC 7690 cal BC 7685	cal BC 7920 - 7855 (17.8%) cal BC 7850 - 7600 (78.4%)
PLD-1019 (GPC)	炭化物 EYM SK1072	-25.6	7710 ± 150	cal BC 6500	cal BC 6705 - 6395 (95.2%)
PLD-1020 (GPC)	炭化物 EYM V-24-5 IVa層	-26.0	8490 ± 130	cal BC 7575 cal BC 7560 cal BC 7545	cal BC 7650 - 7450 (80.3%) cal BC 7410 - 7350 (15.3%)
PLD-1021 (GPC)	炭化物 EYM B-1-16 IVb層	-26.3	7780 ± 120	cal BC 6635 cal BC 6620 cal BC 6605 cal BC 6595	cal BC 6710 - 6460 (87.8%)

表4 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

第5節 山の神遺跡黒曜石製石器の産地推定

望月 明彦（国立沼津工業高等専門学校）

1 産地推定結果について

推定結果（表5） 個々の試料について産地推定結果を示す。

判別図判別群 判別図から推定された産地、判別分析結果と異なる場合は*をつけて示す。

判別分析 候補1 判別分析の結果最も可能性の高い産地。

候補2 判別分析の結果2番目に可能性の高い産地。

距離1 個々の試料と候補1の産地間のマハラノビス距離。

距離2 個々の試料と候補2の産地間のマハラノビス距離。

確率1 個々の資料が候補1に属する確率。

確率2 個々の資料が候補2に属する確率。

判別図（第191・192図） 産地を判別するための図。産地原石をグレーで、遺跡出土試料を黒で示す。

産地（表6・第193図） 産地推定に用いた産地のデータ。

まとめ（表7） 遺跡出土試料の推定結果を産地ごとに集計したもの。

2 山の神遺跡出土黒曜石製石器産地推定の結果

山の神遺跡出土黒曜石製石器産地推定の結果は以下のとおり。

分析番号	遺物番号	判別図判別群	判別分析					
			候補1	候補2	距離1	距離2	確率1	確率2
EYM-1	SB05	WDTY	WDTY	WDHY	1.78	31.19	1	0
EYM-2	I-V-3	SWHD	SWHD	SBIY	6.43	89.74	1	0
EYM-3	I-V-5	SWHD	SWHD	SBIY	5.98	83.81	1	0
EYM-4	I-V-9	SWHD	SWHD	SBIY	11.63	51.41	1	0
EYM-5	I-V-10	SWHD	SWHD	WDTN	15.8	103.02	1	0
EYM-6	I-V-11-1	WDTY	WDTY	WDHY	4.17	23.1	1	0
EYM-7	I-V-13	KZOB	KZOB	KZSN	1.74	67.73	1	0
EYM-8	I-V-13	SWHD	SWHD	SBIY	5.54	68.58	1	0
EYM-9	I-V-13-12	SWHD	SWHD	WDTN	16.64	155.04	1	0
EYM-10	I-V-21-7	推定不可	推定不可	推定不可				
EYM-11	I-V-21-12	WDTY	WDTY	WDKB	7.51	20.21	0.9988	0.0012
EYM-12	I-V-23-6	SWHD	SWHD	WDTN	4.59	78.29	1	0
EYM-13	I-W-24	SWHD	SWHD	SBIY	1.69	73.8	1	0
EYM-14	II-A-3-6	SWHD	SWHD	WDTN	25.73	115.84	1	0
EYM-15	II-B-8	SWHD	SWHD	WDTN	7.23	110.73	1	0
EYM-16	II-B-9-2	WDKB	WDKB	WDTY	4.35	33.42	1	0
EYM-17	II-B-10	WDTY	WDTY	WDKB	9.61	32.33	1	0
EYM-18	II-C-7-6	WDTY	WDTY	WDHY	9.29	9.51	0.7921	0.2079
EYM-19	Z	SWHD	SWHD	SBIY	6.98	95.83	1	0
EYM-20	Z	SWHD	SWHD	SBIY	15.93	158.13	1	0
EYM-21	I-V-4	WDTY	WDTY	WDHY	17.78	28.22	0.9982	0.0016
EYM-22	SB04	SWHD	SWHD	WDTN	3.63	84.36	1	0
EYM-23	I-W-16	SWHD	SWHD	WDTN	6.72	93.24	1	0
EYM-24	I-V-17	SWHD	SWHD	SBIY	3.04	68.16	1	0

表5-1 山の神遺跡出土黒曜石製石器産地推定結果

分析番号	遺物番号	判別図 判別群	判別分析					
			候補1	候補2	距離1	距離2	確率1	確率2
EYM-25	I -W-17-12	WDTY	WDTY	WDHY	6.65	32.96	1	0
EYM-26	II -B-6-12	SWHD	SWHD	SBIY	7.27	110.24	1	0
EYM-27	SB02	SWHD	SWHD	SBIY	9.06	100.35	1	0
EYM-28	SB11	安山岩	安山岩	安山岩				
EYM-29	SB11	SWHD	SWHD	WDTN	10.16	59.14	1	0
EYM-30	SB12	SWHD	SWHD	SBIY	3.31	99.32	1	0
EYM-31	SK16	SWHD	SWHD	SBIY	10.59	84.83	1	0
EYM-32	SK52	WDTY	WDTY	WDHY	4.93	21.59	0.9999	0.0001
EYM-33	SF20	SWHD	SWHD	WDTN	11.31	70.84	1	0
EYM-34	I -U-10-14	SWHD	SWHD	SBIY	3.04	80.63	1	0
EYM-35	I -U-20-12	SWHD	SWHD	SBIY	4.55	65.82	1	0
EYM-36	I -U-24-2	非黒耀石	非黒耀石	非黒耀石				
EYM-37	I -V-3	SWHD	SWHD	WDTN	9.96	64.31	1	0
EYM-38	I -V-4	SWHD	SWHD	SBIY	0.45	82.26	1	0
EYM-39	I -V-4	SWHD	SWHD	SBIY	1.18	94.22	1	0
EYM-40	I -V-5	SWHD	SWHD	SBIY	2.52	63.59	1	0
EYM-41	I -V-8	WDHY	WDHY	WDTY	1.87	34.61	1	0
EYM-42	I -V-9	SWHD	SWHD	SBIY	6.14	115.32	1	0
EYM-43	I -V-10	安山岩	安山岩	安山岩				
EYM-44	I -V-10-6	SWHD	SWHD	SBIY	14.28	105.21	1	0
EYM-45	I -V-11-9	SWHD	SWHD	WDTN	12.33	75.06	1	0
EYM-46	I -V-11-14	安山岩	安山岩	安山岩				
EYM-47	I -V-13	非黒耀石	非黒耀石	非黒耀石				
EYM-48	I -V-14	SWHD	SWHD	SBIY	4.78	86.4	1	0
EYM-49	I -V-14-4	SWHD	SWHD	WDTN	7.29	71.17	1	0
EYM-50	I -V-14-16	WDTY	WDTY	WDKB	16.79	21.83	0.9492	0.0506
EYM-51	I -V-16-13	SWHD	SWHD	SBIY	3	102.2	1	0
EYM-52	I -V-17	WDTY	WDTY	WDHY	5.68	28.74	1	0
EYM-53	I -V-17-5	SWHD	SWHD	WDTM	27.01	56.43	1	0
EYM-54	I -V-17-9	WDTY	WDTY	WDHY	0.64	20.4	1	0
EYM-55	I -V-17-16	非黒耀石	非黒耀石	非黒耀石				
EYM-56	I -V-17-16	非黒耀石	非黒耀石	非黒耀石				
EYM-57	I -V-18	SWHD	SWHD	WDTN	7.62	91.16	1	0
EYM-58	I -V-19-1	SWHD	SWHD	SBIY	3.12	88.43	1	0
EYM-59	I -V-19-13	SWHD	SWHD	WDTN	3.94	98.79	1	0
EYM-60	I -V-19-14	SWHD	SWHD	SBIY	10.46	89.49	1	0
EYM-61	I -V-20	SWHD	SWHD	WDTN	8.59	86.62	1	0
EYM-62	I -V-22	WDHY	WDHY	WDTY	1.57	17.3	0.9987	0.0013
EYM-63	I -V-22-7	WDHY	WDHY	WDTY	4.63	23.59	0.9997	0.0003
EYM-64	I -V-23	SWHD	SWHD	WDTN	3.7	96.17	1	0
EYM-65	I -V-23	SWHD	SWHD	SBIY	3.68	74.4	1	0
EYM-66	I -V-23-3	SWHD	SWHD	SBIY	1.98	74.14	1	0
EYM-67	I -V-25-11	SWHD	SWHD	SBIY	2.3	68.52	1	0
EYM-68	I -W-11	SWHD	SWHD	SBIY	3.14	108.46	1	0
EYM-69	I -W-11	風化	風化	風化				
EYM-70	I -W-16	WDTY	WDTY	WDKB	12.45	23.06	0.9967	0.0033
EYM-71	I -W-18	SWHD	SWHD	SBIY	3.72	82.1	1	0
EYM-72	I -W-18-8	SWHD	SWHD	WDTN	8.63	71.43	1	0
EYM-73	I -W-18-8	SWHD	SWHD	SBIY	4.38	78.61	1	0
EYM-74	I -W-18-12	WDTY	WDTY	WDKB	5.23	23.05	0.9999	0.0001
EYM-75	I -W-19	WDTY	WDTY	WDKB	9.1	30.69	1	0
EYM-76	I -W-20	WDTY	WDTY	WDHY	7.92	16.23	0.9954	0.0046
EYM-77	I -W-20-5	風化	風化	風化				
EYM-78	I -W-22	SWHD	SWHD	WDTN	4.25	105.19	1	0
EYM-79	I -W-23-1	WDTY	WDTY	WDKB	9.36	15.03	0.9626	0.0374

表5-2 山之神遺跡出土黒耀石製石器産地推定結果

第5節 山の神遺跡黒曜石製石器の産地推定

分析番号	遺物番号	判別図 判別群	判別分析					
			候補1	候補2	距離1	距離2	確率1	確率2
EYM-80	I -X-16-6	WDTY	WDTY	WDHY	1.94	19.31	1	0
EYM-81	II -A-3-5	WDKB	WDKB	WDTK	5.3	28.32	1	0
EYM-82	II -A-4	SWHD	SWHD	SBIY	0.83	82.98	1	0
EYM-83	II -A-4-13	WDHY	WDHY	WDTY	7.38	23.63	0.999	0.001
EYM-84	II -A-10	風化	風化	風化				
EYM-85	II -A-10-7	WDHY	WDHY	WDTY	2.87	22.7	0.9998	0.0002
EYM-86	II -B-1-6	WDTY	WDTY	WDKB	7.64	36.08	1	0
EYM-87	II -B-2	WDTY	WDTY	WDKB	9.54	20.89	0.9977	0.0023
EYM-88	II -B-2	WDTY	WDTY	WDHY	7.04	8.93	0.8981	0.1019
EYM-89	II -B-2	WDTY	WDTY	WDHY	20.15	51.25	1	0
EYM-90	II -B-3	SWHD	SWHD	SBIY	8.8	65.21	1	0
EYM-91	II -B-3	WDTK	WDTK	WDKB	6.6	25.96	0.9999	0.0001
EYM-92	II -B-4-9	WDTY	WDTY	WDHY	4.12	15.31	0.9989	0.0011
EYM-93	II -B-4-16	SWHD	SWHD	WDTN	7.58	68.09	1	0
EYM-94	II -B-5-16	WDTY	WDTY	WDHY	6.38	26.39	1	0
EYM-95	II -B-7	WDTY	WDTY	WDKB	13.78	17.81	0.9189	0.0811
EYM-96	II -B-7	WDTY	WDTY	WDHY	3.83	10.69	0.9906	0.0094
EYM-97	II -B-7	WDTY	WDTY	WDHY	6.53	27.46	1	0
EYM-98	II -B-7	SWHD	SWHD	SBIY	3.75	115.72	1	0
EYM-99	II -B-8	WDTY	WDTY	WDHY	7.68	8.94	0.8652	0.1348
EYM-100	II -B-8	WDTY	WDTY	WDHY	5.57	31.44	1	0
EYM-101	II -B-8	WDTY	WDTY	WDKB	10.97	17.96	0.9803	0.0197
EYM-102	II -B-8	WDTY	WDTY	WDHY	4.63	37.97	1	0
EYM-103	II -B-8	SWHD	SWHD	SBIY	3.65	103.92	1	0
EYM-104	II -B-9-8	推定不可	推定不可	推定不可				
EYM-105	II -B-12	非黒曜石	非黒曜石	非黒曜石				
EYM-106	II -B-12	SWHD	SWHD	WDTN	15.41	105.1	1	0
EYM-107	II -B-13	WDTY	WDTY	WDHY	5.09	22.62	1	0
EYM-108	II -B-13	SWHD	SWHD	SBIY	11.49	57.31	1	0
EYM-109	II -B-13	SWHD	SWHD	SBIY	3.94	74.12	1	0
EYM-110	II -B-13	SWHD	SWHD	SBIY	1.66	90.31	1	0
EYM-111	II -B-13	SWHD	SWHD	SBIY	12.32	94.89	1	0
EYM-112	II -B-13	推定不可	推定不可	推定不可				
EYM-113	II -B-13	SWHD	SWHD	SBIY	3.78	71.67	1	0
EYM-114	II -B-13	SWHD	SWHD	SBIY	12.6	113.96	1	0
EYM-115	II -B-14	SWHD	SWHD	SBIY	1.45	101.54	1	0
EYM-116	II -B-14	SWHD	SWHD	SBIY	4.81	52.46	1	0
EYM-117	II -B-14	SWHD	SWHD	WDTN	2.73	81.65	1	0
EYM-118	II -B-14	SWHD	SWHD	SBIY	12.77	107.93	1	0
EYM-119	II -B-14	推定不可	推定不可	推定不可				
EYM-120	II -B-14	SWHD	SWHD	SBIY	10.54	73.77	1	0
EYM-121	II -B-14	SWHD	SWHD	SBIY	5.08	81.04	1	0
EYM-122	II -B-15	WDKB	WDKB	WDTY	8.81	18.87	0.9902	0.0098
EYM-123	II -B-15	推定不可	推定不可	推定不可				
EYM-124	II -B-15	WDTY	WDTY	WDKB	4.42	20.06	0.9997	0.0003
EYM-125	II -B-15	WDKB	WDKB	WDTY	6.97	22.44	0.9993	0.0007
EYM-126	II -C-6-8	SWHD	SWHD	SBIY	0.54	88.82	1	0
EYM-127	II -C-6-10	SWHD	SWHD	SBIY	1.2	88.3	1	0
EYM-128	II -C-12	風化	風化	風化				
EYM-129	II -C-22-4	SWHD	SWHD	SBIY	1.87	109.67	1	0
EYM-130	II -D-1-8	WDTY	WDTY	WDHY	2.73	13.05	0.9983	0.0017
EYM-131	II -D-2	WDTY	WDTY	WDHY	5.53	20.02	0.9998	0.0002
EYM-132	I -V-13	SWHD	SWHD	SBIY	7.43	51.16	1	0
EYM-133	I -W-6	WDTY	WDTY	WDHY	0.22	23.74	1	0

表5-3 山の神遺跡出土黒曜石製石器産地推定結果

第7章 自然科学分析

都道府県	地図No	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地 (分析数)
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂(19)、八号沢露頭(31)、八号沢(79)、黒曜の沢(6)、幌加林道(4)
			黒曜の沢群		STKY		
	2	上士幌	三股群		KSMM		十三ノ沢(16)
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)
	4	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台(6)、雨紛台(5)、春光台(5)
			春光台群		AKSK		
	5	名寄	布川群		NYHK		布川(10)
	6	新十津川	須田群		STSD		須田(6)
青森	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川(25)、土木川(15)
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉(16)
秋田	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸(34)
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園(8)、六角沢(8)、岡崎浜(40)
山形	11	男鹿	金ヶ崎群		OGKS		金ヶ崎温泉(37)、脇本海岸(98)
			脇本群		OGWM		脇本海岸(16)
新潟	12	羽黒	月山群		HGGS		月山荘前(30)、朝日町田代沢(18)、櫛引町中沢(18)
			今野川群		HGIN		今野川(9)、大綱川(5)
栃木	13	新津	金津群		NTKT		金津(29)
	14	新発田	板山群		SBIY		板山牧場(40)
長野	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	THAY	TKH1	甘湯沢(50)、桜沢(20)
			七尋沢群	高原山2群	THNH	TKH2	七尋沢(9)、自然の家(9)
		和田(WD)	鷹山群	和田峠1群	WDTY	WDT1	鷹山(53)、小深沢(54)、東餅屋(36)、芙蓉ライト(87)、古峠(50)、土屋橋北(83)、土屋橋西(29)、土屋橋南(68)、丁字御領(18)
			小深沢群	和田峠2群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠3群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠4群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠5群	WDTM	WDT5	
	芙蓉ライト群			WDHY			
	古峠群		WDHT				
	和田(WO)	ブドウ沢群	男女倉1群	WOB	OMG1	ブドウ沢(36)、ブドウ沢右岸(18)、牧ヶ沢上(33)、牧ヶ沢下(36)、高松沢(40)	
		牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2		
		高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMG3		
神奈川	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第1鉱区(36)、星ヶ塔第2鉱区(36)、星ヶ台A(36)、星ヶ台B(11)、水月霊園(36)、水月公園(13)、星ヶ塔のりこし(36)
	18	蓼科	冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山(33)、麦草峠(36)、麦草峠東(33)、渋ノ湯(29)、美し森(4)、八ヶ岳7(17)、八ヶ岳9(18)、双子池(34)
			双子山群		TSHG		双子池(26)
静岡		箱根	播鉢山群		TSSB		播鉢山(31)、亀甲池(8)
	19		芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯(34)
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿(71)
			黒岩橋群	箱根系A群	HNKI	HKNA	黒岩橋(9)
	21		鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋(30)
東京	22	天城	上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀(18)
			柏峠群	柏峠	AGKT	KSW	柏峠(80)
島根	23	神津島	恩馳島群	神津島1群	KZOB	KOZ1	恩馳島(100)、長浜(43)、沢尻湾(8)
			砂糠崎群	神津島2群	KZSN	KOZ2	砂糠崎(40)、長浜(5)
その他	24	隠岐	久見群		OKHM		久見パーライト中(30)、久見採掘現場(18)
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸(30)、加茂(19)、岸浜(35)
			岬群		OKMT		岬地区(16)
			NK群		NK	中ッ原1G、5G(遺跡試料)、原石産地は未発見	

佐々木繁喜氏提供試料 (まだ地図には入れていない)

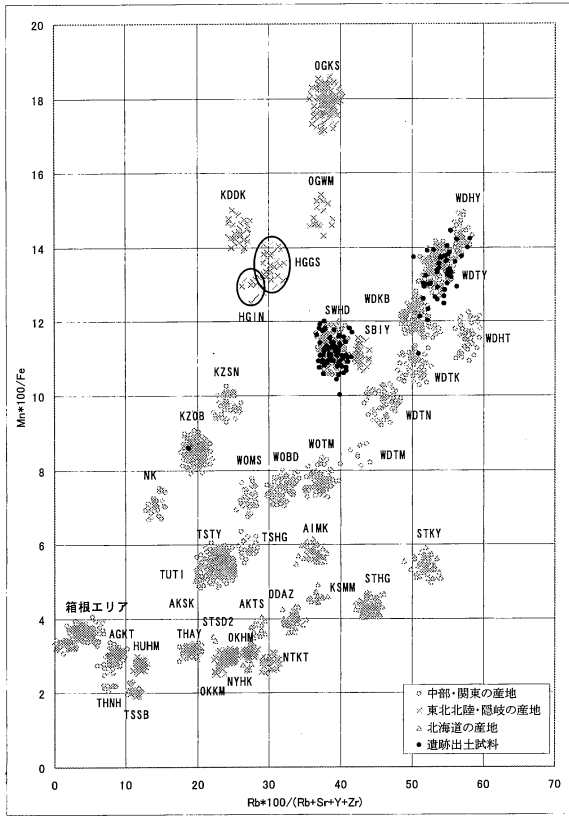
青森	小泊	折腰内群	KDOK	小泊市折腰内(8)
岩手	北上川	北上折居1群	KKO1	水沢市折居(36)、花巻日形田ノ沢(36)、雫石小赤沢(22)
		北上折居2群	KKO2	水沢市折居(23)、花巻日形田ノ沢(8)、雫石小赤沢(2)
		北上折居3群	KKO3	水沢市折居(5)
宮城	宮崎	湯ノ倉群	MZYK	宮崎町湯ノ倉(54)
	色麻	根岸群	SMNG	色麻町根岸(48)
	仙台	秋保1群	SDA1	仙台市秋保土蔵(17)
		秋保2群	SDA2	仙台市秋保土蔵(35)
	塩竈	塩竈群	SGSG	塩竈市塩竈漁港(22)

表6 産地原石判別群 (SEIKO SEA-2110L蛍光X線分析装置による)

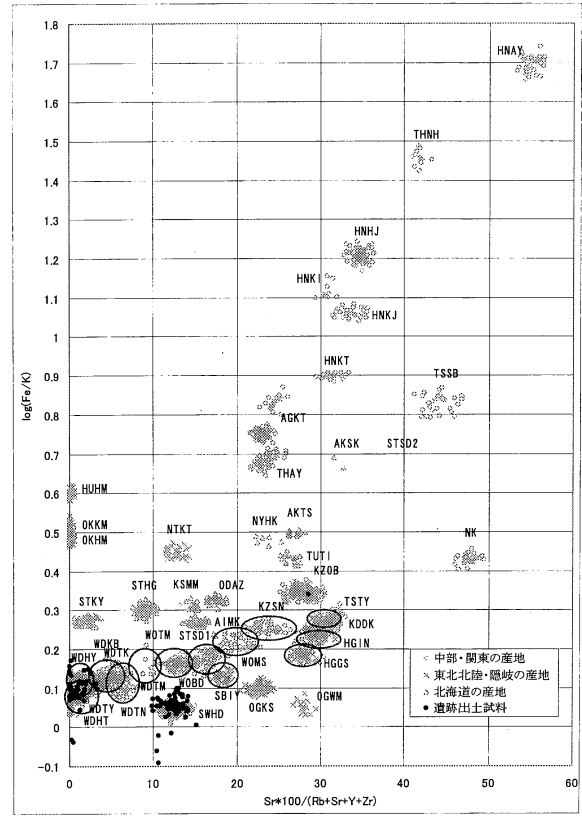
エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WO)	ブドウ沢	WOBD	0	0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0
	高松沢	WOTM	0	0
和田(WD)	芙蓉ライト	WDHY	5	4.31
	鷹山	WDTY	35	30.17
	小深沢	WDKB	4	3.45
	土屋橋北	WDTK	1	0.86
	土屋橋西	WDTN	0	0
	土屋橋南	WDTM	0	0
	古峠	WDHT	0	0
諏訪	星ヶ台	SWHD	70	60.34
蓼科	冷山	TSTY	0	0
	双子山	TSHG	0	0
	播鉢山	TSSB	0	0
天城箱根	柏峠	AGKT	0	0
	畑宿	HNHJ	0	0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0
	黒岩橋	HNKI	0	0
	上多賀	HNKT	0	0
	芦ノ湯	HNAY	0	0
	神津島	恩馳島	KZOB	1
砂糠崎		KZSN	0	0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0
	七尋沢	THNH	0	0
新津	金津	NTKT	0	0
新発田	板山	SBIY	0	0
深浦	八森山	HUHM	0	0
木造	出来島	KDDK	0	0
男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0
	脇本	OGWM	0	0
羽黒	月山	HGGS	0	0
	今野川	HGIN	0	0
隠岐	久見	OKHM	0	0
	箕浦	OKMU	0	0
白滝	8号沢	STHG	0	0
	黒曜の沢	STKY	0	0
	赤石山頂	STSC	0	0
赤井川	曲川	AIMK	0	0
豊浦	豊泉	TUTI	0	0
置戸	安住	ODAZ	0	0
上土幌	三股	KSMM	0	0
名寄	布川	NYHA	0	0
旭川	高砂台	AKTS	0	0
	春光台	AKSK	0	0
不明産地1	NK	NK	0	0
小計			116	100

不可			17	
合計			133	

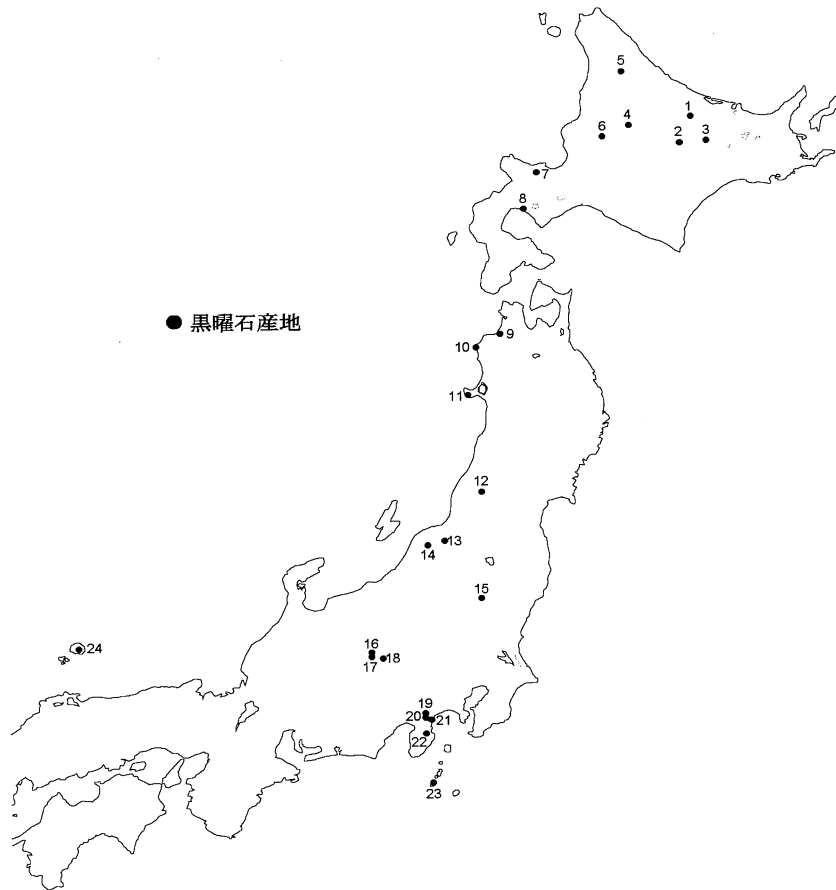
表7 山の神遺跡産地別試料一覧



第191図 山の神遺跡出土黒曜石産地判別図その1



第192図 山の神遺跡出土黒曜石産地判別図その2



第193図 黒曜石産地位置図

第6節 山の神遺跡出土の江戸時代人骨

茂原 信生（京都大学霊長類研究所）

長岡 朋人（京都大学霊長類研究所）

宮本 俊彦（新潟県立津南高等学校）

1 はじめに

山の神遺跡は、長野県大町市常盤字山の神にある遺跡で、平成9年から12年にかけて長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査された。おもに縄文時代の遺跡であるが、平成11年には寛永通宝などの銅銭、キセルを伴った近世人骨が土坑SK1003から出土した。本報告はこの人骨についてのものである。長辺が1mほどの土壌で、残っていたのは主に頭蓋骨であった。

頭蓋骨の計測方法はマルチン（馬場1991）に、また歯の計測方法は藤田（1949）に従った。

2 人骨の特徴

保存状態は悪く、頭蓋骨と上腕骨の一部、椎骨片、所属不明の四肢骨片などが出土している。攪乱を受けた様子はなく、埋葬された状態を保ったままで発掘されたと思われる。残っている部位には植物の根が入り込んでいる部位がある。出土した状況、ならびに重複する部位が見られないことなどから、1体分であると考えられる。

(1) 頭蓋骨

頭蓋冠と右顔面、左右の側頭骨ならびに、下顎骨が出土している（第194図）。左顔面は侵食によって失われたものと思われる。

眉弓は発達しておらず、頭蓋冠の頭頂骨などは薄い。前額部はわずかに後方に傾斜している。外後頭隆起は発達しておらず、プロカのⅡ型程度で目立った突出はない。また、乳様突起の先端は欠損している。内外的にはやや厚めであるが、小さい。上前乳突結節は比較的発達しているが、側頭線は目立たない。矢状縫合や人字縫合の鋸歯状の縫合は明瞭だが、冠状縫合の外側部は縫合が単純化しており、内板の縫合は癒合・消滅している。さほど若い個体ではないが、高齢とも思われぬ。後述の歯の咬耗を考えあわせると、壮年の後半程度（30～40歳）の年齢と推測される。

下顎骨は普通であり、厚くも薄くもない。左・右のオトガイ結節は発達し、オトガイ隆起もやや発達している。オトガイ三角は比較的明瞭である。残存している右の筋突起は非常に細く、厚さもさほどではない。側頭線の弱いことなどを考えあわせると側頭筋は発達していなかったであろう。内側の顎舌骨筋線は普通である。右の顎関節は病的である。関節頭には小さな孔がいくつかあいており、関節頭の外側部は平坦化している。外側端にはえぐれも見られる。これに対応する右の下顎窩には病変が見られないので、さほど致命的な障害はなかったであろうが、かみ合わせがスムーズに出来なかった可能性がある。歯のすり減りにはこの病変に対応する異常な磨耗が見られないので、年齢が進んでからの病気であろう。

眉間の計測点グラベラが欠けているので推定であるが、頭蓋最大長は168ミリで、右半分から推定した頭蓋幅は130ミリほどであるから、頭蓋長幅示数は推定で77.4となり、中頭に属する。同じ長野県の砂原遺跡から出土した江戸時代人骨は、短頭～中頭であった。江戸時代の江戸無縁坂人骨（森田・河越1960）や熊本の本島人骨（脇1970）、あるいは福島の本飯豊人骨（茂原1994）、さらには鍛冶久保人骨（茂原1993）の平均値はいずれも中頭であり、本遺跡の人骨と大差ない頭型であるので、むしろ砂原遺跡の人骨がやや特

殊であるのかもしれない。

性別は、乳様突起の小ささ、外後頭隆起が発達していないこと、頭蓋冠の骨の薄さ、後述の歯の小ささなどを考え合わせると女性の可能性が高いが、中間的な形質も多く判断に迷う。

(2) 歯

歯冠のエナメル質は破損してかなり脱落してしまっているために、計測できるものは少ない(表8・9)。全体に咬耗は進んでおり、モルナー(1971)の4～5程度で、大白歯の歯冠はほぼ平坦になっている。

上顎は右第1小白歯から第3大白歯まで、左は犬歯、第2小白歯から第3大白歯までの合計10本、下顎歯は右が犬歯から第3大白歯まで、左は中切歯、犬歯から第2小白歯と第2大白歯から第3大白歯までの11本は歯冠が残っており、下顎の側切歯は歯根が残っている。風習的な抜歯に相当するものはない。下顎の右第1大白歯の歯冠中央に虫歯(齲蝕)と思われる小さな孔がある。上顎の左第1大白歯の歯冠中央にも小さい齲蝕が見られる。下顎の左犬歯は捻転しており、90度ほど右に回転している。下顎の左第1大白歯は生前に脱落していたらしく、歯根部は本来、近心と遠心に2つある歯槽が単一化して深くえぐれており、歯槽膿漏を思わせる。

歯の大きさは、咬耗によって隣り合う歯どうしの隣接面磨耗が進んでいるため、近遠心径は計測できず、頬舌径だけを計測した。江戸時代人(Brace他1982)の男性の平均値よりは小さめで、女性の平均値とほぼ同じかやや小さめである。上・下顎とも大白歯は現代人の平均値(権田1959)や縄文時代北村人の平均値(茂原1993)よりやや小さめである。

(3) 体幹骨

椎骨が少数出土している。ほとんどが頸椎片で、第1頸椎(環椎)、第2頸椎(軸椎)と他の頸椎片である。椎骨体の上下の関節面に加齢変化が伺える。

(4) 四肢骨

左右の上腕骨の一部、橈骨片と大腿骨片が認められる。上腕骨の三角筋粗面はさほど発達しておらず、太さは普通である。左右の太さはほぼ同じで利き腕を想像させるような違いはない。橈骨遠位部はさほど太くはない。大腿骨片と思われるものは数センチの大きさで、骨質はさほど厚くはない。

他の四肢骨は細片にすぎない。

3 まとめ

山の神遺跡から出土した江戸時代人骨の保存状態は悪く、頭蓋骨と四肢骨の一部しか残っていない。出土状況から考えて1体分である。性別は、男性と女性の中間的な特徴を併せ持っているが、どちらかといえば女性の可能性が高い。壮年後半(30～40歳)程度と考えられる。歯の咬耗が顕著であり、小さな虫歯が2ヵ所に見られる。下顎骨の関節頭に病変が見られ、不自由なかみ合わせを強いられていたと思われるが、歯の磨耗にまで影響していないので、比較的年齢が進んでからの病変であろう。

本人骨を観察する機会を与えてくださった長野県埋蔵文化財センターの方々、特にいろいろな情報を与えてくださった川崎保氏に心から感謝します。また、頭蓋骨の写真は当教室の木下実氏にお願いした。あわせて感謝いたします。

参考文献

馬場悠男1991「人骨計測法」『人類学講座別巻1：人体計測法』,江藤盛治他編,雄山閣;159-358頁

Brace, C. L. & M. Nagai 1982「Japanese Tooth Size: Past and Present」『Amer. J. Phys. Anthropol』59; 399-411頁

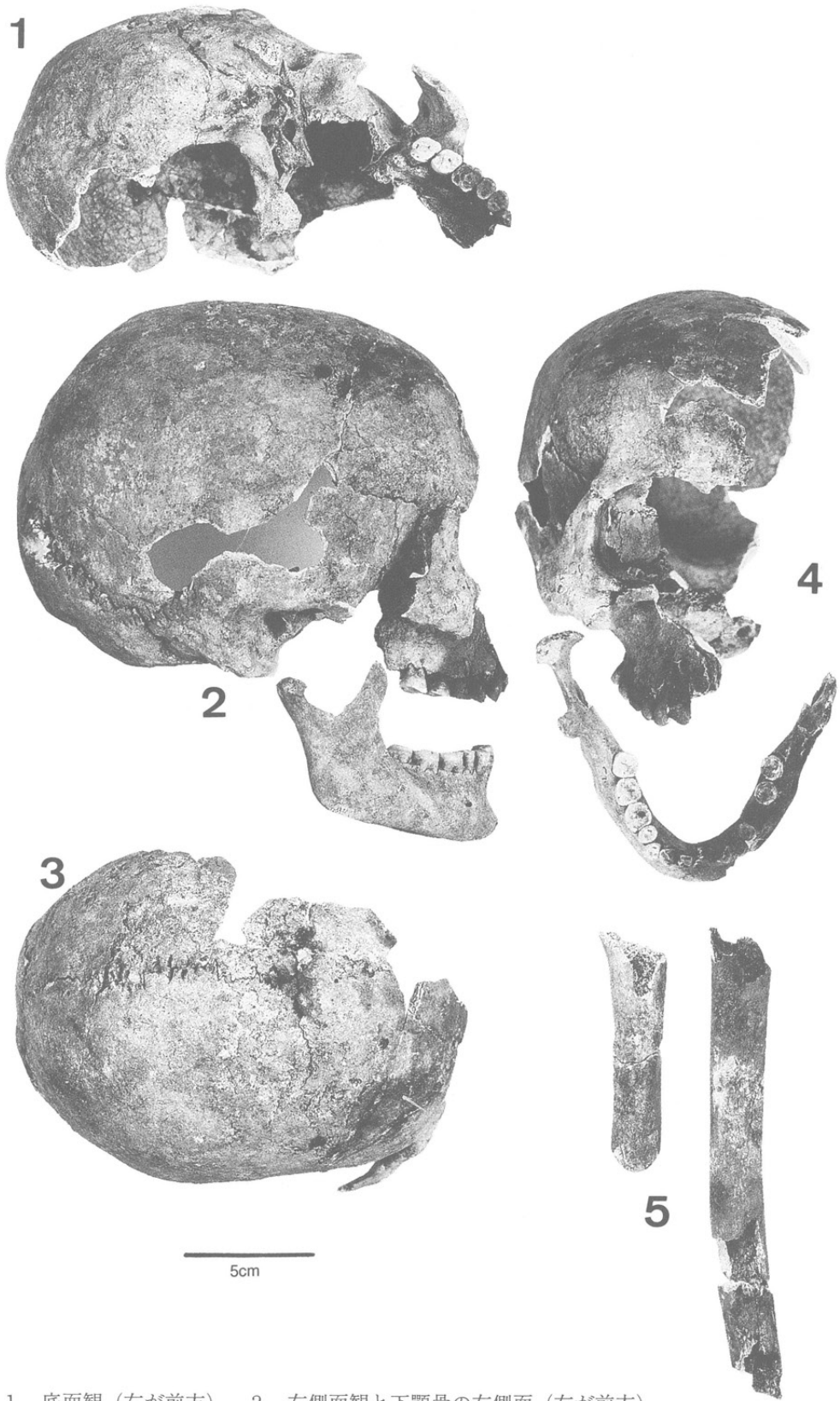
- 藤田恒太郎1949「歯の計測基準について」『人類学雑誌』61；1-6頁
- 権田和良1959「歯の大きさの性差について」『人類学雑誌』43（1）；151-163頁
- Molnar, S. (1971)「Human Tooth Wear, Tooth Function and Cultural Variability」『Amer. J. Phys. Anthropol.』34；175-190頁
- 森田 茂・河越逸行1960「湯島無縁坂出土の江戸時代人頭蓋骨の人類学的研究補遺」『人類学雑誌』67（5）；278-295頁
- 茂原信生1993「北村遺跡出土の人骨の形質」『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書14, 北村遺跡』259-402頁
- 茂原信生1993「福島県鍛冶久保遺跡出土の江戸時代人骨」『福島県文化財調査報告書第294集, 東北横断自動車道遺跡調査報告23付編6』511-549頁
- 茂原信生1994「本飯豊遺跡（福島県）出土の江戸時代人骨」『福島県文化財調査報告書第307集, 鴨ヶ館跡（第2次）・本飯豊遺跡（第2次）』293-321頁
- 脇 達也1970「熊本県牛深市桑島出土の江戸時代人頭骨の人類学的研究」『熊本医学会誌』44；1031-1091頁

遺跡名	時代	性別	左右	I 1		I 2		C		P 1		P 2		M 1		M 2		M 3	
				m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l
山の神遺跡人骨	江戸		右	-	-	-	-	-	-	9.6	-	8.9	-	-	11.1	-	10.9	-	-
			左	-	-	-	-	-	-	-	-	9.2	-	-	-	-	-	-	-
北村遺跡(長野) (茂原; 1993)	縄文後期	男性		8.4	7.0	-	-	7.6	7.7	6.7	9.0	6.2	8.6	10.0	11.3	8.5	11.3	8.0	11.0
		女性		-	-	7.3	5.8	7.4	7.3	6.7	9.2	6.5	9.1	9.9	11.1	8.4	11.1	8.1	10.2
江戸時代人 (Braceら; 1982)	江戸	男性		8.2	7.4	6.8	6.5	7.7	8.5	7.2	9.6	6.9	9.5	10.5	11.6	10.0	11.7	9.5	11.3
		女性		8.3	7.0	6.7	6.3	7.9	8.6	7.4	9.5	6.8	9.2	10.4	11.4	9.9	11.5	9.7	11.6
現代日本人 (權田, 1959)	現代	男性		8.67	7.35	7.13	6.62	7.94	8.52	7.38	9.59	7.02	9.41	10.68	11.75	9.91	11.85	8.94	10.79
		女性		8.55	7.28	7.05	6.51	7.71	8.13	7.37	9.43	6.94	9.23	10.47	11.40	9.74	11.31	8.86	10.50

表8 山の神遺跡(長野県大町市)出土の人間の上下顎歯の計測値

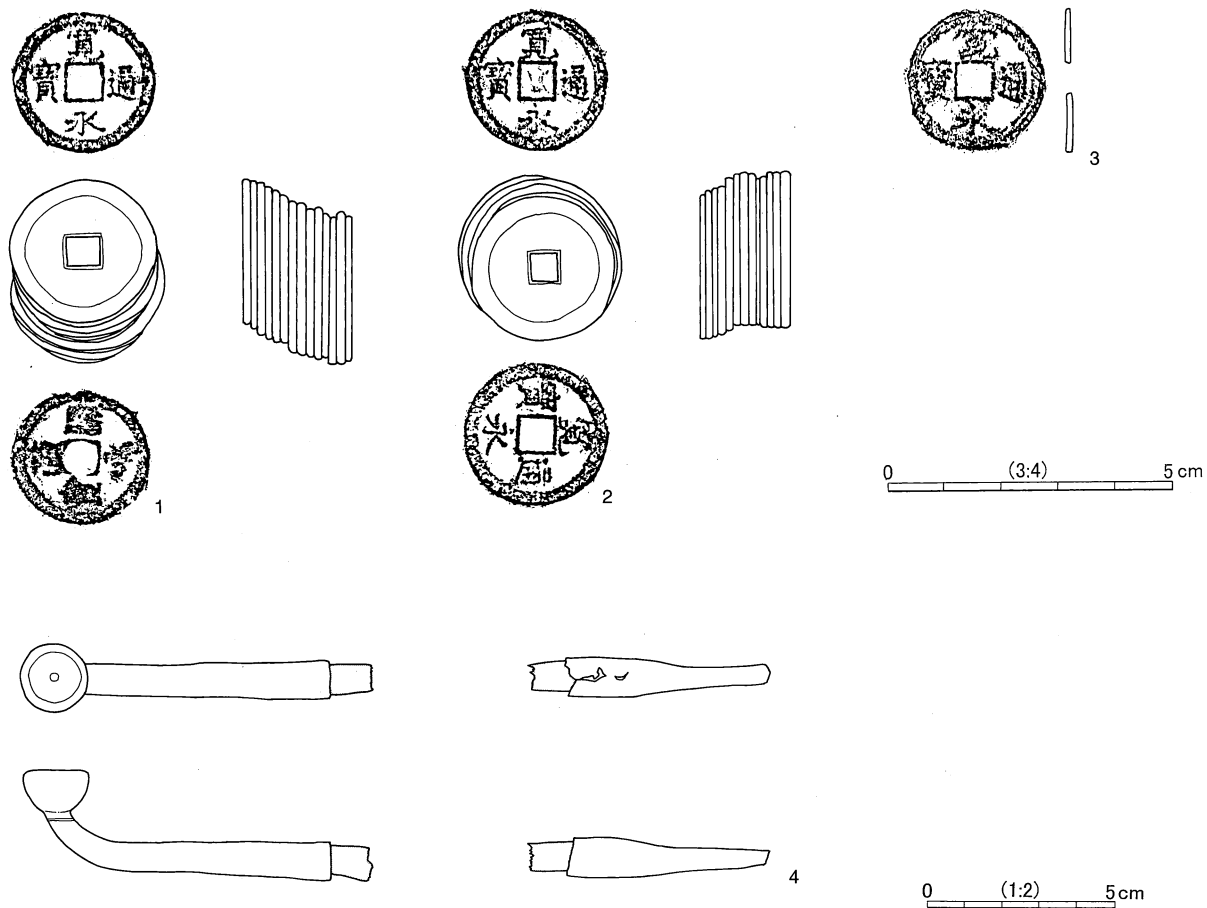
遺跡名	時代	性別	左右	I 1		I 2		C		P 1		P 2		M 1		M 2		M 3	
				m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l
山の神遺跡人骨			右	-	-	-	-	-	-	7.6	-	8.0	-	-	10.4	-	9.8	-	9.6
			左	-	-	-	-	-	-	-	7.7	-	7.8	-	-	-	-	-	-
北村遺跡(長野) (茂原; 1993)	縄文後期	男性		-	5.8	-	6.2	6.5	7.6	6.5	7.5	6.3	8.2	11.1	10.9	10.1	9.9	9.2	9.0
		女性		-	-	-	6.0	-	7.4	6.4	7.0	6.7	7.9	11.7	10.9	10.6	9.8	10.2	9.5
江戸時代人 (Braceら; 1982)	江戸	男性		4.9	5.7	5.8	6.4	6.7	7.7	7.2	8.0	7.3	8.4	11.5	11.0	11.3	10.6	10.7	10.1
		女性		5.0	5.1	5.6	5.8	6.4	7.2	6.8	7.4	6.9	8.1	11.1	10.7	10.9	10.4	10.5	9.9
現代日本人 (權田; 1959)	現代	男性		5.48	5.88	6.20	6.43	7.07	8.14	7.31	8.06	7.42	8.53	11.72	10.89	11.30	10.53	10.96	10.28
		女性		5.47	5.77	6.11	6.30	6.68	7.50	7.19	7.77	7.29	8.26	11.32	10.55	10.89	10.20	10.65	10.02

表9 山の神遺跡(長野県大町市)出土の人間の上下顎歯の計測値



1 底面観（右が前方） 2 右側面観と下顎骨の右側面（右が前方）
3 上面観（右が前方） 4 前面観と下顎骨上面（下顎骨の咬合面） 5 左・右上腕骨

第194図 山の神遺跡SK1003出土の江戸時代人骨



1. 銭貨14枚。1枚目寛永通宝、14枚目政和通宝 2. 銭貨13枚。1枚目、13枚目いずれも寛永通宝
 3. 寛永通宝 4. きせる

第195図 土坑SK1003共伴遺物

第8章 付 表

本章には以下の表が収録されている。

遺構出土土器観察表（表10）、遺構外出土土器観察表（表11）、石器観察表（表12）

表中の図版は図版番号で第24図3であれば24-3と表示してある。写真は写真図版番号で写真図版12上6であれば12上6と表示してある。整理とあるのは整理段階で使用した台帳の番号（以下整理番号）で、実測されなかった遺物はこの台帳に基づいて整理収納されている。

（1）遺構出土遺物

土器、石器ともに整理番号は、現場で取上番号があればその番号をなるべく生かす。ない場合土器の場合は各遺構ごとに1番から番号を付した。石器は取上番号がない場合1001番から付している。

（2）遺構外出土遺物

土器、石器ともに8mグリッドごとに1番からの通し番号を付した。ただし、石器の場合実測を要する石器は器種ごとに整理番号を付与している。石鏃、特殊磨石などは遺構外の遺物については1番から石鏃1、特殊磨石1のようになっている。遺構出土の遺物は（1）でも触れたように、遺構内での整理番号のままである。

但し、異形部分磨製石器（いわゆるトロトロ石器）の場合は、遺構の内外を問わず通しで整理番号を付けた。

また、発掘調査段階で、光波測量機器を用いて取り上げを行ったものはすべて8mグリッドに換算して、番号が付与されている。備考欄に光波取上番号が記入してあるので、光波取上台帳と対照してさらに細かいXYや標高といった成果を求めることができる。

剥片、碎片、原石は種類・素材別に重量のみを計測し、番号は付与していない。

（3）用語の省略

土器については、施文整形技法で、口縁端部の面取りの状況をしっかり面取りをしているもの◎、面取りしているもの○、かすかにしているもの△の3段階で表示した。矢印（→）は施文の順番を示している。

石器については、法量の長さ、幅、厚さはすべてcm、重さはgである。カッコで括られている数値はいずれも欠損を意味する。石材は黒曜石→黒曜、チャート→チャ、花崗岩→花崗、安山岩→安山などと前二文字だけにしたものがいくつかある。

紙幅の関係上用語をかなり省略したが、本報告書に添付された電子磁気媒体には、省略されないで掲載されている。また、電子磁気媒体には、報告書本文には掲載されなかった多くの情報が網羅されているのであわせて参照されたい。

（4）石器の名称

石器の名称は、図版の名称にすべて統一してある。整理選別の段階で命名した名称とことになっていることがあるが、もとの台帳の名称は変更していない。整理台帳と本報告書掲載の観察表とで名称が異なる場合はその旨記入した。

地点名	図版	写真	整理	焼物種	部位	施文整形技法
SB01	44-1	10-1	9	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB01	44-2	10-2	15	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SB01	44-3	10-3	10	楕円押型文	頸部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB01	44-4	10-4	7	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB01	44-5	10-5	6	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB01	44-6	—	5	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB01	44-7	—	8	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB01	44-8	10-6	3	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ→ナナム。
SB01	44-9	10-10	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB01	44-10	10-7	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB01	44-11	10-8	4	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB01	44-12	10-9	14	山形押型文	底部付近	外面：山形押型文ヨコ・タテ。
SB01	44-13	10-11	11	縄文	口縁部	口唇：面取○。外面：縄文LRヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB01	44-14	10-12	12	縄文	口縁部	口唇：面取△。外面：縄文LRヨコ。
SB01	44-15	—	13	縄文	胴部	外面：縄文RLヨコ。
SB02	44-1	10-1	8	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB02	44-2	10-2	9	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB02	44-3	10-3	10	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SB02	44-4	10-4	11	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SB02	44-5	10-5	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB02	44-6	10-6	4	山形押型文	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコミガキ。
SB02	44-7	10-7	5	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB02	44-8	10-8	7	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB02	44-9	10-9	6	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB02	44-10	10-10	2	縄文	口縁～胴部	口唇：面取○。外面：縄文RLヨコ
SB02	44-11	11-1	1	縄文	口縁～胴部	外面：ナデ。縄文LRヨコカナナム。
SB02	45-12	11-2	12	山形押型文	ほぼ完形	口唇：面取○。外面：口縁：山形押型文ヨコ→頸：斜行沈線←胴～底：山形押型文ヨコ→回転擦痕。
SB03	46-1	12-1	10	楕円押型文	口縁～胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：口縁部丁寧なヨコナデ。
SB03	46-2	12-2	12	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ・ナナム。
SB03	46-3	—	14	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SB03	46-4	—	11	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SB03	46-5	—	13	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB03・SK52a	46-6	12-4	17	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SB03	46-7	—	15	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB03・SK52a	46-8	12-3	16	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB03	46-9	12-5	18	楕円押型文	頸部	外面：楕円押型文ナナム・ヨコ、刺突文。
SB03・SK52a	46-10	12-6	24	楕円押型文	頸部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
SB03	46-11	—	19	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB03・SK52a	46-12	—	21	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB03・SK52a	46-13	—	25	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB03・SK52a	46-14	—	22	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文タテ。
SB03	46-15	12-8	20	楕円押型文	底部	外面：楕円押型文タテ。
SB03	46-16	12-7	41	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
SB03・SK52a	46-17	—	23	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文ナナム。
SB03	46-18	12-9	3	山形押型文	口縁～胴部	口唇：面取○。外面：口縁：山形押型文ヨコ←頸：ヨコナデ→胴：山形押型文ヨコ。
SB03	46-19	12-10	2	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SB03・SK52a	46-20	12-14・15	1-a～b	山形押型文	口縁～胴部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SB03	46-21	12-11	7	山形押型文	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
SB03・SK52a	46-22	—	6	山形押型文	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
SB03	46-23	12-12	8	山形押型文	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。内面：丁寧なヨコナデ。
SB03	46-24	—	9-a	山形押型文	頸部	外面：山形押型文ヨコ、斜行平行細沈線。
SB03	46-25	—	9-b	山形押型文	頸部	外面：斜行平行細沈線、山形押型文ヨコ。
SB03	46-26	—	26	山形押型文	底部付近か	外面：山形押型文タテ。
SB03	46-27	12-13	4	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。内面：上半丁寧なヨコナデ、下半ヨコケズリ。
SB03	46-28	12-16	28-a	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文。
SB03・SK52a	46-29	12-17	28-b	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文。
SK52a	46-30	12-18	27	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文。
SB03	46-31	—	29	細密な押型文	胴部	外面：細密な押型文ヨコ。
SB03・SK52a	46-32	12-21	33	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
SK52a	46-33	—	32	異種併用押型文	胴部	外面：細密な押型文、楕円押型文ヨコ。
SB03・SK52a	46-34	12-19	34-a	異種併用押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ、山形押型文ヨコ。
SB03・SK52a	46-35	—	34-b	異種併用押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ・ナナム、山形押型文ヨコ。
SB03・SK52a	46-36	12-20	30	異種併用押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。

表10-1 遺構出土土器観察表

地点名	図版	写真	整理	焼物種	部位	施文整形技法
SB03	46-37	12-22	31	異種併用押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。
SB03	46-38	12-24	40	撚糸文	胴部	外面：撚糸文ナナメ。
SB03・SK52a	46-39	—	39	縄文	胴部	外面：縄文R Lヨコ。
SB03	46-40	—	37	縄文	胴部	外面：縄文L Rヨコ。
SB03	46-41	—	38	条痕文	胴部	外面：粗い条痕文ナナメ。
SB03・SK52a	46-42	12-23	35	—	口縁部	外面：瘤状隆帯貼付。
SB03・SK52a	46-43	—	36	沈線文	胴部	外面：細沈線文
SB04	44-1	10-1	4	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ナナメ。
SB04	44-2	10-2	5	楕円押型文	胴部	外面：面取○。ヨコ・タテ。
SB04	44-3	10-3	1	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ナナメ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB04	44-4	10-4	3	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB04	44-5	10-5	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB04	44-6	10-6	6	縄文	胴部	外面：縄文R Lヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB05	44-1	10-1	6	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB05	44-2	10-2	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ナナメ。
SB05	44-3	10-3	4	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ←柵状押型文ヨコ。
SB05	44-4	10-4	5	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB05	44-5	10-5	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ナナメ。
SB05	44-6	10-6	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB05	44-7	10-7	7	沈線文	胴部	外面：細沈線文か。
SB06	47-1	13-1	5-a	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ナナメ・ヨコ。
SB06	47-2	13-2	5-b	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB06	47-3	13-3	9	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ。
SB06	47-4	13-4	6	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB06	47-5	—	8	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB06	47-6	—	10	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ナナメ。
SB06	47-7	—	7	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB06	47-8	—	11	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ナナメ。
SB06	47-9	—	12	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB06	47-10	13-5	2	山形押型文	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB06	47-11	13-6	3	山形押型文	頸部	外面：刺突文、山形押型文ヨコ。
SB06	47-12	—	4	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB06	47-13	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB06	47-14	13-7	13	矢羽状押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
SB06	47-15	13-8	17	縄文	口縁部	外面：縄文Rヨコ。
SB06	47-16	13-9	16	縄文	胴部	外面：縄文Rヨコ。
SB06	47-17	—	14	撚糸文	胴部	外面：撚糸文Iヨコ。
SB06	47-18	13-10	15	撚糸文	胴部	外面：撚糸文Lヨコ。
SB11	48-1	14-1	15-a~e	楕円押型文	口縁~胴部	口唇：面取△。楕円押型文ヨコ、刺突文。
SB11	48-2	—	20	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-3	—	22	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ。
SB11	48-4	—	46	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-5	—	21	楕円押型文	口縁部	口縁：ゆるい波状口縁。外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-6	—	17-a	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-7	—	17-b	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-8	14-2	19	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○、ミガキ。外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ。
SB11	48-9	14-3	18	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ。
SB11	48-10	—	23	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ナナメ。
SB11	48-11	—	45-a~b	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-12	14-4	16-a	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-13	—	16-d	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-14	—	16-c	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-15	14-5	16-b	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-16	—	24	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-17	—	25	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB11	48-18	—	28	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-19	—	26	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-20	—	27	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB11	48-21	14-6	3	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SB11	48-22	14-7	4	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB11	48-23	—	2	山形押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
SB11	48-24	14-8	1	山形押型文	口縁部	外面：山形押型文ナナメ。
SB11	48-25	—	5	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB11	48-26	14-10	7	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB11	48-27	14-9	9	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB11	48-28	—	12	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB11	48-29	—	11	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB11	48-30	—	10	山形押型文	底部付近	外面：山形押型文ヨコ。
SB11	48-31	14-12	6-a	山形押型文	底部付近	外面：山形押型文タテ。
SB11	48-32	14-11	13	山形押型文	底部付近	外面：山形押型文ヨコ・タテ。

表10-2 遺構出土土器観察表

第8章 付 表

地点名	図版	写真	整理	焼物種	部位	施文整形技法
SB11	48-33	14-13	6-b	山形押型文	底部	外面：山形押型文タテ。
SB11	48-34	14-14	14	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB11	48-35	14-16	30	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ナナメか。
SB11	48-36	14-15	29	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ナナメか。
SB11	48-37	14-17	31	異種併用押型文	胴部	外面：細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
SB11	48-38	14-18	32	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ←細密な押型文。
SB11	48-39	14-20	33	縄文	口縁部	外面：縄文Rヨコ。
SB11	48-40	14-22	37	縄文	口縁部	外面：縄文RLヨコ。
SB11	48-41	14-21	35	捺糸文	口縁部	口唇：面取○。外面：捺糸文Lヨコ。
SB11	48-42	14-23	36	縄文	口縁部	外面：縄文Rヨコ。
SB11	48-43	14-19	34	縄文	口縁部	外面：縄文LRヨコ。
SB11	48-44	14-24	40	縄文	胴部	外面：縄文RLヨコ。
SB11	48-45	14-25	44	縄文	胴部	外面：縄文RLヨコ。
SB11	48-46	—	41	縄文	胴部	外面：縄文RLヨコ。
SB11	48-47	—	42	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ→ナナメ。
SB11	48-48	14-26	43-a	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SB11	48-49	—	43-b	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SB11	48-50	14-27	38	捺糸文	胴部	外面：捺糸文ナナメ・タテ。
SB11	48-51	14-28	39	縄文	胴部	外面：縄文Rヨコ→タテ。
SB12	49-1	15-2	4-a~c	楕円押型文	口縁～底部	口唇：面取○。外面：口縁：楕円押型文ヨコ←頰：斜行沈線文→胴：楕円押型文ヨコ。
SB12	49-2	15-3	6	楕円押型文	口縁～胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-3	—	11	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB12	49-4	15-4	5	楕円押型文	口縁部	口縁：波状か突起状口縁。外面：楕円押型文ヨコ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-5	—	7	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-6	—	10	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-7	—	8	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ナナメ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-8	15-1	9	楕円押型文	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
SB12	49-9	15-6	12	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB12	49-10	15-5	13	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
SB12	49-11	—	14-b	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文タテ。
SB12	49-12	15-12	14-a	楕円押型文	底部	外面：楕円押型文タテ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-13	15-8	1	山形押型文	口縁部	口唇：沈線か。外面：山形押型文ヨコ・ナナメ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-14	—	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-15	15-9	3	山形押型文	底部付近	外面：山形押型文ヨコ・タテ→回転擦痕。
SB12	49-16	15-10	15	格子目押型文	底部	外面：格子目押型文タテ。
SB12	49-17	15-11	27	柵状押型文	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
SK72	49-18	15-12	16	細密な押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ナナメ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-19	—	17	細密な押型文	胴部	外面：細密な押型文。
SB12	49-20	—	18	異種併用押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
SB12	49-21	15-13	19	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
SK72	49-22	15-14	20	異種併用押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-23	15-16	21-a~b	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-24	—	22	縄文	胴部	外面：縄文Rナナメ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-25	—	25	捺糸文	胴部	外面：捺糸文Rナナメ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-26	15-15	26	捺糸文	胴部	外面：捺糸文Rタテ。

表10-3 遺構出土土器観察表

地点名	図版	写真	整理	焼物種	部位	施文整形技法
SB12	49-27	—	23	捺糸文	胴部	外面：捺糸文Rヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	49-28	—	24	条痕文	胴部	外面：条痕文か。
SB13	47-1	13-1	1-a~f	異種併用押型文	口縁~胴部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
SB13	47-2	—	2	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
SB13	47-3	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
SB13	47-4	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB13	47-5	—	5	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ。
SB13	47-6	—	6	山形押型文	頸部	外面：山形押型文、刺突文。
SB13	47-7	—	7	沈線文	胴部	外面：沈線文。
SB14・SK51a	50-1	16-1	4	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SB14・SK51a	50-2	16-2	6	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ・ナナメか。
SB14・SK51a	50-3	—	5	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SB14・SK51a	50-4	16-3	8	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
SB14・SK51a	50-5	16-4	7	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ。
SB14・SK51a	50-6	—	9	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SB14・SK51a	50-7	—	24	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文タテ。
SB14・SK51a	50-8	—	11	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ。
SB14・SK51a	50-9	—	10	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文ナナメ。
SK51a	50-10	16-5	12-a~d	楕円押型文	胴~底部	外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
SB14・SK51a	50-11	16-6	3	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SB14・SK51a	50-12	16-7	13	山形押型文	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
SB14・SK51a	50-13	16-8	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
SB14・SK51a	50-14	16-9	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ナナメ。
SB14・SK51a	50-15	16-10	14	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
SB14・SK51a	50-16	16-11	15-a	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文。
SB14・SK51a	50-17	—	15-b	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文。
SB14・SK51a	50-18	16-12	20-a~d	異種併用押型文	口縁~胴部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文←楕円押型文ヨコ。内面：上部楕円押型文部分丁寧なヨコナデ。
SB14・SK51a	50-19	16-16	18	異種併用押型文	胴部	外面：細密な押型文ヨコ→楕円押型文タテ・ナナメ、楕円押型文ヨコ。
SB14・SK51a	50-20	16-13	19	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
SB14・SK51a	50-21	16-14	16	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、山形押型文ヨコ。
SB14・SK51a	50-22	16-15	17-a	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
SB14・SK51a	50-23	—	17-b	異種併用押型文	胴部	外面：細密な押型文。
SB14・SK51a	50-24	—	17-c	異種併用押型文	胴部	外面：細密な押型文。
SB14・SK51a	50-25	16-17	21	縄文	口縁部	口唇：面取○。外面：縄文LRヨコ。
SB14・SK51a	50-26	16-18	28	縄文	胴部	外面：縄文Rヨコ→タテ。
SB14・SK51a	50-27	—	30-a	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SB14・SK51a	50-28	—	30-b	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SK51a	50-29	—	23	縄文	胴部	外面：縄文LRナナメ。
SB14・SK51a	50-30	—	26	縄文	胴部	外面：縄文巻縄文ヨコ。
SB14・SK51a	50-31	—	29	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SB14・SK51a	50-32	—	25	縄文	胴部	外面：縄文Rヨコ。
SK51a	50-33	—	27-a	縄文	胴部	外面：縄文LRナナメ。
SB14・SK51a	50-34	—	27-b	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SB14・SK51a	50-35	—	22	縄文	胴部	外面：縄文RLヨコ。
SB15	—	—	8-c	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△、ミガキ。外面：楕円押型文ヨコ。
SB15	47-1	13-1	8-a~b	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△、ミガキ。外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。内面：ヨコミガキ。
SB15	47-2	—	2	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SB15	47-3	—	6	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB15	47-4	—	7	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB15	47-5	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
SB15	47-6	—	5	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB15	47-7	13-2	4	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ←タテ。
SB15	47-8	13-3	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SB15	47-9	13-4	10	縄文	胴部	外面：縄文RLヨコ。
SB15	47-10	—	9	沈線文	底部	外面：細沈線文。
SB16	47-1	13-1	4	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SB16	47-2	13-2	5	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SB16	47-3	—	8	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文ナナメ。
SB16	47-4	—	7	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SB16	47-5	13-3	6	楕円押型文	底部	外面：楕円押型文タテ。
SB16	47-6	13-4	1	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SB16	47-7	—	3	山形押型文	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
SB16	47-8	—	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ナナメ。

表10-4 遺構出土土器観察表

第8章 付 表

地点名	図版	写真	整理	焼物種	部位	施文整形技法
SB16	47-9	13-5	9	異種併用押型文	口縁部	外面：山形又は矢羽状押型文か、格子目押型文ヨコ。
SB16	47-10	—	10	縄文	胴部	外面：縄文LRタテ。
SK01	64-1	17-1	5-a~d	楕円押型文	口縁～底部付近	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ・ナナム。内面：下半分ミガキに近いナデ。
SK01	64-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK01	64-3	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK01	64-4	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK01	64-5	—	7	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SK01	64-6	—	6	沈線文	胴部	外面：沈線文、刺突文。
SK02	64-1	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK02	64-2	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK02	64-3	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK03	64-1	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK05	64-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK06	64-1	—	2	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK06	64-2	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK06	64-3	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK06	64-4	—	4	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SK07	64-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK07	64-2	—	2	細密な押型文	胴部	外面：細密な押型文ヨコ。
SK07	64-3	—	3	沈線文	胴部	外面：沈線文。
SK10	64-1	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SK14	64-1	—	1	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK14	64-2	—	3	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK14	64-3	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK14	64-4	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK14	64-5	—	5	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK14	64-6	17-2	12	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→柵状押型文。
SK14	64-7	—	6	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
SK14	64-8	—	7	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、格子目押型文ヨコ。
SK14	64-9	—	9	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
SK14	64-10	—	8	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
SK14	64-11	—	10	撚糸文	口縁部	外面：撚糸文ヨコかL。
SK14	64-12	—	11	撚糸文	胴部	外面：網目状撚糸文Lヨコ。
SK15	64-1	—	3	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ→タテ。
SK15	64-2	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SK15	64-3	—	7	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SK15	64-4	—	6	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK15	64-5	—	5	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。
SK15	64-6	—	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK15	64-7	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK15	64-8	17-3	8	異種併用押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、山形押型文ヨコ。
SK15	64-9	—	9	縄文	口縁部	口唇：面取△。外面：縄文Rヨコ・ナナム。
SK15	64-10	—	10	縄文	口縁部	口唇：面取△。外面：縄文Rヨコ。
SK15	64-11	—	11	縄文	口縁部	外面：縄文LRヨコ。
SK15	64-12	—	12	縄文	胴部	外面：縄文RLかRヨコ。
SK15	64-13	—	13	撚糸文	胴部	外面：網目状撚糸文Lヨコ。
SK16	65-1	—	8	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SK16	65-2	—	7	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SK16	65-3	—	9	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SK16	65-4	17-5	1	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SK16	65-5	—	3	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SK16	65-6	—	2	山形押型文	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
SK16	65-7	—	4	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SK16	65-8	—	6	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK16	65-9	—	5	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ナナム。
SK16	65-10	—	10	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
SK16	65-11	17-6	11	異種併用押型文	口縁部	外面：連続刻み、楕円押型文ヨコ。
SK16	65-12	17-7	14	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文タテ→山形押型文ナナム。
SK16	65-13	—	13	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文。
SK16	65-14	—	12	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→山形押型文ヨコ。
SK16	65-15	—	16	縄文	口縁部	外面：縄文Rヨコ。
SK16	65-16	—	18	撚糸文	胴部	外面：撚糸文1タテ。
SK16	65-17	17-8	15	縄文	底部	外面：縄文LRタテ。
SK16	65-18	—	17	その他	口縁部	外面：不明
SK17	65-1	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文タテ。
SK17	65-2	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK17	65-3	—	5	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK17	65-4	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK17	65-5	—	2	矢羽状押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
SK17	65-6	—	6	その他	胴部	外面：条痕文か。
SK18	65-1	—	1	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。

表10-5 遺構出土土器観察表

地点名	図版	写真	整理	焼物種	部位	施文整形技法
SK18	65-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK18	65-3	17-9	5	その他	底部	外面：ナデ。
SK18	65-4	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ナナメ。
SK18	65-5	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ナナメ。内面：丁寧なナデ。
SK19	65-1	—	2	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
SK19	65-2	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
SK19	65-3	—	4	楕円押型文	頸部	外面：楕円押型文ヨコ→刺突文。
SK19	65-4	—	5	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK19	65-5	—	1	山形押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
SK19	65-6	—	7	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコか。
SK19	65-7	—	6	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。内面：丁寧なナデ。
SK25	65-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SK25	65-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK25	65-3	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。内面：ミガキに近いナデ。
SK25	65-4	—	5	沈線文	口縁部	口唇：面取○。外面：平行沈線文。
SK25	65-5	17-4	4	沈線文	胴部	外面：平行沈線文。
SK29	65-1	—	2	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ナナメか。
SK29	65-2	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK29	65-3	—	1	山形押型文	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。
SK32b	65-1	—	1-a~b	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
SK32b	65-2	17-10	2	楕円押型文	底部	外面：楕円押型文タテ。
SK34a	65-1	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK34a	65-2	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK36 a	65-1	—	1	山形押型文	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
SK37 a	65-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ。
SK37 a	65-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
SK37 a	65-3	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK37 a	65-4	—	4	異種併用押型文	胴部	外面：山形押型文タテ、楕円押型文タテ。
SK38	65-1	—	5	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK38	65-2	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK38	65-3	17-11	2	楕円押型文	底部	外面：楕円押型文タテ→ヨコ。
SK38	65-4	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ナナメ。
SK41	65-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK41	65-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK41	65-3	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK41	65-4	—	4	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
SK41	65-5	—	5	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→格子目押型文ヨコ。
SK43 a	66-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：下半タテナデ。
SK43 a	66-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK43 a	66-3	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ナナメかタテ。
SK43 a	66-4	—	4	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文か。
SK43 a	66-5	—	5	縄文	口縁部	口唇：面取○。外面：縄文LRナナメ。
SK45 a	66-1	—	1	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコかタテ。
SK46b	66-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK46b	66-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK46b	66-3	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK47 a	66-1	—	1	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ←瘤状突起貼付。
SK47 a	66-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文。
SK48	66-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK49a	66-1	—	1	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
SK49a	66-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK49a	66-3	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SK49a	66-4	—	4-a~b	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ。
SK49a	66-5	—	6	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文タテ。
SK49a	66-6	—	7	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK49b	66-1	18-1	8	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
SK49b	66-2	18-2	7	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ナナメ←瘤状突起貼付。
SK49b	66-3	18-3	3	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
SK49b	66-4	—	4	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK49b	66-5	—	5	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SK49b	66-6	—	6	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK49b	66-7	18-5	1-a~e	山形押型文	口縁~胴部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ→ナナメ→平行タテ沈線文←山形押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
SK49b	66-8	—	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK49b	66-9	—	9	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
SK49b	66-10	—	10	異種併用押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ←格子目押型文タテ。内面：丁寧なヨコナデ。
SK49b	66-11	18-4	15	矢羽状押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
SK49b	66-12	18-6	16	縄文	口縁部	外面：縄文RLヨコ。
SK49b	66-13	—	13	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SK49b	66-14	—	14	撚糸文	胴部	外面：網目状撚糸文Lヨコ。

表10-6 遺構出土土器観察表

第8章 付 表

地点名	図版	写真	整理	焼物種	部位	施文整形技法
SK49b	66-15	18-7	12	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SK50	66-1	—	2	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SK50	66-2	—	1	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SK51a	66-1	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ナナメ。
SK51a	66-2	—	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK62	66-1	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK67	66-1	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK67	66-2	—	2	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
SK67	66-3	17-12	3	矢羽状押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
SK68	66-1	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK68	66-2	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK68	66-3	—	1	山形押型文	頸部	外面：山形押型文ヨコ。刺突文。
SK68	66-4	17-13	5	矢羽状押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
SK68	66-5	—	4	撚糸文	底部付近	外面：網目状撚糸文Lヨコ。
SK1004	66-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文タテ。
SK1004	66-2	—	2	縄文	胴部	外面：縄文RLタテ。
SK1007	67-1	—	1	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：ヨコミガキ。
SK1007	67-2	—	2	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1007	67-3	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
SK1007	67-4	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1007	67-5	—	5	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1007	67-6	—	7	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1007	67-7	—	6	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文タテ。
SK1007	67-8	18-8	11-a~f	異種併用押型文	口縁~胴部	口唇：ミガキ。外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ。内面：上半ミガキに近いナデ、下半丁寧なナデ。
SK1007	67-9	—	9	異種併用押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ←楕円押型文。
SK1007	67-10	—	8	異種併用押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
SK1007	67-11	—	10	沈線文	胴部	外面：沈線文、刺突文。
SK1010	66-1	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ナナメ。
SK1010	66-2	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK1011	66-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1014	66-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
SK1016	66-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
SK1016	66-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1016	66-3	—	3	縄文	胴部	外面：縄文RLタテ→ヨコ。
SK1032	66-1	—	1	条痕文	胴部	外面：条痕文か。
SK1043	66-1	—	1	沈線文	胴部	外面：沈線文
SK1045	67-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1047	67-1	4-10	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。
SK1048	67-1	—	1	沈線文	胴部	外面：沈線文。
SK1049	67-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1049	67-2	—	2	沈線文	胴部	外面：沈線文。
SK1055	67-1	19-3	1-a~b	楕円押型文	口縁~胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1056	67-1	19-2	1	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
SK1061	67-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1062	67-1	—	1	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SK1062	67-2	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1062	67-3	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1062	67-4	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1063	67-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1066	67-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
SK1067	67-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1067	67-2	—	2	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコか。
SK1067	67-3	19-4	3	縄文	口縁部	外面：縄文RLヨコ。
SK1067	67-4	—	6	沈線文	胴部	外面：沈線文。
SK1067	67-5	17-15	5	沈線文	胴部	外面：区画沈線→斜行沈線。
SK1067	67-6	17-14	4	沈線文	口縁~胴部	口唇：面取○。外面：沈線文、刺突文。
SK1068	68-1	19-5	5	楕円押型文	口縁部	外面：山形押型文ナナメ。
SK1068	68-2	—	6	楕円押型文	口縁付近	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1068	68-3	—	7	楕円押型文	口縁付近	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1068	68-4	—	2	山形押型文	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
SK1068	68-5	—	1	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SK1068	68-6	—	3	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SK1068	68-7	—	4	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK1068	68-8	—	8	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
SK1068	68-9	—	9	矢羽状押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
SK1069	68-1	—	5	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SK1069	68-2	—	4	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1069	68-3	—	6	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1069	68-4	—	7	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。

表10-7 遺構出土土器観察表

地点名	図版	写真	整理	焼物種	部位	施文整形技法
SK1069	68-5	—	9	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1069	68-6	—	8	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1069	68-7	—	1	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
SK1069	68-8	—	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ・ナナメ。
SK1069	68-9	—	3	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK1069	68-10	—	10	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK1069	68-11	—	11	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→格子目押型文ヨコ。
SK1069	68-12	—	12	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→山形押型文ヨコ。
SK1069	68-13	—	13	縄文	胴部	外面：縄文Rヨコ。内面：上部丁寧なナデ。
SK1069	68-14	—	14-a	沈線文	胴部	外面：幅広の沈線文。
SK1069	68-15	—	14-b	沈線文	胴部	外面：幅広の沈線文。
SK1070	68-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
SK1070	68-2	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1070	68-3	—	3	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
SK1070	68-4	—	4	縄文	口縁部	外面：縄文LRヨコ。
SK1072	68-1	—	11	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SK1072	68-2	—	10	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1072	68-3	—	12	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SK1072	68-4	—	13	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1072	68-5	—	14	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。
SK1072	68-6	—	3-a~b	山形押型文	口縁~胴部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SK1072	68-7	—	4	山形押型文	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。
SK1072	68-8	19-6	2-a~e	山形押型文	口縁部	外面：口縁：山形押型文ヨコ。
SK1072	68-9	—	8	山形押型文	底部付近	外面：山形押型文ナナメ。
SK1072	68-10	—	6	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK1072	68-11	—	5	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK1072	68-12	—	7	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK1072	68-13	—	9	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK1072	68-14	19-7	1	山形押型文	口縁~胴部	外面：口縁：山形押型文ヨコ←頸：ヨコナデ→胴：山形押型文ヨコ。
SK1072	68-15	19-8	16	縄文	口縁~胴部	外面：縄文LRヨコ。
SK1072	68-16	19-9	17-a~b	縄文	口縁~胴部	口唇：面取△。外面：縄文LRヨコ・タテ。
SK1072	68-17	—	15	撚糸文	口縁部	外面：網目状撚糸文Lタテ。
SK1073	69-1	—	2	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ナナメ。
SK1073	69-2	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SK1073	69-3	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SK1073	69-4	—	4	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ→楕円押型文。
SH06	70-1	—	1	縄文	胴部	外面：縄文RLかRヨコ。
SH07	70-1	—	1	縄文	胴部	外面：縄文Rヨコ。
SH09	70-1	19-10	1	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ。
SH09	70-2	—	2	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文タテ。
SH09	70-3	—	3	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SH09	70-4	—	4	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SH09	70-5	—	5	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH09	70-6	—	6	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文。
SH09	70-7	—	7	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。内面：ヨコケズリ→ヨコナデ。
SH09	70-8	—	8	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SH28	70-1	—	4	楕円押型文	口縁部	口唇：ミガキ。外面：楕円押型文タテ。
SH28	70-2	—	5	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH28	70-3	—	6	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH28	70-4	—	1	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SH28	70-5	—	2	山形押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
SH28	70-6	—	3	山形押型文	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
SH36	70-1	—	3	楕円押型文	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
SH36	70-2	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH36	70-3	19-11	1	山形押型文	口縁部	外面：山形押型文ヨコ←瘤状突起貼付。
SH36	70-4	—	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SH36	70-5	—	5	縄文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SH38	70-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH38	70-2	—	2	異種併用押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
SH38	70-3	—	3	縄文	胴部	外面：縄文Rヨコ。
SH39	70-1	—	1	山形押型文	胴部	外面：縄文LRヨコ。
SH40	70-1	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SH40	70-2	—	2	縄文	胴部	外面：縄文LRナナメ。
SH40	70-3	—	3	縄文	胴部	外面：縄文Rヨコ。
SH47	70-1	—	1	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文。
SH54	70-1	—	4	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH54	70-2	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文タテ・内面：丁寧なナデ。
SH54	70-3	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SH54	70-4	—	2	山形押型文	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。

表10-8 遺構出土土器観察表

第8章 付 表

地点名	図版	写真	整理	焼物種	部位	施文整形技法
SH54	70-5	—	5	異種併用押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→格子目押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
SH54	70-6	—	6	縄文	口縁部	外面：縄文RLヨコ。
SH54	70-7	—	7	縄文	口縁部	口唇：面取○。外面：縄文Rヨコか。
SH58	70-1	—	2	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
SH58	70-2	—	3	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH58	70-3	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文タテ。内面：丁寧なヨコナデ。
SH58	70-4	—	5	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH58	70-5	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ナナメ。
SH58	70-6	—	6	縄文	胴部	外面：縄文Rヨコ→タテ。
SH61	71-1	19-12	1-a~d	楕円押型文	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH68・69	71-1	19-13	2	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
SH68・69	71-2	—	7	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH68・69	71-3	—	4	山形押型文	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
SH68・69	71-4	19-14	1	山形押型文	頸部	外面：刺突文、山形押型文ヨコ。
SH68・69	71-5	—	5	山形押型文	頸部	外面：刺突文←山形押型文ヨコ。
SH68・69	71-6	—	6	山形押型文	胴部	外面：刺突文ヨコ→タテ。
SH68・69	71-7	—	3	矢羽状押型文	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
SH72	71-1	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH72	71-2	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SH73	71-1	19-16	3	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
SH73	71-2	19-15	2	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文タテ。
SH73	71-3	—	4	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ナナメ。
SH73	71-4	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SH73	71-5	—	5	撚糸文	胴部	外面：撚糸文ヨコ。
SH76	71-1	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SH76	71-2	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SF20	72-1	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SD02	72-1	—	1	山形押型文	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文（下部刺突か）。
SD02	72-2	—	2	格子目押型文	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
SD03	72-1	—	2	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
SD03	72-2	—	1	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
SD03	72-3	—	3	その他の押型文	胴部	外面：細密な押型文ヨコ。内面：条痕文。
SD03	72-4	—	4	沈線文	胴部	外面：沈線文、刺突文。
NR01 b	72-1	—	6	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
NR01 b	72-2	—	7	楕円押型文	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ。
NR01 b	72-3	—	8	楕円押型文	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
NR01 b	72-4	—	17	楕円押型文	口縁部	口唇：面取◎、ミガキ。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ヨコミガキ。
NR01 b	72-5	—	9	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
NR01 b	72-6	—	10	楕円押型文	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
NR01 b	72-7	—	11	楕円押型文	胴部	外面：ヨコ→タテ。
NR01 b	72-8	—	12	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文タテ。
NR01 b	72-9	—	13	楕円押型文	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ。
NR01 b	72-10	—	1	山形押型文	口縁部	口唇：面取少し凹。外面：山形押型文ナナメ。
NR01 b	72-11	—	2	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
NR01 b	72-12	—	3	山形押型文	胴部	外面：山形押型文タテ。
NR01 b	72-13	—	4	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
NR01 b	72-14	—	5	山形押型文	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
NR01 b	72-15	—	14	縄文	胴部	外面：縄文RLタテ。
NR01 b	72-16	—	15	沈線文	胴部	外面：沈線文。
NR01 b	72-17	—	16	沈線文	胴部	外面：沈線文。

表10-9 遺構出土土器観察表

楕円押型文(第102~109図・写真図版20~24)					
地点名	図版	写真	整理	部位	施文整形技法
I-V-15	102-1	20-1	10-a~b	口縁~胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-10	102-2	—	1	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-3	102-3	—	15	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
I-W-11	102-4	—	4	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-4	102-5	—	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-8	102-6	—	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-15	102-7	20-5	4-a~b	口縁~胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-8	102-8	20-2	4-a	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なナデ。
I-V-8	102-9	—	4-b	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-5	102-10	—	3	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
I-V-3	102-11	—	6	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-10	102-12	17-16	47-a~c	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ヨコミガキ。
I-W-21	102-13	20-4	5	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ヨコミガキ。
トレンチ	102-14	20-4	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-3	102-15	—	10	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-3	102-16	—	14	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部タテミガキ。
I-V-10	102-17	—	26-a~b	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-8	102-18	20-3	6-a~d	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-W-11	102-19	21-1	12-a~d	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-25	103-20	—	1	口縁~胴部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-10	103-21	21-2	22	口縁~胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-3	103-22	—	11	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-11	103-23	—	6-a~b	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-U-20	103-24	—	5	口縁部	口唇：小さい瘤状突起貼付。外面：楕円押型文ヨコ。内面：口唇部と内面上部丁寧なヨコナデ。
試掘	103-25	—	7-a	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-20	103-26	—	10	口縁部	口唇：面取○、ミガキに近いナデ。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
試掘	103-27	—	7-b	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-2	103-28	—	8	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-9	103-29	—	5	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-22	103-30	—	9	口縁部	口唇：丸い面取。外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
I-U-15	103-31	—	8	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-9	103-32	—	6	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V	103-33	—	1	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-3	103-34	—	8	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-9	103-35	—	7	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-24	103-36	—	2	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-3	103-37	—	12	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-20	103-38	—	8	口縁部	口唇：面取○、ミガキ。外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-15	103-39	—	7	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部丁寧なナデ。
I-U-20	103-40	—	1	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-20	103-41	—	9	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：口唇部と上部ミガキに近いナデ。
I-V-3	103-42	—	13	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-23	103-43	—	8	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ、下部ヨコケズリ。
I-U-10	103-44	—	1	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-20	103-45	—	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なナデ。
I-U-20	103-46	—	2	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-14	103-47	—	2	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-15	103-48	—	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-25	103-49	—	4	口縁部	口縁：ゆるい波状口縁。外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-20	103-50	—	7	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-3	103-51	—	6	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-17	103-52	—	1	口縁部	口唇：面取◎、ミガキ。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-U-20	103-53	—	6	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部ミガキに近い丁寧なヨコナデ。
I-V-15	103-54	—	7	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-16	104-61	—	1	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-2	104-62	—	12	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-13	104-63	—	1	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-22	104-64	—	8	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-4	104-65	—	2	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-15	104-66	—	12	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
I-V-13	104-67	—	4	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-19	104-68	—	1	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-11	104-69	—	4	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。

表11-1 遺構外出土土器観察表

第8章 付 表

地点名	図版	写真	整理	部位	施文整形技法
I-V-13	104-70	—	2	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-3	104-71	—	8	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-3	104-72	—	11	口縁部	口唇：ヨコミガキ。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
I-V-22	104-73	—	7	口縁部	口唇：丸い面取。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
II-B-4	104-74	—	1	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-14	104-75	—	7	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-20	104-76	—	2	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-21	104-77	—	2	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-21	104-78	—	4	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
IVa層西ベルト	104-79	—	1	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-19	104-80	—	2	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-21	104-81	—	3	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
I-V-22	104-82	—	6	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-3	104-83	—	9	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-19	104-84	—	4	口縁部	口唇：端部外側刻み。外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-14	104-85	—	4	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
Z	104-86	—	2	口縁部	口唇：刻み。外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-14	104-87	—	7	口縁部	口唇：面取○、刻み。外面：楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-U-14	104-88	—	3	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。
試掘	104-89	21-5	2	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、瘤状突起貼付。
I-V-10	104-90	21-4	21	口縁部	口縁：ゆるい波状口縁。外面：楕円押型文ヨコ。
I-W-16	104-91	—	5-b	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-W-16	104-92	—	5-c	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-W-16	104-93	—	5-d	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-W-16	104-94	—	5-a	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
II-B-6	104-95	—	3	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-3	104-96	—	30	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-8	104-97	—	1	頸部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-13	104-98	—	3	胴部	外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-16	104-99	—	4	胴部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ。内面：上半丁寧なヨコナデ。
I-V-10	104-100	—	46	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-14	104-101	—	10	胴部	外面：刺突文ヨコ。内面：ケズリに近いヨコナデ。
I-V-22	104-102	—	10	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-3	105-103	21-6	9	口縁～底部	口唇：刻み。外面：楕円押型文タテ・ヨコ。
I-V-14	105-104	—	3	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文タテ。内面：上半丁寧なヨコナデ。
I-V-13	105-105	—	6	口縁部	外面：楕円押型文タテ。
I-V-15	105-106	22-1	13-b表	口縁部	口唇：面取△、ミガキに近いナデ。楕円押型文タテ→口唇ナデ。
I-V-15	105-106	22-1	13-b裏	口縁部	楕円押型文ヨコ（上の楕円）←楕円押型文ヨコ（下の楕円）。
I-V-15	105-107	22-2	13-m表	胴部	楕円押型文タテ。
I-V-15	105-107	22-2	13-m裏	胴部	楕円押型文ヨコ、ミガキに近いヨコナデ。
II-B-3	105-108	22-3	10	胴部	外面：楕円押型文タテ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
I-V-15	105-109	22-4	13-a表	口縁部	口唇：面取△、ミガキに近いナデ。楕円押型文タテ→口唇ナデ。
I-V-15	105-109	22-4	13-a裏	口縁部	楕円押型文ヨコ（上の楕円）←楕円押型文ヨコ（下の楕円）。
I-V-15	105-110	22-5	13-c表	口縁部	口唇：面取△、ミガキに近いナデ。楕円押型文タテ→口唇ナデ。
I-V-15	105-110	22-5	13-c裏	口縁部	楕円押型文ヨコ（上の楕円）←楕円押型文ヨコ（下の楕円）。
I-V-15	105-111	22-6	13-d表	口縁部	口唇：面取△、ミガキに近いナデ。楕円押型文タテ→口唇ナデ。
I-V-15	105-111	22-6	13-d裏	口縁部	楕円押型文ヨコ（上の楕円）←楕円押型文ヨコ（下の楕円）。
I-V-15	105-112	22-7	13-e表	口縁部	口唇：面取△、ミガキに近いナデ。楕円押型文タテ→口唇ナデ。
I-V-15	105-112	22-7	13-e裏	口縁部	楕円押型文ヨコ（上の楕円）←楕円押型文ヨコ（下の楕円）。
I-V-15	105-113	22-8	13-g表	口縁部	口唇：面取△、ミガキに近いナデ。楕円押型文タテ→口唇ナデ。
I-V-15	105-113	22-8	13-g裏	口縁部	楕円押型文ヨコ（上の楕円）←楕円押型文ヨコ（下の楕円）。
I-V-15	105-114	22-9	13-f表	口縁部	口唇：面取△、ミガキに近いナデ。楕円押型文タテ→口唇ナデ。
I-V-15	105-114	22-9	13-f裏	口縁部	楕円押型文ヨコ（上の楕円）←楕円押型文ヨコ（下の楕円）。
I-V-15	105-115	22-10	13-h表	胴部	楕円押型文タテ。
I-V-15	105-115	22-10	13-h裏	胴部	楕円押型文ヨコ。
I-V-15	105-116	22-11	13-i表	胴部	楕円押型文タテ。
I-V-15	105-116	22-11	13-i裏	胴部	楕円押型文ヨコ。
I-V-15	105-117	22-12	13-j表	胴部	楕円押型文タテ。
I-V-15	105-117	22-12	13-j裏	胴部	楕円押型文ヨコ。
I-V-15	105-118	22-13	13-k表	胴部	楕円押型文タテ。
I-V-15	105-118	22-13	13-k裏	胴部	楕円押型文ヨコ、ミガキに近いヨコナデ。
I-V-15	105-119	22-14	13-l表	胴部	楕円押型文タテ。
I-V-15	105-119	22-14	13-l裏	胴部	楕円押型文ヨコ、ミガキに近いヨコナデ。
I-V-14	105-120	—	6	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ナナメ。
II-B-2	105-121	—	4	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ナナメ・ヨコ。
I-V-14	105-122	—	11	口縁部	外面：楕円押型文ナナメ。
I-V-9	105-123	22-15	3	口縁部	外面：楕円押型文上からナナメ→ナナメ→ヨコ。

表11-2 遺構外出土土器観察表

地点名	図版	写真	整理	部位	施文整形技法
II-B-5	105-124	—	1-a~b	口縁部	外面：楕円押型文タテ。
I-V-11	105-125	—	5	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ←タテ。
I-V-10	105-126	—	31	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
I-W-6	105-127	—	2	口縁部	口唇：面取○。外面：瘤状突起貼付→楕円押型文ヨコ・タテ。
I-W-11	105-128	—	5	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ→タテ。
I-W-11	105-129	22-18	6	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文タテ・ヨコ。
I-W-11	105-130	—	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ←タテ。
I-V-9	105-131	—	15	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
I-V-24	105-132	22-19	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ←タテ。
I-V-15	105-133	—	8	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ←ナナメ。
I-V-16	105-134	—	6	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ←ナナメ。
I-V-8	105-135	—	11	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコか・タテか。
I-V-15	105-136	—	9	口縁部	口唇：面取○、ナナメ。外面：楕円押型文ヨコ←ナナメ。
I-V-10	105-137	—	45	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-U-20	105-138	—	4	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
I-V-11	105-139	—	3	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ。
II-B-6	105-140	22-17	4-a~d	口縁~胴部	外面：楕円押型文ヨコ←ナナメ。
I-U-10	105-141	22-16	3-a~b	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
I-V-9	106-142	—	4	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
I-V-4	106-143	—	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
I-V-3	106-144	23-1	36-a~h	口縁~胴部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
I-V-13	106-145	—	5	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。
I-V-10	106-146	—	27	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ→タテ。
I-V-9	106-147	—	8	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-16	106-148	—	5	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
I-V-16	106-149	—	7	口縁部	口唇：口唇の内側面取△。外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
I-V-15	106-150	—	6	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。
I-U-13	106-151	—	1	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。
I-U-25	106-152	—	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。内面：口縁部から内面ミガキに近いナデ。
I-V-14	106-153	—	13	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ→ナナメ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-24	106-154	—	4	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ・ナナメ→タテ。
I-V-6	106-155	—	2	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。
I-V-15	106-156	—	5	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
I-V-5	106-157	—	10	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。
I-V-16	106-158	—	3	胴部	外面：楕円押型文ナナメ。
I-V-23	106-159	23-2	14-a~c.e.f	口縁部~胴	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。内面：丁寧なヨコナデ。
I-W-6	106-160	23-3	5-a	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-10	106-161	23-4	30-a~c	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
I-W-6	106-162	—	1	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
I-V-10	106-163	—	28	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
I-V-20	106-164	—	4	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
II-B-3	106-165	—	12-a	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
I-V-20	106-166	—	7-a~b	口縁~胴部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
I-V-4	107-167	24-1	7	口縁~底部	口唇：面取○。外面：口縁：楕円押型文ヨコ→頸：ヨコナデ→刺突文←胴~底：楕円押型文ヨコ→回転擦痕。
I-V-20	108-168	—	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
II-B-3	108-169	—	12-b	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
I-V-23	108-170	—	10	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
I-V-14	108-171	—	12	頸部	外面：刺突文ヨコ、刺突文。内面：上部ミガキに近いナデ。
I-V-14	108-172	—	9	胴部	外面：刺突文、楕円押型文ヨコ。
I-W-16	108-173	—	6	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。刺突文。
I-V-4	108-174	24-2	4-a~b	口縁~胴部	外面：口縁：楕円押型文ヨコ→頸：平行沈線文←胴：楕円押型文ヨコ。
I-V-4	108-175	—	4-e	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-23	108-176	—	9	頸部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
I-V-14	108-177	—	2	頸部	外面：楕円押型文ナナメ、刺突文。
I-V-15	108-178	—	4	頸部	外面：刺突文、楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-14	108-179	—	5	頸部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。内面：ケズリに近いナデ。
I-W-16	108-180	—	4	胴部	外面：刺突文、楕円押型文ヨコ。
トレンチ	108-181	—	1	頸部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
I-V-3	108-182	—	16	頸部	外面：楕円押型文ヨコ、刺突文。
II-B-12	108-183	—	2	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
I-V-5	108-184	—	2	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ。
II-C-11	108-185	—	1	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-19	108-186	—	3	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-18	108-187	—	4	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-10	108-188	—	29	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-8	108-189	—	9	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。

表11-3 遺構外出土土器観察表

第8章 付 表

地点名	図版	写真	整理	部位	施文整形技法
II-B-6	108-190	—	2	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
I-V-17	108-191	—	2	胴部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-10	108-192	—	19	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ。
I-W-11	108-193	—	14	底部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-25	108-194	—	2	底部	外面：楕円押型文ヨコ。
II-A-3	108-195	—	3	底部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-U-15	108-196	—	5	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ→タテ。内面：丁寧なナデ。
試掘	108-197	—	8	底部	外面：楕円押型文ヨコ。
I-V-10	109-198	23-2	20	胴～底部	外面：楕円押型文ヨコ→回転擦痕。内面：外面の回転擦痕部分の内側回転圧痕。
I-U-15	109-199	23-1	6-a～b	胴部	外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
I-V-3	109-200	—	7	底部付近	外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
I-V-9	109-201	—	9	底部	外面：楕円押型文タテ。
I-V-10	109-202	23-3	25	底部	外面：楕円押型文タテ。
I-V-10	109-203	—	24	底部	外面：楕円押型文タテ。
II-B-10	109-204	—	2	底部	外面：楕円押型文タテ。内面：丁寧なナデ。
I-V-6	109-205	—	1	底部	外面：楕円押型文タテ。
I-V-8	109-206	—	2	底部	外面：楕円押型文タテ。
I-V-14	109-207	—	8	底部	外面：楕円押型文ナナメ。内面：丁寧なナデ。
II-B-2	109-208	—	7	底部	外面：楕円押型文タテ。
II-B-2	109-209	23-4	6	底部	外面：楕円押型文タテ。
I-V-24	109-210	—	5	底部	外面：楕円押型文タテ。
II-B-2	109-211	—	5	底部	外面：楕円押型文ヨコ・タテ。
山形押型文（第110～114図・写真図版25～28）					
I-V-10	110-1	25-1	1	口縁～胴部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。内面：口縁丁寧なヨコナデ。
I-V-22	110-2	—	4	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-3	110-3	—	3-a	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
I-V-9	110-4	—	16-a～b	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。内面：上半丁寧なヨコナデ。
I-V-24	110-5	—	1	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
I-W-6	110-6	25-2	6	口縁～胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-23	110-7	26-1	3	口縁～胴部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
I-V-18	110-8	25-3	5	口縁～胴部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
II-B-2	110-9	—	1	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
I-V-10	110-10	—	7	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
I-V-18	110-11	—	2	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
I-V-18	110-12	—	3	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
II-B-2	110-13	—	13	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
I-V-23	110-14	—	5	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-22	110-15	—	3	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-11	110-16	—	2-a～c	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-22	110-17	—	5	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
I-V-22	110-18	—	1	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
I-W-11	110-19	—	2	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
Z	110-20	—	1	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
II-B-3	110-21	—	5	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
I-U-15	110-22	—	2-a	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
I-U-15	110-23	—	2-b	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
I-U-15	110-24	—	2-c	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
I-U-15	110-25	—	2-d	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
I-V-9	111-26	—	17-a～b	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-10	111-27	—	9	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-15	111-28	—	2	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-3	111-29	—	3-b	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-3	111-30	—	3-c	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
II-B-9	111-31	—	1-b	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
II-B-9	111-32	—	1-a	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
II-D-7	111-33	—	1	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-W-16	111-34	—	2	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-U-25	111-35	—	1	口縁部	外面：山形押型文ナナメ。
I-V-10	111-36	—	3-a	口縁部	外面：山形押型文ナナメ・ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-W-16	111-37	26-3	1	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-3	111-38	—	5	口縁部	外面：山形押型文ナナメ。
I-V-3	111-39	26-4	4	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ・タテ。
I-V-22	111-40	26-5	2	口縁部	外面：山形押型文ヨコ→タテ。内面：上半丁寧なヨコナデ。
I-V-10	111-41	—	3-c	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-10	111-42	—	3-b	口縁部	外面：山形押型文ナナメ。
I-V-10	111-43	26-2	6	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ→ナナメ。

表11-4 遺構外出土土器観察表

地点名	図版	写真	整理	部位	施文整形技法
II-B-12	111-44	—	1	口縁部	外面：山形押型文ヨコ→ナナメ。内面：丁寧なナデ。
試掘	111-45	—	5	頸部	外面：山形押型文ヨコ←タテ。
I-V-10	111-46	26-11	12-b	口縁部	外面：山形押型文ヨコ←瘤状突起貼付。
I-V-14	111-47	26-9	22	口縁部	外面：山形押型文ヨコ←瘤状突起貼付。
I-V-10	111-48	26-8	12-a	口縁部	外面：山形押型文ヨコ←瘤状突起貼付。
I-V-13	111-49	26-10	13	口縁部	外面：山形押型文ヨコ←瘤状突起貼付。
I-V-10	111-50	26-11	12-c	口縁部	外面：山形押型文ヨコ←瘤状突起貼付。
I-V-3	111-51	26-12	1-a~c	口縁~胴部	口唇：面取△。口縁：垂下する隆帯貼付。外面：山形押型文ヨコ・ナナメ。
I-V-23	111-52	26-7	2-a	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
I-V-10	111-53	26-6	10-a~b	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。内面：上半ミガキに近いナデ。
II-B-2	111-54	—	3	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
I-V-10	111-55	—	5	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
II-B-3	111-56	—	3	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
II-B-6	111-57	—	1	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ。
I-V-16	111-58	—	2	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-23	111-59	—	4	頸部	外面：山形押型文ヨコ。
II-B-3	111-60	—	2	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
II-B-8	111-61	—	1	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-10	111-62	—	42	胴部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-23	111-63	—	1	頸部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-18	111-64	—	1	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
I-V-23	112-65	27-2	7	口縁	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ→タテ、刺突文。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-9	112-66	27-1	1-a	口縁~胴部	口唇：面取○。口縁：山形押型文ヨコ→頸：山形押型文タテ←胴：山形押型文ヨコ。
I-V-9	112-67	27-1	1-b	底部	外面：山形押型文ヨコ・タテ→回転擦痕。
I-V-10	112-68	—	11-a	口縁部	外面：山形押型文ヨコ→タテ、刺突文。
I-V-10	112-69	—	11-b	口縁部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
I-V-10	112-70	—	11-c	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
I-V-10	112-71	—	8	胴部	外面：山形押型文ヨコ→タテ。
I-V-10	112-72	27-6	41	口縁~胴部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
I-V-4	112-73	27-5	1-a	口縁~胴部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ、刺突文。内面：丁寧なナデ。
I-V-10	112-74	28-4	17-a~e	口縁~胴部	口唇：面取△。外面：山形押型文ヨコ、刺突文。内面：上部丁寧なヨコナデ。
I-V-3	112-75	27-7	2-a~b	口縁部	口唇：面取△、刻み。外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
II-B-2	112-76	27-3	2	口縁部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
I-V-10	112-77	27-4	4-a	口縁部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
I-V-4	113-78	28-6	2-a~b	口縁~胴部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
I-U-13	113-79	—	7-a~b	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。平行沈線文。内面：丁寧なナデ。
I-V-10	113-80	28-11	2-a~d	口縁~胴部	外面：口縁：山形押型文ヨコ→頸：刺突文・タテ、沈線文←胴：山形押型文ヨコ
I-V-23	113-81	28-8	20	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
II-B-14	113-82	—	6	頸部	外面：刺突文、山形押型文ヨコ。
I-V-23	113-83	—	6	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
II-B-9	113-84	—	2	頸部	外面：沈線文、刺突文←山形押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
II-B-14	113-85	—	5	頸部	外面：刺突文、山形押型文ヨコ。
I-V-11	113-86	28-3	1	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。内面：丁寧なナデ。
I-U-15	113-87	28-2	1	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-14	113-88	28-5	1	頸部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。内面：上半丁寧なヨコナデ。
I-V-10	113-89	—	4-b	口縁部	外面：山形押型文ヨコ、刺突文。
I-W-11	113-90	28-7	1	口縁部	口唇：面取△。外面：山形押型文ナナメ、刺突文。
I-V-5	113-91	28-1	1-a~c	口縁部	外面：山形押型文ヨコ、平行沈線文。内面：丁寧なヨコナデ。
II-B-13	113-92	—	1	頸部	外面：沈線文、刺突文、山形押型文。
I-V-21	113-93	—	1-a~b	頸部	外面：山形押型文ナナメ、細沈線文。
I-V-10	113-94	28-9	35	頸部	外面：山形押型文ヨコ、沈線文。
II-B-3	113-95	28-10	1	頸部	外面：山形押型文ヨコ、細沈線文。
I-V-10	113-96	—	15	頸部	外面：山形押型文ヨコ、格子状斜行沈線文。
I-V-20	113-97	—	1-a	底部付近	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-20	113-98	—	1-b	底部付近	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-15	113-99	23-8	1	底部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-10	113-100	—	18	底部	外面：山形押型文タテ。
I-V-10	113-101	23-10	16	胴~底部	外面：山形押型文ヨコ。
I-V-10	113-102	—	13	底部	外面：山形押型文タテ。
I-V-10	113-103	23-7	14	底部	外面：山形押型文ナナメ。
I-V-9	113-104	—	2	底部	外面：山形押型文タテ。
I-V-21	114-105	28-21	9	口縁部	外面：山形押型文ヨコ。
II-A-10	114-106	28-13	2	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。
II-B-19	114-107	—	1	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。

表11-5 遺構外出土器観察表

第8章 付 表

地点名	図版	写真	整理	部位	施文整形技法
II-B-3	114-108	—	4	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。
II-B-14	114-109	—	1	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
I-U-25	114-110	—	5	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。
II-B-7	114-111	—	1	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ。
I-U-20	114-112	—	16	口縁部	口唇：面取◎。外面：山形押型文ヨコ。内面：口唇部と内面ミガキに近いナデ。
トレンチ	114-113	28-15	2	胴部	外面：山形押型文タテ→ヨコ。
I-V-23	114-114	—	15	胴部	外面：山形押型文タテ。
II-B-14	114-115	—	3	胴部	外面：山形押型文タテ。
II-A-10	114-116	28-14	1	胴部	外面：山形押型文ヨコ→タテ。
II-B-19	114-117	—	2	胴部	外面：山形押型文ヨコ・タテ。
I-V-21	114-118	—	8	胴部	外面：山形押型文タテ。
I-V-23	114-119	—	16	胴部	外面：山形押型文タテ。
II-B-14	114-120	—	4	頸部	外面：山形押型文ヨコ。
II-B-14	114-121	—	2	頸部	外面：山形押型文ヨコ。
I-U-25	114-122	—	6	頸部	外面：山形押型文ヨコ。
格子目押型文 (第115図・写真図版29)					
I-V-3	115-1	29-1	32	口縁部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-W-11	115-2	29-3	7	口縁部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-3	115-3	29-2	33	口縁部	外面：格子目押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
I-V-9	115-4	29-4	10	口縁部	外面：格子目押型文。
I-V-14	115-5	—	14	口縁部	口唇：面取△。外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-19	115-6	—	5	口縁部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-14	115-7	—	24	口縁部	口唇：面取○。外面：格子目押型文ナナメ。
I-V-14	115-8	—	25	口縁部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-13	115-9	—	7	口縁部	口唇：面取○。外面：格子目押型文ヨコ。
II-B-3	115-10	—	23-a	口縁部	外面：格子目押型文ヨコ。
II-B-3	115-11	—	23-c	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
II-B-3	115-12	—	23-b	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-10	115-13	—	32	口縁部	口唇：面取◎。外面：格子目押型文ヨコ→タテ。
I-W-11	115-14	—	10	頸部	外面：格子目押型文ヨコ、刺突文。
I-V-3	115-15	—	18-b	胴部	外面：格子目押型文ヨコ・ナナメ。
I-V-19	115-16	—	8	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-8	115-17	—	8	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-3	115-18	—	17-a	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-3	115-19	—	17-b	頸部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-13	115-20	—	14	胴部	外面：格子目押型ヨコ。
I-V-3	115-21	—	18-a	胴部	外面：格子目押型文ヨコ・ナナメ。
I-V-8	115-22	—	12	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-17	115-23	—	3	胴部	外面：格子目押型文タテ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-24	115-24	—	6	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-3	115-25	—	18-c	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-24	115-26	—	7	底部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-W-11	115-27	—	9	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-18	115-28	—	7	胴部	外面：格子目押型文タテ。
I-W-21	115-29	—	2	底部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-V-2	115-30	—	1	底部	外面：格子目押型文ヨコ。
I-W-21	115-31	—	1	底部	外面：格子目押型文ヨコ。
II-A-5	115-32	29-5	1	口縁部	外面：格子目押型文。
I-U-24	115-33	29-6	1	胴部	外面：格子目押型文。
I-W-11	115-34	29-7	8	胴部	外面：格子目押型文ヨコ。内面：丁寧なナデ。
矢羽状押型文 (第115図・写真図版29)					
I-V-11	115-35	29-8	8	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
II-B-14	115-36	—	8-b	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
II-B-14	115-37	29-9	8-a	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
II-A-5	115-38	—	6	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
II-A-5	115-39	—	2-b	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
II-A-5	115-40	—	2-c	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ。
柵状押型文 (第116図・写真図版29・32)					
I-W-23	116-1	—	1	口縁部	外面：柵状押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-U-20	116-2	—	15	口縁部	口唇：面取○、ミガキ。外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-3	29-10	28-b	口縁部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-4	29-10	28-a	口縁部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-5	29-10	28-c	口縁部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-6	—	28-d	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-7	—	28-f	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-8	29-10	28-e	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-9	—	28-h	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-10	—	28-i	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-11	—	28-g	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-12	—	28-j	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-13	—	28-k	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。

表11-6 遺構外出土器観察表

地点名	図版	写真	整理	部位	施文整形技法
I-V-3	116-14	—	28-l	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-15	—	28-m	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-24	116-16	—	8	胴部	外面：柵状押型文ヨコ。
II-B-6	116-17	—	5	底部	外面：柵状押型文ヨコ。
I-V-3	116-18	32-5	19	底部	外面：柵状押型文タテ・ナナメ。
I-V-14	116-19	32-6	20	底部	外面：柵状押型文ヨコ・タテ。
その他の押型文（第116図・写真図版29）					
I-V-23	116-20	29-11	11	口縁部	口唇：面取△。外面：細密な押型文。
II-B-2	116-21	29-13	9	口縁部	口唇：面取△。外面：細密な押型文ヨコ。
I-V-22	116-22	29-12	11	口縁部	口唇：面取○。外面：細密な押型文。
I-V-13	116-23	—	15	胴部	外面：細密な押型文ヨコ。
I-U-10	116-24	—	2	胴部	外面：細密な押型文。
I-V-14	116-25	—	26	胴部	外面：細密な押型文ヨコ。
II-B-2	116-26	29-15	10	底部付近	外面：細密な押型文ヨコ。
I-U-15	116-27	29-16	9	胴部	外面：細密な押型文ヨコ。
I-V-11	116-28	29-19	7	胴部	外面：矢羽状押型文タテ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-U-19	116-29	29-17	1	胴部	外面：細密な押型文。
I-V-22	116-30	29-18	12	胴部	外面：細密な押型文。
I-V-14	116-31	29-14	27	口縁部	外面：細密な押型文ナナメ。
試掘	116-32	—	1	口縁部	外面：山形か楕円か押型文。
異種併用押型文（第117～119図・写真図版30～31）					
I-V-3	117-1	30-2	20-a～c	口縁～胴部	外面：刺突文←楕円押型文ヨコ←山形押型文ヨコ。
I-V-15	117-2	29-21	3	口縁部	外面：山形押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
I-V-19	117-3	29-20	6	口縁部	口唇：面取○。外面：山形押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。
I-V-5	117-4	—	4	胴部	外面：山形押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
I-V-25	117-5	29-22	2	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、山形押型文ヨコ、刺突文。内面：上部丁寧なヨコナデ、ケズリに近いヨコナデ。
I-V-10	117-6	—	33-a～b	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ、山形押型文ヨコ。
II-A-3	117-7	29-23	1	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、山形押型文ヨコ。
I-V-14	117-8	29-25	28	胴部	外面：楕円押型文ヨコ←山形押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-21	117-9	29-24	6-a	胴部	外面：山形押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。
I-V-21	117-10	—	6-b	胴部	外面：山形押型文ヨコ。楕円押型文。
I-V-5	117-11	32-9	5	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、山形押型文ヨコ。
II-B-3	117-12	—	13	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、山形押型文ヨコ。
II-B-3	117-13	—	14	胴部	外面：山形押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。
I-V-15	117-14	29-27	11	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→山形押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
II-B-3	117-15	29-26	20	胴部	外面：山形押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。
II-B-3	117-16	—	21	胴部	外面：山形押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。
I-V-9	117-17	30-1	14-a～b	口縁～胴部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文←楕円押型文ヨコ。内面：上部ミガキに近いヨコナデ、下部丁寧なヨコナデ。
I-W-6	118-18	—	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
I-W-21	118-19	—	3	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ。内面：タテミガキ。
I-V-10	118-20	30-3	37-a～d	口縁～胴部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-11	118-21	30-7	12	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ。内面：上部ミガキに近いヨコナデ。下部丁寧なヨコナデ。
I-U-20	118-22	—	11	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文、山形押型文か。内面：口唇部と上部丁寧なヨコナデ。
I-U-15	118-23	30-9	10	胴部	外面：細密な押型文ヨコ←楕円押型文。
I-V-9	118-24	—	13-a	胴部	外面：細密な押型文、楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-9	118-25	—	13-b	胴部	外面：細密な押型文、楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-9	118-26	—	13-c	胴部	外面：細密な押型文、楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-4	118-27	30-8	5	胴部	外面：細密な押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。
I-V-21	118-28	30-10	5	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
I-V-3	118-29	30-4	22-a	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ナナメ。
I-V-3	118-30	—	22-b	口縁部	口唇：面取○。外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ナナメ。
I-V-8	118-31	—	5	口縁部	口唇：面取○。外面：細密な押型文、楕円押型文タテ。
II-B-3	118-32	—	19	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ→楕円押型文ナナメ。
I-V-14	118-33	30-6	21	口縁～胴部	外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文←楕円押型文ヨコ。
I-V-10	118-34	—	34	口縁部	口唇：面取△。外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
II-B-9	118-35	—	3	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ。
I-V-25	118-36	—	3	胴部	外面：楕円押型文ヨコ←細密な押型文ヨコ。
I-W-10	118-37	—	1	胴部	外面：楕円押型文ヨコ←細密な押型文ヨコ。
I-V-10	118-38	—	36-c	胴部	外面：細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-10	118-39	—	36-a	胴部	外面：細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-10	118-40	—	36-d	胴部	外面：細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-11	118-41	—	11	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ。内面：ミガキに近いヨコナデ。

表11-7 遺構外出土土器観察表

第8章 付 表

地点名	図版	写真	整理	部位	施文整形技法
I-V-10	118-42	—	36-b	胴部	外面：細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-V-16	118-43	—	8	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ。
II-B-3	118-44	—	16	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ。
II-B-3	118-45	—	15	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ→楕円押型文ナナメ。
II-B-3	118-46	—	18	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ→楕円押型文ナナメ。
II-B-3	118-47	30-5	17	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文ヨコ→楕円押型文ナナメ。
I-V-9	118-48	31-1	11-a~c	口縁~胴部	口唇：面取○。外面：楕円押型文→細密な押型文←楕円押型文。
I-V-10	118-49	31-2	38-b	口縁~胴部	口唇：面取○、ミガキ。外面：細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ→細密な押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-10	118-50	31-2	38-d	口縁部	口唇：面取○、ミガキ。外面：細密な押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-10	118-51	31-2	38-e	胴部	外面：細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-10	118-52	31-2	38-a	口縁~胴部	口唇：面取○、ミガキ。外面：細密な押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-10	118-53	—	38-c	口縁部	口唇：面取○、ミガキ。外面：細密な押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-10	118-54	—	44	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、細密な押型文。内面：ミガキに近いナデ。
II-B-1	119-55	31-3	1	口縁部	外面：楕円押型文ヨコ→格子目押型文ヨコ。
II-A-5	119-56	—	3	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→格子目押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
I-V-14	119-57	—	15	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→格子目押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
I-V-3	119-58	—	21	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、格子目押型文ヨコ。
I-W-11	119-59	—	11	胴部	外面：格子目押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
Z	119-60	31-4	3	口縁部	口唇：面取◎。外面：楕円押型文ヨコ→柵状押型文ヨコ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
I-V-13	119-61	31-5	16	口縁部	外面：柵状押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。内面：上部丁寧なヨコナデ。
I-V-13	119-62	31-7	12	胴部	外面：柵状押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。
II-C-6	119-63	—	1	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、柵状押型文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-19	119-64	—	7	胴部	外面：柵状押型文ヨコ、楕円押型文ヨコ。
I-V-13	119-65	31-6	8-a	胴部	外面：柵状押型文ヨコ←楕円押型文タテ。
I-V-13	119-66	—	8-b	胴部	外面：柵状押型文ヨコ←楕円押型文タテ。
II-C-19	119-67	—	1	胴部	外面：平行押型文、楕円押型文ヨコ。
Z	119-68	—	4	胴部	外面：平行押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
Z	119-69	31-8	5	胴部	外面：平行押型文ヨコ←楕円押型文ヨコ。
I-U-13	119-70	31-9	2	胴部	外面：楕円押型文ヨコ→斜行沈線文←平行押型文。
I-V-11	119-71	—	9	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ、山形押型文ヨコ。
I-V-11	119-72	—	10	胴部	外面：矢羽状押型文ヨコ、山形押型文ヨコ。
試掘	119-73	31-10	3	頸部	外面：矢羽状押型文ナナメ、山形押型文ナナメ、刺突文。
II-B-8	119-74	31-11	2-a~c	胴部	外面：山形押型文ヨコ。平行押型文ヨコ。
I-V-21	119-75	—	7-a~b	胴部	外面：楕円押型文ヨコ、縄文RLヨコ。
I-V-16	119-76	31-12	7	底部付近	外面：縄文Rナナメ、楕円押型文。
縄文（第120~121図・写真図版33）					
I-V-23	120-1	24-1	13	口縁~底部	口唇：面取△。口縁：縄文LRナナメ→斜行沈線文。胴：縄文LRヨコ。底：縄文LRナナメ。
I-V-5	120-2	24-3	7	口縁~胴部	外面：縄文LRヨコ、刺突文。
I-U-20	120-3	24-5	14	ほぼ完形	外面：縄文RLヨコ。
I-V-3	120-4	—	25	口縁部	外面：縄文RLヨコ。
I-V-3	120-5	24-7	26	口縁部	外面：縄文LRヨコ。
I-U-9	120-6	24-4	1	口縁~胴部	外面：縄文LRヨコ。
I-W-6	120-7	24-6	4-a~b	口縁部	口唇：面取△。外面：縄文Rヨコ。
I-U-15	120-8	—	11	口縁部	口唇：面取○。外面：縄文RLヨコ。
I-U-14	120-9	—	4	口縁部	外面：縄文LRヨコ。
I-V-14	120-10	—	29	口縁	口唇：面取△。外面：縄文RLヨコ。
I-V-17	120-11	—	4	口縁部	口唇：面取◎。外面：縄文RLヨコ。内面：丁寧なヨコナデ。
I-U-19	120-12	—	2	口縁部	口唇：面取○。外面：縄文LRヨコ。
I-V-20	120-13	—	6	口縁部	外面：縄文RLヨコ・タテ。
I-V-3	120-14	—	27	口縁部	口唇：面取△。外面：縄文LRヨコ。
I-U-14	120-15	—	5	口縁部	外面：縄文LR・RLヨコ。
I-V-22	120-16	—	14	口縁部	外面：縄文RLヨコ。
I-V-14	120-17	—	17	口縁部	外面：縄文LRヨコ←瘤状突起貼付。
I-V-18	120-18	—	6	口縁部	外面：縄文Rヨコ。
I-V-23	120-19	—	17	口縁部	口唇：面取○。外面：縄文Rヨコ。内面：丁寧なナデ、光沢あり。
I-V-3	120-20	—	34	口縁部	口唇：面取○、ミガキ。外面：縄文RLヨコ。
I-V-22	120-21	—	15	胴部	外面：縄文RLヨコ。
II-A-3	120-22	—	2-a	胴部	外面：縄文LRヨコ。
I-V-4	120-23	—	6	胴部	外面：縄文LRヨコ。
II-A-3	120-24	—	2-b	胴部	外面：縄文LRヨコ。
I-V-23	120-25	—	18	胴部	外面：縄文RLヨコ。
I-V-3	121-26	—	24-a	胴部	外面：縄文LRヨコ。

表11-8 遺構外出土土器観察表

地点名	図版	写真	整理	部位	施文整形技法
I-V-3	121-27	—	24-b	胴部	外面：縄文LRヨコ。
I-V-21	121-28	—	11	胴部	外面：縄文Lヨコ→タテ。
I-V-21	121-29	—	10	胴部	外面：縄文RLヨコ。
I-V-7	121-30	—	1	胴部	外面：縄文LRヨコ。
I-V-19	121-31	—	9	底部付近	外面：縄文LRヨコ・タテ。
II-C-12	121-32	24-10	3	胴部	外面：縄文RL(か)ナナメ。内面：縄文RLヨコ。
II-B-4	121-33	24-8	4	胴部	外面：縄文LRヨコかタテ。
I-V-17	121-34	24-9	5	胴部	外面：縄巻縄文。
I-V-5	121-35	24-2	9-a~b	胴～底部付近	外面：縄文LRヨコ。
I-V-23	121-36	24-11	19	底部	外面：縄文LRナナメかヨコ。
撚糸文(第121図・写真図版34)					
II-A-5	121-37	34-2	4	口縁部	口唇：ミガキ。外面：撚糸文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
I-V-5	121-38	34-3	6	口縁部	外面：撚糸文Rヨコ。
II-A-5	121-39	—	5-a	口縁部	口唇：ミガキ。外面：撚糸文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
II-A-5	121-40	—	5-b	口縁部	口唇：ミガキ。外面：撚糸文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
II-A-5	121-41	34-1	5-c	口縁部	口唇：ミガキ。外面：撚糸文ヨコ。内面：ミガキに近いナデ。
II-B-1	121-42	34-4	2	口縁部	外面：撚糸文R。
Z	121-43	—	7	口縁部	外面：撚糸文Rヨコ。
II-B-2	121-44	34-5	11	口縁部	口唇：面取△。外面：撚糸文L(か)ヨコ。
II-B-12	121-45	—	3	胴部	外面：撚糸文R(か)ヨコ。
II-B-13	121-46	—	3	胴部	外面：撚糸文R(か)ヨコ。
II-B-8	121-47	—	3	胴部	外面：撚糸文l(か)ヨコ。
I-W-16	121-48	34-6	9-a	口縁部	口唇：面取○。外面：網目状撚糸文ヨコ。
I-W-16	121-49	—	9-b	口縁部	口唇：面取△。外面：網目状撚糸文ヨコ。
I-V-13	121-50	34-7	10	口縁部	外面：網目状(か)撚糸文l。
試掘	121-51	—	4	口縁部	口唇：面取○。外面：網目状撚糸文ヨコ。
I-W-16	121-52	—	10-a	胴部	外面：木目状撚糸文ヨコ。
I-W-16	121-53	—	10-b	胴部	外面：木目状撚糸文ヨコ。
I-W-16	121-54	—	10-c	胴部	外面：木目状撚糸文ナナメ。
I-W-16	121-55	—	10-d	胴部	外面：木目状撚糸文ナナメ。
I-V-14	121-56	—	18	胴部	外面：撚糸文Lヨコ。
I-U-20	121-57	—	13	胴部	外面：撚糸文Lヨコ→ナナメ。
II-B-13	121-58	—	2	口縁部	外面：撚糸文Lヨコ←タテ。内面：丁寧なヨコナデ。
II-B-13	121-59	—	4	口縁部	外面：撚糸文Lヨコ←タテ。
II-B-3	121-60	34-8	22-a~b	口縁部	口唇：面取◎。外面：撚糸文Rヨコ←タテ。内面：ミガキに近いヨコナデ。
I-W-1	121-61	—	1	胴部	外面：撚糸文ヨコ・タテ。
I-V-6	121-62	34-11	4	口縁部	外面：撚糸文Lか条痕文、瘤状突起貼付。
II-B-6	121-63	34-10	8	口縁部	口唇：刻み。外面：撚糸文Rタテ。
II-B-6	121-64	—	9	胴部	外面：撚糸文Rタテ。
I-V-8	121-65	34-9	10-a~b	口縁～胴部	口唇：面取◎。口縁：ゆるい波状口縁。外面：撚糸文Rタテ。
I-V-8	121-66	—	10-c	口縁付近	外面：撚糸文Rタテ。
I-V-8	121-67	—	10-d	胴部	外面：撚糸文Rタテ。内面：ヨコケズリ。
I-V-3	121-68	34-12	29-a	胴部	外面：撚糸文Rタテ・ヨコ。
I-V-3	121-69	—	29-b	胴部	外面：撚糸文Rタテ。
沈線文(第122図・写真図版34・35)					
I-W-16	122-1	13	11-a	口縁部	口唇：面取○。外面：刺突文→沈線文。内面：丁寧なナデ、光沢あり。
I-W-16	122-2	—	11-b	頸部	外面：刺突文→沈線文。内面：丁寧なナデ、光沢あり。
I-W-16	122-3	—	11-c	頸部	外面：刺突文→沈線文。内面：丁寧なヨコナデ。
I-W-16	122-4	—	11-d	頸部	外面：刺突文→沈線文。内面：丁寧なヨコナデ。
I-W-16	122-5	—	11-e	頸部	外面：刺突文→沈線文。内面：丁寧なヨコナデ。
I-W-16	122-6	14	11-f	胴部	外面：刺突文→沈線文。
I-W-16	122-7	—	11-g	胴部	外面：刺突文→沈線文。内面：丁寧なヨコナデ。
I-W-16	122-8	—	11-h	胴部	外面：刺突文→沈線文。
I-U-19	122-9	15	4-b	口縁～胴部	口唇：刻目あり。外面：連続刺突ナナメ→沈線文。
I-V-23	122-10	18	12	口縁部	口唇：刻み。外面：沈線文、刺突文。内面：丁寧なヨコナデ。
I-U-19	122-11	—	4-a	胴部	外面：連続刺突ナナメ→沈線文。
I-U-19	122-12	—	4-e	胴部	外面：連続刺突ナナメ→沈線文。
I-U-19	122-13	—	4-d	胴部	外面：連続刺突ナナメ→沈線文。内面：丁寧なヨコナデ。
I-U-19	122-14	—	4-c	胴部	外面：連続刺突ナナメ→沈線文。
I-V-5	122-15	6	8-a~b	口縁部	口唇：面取◎。外面：沈線文、刺突文。内面：ミガキに近いヨコナデ。
I-V-10	122-16	17	43	口縁部	口唇：面取◎。外面：沈線文、刺突文。
I-V-25	122-17	—	4	胴部	外面：沈線文、刺突文。内面：ミガキに近いナデ。
II-C-24	122-18	—	1	胴部	外面：沈線文、刺突文。
II-D-7	122-19	—	2	胴部	外面：沈線文、刺突文。
試掘	122-20	1	6-a~b	口縁～胴部	外面：縄文RLヨコ→沈線文。
I-V-8	122-21	2	7-a~b	口縁～胴部	口唇：刻み。外面：沈線文。
II-B-7	122-22	3	3	口縁部	外面：沈線文、爪形文。
II-B-4	122-23	1	5	胴部	外面：沈線文、爪形文。

表11-9 遺構外出土器観察表

第8章 付 表

地点名	図版	写真	整理	部位	施文整形技法
II-B-14	122-24	13	9	胴部	外面：沈線文、刺突文、爪形文。内面：丁寧なヨコナデ。
II-B-6	122-25	12	7	胴部	外面：沈線文→刺突文、爪形文。
II-A-4	122-26	4	1	口縁部	外面：沈線文、刺突文。
I-V-14	122-27	—	30	胴部	外面：沈線文→連続刺突文。
II-B-9	122-28	18	4	胴部	外面：沈線文、刺突文。
I-U-8	122-29	15	1	胴部	外面：沈線文、刺突文。
I-V-22	122-30	16	13	胴部	外面：沈線文。
II-C-12	122-31	—	2-b	胴部	外面：沈線文、刺突文。
II-C-12	122-32	—	2-c	胴部	外面：沈線文、刺突文。
II-C-12	122-33	—	2-a	胴部	外面：沈線文、刺突文。
II-B-8	122-34	19	5	胴部	外面：沈線文、刺突文。
II-B-1	122-35	7	3	胴部	外面：沈線文、刺突文。
I-W-17	122-36	14	1	胴部	外面：沈線文。
I-V-20	122-37	5	5	口縁部	口唇：面取◎、ミガキ。外面：沈線文。内面：ヨコミガキ。
II-C-24	122-38	6	2	口縁部	外面：沈線文。
II-B-8	122-39	7	4	口縁部	口唇：面取○。外面：沈線文。
II-B-7	122-40	20	4	胴部	外面：沈線文。
I-U-18	122-41	21	1	胴部	外面：沈線文。
II-B-6	122-42	22	6	胴部	外面：沈線文。
I-V-10	122-43	8	39-a~c	口縁~胴部	口唇：刻み。外面：沈線文。
I-V-3	122-44	—	31	口縁部	口唇：刻み。外面：沈線文。
I-V-3	122-45	9	23	口縁部	口唇：刻み。外面：沈線文。
II-B-10	122-46	—	3	口縁部	外面：沈線文ヨコ→タテ。
I-U-20	122-47	10	12	口縁部	口縁：波状口縁。外面：沈線文。
I-V-13	122-48	—	9	口縁部	外面：細沈線文。
I-V-13	122-49	—	11	口縁部	外面：細沈線文。
I-W-11	122-50	—	13-d	口縁部	外面：細沈線文。
I-W-11	122-51	—	13-b	口縁部	外面：細沈線文。
I-W-11	122-52	—	13-a	胴部	外面：細沈線文。
I-W-11	122-53	—	13-c	胴部	外面：細沈線文。
II-B-5	122-54	—	2	胴部	外面：斜格子沈線文。
I-V-6	122-55	—	3	胴部	外面：沈線文。
I-V-3	122-56	—	35	胴部	外面：沈線文。
条痕文（第123図）					
I-V-11	123-1	—	13	口縁部	外面：ゆるい波状口縁。外面：条痕文タテ。
II-C-12	123-2	—	4-a	胴部	外面：条痕文か。
II-C-12	123-3	—	4-b	胴部	外面：条痕文か。
II-C-12	123-4	—	4-c	胴部	外面：条痕文か。
II-C-12	123-5	—	5-a	胴部	外面：条痕文か。
II-C-12	123-6	—	5-b	胴部	外面：条痕文か。
II-C-12	123-7	—	5-c	胴部	外面：条痕文か。
その他（第123図）					
II-C-12	123-8	—	1-b	胴部	外面：絡条体圧痕文。
II-C-12	123-9	—	1-a	口縁付近	外面：絡条体圧痕文。
I-U-13	123-10	—	3	胴部	外面：縄文R原体圧痕
I-V-14	123-11	—	19	口縁部	—
I-W-20	123-12	—	1	底部	底部底：羽状縄文LR・RL。
I-U-13	123-13	—	4	胴部	外面：縄文か、沈線文。
I-U-13	123-14	—	5	口縁部	外面：沈線文、刺突文。
I-V-10	123-15	—	40	口縁部？	口縁：波状口縁。外面：無文。
Z	123-16	—	6	胴部	外面：矢羽状沈線文、平行隆帯貼付。内面：ミガキに近いナデ。
I-W-7	123-17	—	1	口縁(突起?)	口縁：端部に刻み。
I-U-13	123-18	—	6	突起か	
Z	123-19	—	8	口縁部	内耳鍋。
I-U-19	123-20	—	3	口縁部	口唇：瘤状突起貼付。外面：粗い条痕文ヨコか。

表11-10 遺構外出土土器観察表

異形部分磨製石器（トトロ石器）（第124～129図）											
実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
124-1	36-1		1	SK02	覆土	8.5	3.5	1.2	42.02	チャ	完 取上げNo1
124-2	36-2		2	SK02	覆土	7.55	3.1	1.0	28.95	チャ	完 取上げNo2
124-3	36-3		31	I-V-23-2	Ⅱb	9.2	3.85	1.0	35.17	チャ	完
125-4	36-4		32	I-V-23-2	Ⅱb	8.95	3.73	1.1	38.98	チャ	完
125-5	36-5		40	I-V-23	包含	8.8	3.35	1.2	44.54	チャ	完 光波No2153
125-6	36-6		33	I-V-23-2	Ⅱb	8.05	4.45	1.3	49.20	チャ	完
126-7	37-7		27	I-V-18-14	Ⅱb	6.85	3.4	1.05	26.02	チャ	完
126-8	37-8		7	SQ01	覆土	6.7	3.5	0.85	19.62	チャ	完 取上げNo5
126-9	37-9		34	I-V-23-2	Ⅱb	6.2	2.85	0.9	18.29	チャ	完
126-10	37-10		11	SQ01	覆土	6.0	2.8	0.82	14.21	チャ	完 取上げNo10
127-11	37-11		28	I-V-18	包含	3.8	2.4	1.0	9.57	チャ	欠 光波No4361
127-12	37-12		29	I-V-18	包含	2.35	2.7	0.85	6.15	チャ	欠 光波No4362
127-13	37-13		39	I-V-23-2	Ⅲa	5.0	2.75	0.8	10.47	チャ	完
127-14	37-14		41	I-V-23	包含	4.1	2.4	0.7	6.66	チャ	完 光波No2154 或いは玉髓か
127-15	37-15		16	SQ01	覆土	4.3	2.45	0.6	5.11	チャ	完 取上げNo15
127-16	37-16		23	I-V-9	Ⅳa	3.8	1.7	0.45	3.06	チャ	完
127-17	37-17		36	I-V-23-2	Ⅱb	3.15	2.55	0.75	5.73	チャ	完
128-18	37-18		6	SQ01	覆土	3.6	2.2	0.55	4.55	チャ	完 取上げNo4
128-19	37-19		35	I-V-23-2	Ⅱb	3.3	2.2	0.7	4.56	チャ	完
128-20	37-20		26	I-V-17-16	Ⅱb	3.3	2.4	0.6	3.90	チャ	完
128-21	37-21		5	SQ01	覆土	3.2	2.1	0.65	3.18	チャ	完 取上げNo3 或いは玉髓か
128-22	38-22		9	SQ01	覆土	3.22	2.0	0.55	3.46	チャ	完 取上げNo7
128-23	38-23		15	SQ01	覆土	3.05	2.0	0.6	3.73	チャ	完 取上げNo14 或いは玉髓か
128-24	38-24		14	SQ01	覆土	3.0	1.7	0.5	2.20	チャ	欠 取上げNo13 或いは玉髓か
128-25	38-25		44	Z	一	2.8	2.12	0.6	3.21	チャ	完
128-26	38-26		10	SQ01	覆土	2.7	2.3	0.6	2.67	チャ	完 取上げNo8
128-27	38-27		13	SQ01	覆土	2.8	1.8	0.52	2.45	チャ	完 取上げNo12 或いは玉髓か
128-28	38-28		38	I-V-23-2	Ⅱb	2.55	1.65	0.5	1.80	チャ	完 或いは玉髓か
128-29	38-29		17	I-U-15-7	Ⅱb	2.5	1.8	0.45	1.62	玉髓	欠
129-30	38-30		19	I-U-15-10	Ⅳa	2.5	1.88	0.45	1.82	玉髓	完
129-31	38-31		30	I-V-23-2	Ⅱb	2.45	1.7	0.45	1.55	チャ	欠
129-32	38-32		8	SQ01	覆土	2.35	1.85	0.45	1.84	チャ	完 取上げNo6
129-33	38-33		3	SQ01	覆土	2.4	1.5	0.35	1.15	チャ	完 取上げNo1 或いは玉髓か
129-34	38-34		22	I-V-3	Ⅳa	2.32	1.35	0.5	1.52	チャ	完 その2
129-35	38-35		20	I-U-15-15	Ⅲa	2.3	1.8	0.3	1.07	チャ	完
129-36	38-36		42	I-V-23	包含	2.2	1.6	0.4	1.22	チャ	完 光波No4001 或いは玉髓か
129-37	38-37		12	SQ01	覆土	2.15	1.55	0.45	1.24	チャ	完 取上げNo11
129-38	38-38		4	SQ01	覆土	2.0	1.3	0.3	0.59	チャ	完 取上げNo2 或いは玉髓か
129-39	38-39		21	I-V-3	Ⅳa	2.0	1.6	0.3	0.77	チャ	完 その1
129-40	38-40		18	I-U-15-9	Ⅳa	1.85	1.25	0.25	0.51	チャ	完
129-41	38-41		37	I-V-23-2	Ⅱb	1.8	1.35	0.4	0.98	チャ	完 或いは玉髓か
129-42	38-42		43	試掘第5トレンチ	一	3.3	2.75	0.95	9.95	チャ	完 トトロ石器か
129-43	38-43		24	I-V-15-8	Ⅳa上面	3.1	2.4	0.8	6.01	チャ	完 トトロ石器か
129-44	38-44		25	I-V-15-8	Ⅳa	3.1	2.05	0.6	3.32	チャ	完 取上げNo2
石鏃（第130～133図）											
130-1	39上1	1	1001	SB01	覆土	(2.25)	(1.06)	0.25	0.4	頁岩	欠
130-2	39上2	2	13	SB02	覆土	2.30	1.64	0.50	1.0	チャ	完
130-3	39上3	3	32	SB02	覆土	(1.70)	1.93	0.35	0.8	チャ	欠
130-4	39上4	4	52	SB02	覆土	(1.93)	(1.21)	(0.32)	0.4	チャ	欠
130-5	39上5	5	8	SB03	覆土	(1.83)	(1.40)	0.34	0.5	頁岩	欠
130-6	39上6	6	388a	SB03	覆土	(2.28)	(1.31)	(0.32)	0.6	頁岩	欠
130-7	39上7		1	SB05	覆土	(2.40)	(1.75)	0.5	1.5	黒曜	欠 黒曜石分析No1
130-8	39上8	8	31	SB06	覆土	1.68	1.56	0.34	0.6	頁岩	完
130-9	39上9	9	1026	SB06	Ⅲb	(1.90)	(1.22)	0.38	0.6	チャ	欠
130-10	39上10	10	1038	SB11	覆土②	(1.62)	(1.28)	0.38	0.5	頁岩	欠
130-11	39上11	11	1166	SB11	覆土	(2.57)	(1.38)	0.34	1.0	チャ	欠 南北ベルト
130-12	39上12	12	25	SB12	覆土	(2.13)	(1.28)	0.36	0.6	チャ	欠
130-13	39上13	13	1001	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1 黒 褐	(2.88)	(1.31)	0.38	0.9	頁岩	欠
130-14	39上14	14	1002	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1 黒 褐	(2.29)	(1.51)	0.38	0.8	チャ	欠
130-15	39上15	15	1003	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1	(1.84)	(1.30)	0.30	0.5	頁岩	欠
130-16	39上16	17	1063	SB16	覆土	(2.32)	(1.48)	0.29	0.8	頁岩	欠
130-17	39上17	18	1008	SK02	覆土	(2.14)	(1.47)	0.32	0.6	頁岩	欠
130-18	39上18	19	1113	SK15	覆土	3.43	2.00	0.45	1.8	チャ	完
130-19	39上19	20	1114	SK15	覆土	3.32	1.88	0.44	1.5	頁岩	完
130-20	39上20	21	1115	SK15	3層	(1.27)	(1.42)	0.37	0.3	チャ	欠
130-21	39上21	22	1103	SK49b	覆土	(1.59)	1.47	0.30	0.4	頁岩	欠
130-22	39上22	7	1011	SK52b	覆土	(1.38)	1.48	0.27	0.3	チャ	欠
130-23	39上23	167	1013	SK67	覆土	2.92	2.31	0.74	4.4	チャ	完

表12-1 石器観察表

実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
130-24	39上24	23	1048	SK1069	覆土	(2.55)	(1.71)	(0.36)	0.9	頁岩	
130-25	39上25	24	1120	SK1072	覆土	2.50	1.69	4.1	1.0	チャ	
130-26	39上26	26	1023	SH73	IV	(1.79)	1.73	0.38	0.8	頁岩	
130-27	39上27	25	9	SQ01	III	(2.24)	(1.19)	0.34	0.5	チャ	
130-28	39中1	201	329	II-B-4-5	IIb	3.90	2.65	0.53	4.8	頁岩	欠
130-29	39中2		316	東西ベルト	IIIa	3.4	2.4	0.6	4.5	チャ	完
130-30	39中3		273	II-B-2-12	SIIIb	2.85	2.4	0.7	3.6	頁岩	完
130-31	39中4		4	I-U-11-6	IVa	3.0	2.35	0.65	4.6	頁岩	完
130-32	39中5		229	I-W-11	IIIb上面	2.7	1.95	0.4	1.9	頁岩	完
130-33	39中6		28	I-V-3	IVa上面	2.55	1.8	0.45	1.5	頁岩	完
130-34	39中7		145	I-V-15	IVa	1.25	2.4	0.45	1.2	チャ	完
130-35	39中8		326	Z		2.13	(1.51)	0.35	1.0	黒曜	欠 黒曜石分析No.19
130-36	39中9		63	I-V-5	IVa	2.5	1.9	0.3	1.0	頁岩	完
130-37	39中10		322	Z		2.0	1.25	0.3	0.7	チャ	完
130-38	39中11		23	I-U-20-10	IVa	1.85	1.4	0.3	0.9	チャ	完
130-39	39中12		92	I-V-10	IVa	2.05	1.55	0.25	0.7	チャ	完
130-40	39中13		288	II-B-8	包含	2.1	1.85	0.35		黒曜	完 光波No.1055 黒曜石分析No.15
130-41	39中14		86	I-V-10	IVa	2.35	1.45	0.3	1.1	頁岩	完
130-42	39中15		285	II-B-7	包含	2.05	1.05	0.3	0.5	頁岩	完 光波No.3351
130-43	39中16		301	II-B-15	包含	1.85	1.1	0.35	0.5	頁岩	完 光波No.3599
130-44	39中17		291	II-B-9	包含	1.8	1.45	0.3	0.6	黒曜	完 光波No.2151
130-45	39中18		43	I-V-3	IVa	1.85	1.4	0.25	1.1	頁岩	完
130-46	39中19		307	試掘第5トレンチ		1.55	1.55	0.45	0.8	チャ	完
130-47	39中20		162	I-V-18	包含	1.6	1.65	0.3	0.5	チャ	完 光波No.2845
130-48	39中21		238	I-W-11	IVa	1.75	1.4	0.5	1.0	頁岩	完
130-49	39中22		278	II-B-3	包含	1.35	1.3	0.2	0.3	チャ	完 光波No.2008
130-50	39中23		55	I-V-5	IVa	1.7	1.5	0.3	0.7	チャ	完
130-51	39中24		248	I-W-16	IVa上面	(1.7)	1.5	0.3	0.5	頁岩	欠
130-52	39中25		8	I-U-15-2	IIb	2.0	1.75	0.4	1.1	チャ	完
130-53	39下1		168	I-V-18	包含	2.65	1.7	0.3	1.3	頁岩	完 光波No.4365
131-54	39下2		234	I-W-11	IVa上面	3.4	1.95	0.4	1.8	頁岩	完
131-55	39下3		226	I-V	IIIa~IVa	3.35	1.8	0.35	1.6	チャ	完 1999年度西側ベルト黒色落ち込み
131-56	39下4		217	I-V-23	包含	3.15	1.45	0.35	1.1	チャ	完 光波No.4650-1
131-57	39下5		204	I-V-22	包含	2.95	1.45	0.4	1.0	チャ	完 光波No.2399
131-58	39下6		88	I-V-10	IVa	2.85	1.5	0.25	0.7	チャ	完
131-59	39下7		250	I-W-16	IVa	2.7	1.35	0.25	0.6	頁岩	完
131-60	39下9		87	I-V-10	IVa	2.7	1.1	0.4	0.8	チャ	完
131-61	39下8		211	I-V-23-10	SIIIg	2.65	1.25	0.4	1.2	チャ	完
131-62	39下10		79	I-V-10-6	IVa相当	2.85	2.1	0.6	2.5	頁岩	完
131-63	39下11		125	I-V-13-12	IIb	2.85	1.95	0.5	1.8	黒曜	完 黒曜石分析No.9
131-64	39下12		176	I-V-19-8	IVa	2.7	1.75	0.4	1.7	頁岩	完
131-65	39下13		245	I-W-16	IIIb	2.6	2.05	0.4	1.4	頁岩	完
131-66	39下14		104	I-V-10	IVa	2.6	2.2	0.4	1.7	頁岩	完
131-67	39下15		73	I-V-9	IVa	2.4	2.0	0.4	1.4	チャ	完
131-68	39下16		130	I-V-13	包含	2.65	1.9	0.3	1.1	頁岩	完 光波No.4568
131-69	39下17		277	II-B-3	包含	2.4	1.65	0.3	0.9	チャ	完 光波No.1996
131-70	39下18		131	I-V-13	包含	2.45	1.45	0.4	0.8	黒曜	完 光波No.4569 黒曜石分析No.7
131-71	39下19		75	I-V-9	IVa	2.3	1.6	0.3	0.8	頁岩	完
131-72	39下20		71	I-V-9	IVa	2.3	1.3	0.3	0.7	チャ	完
131-73	39下21		215	I-V-23	包含	2.25	1.5	0.3	0.8	チャ	完 光波No.2155
131-74	39下22		267	II-B-1-14	IIa	2.2	1.7	0.3	0.9	チャ	完
131-75	39下23		212	I-V-23-11	IIb	2.25	1.5	0.4	0.7	チャ	完
131-76	39下24		178	I-V-19-13	IIb	2.4	1.8	0.35	1.1	チャ	完
131-77	40上1		124	I-V-13-12	IIb	2.3	1.5	0.4	0.8	頁岩	完
131-78	40上2		89	I-V-10	IVa	2.0	1.5	0.25	0.6	チャ	完
131-79	40上3		208	I-V-23-6	IVa	2.0	1.35	0.3	0.5	黒曜	完 黒曜石分析No.12
131-80	40上4		156	I-V-18-14	IIIb	1.95	1.35	0.3	0.6	頁岩	完
131-81	40上5		284	II-B-7	包含	2.1	1.55	0.3	0.6	頁岩	完 光波No.1100
131-82	40上6		272	II-B-2-11	包含	(1.75)	1.3	0.25	0.5	チャ	欠
131-83	40上7		296	II-B-14	包含	2.15	1.9	0.4	0.9	黒曜	完 光波No.3501
131-84	40上8		70	I-V-9	IVa	1.95	1.55	0.3	0.6	チャ	完
131-85	40上9		183	I-V-20	IIIb下面~IVa上面	2.05	1.85	0.5	1.5	チャ	完
131-86	40上10		108	I-V-10	IVa	2.25	1.4	0.3	0.7	頁岩	完
131-87	40上11		210	I-V-23-9	包含	2.15	1.8	0.35	0.8	頁岩	完
131-88	40上12		132	I-V-13	包含	2.05	1.65	0.3	0.5	頁岩	完 光波No.4682
131-89	40上13		308	試掘第5トレンチ		1.9	1.5	0.4	0.7	頁岩	完
131-90	40上14		171	I-V-18	包含	1.75	1.1	0.3	0.4	チャ	完 光波No.5238
131-91	40上15		164	I-V-18	包含	2.45	2.05	0.45	1.5	チャ	完 光波No.3082

表12-2 石器観察表

実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
131-92	40上16		310	試掘第5トレンチ		2.45	2.35	0.4	1.3	頁岩	完
131-93	40上17		222	I-V	Ⅲa~Ⅳa	2.3	2.0	0.35	0.9	頁岩	完 西側ベルト
131-94	40上18		175	I-V-19-5	Ⅱb	1.95	1.9	0.5	1.3	頁岩	完
131-95	40上19		142	I-V-15-1	Ⅲb	2.1	2.3	0.4	1.4	頁岩	完
131-96	40上20		179	I-V-19-14	Ⅱb	2.0	1.95	0.4	1.0	チャ	完
131-97	40上21		41	I-V-3	Ⅳa	1.95	2.0	0.4	0.5	頁岩	完
131-98	40上22		128	I-V-13	包含	1.9	1.7	0.3	0.6	黒曜	完 光波No.3280 黒曜石分析No.8
131-99	40上23		35	I-V-3	Ⅳa	1.8	2.1	0.45	1.1	チャ	完
131-100	40上24		233	I-W-11	Ⅳa上面	1.95	1.85	0.4	0.8	頁岩	完
131-101	40上25		25	I-U-20-15	Ⅳa	2.1	1.75	0.35	0.9	チャ	完
131-102	40上26		36	I-V-3	Ⅳa	1.8	1.3	0.3	0.3	チャ	完
131-103	40上27		126	I-V-13-16	Ⅱb	1.85	1.8	0.3	0.7	チャ	完
131-104	40上28		174	I-V-19-5	Ⅱb	1.65	1.7	0.3	0.6	チャ	完
131-105	40上29		289	Ⅱ-B-8	包含	1.7	1.5	0.3	0.5	頁岩	完 光波No.4906
131-106	40上30		103	I-V-10	Ⅳa	1.95	1.7	0.25	0.6	頁岩	完
131-107	40上31		77	I-V-9	Ⅳa	1.7	1.45	0.3	0.4	黒曜	完 黒曜石分析No.4
131-108	40上32		283	Ⅱ-B-7	包含	1.75	1.45	0.25	0.6	チャ	完 光波No.1038
131-109	40上33		67	I-V-8	Ⅳa	1.7	1.65	0.2	0.4	チャ	完
131-110	40上34		72	I-V-9	Ⅳa	1.55	1.3	0.3	0.4	チャ	完
131-111	40上35		56	I-V-5	Ⅳa	1.0	1.95	0.3	0.6	チャ	完
132-112	40上36		300	Ⅱ-B-15	包含	1.55	1.5	0.25	0.4	黒曜	完 光波No.3595
132-113	40上37		49	I-V-4	Ⅳa	1.6	1.6	0.3	0.5	頁岩	完
132-114	40上38		184	I-V-20	Ⅳa上面	1.8	1.45	0.3	0.5	頁岩	完
132-115	40上39		37	I-V-3	Ⅳa	1.65	1.75	0.35	0.6	チャ	完
132-116	40上40		262	I-W-24	包含	1.4	1.6	0.3	0.5	黒曜	完 黒曜石分析No.13
132-117	40上41		265	Ⅱ-A-5-7	Ⅳa	1.15	1.25	0.2	0.1	頁岩	完
132-118	40上42		236	I-W-11	Ⅳa	(1.45)	1.4	0.4	0.5	頁岩	欠
132-119	40下1		255	I-W-17	包含	3.3	1.9	0.4	1.5	チャ	完
132-120	40下2		205	I-V-23-2	Ⅱb	3.1	(1.8)	0.4	1.7	玉髓	欠
132-121	40下3		165	I-V-18	包含	2.8	2.05	0.6	1.9	チャ	完 光波No.3085
132-122	40下4		251	I-W-16	Ⅳa	3.0	1.95	0.5	2.4	チャ	完
132-123	40下5		62	I-V-5	Ⅳa	1.9	2.75	0.45	1.4	頁岩	完
132-124	40下6		21	I-U-20-7	Ⅱb	2.85	1.9	0.4	1.3	チャ	完
132-125	40下7		207	I-V-23-4	Ⅱb	1.9	1.9	0.4	1.1	頁岩	完
132-126	40下8		18	I-U-15-16	Ⅲa	2.7	1.95	0.4	1.1	頁岩	完
132-127	40下9		221	I-V	Ⅲa~Ⅳa	2.5	2.25	0.45	1.3	チャ	完 西側ベルト
132-128	40下10		259	I-W-21	Ⅳa	2.45	2.4	0.4	1.4	チャ	完
132-129	40下11		90	I-V-10	Ⅳa	2.4	1.6	0.35	0.8	チャ	完
132-130	40下12		315	中央トレンチ	包含	2.6	1.4	0.25	0.5	頁岩	完 マウンド中央トレンチ壁清掃時出土
132-131	40下13		237	I-W-11	Ⅳa	2.2	1.35	0.25	0.5	チャ	完
132-132	40下14		269	Ⅱ-B-2-3	SⅢ	2.2	1.5	0.3	0.8	頁岩	完
132-133	40下15		244	I-W-16	Ⅲb	2.0	1.45	0.3	0.6	チャ	完
132-134	40下16		91	I-V-10	Ⅳa	2.2	1.7	0.3	0.7	チャ	完
132-135	40下17		160	I-V-18	包含	2.05	1.55	0.25	0.5	頁岩	完 光波No.2736
132-136	40下18		170	I-V-18	包含	1.9	1.85	0.3	0.6	チャ	完 光波No.5155
132-137	40下19		220	I-V-25	包含	2.1	1.5	0.35	0.6	チャ	完 マウンド南側トレンチ壁清掃
132-138	40下20		78	I-V-10	Ⅳa	2.0	1.4	0.4	0.6	黒曜	完 黒曜石分析No.5
132-139	40下21		102	I-V-10	Ⅳa	1.75	1.35	0.3	0.4	頁岩	完
132-140	40下22		161	I-V-18	包含	1.9	2.1	0.35	0.9	頁岩	完 光波No.2790
132-141	40下23		120	I-V-11-9	Ⅳa	1.9	1.65	0.4	0.7	チャ	完
132-142	40下24		140	I-V-14	包含	1.9	1.65	0.3	0.6	チャ	完 光波No.4298
132-143	40下25		317	Z		1.5	1.6	0.2	0.3	チャ	完 土層観察(2000年度調査東壁)周辺出土
132-144	40下26	207	330	Ⅱ-B-13	包含	1.86	1.76	0.32	0.7	頁岩	完 光波No.3449
132-145	40下27		188	I-V-20	Ⅳa	2.15	2.2	0.4	1.4	チャ	完
132-146	40下28		177	I-V-19-8	Ⅲb	2.05	1.85	0.35	1.1	頁岩	完
132-147	40下29	182	331	I-V-10	Ⅳa	1.91	1.85	0.32	0.9	頁岩	完 光波No.4896
132-148	40下30		279	Ⅱ-B-4-1	Ⅱb	1.4	1.75	0.25	0.6	チャ	完
132-149	40下33		192	I-V-21-3	Ⅱb	2.45	1.65	0.3	1.1	頁岩	完
132-150	40下32		2	I-U-7-15	Ⅳa	2.5	1.65	0.4	1.4	頁岩	完
132-151	40下36	188	332	I-V-18-4	Ⅱb	2.44	1.50	0.52	1.4	頁岩	完
132-152	40下38		319	Z		2.0	1.45	0.45	1.0	チャ	完 NR01
132-153	40下39		256	I-W-17	包含	(1.75)	1.3	0.25	0.5	チャ	欠
132-154	40下40		240	I-W-11	包含	1.35	1.6	0.35	0.4	黒曜	完
132-155	40下31	206	339	Ⅱ-B-8	包含	2.96	1.99	0.74	2.4	頁岩	完
132-156	40下35		302	Ⅱ-C-7-6	包含	2.15	1.85	0.35	1.0	黒曜	完 黒曜石分析No.18
132-157	40下34		309	試掘第5トレンチ		2.15	1.5	0.5	1.3	チャ	完 取上げNo.4
132-158	40下37		150	I-V-17-6	Ⅳb	1.9	1.8	0.2	0.7	頁岩	完
132-159	40下41	183	333	I-V-11-2	Ⅱb	3.34	(1.99)	0.66	3.7	チャ	欠
132-160	40下42	194	334	I-V-24-6	Ⅲb	3.56	2.12	0.67	4.5	頁岩	完

表12-3 石器観察表

第8章 付 表

完…完形、欠…欠損

実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
132-161	40下43	195	335	I-V-24-9	II b	3.40	2.23	0.59	3.1	頁岩	完
132-162	40下44		141	I-V-15-1	III b	2.65	1.75	0.5	1.8	頁岩	完
132-163	40下45		40	I-V-3	IVa	2.6	2.0	0.5	2.4	頁岩	完
132-164	40下46		109	I-V-10	IVa	2.5	1.65	0.6	2.2	頁岩	完
133-165	40下47		241	I-W-16-2	包含	2.4	1.85	0.6	2.0	チャ	完 検出時
133-166	40下48		115	I-V-11-5	IVa	2.2	1.85	0.5	1.9	チャ	完
133-167	40下49	208	336	II-B-13	包含	2.35	2.12	0.63	2.6	頁岩	完 光波No.3487-2
133-168	40下50	180	337	I-V-10	IVa	2.81	2.33	0.63	3.1	頁岩	完
133-169	40下51	181	338	I-V-10	IVa	2.30	1.64	0.41	1.4	チャ	欠
133-170	41上1	43	340	Z	包含	2.65	0.82	0.36	0.9	頁岩	完
尖頭器 (第133図)											
133-1	41上-2	30	4	I-V-22-8	III b	6.06	1.89	0.78	7.4	頁岩	完
133-2	41上-3	28	2	I-V-4	IVa	4.77	1.49	0.64	3.5	黒曜	完 黒曜石分析No.21
133-3	41上-4		6	II-B-3	包含	3.45	1.35	0.3	1.4	チャ	完 光波No.1963
石錐 (第133・134図)											
133-1	41中1	154	1010	SB04	4A	4.25	2.23	1.13	9.5	頁岩	完
133-2	41中2	32	24	SB06	覆土	2.22	1.43	0.58	1.3	チャ	完
133-3	41中3	16	1001	SB13	II b	2.66	1.54	0.48	1.3	頁岩	完
133-4	41中4	164	1022	SK15	覆土	3.35	2.06	0.89	5.7	頁岩	完
133-5	41中5	33	1104	SK49b	覆土	(2.46)	0.85	0.45	0.9	チャ	欠 SW
133-6	41下3	191	27	I-V-22-10	IVa	5.24	3.20	0.71	8.1	頁岩	完
133-7	41下5	211	31	試掘第4トレンチ		4.55	1.88	0.58	3.7	頁岩	完
133-8	41下2	179	23	I-V-9	IVa	5.97	2.89	1.14	9.4	頁岩	完
133-9	41下1	171	20	I-U-20-11	IVa	6.36	4.21	1.34	21.7	頁岩	完
134-10	41下4	200	28	II-B-2-3	II b	4.88	3.80	1.35	14.4	頁岩	完
134-11	41下6	210	30	II-B-14	包含	4.08	3.30	0.65	7.4	チャ	完 光波No.3624
134-12	41下7	34	1	I-V-3	IVa	4.54	2.80	0.87	8.0	チャ	完
134-13	41下8	31	34	I-W-16	IVa	4.82	2.28	0.86	7.5	頁岩	完
134-14	41下9	169	18	I-U-9-15	III a	3.81	1.69	0.96	4.4	頁岩	完
134-15	41下10	39	11	I-V-24-3	II b	4.06	2.21	1.09	6.6	頁岩	完
134-16	41下11	170	19	I-U-15-4	IVa	3.92	2.45	0.97	6.9	頁岩	完
134-17	41下12	29	33	I-V-15	IVa直上	4.32	1.36	0.61	3.0	頁岩	完 先行トレンチ
134-18	41下13	35	2	I-V-3	IVa	3.6	1.36	0.66	2.6	頁岩	完
134-19	41下14	190	26	I-V-21-6	IVa	4.02	1.38	0.59	2.0	頁岩	完
134-20	41下15	175	22	I-U-25-4	IVa	3.09	1.62	0.88	2.4	頁岩	完
134-21	41下16	37	8	I-V-15	III b	3.42	1.91	0.48	2.6	頁岩	完 東西先行トレンチ
134-22	41下17	36	4	I-V-9	IVa	3.58	1.57	0.61	3.1	頁岩	完
134-23	41下18	187	25	I-V-14-7	III a	3.01	1.66	0.49	2.0	頁岩	完 トレンチ
134-24	41下19	203	29	II-B-4	包含	2.76	1.42	0.71	2.3	頁岩	完 光波No.2337
134-25	41下20	184	24	I-V-11-14	IVa (黒)	3.04	2.15	0.74	2.9	頁岩	完
134-26	41下21	27	32	I-U-9-10	IVa	3.02	1.10	0.52	1.7	頁岩	完
134-27	41下22	38	9	I-V-15	IVa上面	2.80	24.8	0.66	3.0	チャ	完
134-28	41下23	40	12	I-W-20-1	包含	2.55	3.16	0.55	2.7	チャ	完
134-29	41下24	174	21	I-U-25-1	IVa	2.80	1.72	0.44	1.4	頁岩	完
134-30	41下25	42	15	Z	包含	2.17	0.78	0.44	0.5	頁岩	完 検出時
楔形石器 (第135図)											
135-1	42上1	44	1	I-U-24-1	II b	3.76	3.81	1.49	17.8	頁岩	
135-2	42上2	147	ス170	II-B-14	包含	3.59	4.35	0.93	14.2	頁岩	光波No.450 整理台帳はスクレイパー 170
135-3	42上3	46	3	I-V-13	包含	2.17	2.51	0.94	4.5	チャ	光波No.3134
135-4	42上4	48	6	I-V-22	包含	1.99	1.99	0.91	3.4	チャ	光波No.5355
135-5	42上5	49	9	II-B-3	包含	2.36	1.96	0.84	4.0	チャ	光波No.2026
135-6	42上6	50	10	II-B-6-4	II b	2.48	1.49	0.96	4.0	頁岩	
135-7	42上7	47	4	I-V-17-5	II a	1.99	2.11	0.84	3.9	頁岩	
135-8	42上8	51	13	II-B-13	包含	2.11	1.36	0.75	1.6	黒曜	光波No.3634
二次加工のある剥片 (第135・136図)											
135-1	42中1	153	45	SB02	覆土	(2.79)	(1.84)	0.58	1.7	チャ	
135-2	42中2	152	25	SB02	覆土	2.35	1.94	0.46	1.7	チャ	
135-3	42中3	155	182	SB11	覆土	2.89	1.82	0.50	2.5	チャ	
135-4	42中4	160	1051	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1 黒 褐	2.53	1.67	0.38	1.2	頁岩	石鏃未製品
135-5	42中5	159	1011	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1 黒 色	2.95	1.37	0.47	1.6	黒曜	黒曜石分析No.30
135-6	42中6	163	1001	SB15	覆土	2.76	1.36	0.34	1.0	頁岩	石鏃未製品か
135-7	43上1	81	1001	SK09	覆土	5.11	5.61	0.95	21.9	頁岩	整理台帳ではスクレイパーに分類
135-8	43上2	94	1003	SF20	IV	4.31	3.37	0.66	9.9	頁岩	整理台帳ではスクレイパーに分類
135-9	42下1	99	ス8	I-U-11-6	IVa	4.57	2.62	0.95	11.0	チャ	整理台帳ではスクレイパー 8
135-10	42下2	178	25	I-V-9	IVa	3.80	1.71	0.50	2.9	チャ	石鏃未製品?
135-11	42下3	172	7	I-U-20-14	II b	2.40	2.55	0.72	4.3	チャ	石鏃未製品
135-12	42下4	193	68	I-V-23	包含	2.94	2.46	0.62	3.9	頁岩	石鏃未製品 光波No.2094

表12-4 石器観察表

実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
135-13	42下5	204	92	II-B-5-14	包含	2.97	2.81	0.77	6.0	頁岩	石鏝未製品
135-14	42下6	198	76	I-W-11	IVa	3.23	1.96	0.70	4.2	頁岩	石鏝未製品か
135-15	42下7	173	8	I-U-24-4	IVa	2.84	2.06	0.52	2.4	頁岩	石鏝未製品
135-16	42下8	41	錐13	II-B-2	包含	2.75	1.88	0.59	2.4	頁岩	完 整理台帳では石錐13 光波No.3732
135-17	42下9	189	59	I-V-18-4	IIb	3.05	1.87	0.52	2.7	頁岩	石鏝未製品
136-18	42下10	197	74	I-W-11	IIIb	3.59	2.17	0.59	3.4	頁岩	石鏝未製品
136-19	42下11	186	45	I-V-13	包含	3.09	2.46	0.74	5.6	チャ	石鏝未製品 光波No.4689
136-20	42下12	192	67	I-V-23-10	IVa	2.94	2.20	0.76	3.7	頁岩	石鏝未製品
136-21	42下13	185	43	I-V-13-7	IIb	2.85	2.76	0.75	5.4	頁岩	石鏝未製品
136-22	42下14	209	100	II-B-14	包含	3.24	2.13	0.42	2.1	頁岩	石鏝未製品 光波No.3577
136-23	42下15	202	90	II-B-4-5	IIb	2.84	2.08	0.65	3.0	チャ	石鏝未製品
136-24	42下16	177	19	I-V-9-5	包含	2.53	1.97	0.70	3.2	チャ	石鏝未製品 SB?付近
136-25	42下17	196	73	I-W-6	IVa	2.84	2.22	0.54	3.3	頁岩	石鏝未製品
136-26	42下18	205	93	II-B-7	包含	2.95	2.44	0.57	3.4	頁岩	石鏝未製品 光波No.1007
136-27	42下19	176	15	I-V-5	IVa	3.00	2.30	0.49	3.5	頁岩	石鏝未製品
136-28	42下20	199	81	I-W-20	包含	1.85	2.22	0.71	2.0	黒曜	石鏝未製品
微細剥離のある剥片 (第136図)											
136-1	43上3	161	1057	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1 黒	5.08	5.80	1.50	38.7	頁岩	
136-2	43上6	76	1002	SB15	覆土	5.97	3.42	0.94	14.3	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
136-3	43上4	61	34	SB12	覆土	5.83	6.49	1.15	30.5	頁岩	SB12取上だが、実際は遺構外 I-U-15出土。整理台帳ではスクレイパー
136-4	43上5	75	1110	SB14・SK51a	覆土2 褐色	2.20	5.22	0.70	5.2	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
136-5	43上7	166	3	SK45a	覆土	5.12	5.40	1.97	42.1	頁岩	
136-6	43上8	121	ス72	I-V-18-15	IIb	5.98	3.29	0.97	17.3	チャ	整理台帳ではスクレイパー 72
搔器 (第137~144図)											
137-1	43下1	52	7	SB02	覆土	5.06	5.84	1.12	30.2	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
137-2	43下2	53	308a	SB03	覆土	4.92	4.25	1.27	20.7	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
137-3	43下3	56	1011	SB04	4a	3.46	2.28	1.24	6.6	黒曜	SE 黒曜石分析No.22 整理台帳ではスクレイパー
137-4	43下4	57	15	SB06	覆土	5.46	3.83	1.21	25.5	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
137-5	43下6	59	1057	SB11	覆土②	5.67	4.20	1.60	31.7	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
137-6	43下5	58	215	SB11	覆土	6.78	6.36	2.17	75.3	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
137-7	44上1	66	1052	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1 黒	6.51	7.97	1.58	85.4	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
137-8	44上2	67	1053	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1 黒	4.61	5.45	2.39	45.5	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
137-9	44上3	68	1056	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1 黒	4.21	5.29	1.21	20.6	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
137-10	44上4	65	1050	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1 黒	(3.89)	5.41	0.65	13.1	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
138-11	44上5	63	81	SB12	覆土	3.16	4.66	1.16	12.9	頁岩	SB12取上だが、実際は遺構外 I-U-15出土。整理台帳ではスクレイパー
138-12	44上6	70	1112	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土1 黒	(2.70)	4.07	1.43	12.3	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
138-13	44上7	62	78	SB12	覆土	3.39	2.04	0.90	5.2	チャ	SB12取上だが、実際は遺構外 I-U-15出土。整理台帳ではスクレイパー
138-14	44上8	158	94	SB12	覆土	2.66	1.97	0.37	1.8	頁岩	SB12取上だが、実際は遺構外 I-U-15出土。整理台帳ではRF、最終的には石鏝未製品。
138-15	44下1	71	108-b	SB13	覆土	6.79	6.35	1.80	52.1	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
138-16	44下2	162	108-a	SB13	覆土	3.87	6.65	0.94	15.4	頁岩	整理台帳ではUF
138-17	44下3	74	1107	SB14・SK51a	覆土2 褐色	5.78	4.87	0.95	25.6	チャ	整理台帳ではスクレイパー
138-18	44下4	72	1001	SB14・SK51a	覆土1 黒	3.85	3.00	0.87	12.3	チャ	整理台帳ではスクレイパー
138-19	44下5	77	1007	SB16	覆土	3.96	(2.78)	0.96	8.6	チャ	整理台帳ではスクレイパー
138-20	45上4	165	67-a	SK16	覆土	1.79	2.75	0.76	2.9	頁岩	整理台帳ではRF
138-21	45上1	83	1005	SK14	覆土	4.34	4.29	0.69	11.4	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
138-22	45上2	82	1001	SK14	覆土	4.35	4.26	1.00	12.1	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
138-23	45上5	85	57	SK16	覆土	5.67	7.70	2.28	96.4	頁岩	整理台帳ではスクレイパー最終的には二次加工剥片。
138-24	45上3	84	1047	SK15	3	5.25	3.47	1.37	20.0	頁岩	整理台帳ではスクレイパー SW
139-25	45上6	88	1001	SK49a	覆土	4.02	7.75	0.93	20.9	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
139-26	45上7	92	1001	SK1069	覆土	5.07	7.15	1.79	68.5	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
139-27	45上8	168	RF108	II-B-5		4.62	4.04	1.54	25.1	頁岩	整理台帳ではRF108
139-28	45上9	93	1001	SF20	IV	4.51	3.17	0.96	11.5	頁岩	整理台帳ではスクレイパー

表12-5 石器観察表

実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
139-29	45上10	95	1001	SH73	IV	3.79	2.07	0.61	3.9	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
139-30	45下1	248	1	SB13	覆土	9.50	11.00	4.00	530.5	頁岩	整理台帳では礫器・石核
139-31	45下2	250	1020	SB14・SK51a	覆土 ¹ 黒土	(6.73)	(4.50)	1.44	40.5	頁岩	整理台帳では礫器・石核
139-32	45下3	254	59	II-B-5	包含	8.90	12.48	5.05	497.3	頁岩	ロームマウンド7 整理台帳では礫器・石核
139-33	46上1	143	ス150	II-B-2-6	IVb	5.92	7.91	1.97	74.5	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 150
140-34	46上2	145	ス160	II-B-6-16	IIa	6.07	8.41	2.40	85.7	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 160
140-35	46上3	106	ス15	I-U-15-15	IIb	5.81	7.67	2.30	75.6	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 15
140-36	46上4	107	ス16	I-U-15	IVa	5.54	6.97	1.66	59.1	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 16
140-37	46上5	105	ス14	I-U-15-5	IIb	5.30	6.72	1.41	38.7	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 14
140-39	46下1	104	ス13	I-U-15-5	IIb	6.25	5.06	1.49	36.0	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 13
141-40	46下2	109	ス25	I-V-4	IVa	5.03	6.60	1.23	37.0	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 25
141-41	46下3	117	ス63	I-V-18-2	IVa	6.33	4.93	1.50	34.4	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 63
141-42	46下4	118	ス64	I-V-18-4	IIb	5.66	4.51	1.02	15.9	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 64
141-43	46下5	129	ス100	I-V-22-7	IVa	6.36	4.53	1.11	23.4	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 100
141-44	46下6	127	ス98	I-V-21-15	IVa	5.70	5.20	1.66	40.8	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 98
141-45	47上1	138	ス137	I-W-11	IVa	5.79	3.62	1.06	21.2	チャ	整理台帳ではスクレイパー 137
141-46	47上2	119	ス68	I-V-18-8	IVa	5.12	6.29	1.60	40.6	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 68
141-47	47上3	120	ス71	I-V-18-14	IIIb	4.77	4.01	1.43	13.3	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 71
141-48	47上4	142	ス146	II-A-2	包含	5.02	3.89	1.30	18.8	チャ	光波No706 整理台帳ではスクレイパー 146
141-49	47上5	139	ス142	I-W-16	IVa	5.30	5.49	1.44	38.5	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 142
141-50	47上6	125	ス96	I-V-21-2	IIb	4.55	3.93	0.72	14.8	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 96
141-51	47上7	122	ス84	I-V-19-1	IIb	4.54	5.03	1.20	20.3	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 84
142-52	47上8	103	ス12	I-U-15-5	IIb	6.21	3.87	1.23	22.2	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 12
142-53	47上9	150	ス178	トレンチ6	IIIa	5.72	4.03	1.34	31.6	チャ	整理台帳ではスクレイパー 178
142-54	47下1	101	ス10	I-U-14-7	IIIa	5.30	3.94	1.17	22.9	チャ	整理台帳ではスクレイパー 10
142-55	47下2	136	ス123	I-V-24-4	包含	4.82	4.57	1.22	20.7	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 123
142-56	47下3	140	ス144	I-W-17-12	包含	4.88	4.29	1.38	17.1	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 144
142-57	47下4	110	ス34	I-V-10	IVa	5.84	4.26	1.07	26.4	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 34
142-58	47下5	135	ス122	I-V-24-9	SIIIg	3.81	4.68	1.62	22.0	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 122
142-59	47下6	137	ス125	I-V-23-6	IVa	3.47	3.98	0.99	12.2	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 125
142-60	48上1	128	ス99	I-V-22-7	IIIb	4.19	3.49	1.11	12.3	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 99
142-61	48上2	144	ス153	II-B-2	包含	4.37	3.35	0.78	9.5	頁岩	光波No105 整理台帳ではスクレイパー 153
142-62	48上3	131	ス108	I-V-23-9	SIIIg	3.48	4.68	0.82	9.1	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 108
142-63	48上4	146	ス166	II-B-8	包含	3.14	4.44	1.23	13.2	頁岩	光波No1860 整理台帳ではスクレイパー 166
143-64	48上5	45	ス190	I-V-7-1	IIb	5.35	1.63	1.85	16.6	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 190
143-65	48上6	113	ス49	I-V-14-12	IIIb	4.67	2.74	0.96	11.5	チャ	SB07上面 整理台帳ではスクレイパー 49
143-66	48上7	149	ス176	試掘第5トレンチ	包含	3.65	3.84	1.02	7.7	頁岩	古いドラフティングテープ8 整理台帳ではスクレイパー 176
143-67	48上10	102	ス11	I-U-15-4	IVa	2.74	3.50	1.01	12.1	チャ	整理台帳ではスクレイパー 11
143-68	48上8	112	ス37	I-V-10	IVa	2.92	3.74	0.86	8.7	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 37
143-69	48上9	132	ス109	I-V-23-9	IVa	3.22	2.20	0.74	4.2	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 109
143-70	48上11	116	ス62	I-V-17	IVa	2.71	3.72	0.82	5.3	黒曜	黒曜石分析No24 整理台帳ではスクレイパー 62
143-71	48上12	114	ス53	I-V-15-1	IVa	3.28	3.50	0.90	9.6	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 53
143-72	48上13	111	ス35	I-V-10	IVa	2.46	2.59	0.58	2.5	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 35
143-73	48上14	98	ス7	I-U-10-16	IIIa	2.37	2.54	0.78	4.4	チャ	整理台帳ではスクレイパー 7
143-74	48上15	151	ス180	I-W-16	IVa	1.70	1.57	0.57	1.3	黒曜	黒曜石分析No23 整理台帳ではスクレイパー 180
143-75	48下1	270	レ15	II-B-3-8	IVa	9.37	13.07	3.47	499.8	頁岩	整理台帳では礫器・石核15
143-76	48下2	240	レ51	I-V-3	IVa	10.85	6.95	2.69	187.3	頁岩	旧 I-V-3 No9 整理台帳では礫器・石核51
144-77	48下3	279	レ24	I-V-22-14	IIIb	7.01	14.24	4.54	392.9	頁岩	旧 I-V-22 No27 整理台帳では礫器・石核24
144-78	48下4	272	レ17	北側トレンチ	包含	5.86	6.33	2.14	67.4	頁岩	整理台帳では礫器・石核17
144-79	49上1	289	レ34	II-B-7	包含	5.29	12.47	4.10	226.2	砂岩か	旧 II-B-7 No10 光波No234 整理台帳では礫器・石核34
144-80	49上2	283	レ28	I-W-6	IVa	8.43	8.64	2.40	157.7	頁岩	旧 I-W-6 No14 整理台帳では礫器・石核28
144-81	49上3	286	レ31	I-W-16	IVa	6.76	11.64	4.54	264.9	頁岩	旧 I-W-16 No39 整理台帳では礫器・石核31
144-82	49上4	257	レ2	I-U-10-15	IIIa	6.95	10.26	2.86	208.3	頁岩	整理台帳では礫器・石核2
144-83	49上6	273	レ18	NR01	包含	5.69	4.58	2.89	66.5	頁岩	NR01 表採 整理台帳では礫器・石核18
144-84	49上5	242	レ53	I-V-3	IVa	7.43	5.05	3.17	105.9	頁岩	旧 I-V-3 No35 整理台帳では礫器・石核53
150-36	53-11	245	レ56	I-V-23-12	IIIb	6.93	5.86	4.25	153.4	頁岩	I-V-23 No13 整理台帳では礫器・石核56

表12-6 石器観察表

削器 (第145～146図)											
実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
145-1	49下1	55	1138	SB03・SK52a	覆土	7.66	4.41	2.24	68.8	頁岩	トレンチ整理台帳ではスクレイパー
145-2	49下2	54	494	SB03	覆土	4.00	6.28	1.01	13.5	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
145-3	49下3	156	220	SB11	覆土	(3.49)	(2.70)	0.54	5.2	チャ	整理台帳ではRF
145-4	49下4	60	1058	SB11	覆土②	4.79	6.45	1.22	24.4	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
145-5	49下5	69	1110	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土2 黒褐	7.21	7.69	1.41	63.3	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
145-6	49下3	157	90	SB12	覆土	3.48	3.34	0.62	7.3	頁岩	整理台帳ではUF
145-7	49下7	73	1007	SB14・SK51a	覆土1 黒褐	(3.42)	(3.88)	0.68	8.3	チャ	整理台帳ではスクレイパー
145-8	50上1	79	1003	SK02	覆土	2.34	5.90	0.96	7.0	チャ	整理台帳ではスクレイパー
145-9	50上2	78	1002	SK02	覆土	3.35	5.85	1.05	15.1	チャ	整理台帳ではスクレイパー
145-10	50上3	80	1001	SK04	覆土	3.33	3.36	0.75	7.2	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
145-11	50上4	86	59	SK16	覆土	3.06	4.82	1.25	12.2	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
145-12	50上5	89	ス191	II-B-5・10	包含	2.95	3.36	0.62	4.0	頁岩	ロームマウンド7 整理台帳ではスクレイパー 191
145-13	50上6	90	1001	SK1022	覆土	3.69	4.61	1.07	14.2	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
146-14	50下1	133	ス110	I-V-23-11	IVa	6.30	8.24	2.16	75.7	頁岩	単独遺物 No.3 整理台帳ではスクレイパー 110
146-15	50下2	100	ス9	I-U-14-5	IIIa	5.08	5.83	1.55	30.6	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 9
146-16	50下3	124	ス93	I-V-20	IIIb	5.07	5.61	0.81	10.3	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 93
146-17	50下4	97	ス5	I-U-10-13	IIIb	5.95	3.29	1.12	22.7	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 5
146-18	50下5	96	ス3	I-U-9-16	IIIa	5.60	3.39	1.36	16.7	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 3
146-19	50下6	115	ス56	I-V-16-9	IVa	6.38	4.75	1.42	30.9	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 56
146-20	50下7	126	ス97	I-V-21-7	IVa	2.85	4.80	1.12	12.9	チャ	整理台帳ではスクレイパー 97
146-21	50下8	123	ス92	I-V-20	IIIb	3.24	3.93	1.04	15.5	チャ	整理台帳ではスクレイパー 92
146-22	50下9	148	ス172	II-B-14	包含	2.91	4.61	0.92	14.3	チャ	光波No.5058 整理台帳ではスクレイパー 172
146-23	50下10	134	ス113	I-V-23	包含	1.87	4.10	0.65	5.0	チャ	光波No.660 整理台帳ではスクレイパー 113
146-24	50下11	130	ス105	I-V-23-8	IIb	2.57	2.45	0.57	3.3	チャ	整理台帳ではスクレイパー 105
140-38	46上6	108	ス18	I-U-19-8	包含	2.96	6.78	1.36	17.5	頁岩	NR01 整理台帳ではスクレイパー 18
刃器 (第147～154図) 整理台帳では遺構外の刃器は礫器・石核(レ)となっている。											
147-1	51-1	217	1165	SB11	覆土	9.52	5.44	3.09	156.4	頁岩	南北ベルト
147-2	51-2	218	1008	SB13	IIb	5.55	7.56	4.62	217.0	頁岩	
147-3	51-3	219	1018	SB14・SK51a	覆土1 黒土	4.44	8.30	5.46	219.4	頁岩	
147-4	51-4	249	1013	SB14・SK51a	覆土1 黒土	6.38	6.92	3.55	195.4	頁岩	
147-5	51-5	220	1105	SB14・SK51a	覆土2 褐色	5.67	6.00	5.70	249.2	頁岩	
147-6	51-6	223	1003	SK49b	覆土	5.38	7.89	4.52	169.2	頁岩	NW
147-7	51-7	222	1001	SK49b	覆土	8.25	5.81	3.70	159.4	頁岩	NW
147-8	51-8	251	1002	SK49b	覆土	7.22	6.14	2.34	119.0	頁岩	NW
148-9	51-9	252	1001	SK1004	覆土	3.97	5.57	2.11	48.5	頁岩	
148-10	51-10	253	1001	SK1007	覆土	4.38	5.61	1.81	46.7	頁岩	
148-11	51-11	224	1002	SK1067	覆土	5.95	5.65	3.20	142.0	頁岩	
148-12	52-1	226	2	SH68・69	III～IV	6.78	9.56	5.46	438.1	頁岩	
148-13	52-2	225	1	SH68・69	III～IV	3.98	9.21	6.09	171.1	頁岩	
148-14	52-3	255	1001	SH36		6.88	6.36	2.54	112.8	頁岩	
148-15	52-4	229	レ40	II-B-14	包含	5.21	4.55	3.13	73.8	頁岩	光波No.1424
148-16	52-5	227	レ38	I-U-15-6	IIIg	5.76	4.32	3.80	89.4	チャ	
148-17	52-6	284	レ29	I-W-11	IVa	7.77	5.31	2.24	87.1	頁岩	旧 I-W-11 No.32
148-18	52-7	285	レ30	I-W-16	IVa	7.99	5.34	2.46	118.9	頁岩	旧 I-W-16 No.38
148-19	52-8	274	レ19	I-V-4	IVa	4.33	8.06	3.20	92.7	頁岩	旧 I-V-4 No.13
149-20	52-9	231	レ42	I-U-15-13	IIIg	4.83	5.90	4.76	191.6	頁岩	旧 I-U-15 No.6
149-21	52-10	259	レ4	I-U-14-4	IVa	4.44	7.02	2.17	77.5	頁岩	
149-22	52-11	232	レ43	I-U-15-16	IVb	6.34	6.37	4.40	168.7	頁岩	旧 I-U-15 No.8
149-23	52-12	244	レ55	I-V-13-7	IIb	5.77	7.77	2.86	154.3	頁岩	I-V-13 No.6
149-24	52-13	290	レ35	II-B-7	包含	7.09	6.73	2.72	128.0	頁岩	旧 II-B-7 No.11 光波No.1866
149-25	52-14	261	レ6	I-V-3	IVa	8.12	6.31	2.51	109.0	頁岩	
149-26	53-1	282	レ27	I-V-24-2	IIa	7.08	8.19	2.39	107.3	頁岩	旧 I-V-24 No.4
149-27	53-2	292	レ37	II-B-14	包含	6.19	7.46	2.58	117.0	頁岩	旧 II-B-14 No.9 光波No.1530
149-28	53-3	263	レ8	I-V-5	IVa	8.73	5.43	2.31	102.2	頁岩	
149-29	53-4	264	レ9	I-V-14-7	IIb	6.12	7.78	3.44	166.9	頁岩	
149-30	53-5	281	レ26	I-V-24-7	IIb	5.62	7.24	3.45	151.5	頁岩	旧 I-V-24 No.3
150-31	53-6	258	レ3	I-U-13-16	IVb	5.36	7.25	4.31	172.0	頁岩	
150-32	53-7	235	レ46	I-V-3	IVa	6.82	6.95	4.76	209.6	頁岩	旧 I-V-3 No.4
150-33	53-8	269	レ14	I-W-21	IIIb～IVa	6.42	8.38	2.75	116.5	変成	先行トレンチ
150-34	53-9	288	レ33	II-B-3-4	SIIIg	8.24	8.22	2.66	159.1	頁岩	II-B-3 No.11
150-35	53-10	280	レ25	I-V-23	包含	7.29	6.55	3.43	217.8	頁岩	旧 I-V-23 No.73 光波No.4242
150-37	53-12	260	レ5	I-U-15-13	包含	7.34	8.45	3.40	221.4	頁岩	

表12-7 石器観察表

第8章 付 表

完…完形、欠…欠損

実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
150-38	53-13	233	レ44	I-V-3	IVa	6.60	6.65	6.16	326.3	頁岩	旧 I-V-3 No2
151-39	53-14	278	レ23	I-V-22-11	IIb	7.21	9.16	3.41	268.4	頁岩	旧 I-V-22 No26
151-40	54-1	262	レ7	I-V-3	包含	6.19	8.85	4.13	205.2	頁岩	
151-41	54-2	267	レ12	I-V-18	包含	5.36	9.34	2.19	81.1	頁岩	光波No2861
151-42	54-3	275	レ20	I-V-5	IVa	6.39	10.78	4.24	247.7	頁岩	旧 I-V-5 No 4
151-43	54-4	265	レ10	I-V-16-6	IIb	7.21	10.97	3.22	310.5	頁岩	
151-44	54-5	228	レ39	I-V-4	IVa	5.57	7.68	3.99	163.0	頁岩	
151-45	54-6	277	レ22	I-V-20	IIIb	7.80	9.84	3.85	292.4	頁岩	旧 I-V-20 No32
151-46	54-7	239	レ50	I-V-3	IVa	5.92	8.76	5.41	349.2	頁岩	旧 I-V-3 No8
152-47	54-8	238	レ49	I-V-3	IVa	5.83	10.40	5.18	354.1	頁岩	旧 I-V-3 No7
152-48	54-9	237	レ48	I-V-3	IVa	5.84	10.13	4.91	316.2	頁岩	旧 I-V-3 No6
152-49	54-10	276	レ21	I-V-20	IIIb	6.82	10.48	4.82	291.3	頁岩	旧 I-V-20 No31
152-50	55-1	243	レ54	I-V-4	IVa	4.67	8.90	6.15	252.6	頁岩	I-V-4 No1
152-51	55-2	291	レ36	II-B-12	包含	7.86	8.96	5.65	389.6	頁岩	旧 II-B-12 No6 光波No857
152-52	55-3	287	レ32	I-W-17-3	包含	6.44	9.37	5.14	307.9	頁岩	NR01 旧 I-W-17 No1
153-53	55-4	236	レ47	I-V-3	IVa	7.54	10.85	5.67	495.0	頁岩	旧 I-V-3 No5
153-54	55-5	230	レ41	I-U-15-7	IVa	9.05	9.31	5.47	364.0	頁岩	旧 I-U-15 No1
153-55	55-6	234	レ45	I-V-3	IVa	6.91	11.34	5.70	467.4	頁岩	旧 I-V-3 No3
153-56	55-7	246	レ57	I-V	IVa	10.00	11.10	8.57	1051.4	頁岩	I-V No3 北側土層観察用ベルト東側
154-57	56上2	266	レ11	I-V-17	IVb	13.59	10.84	3.29	596.5	安山	
154-58	56上1	247	レ58	I-W-12	包含	14.51	15.96	7.36	1370.0	頁岩	I-W-12 No5
器種不明 (第154・155図)											
154-59	56中下4	271	レ16	II-C-5-16	包含	8.93	3.05	1.95	41.3	頁岩	整理台帳では礫器・石核16
155-1	56中上1	64	1010	SB12・SK49a・SK50・SK71・SK72	覆土 ¹ 黒褐	4.73	3.10	1.04	13.4	チャ	整理台帳ではスクレイパー
155-5	56中上2	256	レ1	I-U-9-15	IVa	8.80	4.03	2.05	77.4	頁岩	整理台帳では礫器・石核1
155-6	56中上3	241	レ52	I-V-3	IVa	7.77	4.97	3.25	108.6	頁岩	旧 I-V-3 No15 整理台帳では礫器・石核52
篋状石器 (第155図)											
155-2	56中下2	91	1001	SK1062	覆土	5.92	3.81	1.28	24.9	頁岩	整理台帳ではスクレイパー
155-3	56中下3	141	ス145	I-W-22-3	包含	4.55	3.91	1.05	16.7	頁岩	整理台帳ではスクレイパー 145
155-4	56中下1	268	レ13	I-V-21-11	包含	9.11	4.82	2.40	99.6	頁岩	ルームマウンド整理台帳では礫器・石核13
打製石斧 (第155図)											
155-1	56下1	216	8	試掘第2トレンチ	包含	12.67	3.57	1.33	76.4	結晶片	完 黒色土層
155-2	56下2	213	3	I-V-22	包含	10.53	4.66	2.30	146.6	粘板	完 光波No307
155-3	56下3	214	5	II-B-14	包含	9.85	4.60	2.11	114.1	粘板	完 光波No463
155-4	56下4	215	7	II-C-2-2	包含	(7.90)	4.48	1.45	59.1	粘板	欠
155-5	56下5	212	1	I-U-23-11	IIa	6.99	3.69	1.54	47.0	粘板	欠
磨製石斧 (第156・157図)											
156-1	57-1		1	SQ02	IV	10.0	4.7	2.2	146.5	変塩基性岩	H14 EPMA分析 EYM11
156-2	57-2		2	SQ02	IV	6.7	(3.7)	(1.4)	48.0	軟玉	H14 EPMA分析 EYM12
156-3	57-3		4	SQ02	IV	5.3	2.8	1.4	28.9	軟玉	H14 EPMA分析 EYM14
156-4	57-4		3	SQ02	IV	11.6	4.5	2.0	162.4	砂岩	磨製石斧未製品あるいは磨石・敲石か
156-5	57-5		10	試掘第9トレンチ		7.5	4.7	2.2	105.9	軟玉	完 表面採集 H14 EPMA分析 EYM10
156-6	57-6		6	I-V-18-7	IIb	6.5	3.0	(1.0)	26.3	珪化デイスイト	欠 H14 EPMA分析 EYM6
156-7	57-7		2	I-V-10	IVa	(4.5)	3.0	1.1	22.3	軟玉	欠 H14 EPMA分析 EYM2
156-8	57-8		4	I-V-15	IVa下~IVa上	4.0	2.3	0.9	11.2	軟玉	完 H14 EPMA分析 EYM4
157-9	57-9		8	I-W-17-12	包含	(5.2)	(6.0)	(2.8)	132.2	軟玉	欠 H14 EPMA分析 EYM8
157-10	57-10		1	I-U-24-2	IIa	(2.5)	(4.3)	(1.0)	10.3	緑泥石片岩	欠 H14 EPMA分析 EYM1
157-11	57-11		9	トレンチ6	包含	9.1	(5.5)	2.0	136.8	軟玉	欠 取上げ No1 H14 EPMA分析 EYM9
157-12	57-12		7	I-V-18	包含	6.9	5.2	1.8	88.7	軟玉	完 光波No2852 未製品か H14 EPMA分析 EYM7
157-13	57-13		3	I-V-14-3	NIIIa	(3.8)	(5.6)	(1.4)	30.7	軟玉	欠 H14 EPMA分析 EYM3
157-14	57-14		5	I-V-16-12	IIb	(2.6)	(1.6)	(0.5)	2.7	軟玉	欠 磨製石斧片? H14 EPMA分析 EYM5
玦状耳飾 (第157図)											
157-15	57-15		1	I-V-20-13	I	2.9	1.8	1.1	6.8	蛇紋岩	H11 EPMA分析 EYM 1
特殊磨石 (第159~178図)											
159-1	58-2		423	SB03	覆土	(13.8)	8.3	7.2	854.5	花崗	
159-2	58-1		488	SB03	覆土	13.8	7.3	8.2	943.5	安山	
159-3	58-3		533	SB03	覆土	12.5	6.7	6.3	600.1	安山	
159-4	58-5		1-b	SB06	覆土	(13.1)	6.4	7.8	693.8	花崗	
159-5	58-7		2-a	SB06	覆土	9.0	6.5	6.8	466.4	花崗	

表12-8 石器観察表

実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
159-6	58-6		2-b	SB06	覆土	13.2	6.8	9.6	1021.4	花崗	
160-7	58-4		9	SB05	覆土	18.0	6.8	8.4	1270.0	花崗	(注記ミス?SK32)
160-8	58-8		20	SB11	覆土	13.6	6.4	7.8	982.2	花崗	
160-9	58-9		204	SB11	覆土	17.1	6.5	7.8	1138.1	花崗	
160-10	59-1		205	SB11	覆土	16.8	7.6	8.4	1400.0	花崗	
160-11	59-3		206	SB11	覆土	14.1	6.7	6.1	686.1	花崗	
160-12	59-2		1211	SB11	覆土③	16.9	6.3	7.4	1155.2	安山	
161-13	59-4		201	SB12	覆土	14.0	7.7	7.0	854.9	安山	
161-14	59-7		SB14 の17	SK51a	覆土	15.0	6.7	7.6	866.3	花崗	
161-15	59-8		SB14 の3	SK51a	覆土	13.0	6.8	7.1	930.0	花崗	
161-16	59-6		SB14 の4	SK51a	覆土	17.3	8.5	5.9	1340.0	花崗	
161-17	59-9		SB14 の18	SK51a	覆土	14.0	6.9	8.1	993.9	花崗	
161-18	59-5		SB14 の19	SK51a	覆土	16.5	7.7	7.0	1300.0	花崗	
162-19	60-3		1013	SK51a	覆土	(13.4)	7.7	6.3	856.1	花崗	
162-20	60-1		1006	SK38	覆土	12.9	6.0	7.1	766.7	花崗	
162-21	60-2		1	SK43a	覆土	18.1	7.9	7.3	1350.0	安山	
162-22	60-4		1041	SK1069	覆土	11.4	6.6	6.3	619.0	安山	
162-23	60-5		1114	SK1072	覆土	11.7	7.0	7.3	855.4	花崗?	
162-24	60-6		1110	SK1072	覆土	13.6	7.0	7.8	953.4	花崗	
163-25	60-7		8	SH01	Ⅲ	15.6	6.7	7.0	888.2	花崗	
163-26	60-8		4	SH05	Ⅲ	14.4	5.9	7.7	845.4	安山	
163-27	60-9		2	SH05	Ⅲ	17.4	7.3	7.6	1163.2	花崗?	
163-28	61-1		3	SH05	Ⅲ	13.4	6.3	7.7	947.3	花崗	
163-29	61-4		1028	SH09	Ⅱ	(12.6)	6.3	6.0	626.3	花崗	
163-30	61-3		1027	SH09	Ⅱ	12.7	6.3	7.5	779.9	花崗	
164-31	61-2		1	SH06	Ⅱ or Ⅲ	13.8	6.2	6.2	796.7	花崗	
164-32	62-4		21	SH21	Ⅳ	13.6	7.3	7.3	895.3	安山	
164-33	62-3		16	SH21	Ⅳ	16.6	5.9	8.1	1147.2	花崗	
164-34	62-2		26	SH21	Ⅳ	15.2	6.5	7.0	982.4	花崗	
164-35	62-1		19	SH21	Ⅳ	14.3	8.1	7.3	991.5	安山か	
165-36	62-7		1	SH32	Ⅲ	18.7	6.7	7.5	1240.0	花崗	
165-37	62-6		2	SH32	Ⅲ	13.6	6.2	7.1	846.5	砂岩	
165-38	62-5		3	SH32	Ⅲ	14.8	6.9	6.1	819.5	花崗	
165-39	62-8		1	SH35	Ⅳ	12.3	7.4	8.7	1098.3	花崗	
165-40	63-1		1065	SH54	Ⅳ	14.3	8.2	6.8	1085.9	花崗	SW
165-41	63-2		1068	SH54	Ⅳ	15.0	6.6	6.1	758.3	花崗	SW
166-42	62-9		1	SH46	Ⅳ	10.3	5.8	6.0	478.3	花崗	
166-43	63-3		1001	SH57	Ⅳか	16.9	7.6	9.9	1540.0	花崗	
166-44	63-8		1	SH64	Ⅳ	16.1	9.1	8.6	1390.0	不明	
166-45	63-5		1001	SH66	Ⅳ	16.0	6.4	7.0	863.8	花崗	
166-46	63-6		8	SH68・69	Ⅲ～Ⅳ	17.7	6.0	6.2	861.4	花崗か	
166-47	63-7		4	SH68・69	Ⅲ～Ⅳ	(11.9)	(6.6)	(8.0)	818.9	花崗	
167-48	63-10		1	SH73	Ⅳ	(14.5)	8.4	7.2	1172.8	花崗	
167-49	63-9		2	SH73	Ⅳ	(13.8)	6.7	6.2	713.7	砂岩か	
167-50	63-4		1	SH75	Ⅳ	13.3	5.5	6.9	685.0	花崗	
167-51	64-5		1	I-U-10-13	Ⅲb	12.4	5.8	6.2	641.2	花崗	
167-52	64-1		3	I-U-15-1	包含	16.0	6.7	7.4	1096.0	花崗	
167-53	64-3		2	I-U-14-4	包含	17.8	7.3	8.4	1381.4	花崗	
168-54	64-4		4	I-U-15-2	Ⅳa	13.0	6.8	7.1	891.6	花崗	
168-55	64-2		5	I-U-20-16	Ⅳa	16.2	6.3	7.2	1032.8	花崗	取上げNo1
168-56	64-6		6	I-U-20-16	Ⅳa	15.1	6.7	8.6	1124.7	花崗	取上げNo2
168-57	64-7		7	I-U-20-16	Ⅳa	16.1	7.6	7.8	1162.3	花崗	取上げNo4
168-58	64-9		8	I-V-3	Ⅳa	11.7	7.0	7.1	766.3	花崗	
168-59	64-8		11	I-V-8-9	包含	18.9	7.5	7.9	1613.0	花崗	H10年度の掘り残し
169-60	65-1		9	I-V-4	Ⅳa	15.1	7.2	7.8	1145.5	花崗	
169-61	65-2		10	I-V-5	Ⅳa	14.6	6.2	7.8	953.6	砂岩	
169-62	65-3		12	I-V-8	包含	14.5	8.1	9.3	1234.3	花崗	取上げNo4
169-63	65-4		13	I-V-8	包含	13.9	7.0	7.2	993.4	花崗	取上げNo2
170-64	65-5		14	I-V-8	包含	13.6	6.0	6.0	661.6	花崗	取上げNo1
170-65	65-7		15	I-V-9	Ⅳa	15.4	7.1	7.4	1200.3	砂岩	
170-66	65-6		16	I-V-9	包含	17.2	7.0	7.9	1151.1	安山	トレンチ
170-67	66-1		17	I-V-10	Ⅳa	13.0	6.5	6.9	612.2	安山	
170-68	66-3		19	I-V-13	包含	13.8	5.8	7.7	854.7	花崗	光波No4247
170-69	66-2		18	I-V-11	包含	13.1	6.8	8.1	830.4	花崗	取上げNo3
170-70	66-4		20	I-V-15	包含	12.6	6.0	6.1	687.5	花崗	取上げ石器No1
171-71	66-5		21	I-V-15	Ⅲb	13.5	6.8	6.8	896.3	花崗	
171-72	66-6		22	I-V-15	Ⅳa上面	14.6	7.0	7.4	1009.0	安山	

表12-9 石器観察表

実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
171-73	66-7		23	I-V-15	IVa	14.1	5.5	6.5	670.1	花崗	先行東西トレンチ
171-74	66-9		24	I-V-15	IVa	16.8	7.8	7.5	1424.7	花崗	先行東西トレンチ
171-75	66-8		26	I-V-16-12	IIIb	14.8	6.2	6.1	772.3	砂岩	
171-76	66-10		25	I-V-15	IVa	15.5	6.2	8.1	1170.4	花崗	先行東西トレンチ
172-77	66-11		27	I-V-16-13	包含	19.0	5.7	7.0	1208.5	花崗	取上げNo5
172-78	67-3		28	I-V-18-1	IIb	16.9	8.0	7.2	1157.6	凝灰	
172-79	67-4		29	I-V-18-8	IIb	15.0	8.2	8.0	1070.8	不明	
172-80	66-12		30	I-V-18-8	IIb	15.7	6.3	7.0	941.6	花崗	
172-81	67-5		31	I-V-18	包含	12.1	5.6	6.3	635.0	花崗	光波No669
172-82	67-6		32	I-V-18	包含	15.3	5.9	7.8	1044.4	花崗	光波No2806
173-83	67-7		33	I-V-18	包含	14.7	6.0	7.9	978.7	花崗	光波No2871
173-84	67-10		35	I-V-19-1	IIb	15.5	6.2	7.6	874.0	不明	
173-85	67-8		34	I-V-18	包含	10.9	5.5	6.3	506.5	花崗	光波No3068
173-86	67-2		36	I-V-19-1	IIb	16.0	6.8	7.1	1007.2	花崗	
173-87	67-1		37	I-V-19-14	IIIb	13.1	6.9	6.1	674.0	安山	
173-88	67-9		38	I-V-20	IIIb下面～ IVa上面	19.8	8.1	7.7	1603.1	花崗	
174-89	67-12		39	I-V-22-1	IVa	21.7	8.8	8.1	2056.5	花崗	
174-90	67-11		42	I-V-23	包含	15.9	5.8	7.9	918.2	花崗	光波No4150
174-91	68-2		41	I-V-23-10	IIIb	15.2	6.6	8.0	991.7	花崗	
174-92	68-1		40	I-V-22	IVb	15.1	6.9	6.7	1003.0	花崗	
174-93	68-4		43	I-V-23	包含	11.5	6.6	5.9	583.1	花崗	光波No4155
174-94	68-3		44	I-V-23	包含	15.5	8.0	6.6	977.7	花崗	光波No4331
175-95	68-5		45	I-V-24-13	IIIb	17.3	5.4	6.2	872.8	花崗	取上げNo1
175-96	68-6		47	I-W-16	包含	15.9	9.0	7.1	1236.0	花崗	取上げ石器No2
175-97	68-7		46	I-W-11	包含	17.7	7.0	8.1	1309.7	花崗	取上げ石器No1
175-98	68-8		48	I-W-17-9	包含	13.9	5.2	8.5	880.9	花崗	
175-99	68-10		49	I-W-18-4	包含	9.7	3.5	4.8	232.7	花崗	
175-100	68-11		50	I-W-18	IVb直上	15.8	5.9	6.9	920.0	花崗	
175-101	68-9		51	I-W-19	包含	11.2	5.0	6.9	485.1	花崗	
176-102	69-3		52	II-B-1-1	IIb	14.1	7.8	6.8	969.5	花崗	
176-103	69-1		53	II-B-1-2	IIa	(8.7)	5.3	6.6	419.3	花崗	
176-104	69-7		56	II-B-3	IVa	13.3	8.5	7.4	1133.6	花崗	取上げNo2
176-105	69-2		55	II-B-1	包含	12.3	6.7	6.6	724.7	花崗	光波No753
176-106	69-4		54	II-B-1-7	IIa	16.6	6.9	6.9	837.7	安山	その1の1
176-107	69-5		57	II-B-7	包含	17.8	6.4	7.6	1163.2	花崗	光波No3365
176-108	69-8		58	II-B-7	包含	12.3	5.3	6.9	568.1	花崗	光波No3870
177-109	69-9		59	II-B-14	包含	13.6	6.9	7.4	888.8	花崗	光波No1616
177-110	69-6		60	II-B-14	包含	15.6	6.9	8.0	1200.3	安山か	光波No1617
177-111	70-1		61	II-C-6-6	包含	13.7	7.1	6.5	824.8	花崗	
177-112	70-2		62	II-C-12	包含	13.2	6.0	7.6	819.9	花崗	取上げNo13
177-113	70-4		63	試掘第2トレンチ		15.8	7.1	7.6	1164.0	花崗	
177-114	70-5		64	試掘第2トレンチ		18.0	7.0	7.0	1115.8	砂岩	
178-115	70-6		65	試掘第5トレンチ		19.3	8.7	6.8	1395.1	花崗	取上げNo7
178-116	70-8		66	試掘第5トレンチ		16.2	6.9	7.6	1238.1	花崗	
178-117	70-3		67	ベルト	IVa	13.2	7.4	7.6	907.4	花崗	西側土層観察用ベルトIVa層 黒土落ち込み出土
178-118	70-7		68	ベルト	IIIa～IVa	17.4	7.0	7.5	1264.0	安山	昨年度調査分土層観察用ベ ルト清掃時出土(黒色落込み)
178-119	70-9		69	ベルト	IIIa～IVa	14.2	7.7	8.4	1185.6	花崗	昨年度調査分土層観察用ベ ルト清掃時出土(黒色落込み)
砥石 (第158図)											
158-1	71-1		29	SB02	覆土	(4.1)	4.1	0.8	18.4	砂岩	有溝砥石
158-2	71-3		438	SB03	覆土	(3.8)	(3.1)	(1.0)	16.3	砂岩	有溝砥石
158-3	71-4		1012	SB12・SK49a・ SK50・SK71・SK72	覆土1黒	(8.8)	(6.0)	1.5	102.4	砂岩	
158-4	71-2		1007	SH68・69付近	III～IV	(2.4)	(5.6)	(0.9)	14.3	砂岩	有溝砥石
158-5	71-6		2	I-V-9	IVa	(3.9)	(4.9)	1.4	24.0	軽石	有溝砥石
158-6	71-5		4	I-V-11-15	IVa	(3.4)	(2.8)	1.3	16.2	砂岩	有溝砥石トレンチ内
158-7	71-8		11	I-V-22-1	IIIb	(5.0)	(2.3)	1.3	16.0	砂岩	有溝砥石
158-8	71-7		6	I-V-16-13	IIb	5.6	2.8	1.5	28.4	砂岩	有溝砥石
158-9	71-11		15	II-B-14	包含	16.1	12.9	5.9	1572.6	砂岩	光波No4958
158-10	71-10		18	試掘第6トレンチ	包含	9.2	6.5	5.4	356.9	砂岩	
158-11	71-9		17	試掘第6トレンチ	IIIa	7.0	2.9	1.3	44.4	凝灰	
磨石類 (第179・180図)											
179-1	72-2		202	SB11	覆土	10.3	9.9	5.0	741.9	花崗	
179-2	72-1		201	SB11	覆土	9.0	8.3	4.5	471.0	頁岩	
179-3	72-3		169	SB12	覆土	8.0	6.3	4.5	289.7	安山	凹石
179-4	72-4		1	SK03	覆土	11.9	11.4	4.8	820.7	安山	
179-5	72-6		1027	SK1068	覆土	10.4	(6.3)	5.0	457.9	安山	
179-6	72-7		1111	SK1072	覆土	10.2	9.3	5.3	668.9	安山	
179-7	72-5		1001	SK1048	覆土	9.3	7.9	4.6	474.0	安山	

表12-10 石器観察表

完…完形、欠…欠損

実測	写真	アルカ	整理	地点名	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
179-8	72-8		1	SH52	IV層	10.0	9.0	4.0	538.4	花崗	
179-9	72-9		2	I-V-3	IVa層	10.6	8.0	4.5	542.9	砂岩	
179-10	73上4		3	I-V-9	IVa層	8.9	8.0	5.4	548.8	花崗	凹石
179-11	72-12		6	I-V-14-4	IVb層	7.5	6.1	6.5	390.0	安山	
179-12	72-13		8	I-V-18	包含層	10.0	7.1	4.5	399.3	安山	光波No.5125
179-13	72-14		10	I-V-21-9	IVa層	9.0	7.9	4.4	450.2	安山	
179-14	72-11		7	I-V-18	包含層	9.9	9.2	4.2	530.3	安山	光波No.2732
179-15	72-10		12	I-V-23-13	SⅢ層	10.9	9.1	4.3	556.6	安山	
180-16	73上3		11	I-V-22-13	IVa層	11.7	10.3	5.0	812.5	安山	凹石
180-17	73上1		1	I-U-15-4	IVa層	9.7	9.4	4.6	555.3	安山	
180-18	73上2		13	Ⅱ-B-9-1	包含層	10.0	8.6	5.9	739.1	花崗	NR01
180-19	73上5		15	試掘第1トレンチ		9.8	8.7	3.6	382.1	花崗	凹石
台石 (第181~183図)											
181-1	73下1		1016	SB02	覆土	(27.6)	(20.5)	(6.1)	3800	花崗	
181-2	73下3		1-b	SB14	覆土	41.6	37.8	16.1	34400	花崗	遺構外 I-U-15
181-3	73下2		170	SB12	覆土	19.6	15.3	6.4	3280	花崗	
181-4	73下5		1009	SK51a	覆土	33.8	(27.2)	10.8	1740	花崗	
181-5	73下8		1040	SK1069	覆土	37.8	28.2	13.6	22200	花崗	
181-6	73下4		2	SK43a	覆土	(14.8)	(13.7)	(7.0)	1890	安山	
182-7	73下7		2	SK1061	覆土	(43.7)	(27.4)	10.4	18600	安山	
182-8	73下6		3	SK1061	覆土	(25.0)	(24.9)	9.6	9400	花崗	
182-9	74-1		12	SH01	Ⅲ層	23.7	19.8	8.8	5100	花崗	
182-10	74-2		1	SH28	Ⅲ層	27.6	23.3	7.1	7200	花崗	
182-11	74-3		1001	SH42	IV層	42.5	32.0	13.2	18400	安山	
182-12	74-4		1	I-U-14	IVb層	40.3	28.4	11.9	21800.0	花崗	
183-13	74-6		2	I-V-13-16	包含層	(42.7)	(36.8)	(8.8)	17500.0	安山	取上げNo.1
183-14	74-5		4	I-V-23	包含層	29.1	17.6	7.8	5700.0	不明	取上げNo.1
183-15	74-7		3	I-V-20	Ⅲb層	(40.8)	(36.7)	(12.5)	25700.0	安山	
183-16	74-10		5	I-V-23	包含層	53.4	39.5	13.9	37400.0	花崗	
184-17	74-8		9	Ⅱ-B-9	包含層	(41.4)	(34.4)	15.0	30000.0	花崗	取上げNo.1
184-18	74-9		10	Ⅱ-B-10	包含層	(30.6)	(30.0)	(8.9)	12700.0	花崗	取上げNo.1

表12-11 石器観察表

第8章 付 表

—適用外を示す。幅は (mm) ※刃部形態形成加工

番号	アルカ器種	残存率	形態	刃部							素材			所見
				形態	角	幅	加工	加工方向	※	使用痕	技術	形態	打面	
1	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	裏面に素材面を残す。
2	凹基鏃	完形	逆U	—	—	—	—	—	HP	—	不明	剥片	不明	
3	凹基鏃	先欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
4	凹基鏃	両脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
5	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
6	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
7	凹基鏃	先欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
8	凹基鏃	完形	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	先端欠損後、再加工して再利用している。
9	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	片脚欠損後、再加工している。
10	凹基鏃	先、脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
11	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
12	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
13	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	側辺の脚部付近に浅い抉りが作出される。
14	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
15	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
16	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	摩耗	不明	剥片	不明	背面に自然面をのこす。
17	凹基鏃	両脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
18	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	裏面に素材面を残す。
19	凹基鏃	完形	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
20	凹基鏃	完形	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
21	凹基鏃	片脚	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
22	凹基鏃	完形	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
23	凹基鏃	先、片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	表裏に素材面を残す。
24	凹基鏃	完形	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
25	凹基鏃	片脚欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
26	凹基鏃	先欠	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	表裏に素材面を残す。
27	石鏃	完形	棒状	—	—	—	—	—	HP	摩耗顕著	D	横長剥片	不明	
28	尖頭器	基部欠	—	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	
29	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP/急角度	摩耗顕著	D	横長剥片	不明	
30	有舌尖頭器	完形	—	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	押圧剥離の技術は、28に比べて未熟である。
31	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	摩耗顕著	HD	剥片	不明	
32	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	微細剥離	HD	剥片	平坦	加工は刃部のみ
33	石鏃	先欠	棒状	—	—	—	—	—	HP	摩耗	不明	剥片	不明	
34	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	微細剥離	HD	横長剥片	不明	やや大形品
35	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	摩耗	D	剥片	不明	
36	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP/急角度	摩耗	D	剥片	自然	刃部右側辺だけ刃部再生されている
37	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	微細剥離	D	剥片	不明	
38	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	刃部のみ加工されている。
39	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	微細剥離	D	剥片	不明	
40	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	微細剥離	D	横長剥片	平坦	刃部のみ加工されている。
41	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	D	横長剥片	不明	基部の抉りは未作出、素材剥片と二次加工剥離面に二重パティナが見られる。
42	石鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	微細剥離	D	剥片	不明	
43	石鏃?	両端部欠	—	—	—	—	—	—	SP	—	不明	剥片	不明	ヤス状の形態
44	両極石器	完形	—	—	—	—	—	—	HvD	刃潰れと刃こぼれ	HD	横長剥片	不明	
45	搔器	完形	—	—	—	—	—	—	折取・HD	微細剥離	D	剥片	不明	両側辺を折取、上下端部を加工している。下端部には微細剥離があり刃部と推定される。
46	両極石器	完形	—	—	—	—	—	—	HvD	刃こぼれ	D	剥片	不明	
47	両極石器	完形	—	—	—	—	—	—	HvD	刃潰れと刃こぼれ	D	剥片	不明	

表13-1 アルカ実測石器一覧

番号	アルカ器種	残存率	形態	刃部							素材			所見
				形態	角	幅	加工	加工方向	※	使用痕	技術	形態	打面	
48	両極石器	完形	—	—	—	—	—	—	HvD	刃こぼれ	D	剥片	不明	
49	両極石器	完形	—	—	—	—	—	—	HvD	刃こぼれ	D	剥片	不明	
50	両極石器	完形	—	—	—	—	—	—	HvD	刃潰れと刃こぼれ	D	剥片	不明	
51	両極石器	完形	—	—	—	—	—	—	HvD	刃こぼれ	D	剥片	不明	
52	搔器	完形	—	円刃	43	—	SP	正	SP	微細剥離	D	横長剥片	不明	
53	搔器	完形	—	円刃	56	—	SP	正	SP	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	
54	削器?	完形	—	直刃	42	—	SP	正	SP	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	
55	削器	完形	—	外湾刃	42	—	HP	正	HP	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	刃部加工は、不整形な押圧剥離でやや鋸歯状
56	搔器	完形	—	直刃	52	—	SP	正	折取・SP	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	基部の側辺には、押圧剥離と縁辺部摩耗がみられ、着柄のための加工と着柄痕であると考えられる。
57	搔器	完形	—	斜刃	58	—	HD/鋸歯	反	HvD	微細剥離	HD	横長剥片	不明	
58	搔器	完形	—	円刃	50	—	SP	正	SD	微細剥離・摩耗	HD	横長剥片	平坦	素材剥片の左側辺に弧状の刃部を整形。素材は、背面の一部に自然面を残す。
59	搔器	完形	—	円刃	62	—	SP	正	SD・SP	微細剥離	HD	横長剥片	自然	素材は、横長剥片でその両側辺に正方向の剥離で急角度の刃部が整形されている。刃部は、上端部も刃部の可能性がある。
60	削器	完形	—	直刃	40	—	HP/鋸歯	正・一部反	HP	両側辺の縁辺の摩耗顕著	HD	横長剥片	平坦	右側辺の縁辺に摩耗が顕著にみられ、着柄による可能性がある。
61	使用痕剥片	完形	—	—	35	—	なし	—	なし	微細剥離	HD	横長剥片	線状	剥片の末端辺に正面側に微細剥離
62	搔器	完形	—	円刃	45	—	D・HP	両面	折取・HP	微細剥離	不明	剥片	不明	
63	搔器	完形	—	円刃	52	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	切子	素材剥片の右側辺に弧状の刃部を整形。素材剥片には、剥離の前に鋸歯状の加工がなされており、礫器などの刃部再生時の剥片の可能性がある。
64	器種不明	完形	—	直刃	38	—	SP	正	SP	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	両側辺に刃部を整形
65	搔器	刃部断片	—	円刃	54	—	SP	反	なし	微細剥離・摩耗	D	横長剥片	不明	素材剥片の末端辺に刃部を整形
66	搔器	完形	—	円刃	54	—	HP/鋸歯	反	HP	—	HP	横長剥片	平坦	搔器の未成品の可能性
67	搔器	完形	—	円刃	58	—	P	正	HD	刃潰れ	HD	横長剥片	不明	
68	搔器	完形	—	凸刃	57	—	SP	正	SP	微細剥離・摩耗	HD	縦長剥片	平坦	刃部は、素材剥片の左側に凸状に作り出されている。素材剥片の末端辺には、両面加工で整形されており形態形成の加工であると考えられる。
69	削器	完形	—	外湾刃	38	—	HD/鋸歯	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	自然	刃部のみ加工されている。
70	搔器	刃部断片	—	円刃	61	—	HP	正	HD・HP	微細剥離	不明	横長剥片	不明	弧状の刃部の弧の両端部に挟り部が作出され刃部の範囲が決められている。
71	搔器	完形	—	円刃	62	—	HP	反	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	刃部のみ加工されている。
72	搔器	完形	—	円刃	66	—	SP	正	SP	微細剥離	不明	剥片	不明	優品である。全周辺部が加工されている。
73	削器	端部欠	—	直刃	35	—	SP	正・反	SP	微細剥離	SD	剥片	平坦	両側辺に刃部を整形、素材剥片は打点が明瞭でなく、リップがたつ剥片である。
74	素刃搔器	完形	—	円刃	40	—	なし	正	SP	微細剥離	HD	横長剥片	不明	素材剥片の左側辺の弧状になる部分に微細剥離顕著
75	使用痕剥片	完形	—	直刃	40	—	なし	なし	なし	微細剥離	不明	横長剥片	不明	末端辺に微細剥離顕著

表13-2 アルカ実測石器一覧

第8章 付 表

番号	アルカ器種	残存率	形態	刃部							素材			所見	
				形態	角	幅	加工	加工方向	※	使用痕	技術	形態	打面		
76	使用痕剥片	完形	—	外湾刃	38	—	なし	なし	なし	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	主要剥離面側の末端辺にみられる剥離は微細剥離である。
77	搔器	左側欠	—	円刃	50	—	SP	反	SP	なし	微細剥離	不明	横長剥片	不明	
78	削器	完形	—	直刃両刃	35	—	HP/鋸齒	反+正	なし	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	刃部の鋸齒は、端部にしか残存していない。
79	削器	完形	—	直刃	36	—	HP/鋸齒	反	なし	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	刃部の鋸齒は、細かい。
80	削器	完形	—	直刃	45	—	HP	正	なし	なし	微細剥離	D	縦長剥片	不明	両側辺が刃部と推定され、左側と右側では剥離面の様相が違う。左側は刃潰し状の微細剥離で右側は押圧剥離で整形されている。
81	二次加工剥片	完形	—	—	—	—	—	—	HP	なし	なし	HD	横長剥片	自然	右側辺に見られる押圧剥離は不整形なもので刃部加工とは断定できない
82	搔器	完形	—	円刃	40	—	SP	正	折取・SP	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
83	搔器	完形	—	円刃	46	—	SP	正	なし	なし	微細剥離	HD	横長剥片	不明	両側辺が刃部
84	搔器	完形	—	円刃	60	—	SP	反	SP	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	主体となる刃部は末端部のものであるが、右側にも正方向の剥離で整形された刃部が作出されているようである。
85	二次加工剥片	完形	—	—	—	—	—	—	HD	なし	なし	HD	横長剥片	自然	
86	削器	完形	—	直刃	52	—	SP	正	SP	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	不明	
87	剥片	完形	—	—	—	—	—	—	適用外	なし	なし	HD	縦長剥片	不明	右側辺の不規則な微細剥離は事故剥離と推定
88	搔器	完形	—	直刃	62	—	P	反	HP	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	微細剥離が急角度に形成される。
89	削器	完形	—	円刃両刃	30	—	SP	正・反	SP	なし	なし	D	剥片	不明	風化顕著
90	削器	完形	—	円刃両刃	45	—	SP	反+正	なし	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
91	篋状石器	完形	—	円刃両刃	58	—	HI	反+正	HI	なし	微細剥離	HD	横長剥片	不明	刃部は両刃
92	中形搔器	完形	—	直刃	60	—	HD+HP	反	HD	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
93	搔器	完形	—	円刃	50	—	SP	正	折取・HD	なし	微細剥離	HD	横長剥片	不明	
94	二次加工	完形	—	—	—	—	—	—	HD・HP	なし	なし	HD	縦長剥片	不明	石器の未製品あるいは完成品の可能性があるが刃部が不明であるため二次加工剥片とした
95	搔器	完形	—	円刃	52	—	SP	正	SP	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	左側は素材剥片が剥離された際の縦折れ面である。
96	削器	完形	—	不整	48	—	HP	正	HP	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	右側が刃部と推定される。
97	削器	完形	—	外湾刃	36	—	SP	反	なし	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	刃部微細剥離はやや急角度に形成される。
98	搔器	完形	—	外湾刃	58	—	SP	正	SP	なし	微細剥離	D	剥片	不明	上端部も刃部の可能性あり。
99	二次加工剥片	完形	—	—	—	—	—	—	HD	—	—	D	横長剥片	不明	石器未製品
100	尖頭削器	完形	—	逆三角	43	—	HP	反	なし	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
101	搔器	完形	—	円刃	57	—	HP	正	HP	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	
102	搔器	完形	—	外湾刃	58	—	HP	正	HP	なし	微細剥離	D	剥片	不明	
103	搔器	完形	—	外湾刃	54	—	SP	正	SP	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	
104	搔器	完形	—	円刃	54	—	SP	正	なし	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	
105	搔器	完形	—	外湾刃	58	—	SP	反	HD	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	
106	搔器	完形	—	外湾刃	43	—	HP	正	HP	なし	微細剥離	HD	横長剥片	自然	
107	搔器	完形	—	円刃	60	—	HD+HP	正	HD	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	

表13-3 アルカ実測石器一覧

番号	アルカ器種	残存率	形態	刃部						素材			所見	
				形態	角	幅	加工	加工方向	※	使用痕	技術	形態		打面
108	削器	完形	—	外湾刃	51	—	SP	反	HP	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
109	搔器	完形	—	円刃	58	—	HP	反	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	
110	搔器	完形	—	円刃	54	—	HP	反	なし	微細剥離	HD	横長剥片	不明	上端部も刃部の可能性あり。
111	搔器	完形	—	円刃	50	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
112	搔器	完形	—	円刃	60	—	HP	反+正	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	
113	搔器	完形	—	円刃	50	—	SP	正	SP	微細剥離	D	縦長剥片	不明	
114	搔器	左側欠	—	直刃	52	—	SP	反	なし	微細剥離	HD	横長剥片	自然	
115	削器	完形	—	不整	45	—	SP	正	SP	微細剥離	HD	縦長剥片	切子	素材剥片の末端辺がわずかに摩耗している。
116	搔器	完形	—	直刃	52	—	HP	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	自然	
117	搔器	完形	—	円刃	42	—	SP	反	なし	微細剥離	HD	横長剥片	自然	
118	搔器	完形	—	円刃	50	—	SP	正	SP	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	
119	搔器	完形	—	円刃	56	—	HP/鋸歯	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
120	搔器	完形	—	円刃	60	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	自然	
121	使用痕剥片	完形	—	直刃	40	—	—	—	適用外	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	使用痕剥離は背面側にしか見られない。
122	搔器	完形	—	円刃	54	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	自然	
123	削器	完形	—	外湾刃両刃	40	—	SP	反+正	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	
124	削器	完形	—	直刃両刃	30	—	SP	正・反	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	
125	搔器	完形	—	円刃	40	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	両側辺に刃部が作出されている。おそらく右側辺が主体的な刃部と推定される。刃角は40度、左側は微細剥離と下端部に急角度の押圧剥離で刃部が形成される。刃角は58度である。
126	削器	完形	—	直刃	42	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	
127	搔器	完形	—	外湾刃	58	—	SP	正	折取	微細剥離	HD	横長剥片	自然	
128	搔器	完形	—	円刃	50	—	SP	正	SP	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
129	搔器	完形	—	斜刃	45	—	SP	反	HP	微細剥離	HP	縦長剥片	自然	
130	削器	完形	—	外湾刃	40	—	SP	正	SP	微細剥離	SP	縦長剥片	不明	両側辺に加工があるが、右側辺が刃部と推定される。左側は反方向と正方向の剥離で両面加工されている。
131	搔器	完形	—	円刃	60	—	SP	反	SP	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	
132	搔器	完形	—	円刃	60	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	
133	削器	完形	—	直刃	37	—	SP	正・反	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	刃部は細かな押圧剥離が両面に施されている。
134	削器	完形	—	外湾刃両刃	50	—	SP	正	SP	微細剥離	D	縦長剥片	不明	
135	搔器	完形	—	円刃	56	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
136	搔器	完形	—	円刃	61	—	D+HP	正	折取	微細剥離	D	横長剥片	不明	刃部はやや鋸歯状になっている。
137	搔器	完形	—	円刃	60	—	HP	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	左側辺にも刃部の可能性がある。
138	搔器	左側欠	—	外湾刃	34	—	SP	正	SP	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
139	搔器	完形	—	円刃	36	—	SP	正・反	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	上端部の刃部の可能性あり。

表13-4 アルカ実測石器一覧

番号	アルカ器種	残存率	形態	刃部						使用痕	技術	素材		所見
				形態	角	幅	加工	加工方向	※			形態	打面	
140	搔器	完形	—	円刃	58	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	切子	左側、上端部にも微細剥離がみられ刃部の可能性がある。
141	篋状石器	完形	—	直刃	56	—	HP	反+正	D	微細剥離	D	横長剥片	不明	
142	搔器	完形	—	直刃	66	—	HP	正	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	自然	使用痕分析から右側辺の急角度の加工も刃部であることが判明し、末端部の刃部と同じ使い方と使用痕光沢がみられた。それぞれ独立した刃部である。
143	大形搔器	左側欠	—	外湾刃	64	—	HD	正	不明	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	刃部はやや鋸歯状になる。
144	搔器	左側欠	—	円刃	45	—	SP	正	不明	微細剥離	D	横長剥片	不明	
145	搔器	完形	—	直刃	52	—	HP	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	自然	刃部は不整形な押圧剥離で整形され、使用痕は刃部に直行している。
146	搔器	完形	—	円刃	58	—	SP	正	SP	微細剥離・摩耗	HD	横長剥片	自然	上端部にも顕著な摩耗がみられ、刃部として使用されたようである。
147	両極石器	完形	—	内湾刃	45	—	HvD	正・反	HD	微細剥離	D	剥片	不明	刃部は刃つぶれをおこしている。
148	削器	完形	—	直刃	42	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	縦長剥片	平坦	
149	搔器	完形	—	円刃	50	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
150	搔器	上端部欠	—	円刃	70	—	SP	正	HD・SP	微細剥離	D	横長剥片	不明	
151	小形搔器	完形	—	円刃	52	—	SP	正	SP	微細剥離	D	横長剥片	不明	
152	二次加工剥片	完形	—	—	—	—	—	—	SP	—	D	横長剥片	不明	
153	二次加工剥片	上端部欠	—	—	—	—	—	—	HP	—	D	横長剥片	不明	
154	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	HD	微細剥離	D	横長剥片	平坦	
155	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	不明	剥片	不明	形が不整形であり失敗品の可能性がある。
156	削器断片	断片	—	不明	58	—	SP	正	不明	微細剥離	D	縦長剥片	不明	両側辺に使用痕が見られ、線状痕は刃部に平行する。右側辺は反方向に刃部加工が施される。
157	削器断片	右側欠	—	直刃両刃	40	—	SP	正・反	なし	微細剥離	HD	横長剥片	自然	
158	凹基鏃未製品	完形	凹基	—	—	—	—	—	HP	—	HD	横長剥片	不明	
159	二次加工剥片	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	D	縦長剥片	不明	
160	石鏃未成品	完形	—	—	—	—	—	—	SP	—	不明	横長剥片	不明	
161	使用痕剥片	完形	—	—	—	—	—	—	適用外	微細剥離	HvD	横長剥片	不明	
162	搔器	完形	—	円刃	42	—	SP	正	なし	微細剥離	HD	横長剥片	自然	
163	石鏃未成品?	完形	—	—	—	—	—	—	SP	微細剥離	D	横長剥片	不明	
164	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	HD	—	HD	横長剥片	不明	
165	搔器断片	完形	—	不明	68	—	HP	正	不明	—	D	剥片	不明	
166	使用痕剥片	完形	—	—	—	—	—	—	適用外	—	HD	横長剥片	自然	
167	円基鏃	完形	円基	—	—	—	—	—	HP	—	HD	横長剥片	不明	
168	搔器	完形	—	外湾刃	48	—	HP	正	折取・HD	微細剥離	D	横長剥片	不明	
169	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	HP	微細剥離・摩耗	HD	剥片	不明	
170	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	HP	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
171	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	なし	微細剥離	HD	横長剥片	平坦	
172	二次加工剥片	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	D	剥片	不明	

表13-5 アルカ実測石器一覧

番号	アルカ器種	残存率	形態	刃部							素材			所見	
				形態	角	幅	加工	加工方向	※	使用痕	技術	形態	打面		
173	凹基鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	—	HP	—	D	横長剥片	不明	
174	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	HP	微細剥離	—	D	横長剥片	不明	
175	石錐	上端部欠	—	—	—	—	HP	正・反	HP	微細剥離	—	D	横長剥片	不明	
176	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	SP	—	—	不明	剥片	不明	
177	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	—	不明	剥片	不明	
178	器種不明	完形	—	—	—	—	—	—	SP	微細剥離・摩耗	—	不明	縦長剥片	不明	右側と末端辺の裏面側に使用痕光沢が見られる。
179	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	なし	微細剥離・摩耗	—	HD	縦長剥片	不明	
180	凹基鏃	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	—	HD	横長剥片	不明	
181	凹基鏃	完形	—	—	—	—	—	—	SP	—	—	不明	剥片	不明	
182	凹基鏃	完形	逆U	—	—	—	—	—	SP	—	—	不明	剥片	不明	
183	平基鏃	左側上端欠	平基	—	—	—	—	—	SP	—	—	D	剥片	不明	
184	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	HP	微細剥離・摩耗	—	D	剥片	不明	
185	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	—	D	剥片	不明	
186	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	—	D	剥片	不明	
187	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	HP	微細剥離・摩耗	—	HD	剥片	平坦	
188	凹基鏃	完形	凹基	—	—	—	—	—	HP	—	—	D	横長剥片	不明	
189	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	—	D	剥片	不明	
190	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	HP	微細剥離	—	D	剥片	平坦	
191	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	なし	微細剥離	—	HD	縦長剥片	平坦	
192	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	—	D	剥片	不明	
193	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	—	D	剥片	不明	
194	平基鏃	完形	平基	—	—	—	—	—	HP	—	—	D	横長剥片	不明	
195	平基鏃	完形	平基	—	—	—	—	—	HP	—	—	D	横長剥片	不明	
196	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	—	D	剥片	平坦	
197	石鏃未製品	完形	凹基	—	—	—	—	—	SP	—	—	D	剥片	不明	
198	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	SP	—	—	不明	剥片	不明	
199	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HP	—	—	不明	剥片	不明	本来は石錐であった可能性があり、それを再加工しているようである。
200	石錐	完形	—	—	—	—	HP/急角度	—	HP	なし	—	HD	横長剥片	不明	
201	凹基鏃	完形	—	—	—	—	—	—	SP	—	—	D	剥片	不明	
202	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	SP	—	—	D	横長剥片	不明	
203	石錐	完形	—	—	—	—	HP	正・反	HP	微細剥離	—	HD	剥片	自然	
204	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HD・HP	—	—	D	剥片	不明	
205	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	SP	—	—	D	剥片	不明	
206	凹基鏃	完形	凹基	—	—	—	—	—	SP	—	—	D	剥片	不明	
207	凹基鏃	完形	凹基	—	—	—	—	—	HP	—	—	D	剥片	不明	
208	平基鏃	完形	平基	—	—	—	—	—	SP	—	—	D	剥片	不明	

表13-6 アルカ実測石器一覧

第8章 付 表

番号	アルカ器種	残存率	形態	刃部							素材				所見
				形態	角	幅	加工	加工方向	※	使用痕	技術	形態	打面		
209	石鏃未製品	完形	—	—	—	—	—	—	—	HP	—	不明	剥片	不明	細かい押圧剥離で尖頭部から整形
210	石鏃	完形	—	—	—	—	SP	正・反	SP	微細剥離・摩	—	D	横長剥片	不明	
211	石鏃	完形	—	—	—	—	SP	正・反	SP	微細剥離	—	HD	剥片	平坦	
212	打製石斧	基部欠	短冊	偏刃	—	—	不明	不明	HD	摩耗・刃こぼれ	不明	不明	剥片	不明	刃部には顕著な土ズレ痕があり、表面側に顕著である。石材は泥岩。
213	打製石斧	完形	短冊	直刃	—	—	不明	不明	HD	摩耗・刃こぼれ	不明	不明	横長剥片	不明	刃部刃こぼれ顕著、表面側に摩耗顕著。石材はホルンフェルス
214	打製石斧	完形	短冊	円刃	—	—	不明	不明	HD	摩耗・刃こぼれ	不明	不明	剥片	不明	上下端部の土ズレ痕明瞭で両端部が刃部として用いられたようである。表面側に摩耗顕著。
215	打製石斧	基部欠	短冊	円刃	—	—	不明	不明	HD	刃こぼれ	不明	不明	剥片	不明	
216	打製石斧	完形	短冊	円刃	—	—	不明	不明	HD・研磨	摩耗	不明	不明	剥片	不明	側面と表面が部分的に研磨されている。石材は結晶片岩。
217	大形刃器	完形	—	直刃 両刃	70	77.5	HD	反+正	HD	微細剥離・刃潰れ	不明	不明	剥片	不明	刃部には微細剥離と刃潰れが顕著
218	大形刃器	完形	—	鋸齒片刃	80	57.5	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	不明	剥片	不明	
219	大形刃器	完形	—	鋸齒片刃	78	70	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	不明	剥片	不明	刃部は不整形な鋸齒状で刃こぼれ、刃潰れが目立つ
220	大形刃器	完形	—	鋸齒片刃	88	50	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	不明	剥片	不明	221と接合、刃部は不整形な鋸齒状で刃こぼれ、刃潰れが目立つ
221		完形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	220と接合
222	大形刃器未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HD	—	不明	不明	剥片	不明	
223	大形刃器	完形	—	不整 両刃	78	77	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	不明	剥片	不明	
224	大形刃器	完形	—	円刃 両刃	86	43.2	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	不明	剥片	不明	
225	大形刃器	完形	—	鋸齒片刃	70	60	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	不明	剥片	不明	
226	大形刃器	完形	—	不整 両刃	86	86	HD	正・反	HD	刃こぼれ	なし	なし	垂角礫	なし	
227	小形刃器	完形	—	円刃 両刃	86	37	HD	正・反	HD	刃潰れ	不明	不明	剥片	不明	刃部縁辺は相当潰れており、一種をハンマーを想定させる。
228	大形刃器	完形	—	円刃 両刃	86	72	HD	正・反	HD	刃潰れ	不明	不明	剥片	不明	
229	小形刃器	完形	—	直刃 両刃	64	40	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	不明	剥片	不明	刃部は不整形な鋸齒状になる。
230	大形刃器	完形	—	直刃 両刃	84	78.2	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	不明	剥片	不明	刃縁の下見は鋸齒状になる
231	小形刃器	完形	—	直刃片刃	84	42.5	HD	反	折取	刃こぼれ	なし	なし	垂角礫	なし	
232	小形刃器	完形	—	鋸齒片刃	75	51	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	不明	剥片	不明	
233	中形刃器	完形	—	直刃片刃	88	50	HD	反	折取	刃こぼれ・刃潰れ	なし	なし	垂角礫	なし	
234	大形刃器	完形	—	直刃片刃	78	96	HD	反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	不明	剥片	不明	
235	中形刃器	完形	—	直刃 両刃	82	53	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	不明	剥片	不明	
236	大形刃器	完形	—	直刃 両刃	90	79	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	不明	剥片	不明	
237	大形刃器	完形	—	直刃 両刃	80	93	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	不明	剥片	不明	
238	大形刃器	完形	—	直刃 両刃	80	86	HD	正・反	HD	刃こぼれ	なし	なし	垂角礫	なし	左側刃にも潰れがみられ、刃部として使用された可能性がある。
239	大形刃器	完形	—	直刃片刃	80	67.5	HD	反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	なし	なし	垂角礫	なし	刃部は鋸齒状になっている。

表13-7 アルカ実測石器一覧

番号	アルカ器種	残存率	形態	刃部							素材			所見
				形態	角	幅	加工	加工方向	※	使用痕	技術	形態	打面	
240	大形搔器	完形	—	斜刃	68	39	HD	反	HD	刃こぼれ	HD	横長剥片	平坦	
241	二次加工剥片	下端部欠	—	—	—	—	—	—	HD	—	不明	剥片	不明	大形搔器、刃器の未製品か。欠損部があるため不明
242	大形搔器	完形	—	直刃片刃	72	33	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
243	大形刃器	完形	—	不整両刃	75	63	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	剥片	不明	
244	中形刃器	完形	—	直刃片刃	63	63	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
245	中形搔器	完形	—	直刃片刃	88	31	HD	正	HD	刃こぼれ・刃潰れ	HD	横長剥片	平坦	
246	大形刃器	完形	—	不整片刃	90	90	HD	反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	なし	垂角礫	なし	刃部は不整な鋸歯状になる
247	大形刃器未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HD	—	HD	横長剥片	不明	素材剥片の打面部分に加工を施している。
248	大形搔器	完形	—	直刃片刃	66	108	HD	反	折取	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
249	中形刃器	完形	—	不整両刃	80	66	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
250	大形搔器	右側欠	—	直刃片刃	60	—	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	横長剥片	不明	
251	中形刃器	完形	—	不整片刃	74	50	HD	反	HD	刃こぼれ	HD	横長剥片	自然	
252	小形刃器	完形	—	直刃両刃	60	49	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	横長剥片	自然	
253	小形刃器	完形	—	直刃両刃	70	52	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	HD	横長剥片	自然	
254	大形搔器	完形	—	直刃片刃	71	123	HD	正	HD	刃こぼれ	HD	横長剥片	自然	
255	中形刃器	完形	—	直刃両刃	58	54	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
256	石器未製品	完形	—	—	—	—	—	—	HD	—	不明	横長剥片	不明	
257	大形搔器	完形	—	直刃片刃	58	82	HD	反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	剥片	不明	
258	中形刃器	完形	—	直刃片刃	82	60	HD	反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	なし	垂角礫	なし	左側にも潰れが顕著で刃部として使用された可能性がある。
259	中形刃器	断片	—	—	—	—	—	—	HD	—	不明	剥片	不明	
260	中形刃器	完形	—	円刃両刃	87	74	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	剥片	不明	
261	中形刃器	完形	—	斜刃片刃	70	52	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
262	中形刃器	完形	—	直刃両刃	62	84	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
263	中形刃器	完形	—	斜刃片刃	70	37	HD	反+正	HD	刃こぼれ	不明	縦長剥片	不明	
264	中形刃器	完形	—	直刃両刃	84	66	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	剥片	不明	
265	大形刃器	完形	—	円刃両刃	64	99	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
266	大形刃器	完形	—	斜刃片刃	52	75	HD	正・反	HD	刃こぼれ	なし	扁平礫	なし	
267	大形刃器	刃部断片	—	直刃両刃	50	92	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
268	籠状石器	完形	—	円刃片刃	64	48	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	横長剥片	不明	
269	中形刃器	完形	—	円刃両刃	70	75	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	なし	楕円礫	なし	右側辺にも顕著な潰れがみられ、敲石のような使われ方をしたようである。
270	大形搔器	完形	—	直刃片刃	66	126	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
271	器種不明	完形	—	—	—	—	—	—	HD	—	不明	横長剥片	不明	二次加工の剥離面の様相は大形・中形刃器類と同じである。

表13-8 アルカ実測石器一覧

第8章 付 表

番号	アルカ器種	残存率	形態	刃部						素材			所見	
				形態	角	幅	加工	加工方向	※	使用痕	技術	形態		打面
272	大形搔器	左側欠	—	直刃片刃	76	—	HD	正	不明	刃こぼれ・刃潰れ	不明	横長剥片	不明	
273	中形搔器	完形	—	円刃片刃	75	38	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
274	小形刃器	完形	—	直刃両刃	78	73	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
275	大形刃器	完形	—	直刃両刃	70	99	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	刃部の下見は鋸歯状になる。
276	大形刃器	完形	—	直刃両刃	75	81	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	剥片	不明	
277	大形刃器	完形	—	円刃両刃	70	83	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
278	中形刃器	完形	—	直刃片刃	78	76	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
279	大形搔器	完形	—	直刃片刃	75	94	HD	反	HD	刃こぼれ・摩耗	なし	垂角礫	なし	
280	中形刃器	完形	—	直刃両刃	84	40	HD	正・反	HD・折取	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
281	中形刃器	完形	—	不整両刃	82	67	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
282	中形刃器	完形	—	直刃両刃	66	55	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	縦長剥片	自然	
283	大形搔器	完形	—	直刃鋸歯片刃	60	65	HI	反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	自然	二重パティナが見られる。
284	小形刃器	完形	—	斜刃鋸歯片刃	70	35	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	剥片	不明	
285	小形刃器	完形	—	斜刃片刃	80	52.5	HD	正・反	HD	刃こぼれ・刃潰れ	不明	横長剥片	不明	
286	大形搔器	完形	—	直刃片刃	64	80.5	HD	反	HD	刃こぼれ	HD	横長剥片	自然	
287	大形刃器	完形	—	円刃鋸歯両刃	74	95	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
288	中形刃器	完形	—	直刃片刃	78	71.5	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
289	大形搔器	完形	—	直刃片刃	64	81	HD	反	HD	刃こぼれ・摩耗	不明	剥片	不明	石材はホルンフェルス。
290	中形刃器	完形	—	円刃片刃	68	64	HD	反	HD	刃こぼれ	不明	横長剥片	不明	
291	大形刃器	完形	—	直刃片刃	78	51	HD	正・反	HD	刃こぼれ	不明	剥片	不明	
292	中形刃器	完形	—	直刃片刃	75	33	なし	—	HD	微細剥離	不明	剥片	不明	

表13-9 アルカ実測石器一覧

第9章 考 察

第1節 山の神遺跡の押型文土器

1 はじめに

今回調査した山の神遺跡の調査範囲は、表面には縄文時代前期以降のものもごく少数採集されたが、すべてを集めてもコンテナ1箱に満たない。ほぼ大半が縄文時代早期中葉に限られるという状況であった。また遺跡が数度に及ぶ乳川起源の土石流に覆われたということもあり、遺物包含層が複数層に分層された。土器の編年や石器の組成を考える上で、比較的好条件な遺跡といえる。

本稿ではこうした遺物包含層の区分、出土遺構の検討や他遺跡との比較は十分ではないが、山の神遺跡出土の縄文時代早期中葉の大半を占める押型文土器の属性及び型式学的分析を行い、編年案を呈示する。

2 押型文土器の属性

押型文土器の型式学的な研究は、多くの先学の研究がある。とくにこれから触れる押型文原体についても優れた研究があるが、これについては紙幅の関係もあり十分に述べることができない。稿を改めて考察することとし、ここでは山の神遺跡出土押型文土器の属性分析、分類について述べる。

(1) 押型文土器の部位

文様帯が確立する押型文土器以降の土器と異なり、沈線や隆帯で区画されることがない。よって、押型文土器は成形、施文部位、使用状況などを勘案し、「部位」を設定した。押型文土器は基本的に尖底の深鉢形を呈し、下から底部、胴部、口縁部に大別される。また以下述べるように頸部をもつものがある。

まず底部であるが、徳永哲秀の研究により、押型文土器をはじめ尖底土器の多くに「回転擦痕」が見られる(徳永2000)。この回転擦痕は尖底土器を製作する際に、土器を回転成形するために最初に作る部分と想定され、胴部や口縁部を成形するときに、この部分がおそらく地中の穴様のものに填めた状態で回転される(直接土に接触するのではなく、何らかの植物などの物体がクッションとして挟まれると推定される)。よって一旦施文された部分も回転こすれて文様などがかすれることがある。

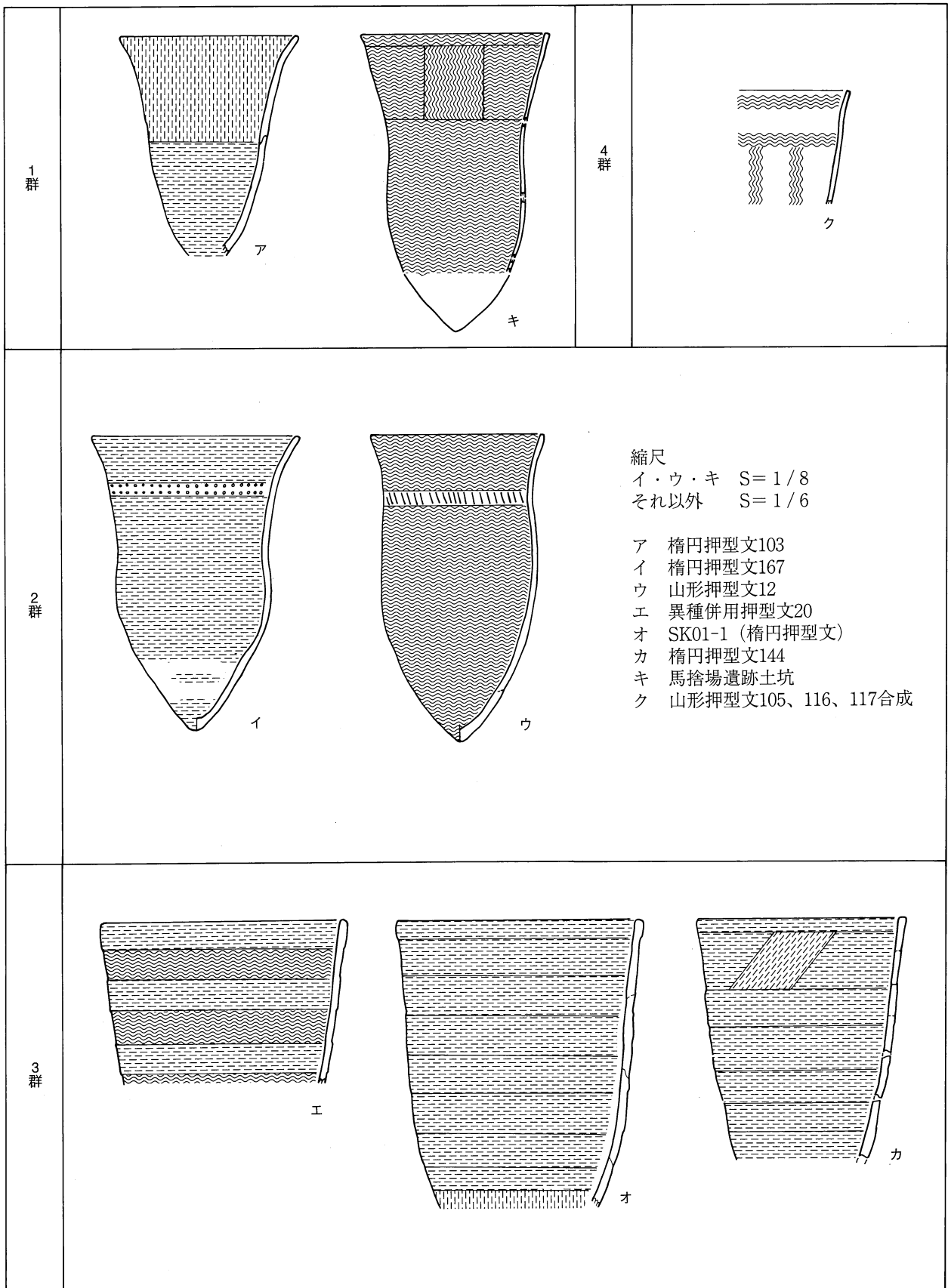
この徳永のいう回転擦痕が著しい場合には、内面に「回転圧痕」と呼称されるくびれが形成されることすらある。また、茅野市馬捨場遺跡の押型文土器の分析(長野県埋文センター2002)でも明らかになったが、外面のススの付着といった煮炊きの痕跡から、おおよそ回転擦痕あたり(そのやや下位)で煮炊き使用時に埋設されていたことを筆者も観察できた。よって本稿でもこの回転擦痕をもって底部と胴部の境界とした。底部と胴部の区分は押型文期の尖底土器にはほぼ共通していると思われる。

以上部位や器形の分析から山の神遺跡では密接施文の土器を3群、帯状施文のものを1群、計4群に分けた(第196図)。いずれも模式図であるので、詳細は実測図を参照されたい。

1群 胴部上半と胴部下半に部位が分割されるもの(ア)

器形は朝顔形に全体的に外反する。胴部上半(口縁部)と胴部下半とで押型文の回転方向が異なり、方向が変換したところに擬口縁が見られるもの(ア楕円押型文103)がある。なおエは口唇部(口縁端面)に刻みがある。山の神遺跡では良好な資料に恵まれなかったが、茅野市馬捨場遺跡(長野県埋文センター2002)土坑出土資料(キ)もこの段階かと思われる。

2群 口縁部、頸部、胴部に部位が分割されるもの(イ・ウ)



第196図 山の神遺跡出土押型文大別

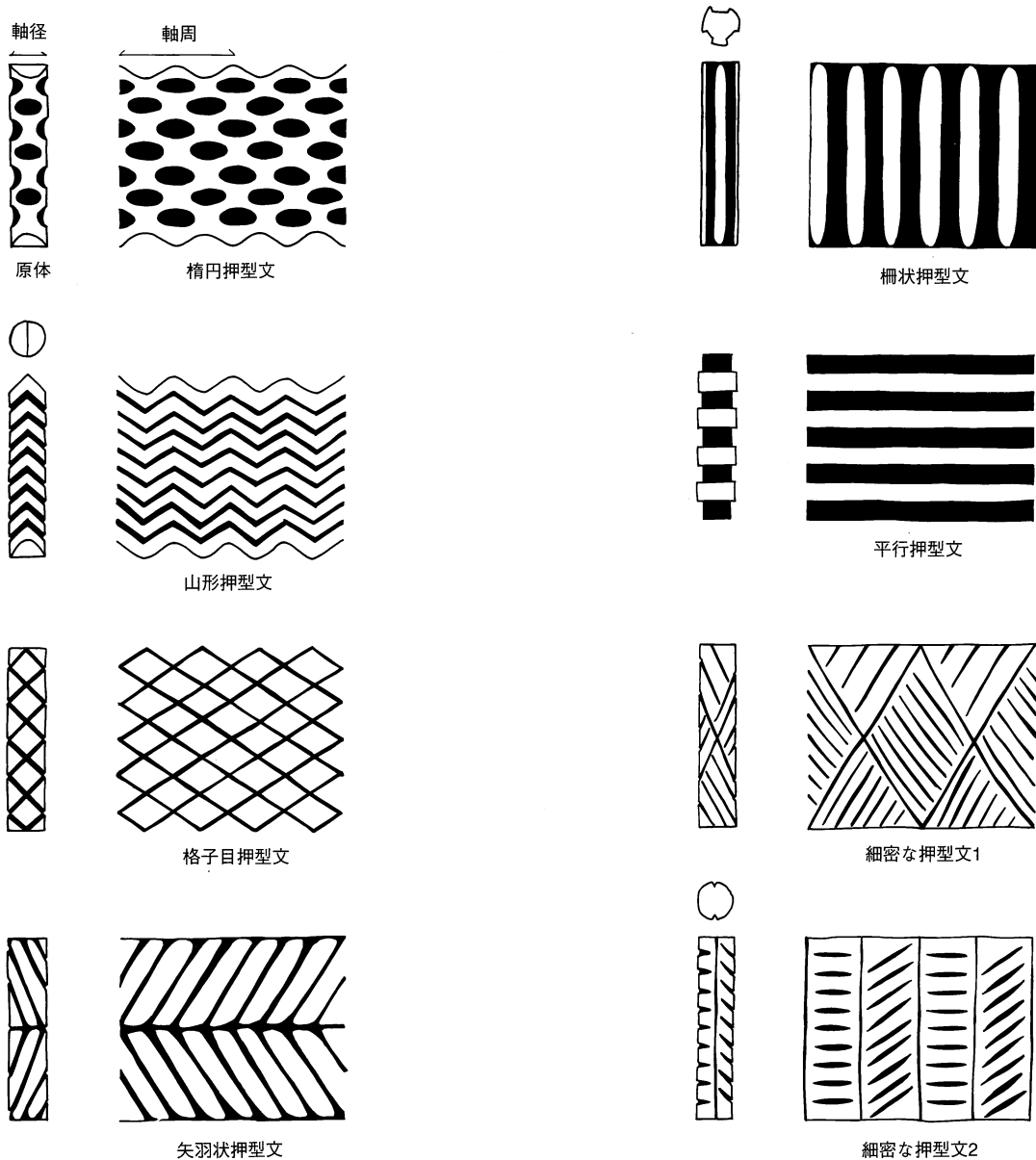
器形は口縁部が外反し、胴部の上半に器形が屈曲して多少窄まり、胴部下半がやや膨れる。この胴部上半の窄まる部分に、押型文を回転押捺しないで刺突文や沈線文が施される部分があり、口縁部と胴部が明確に分かれる。またこの押型文が施されない部分を「頸部」とする（イ楕円押型文167、ウ山形押型文12）。基本的に横位回転押捺だが、口縁部は斜位や縦位回転押捺が部分的に施されることがある。

3群 口縁部から底部まで部位が分割されないもの（エ・オ・カ）

器形は外反するがほとんど変化率が一定で直線的、屈曲しない。基本的に横位回転押捺。口縁部と胴部の区分は器形、施文方法ともにはっきりしない。異種原体を併用するもの（エ異種併用押型文20、楕円押型文と細密な押型文）と単一原体のもの（オSK01-1、カ楕円押型文144）がある。

4群 带状施文の山形押型文土器（ク）

胎土に金属光沢をもつ黒色軟質粒子（黒鉛か）を含む。山の神遺跡では良好な資料に恵まれなかったが、屈曲しない器形のようなのである。（ク山形押型文105、116、117を合成）



第197図 主要押型文原体と模式拓影図

(2) 押型文原体の属性

すでに押型文原体の属性については簡単にふれた(川崎2002)。押型文原体自体は発掘調査で検出されたわけではないので、実際は押型文原体が回転押捺されたと考えられる土器の観察から原体の属性を推定することになる。観察項目として以下の属性、押型文の種類、単位、(原体)端部、軸長、軸周(軸径)、(文様)割付線、段数、条数を挙げた項目を個別に説明する。

種類 楕円押型文、山形押型文、格子目押型文、矢羽状押型文、柵状押型文、平行押型文、細密な押型文などがある。(推定)原体と拓影(模式図)との関係を簡単にまとめた(第197図)。推定押型文原体では刻まれている(凹状の)部分、模式拓影図では、原体凹状の部分に対応する出っ張っている(凸状の)部分がそれぞれベタで示されている。

楕円押型文 模式図は2単位、9段、端部は斜め、割付線平行。端部が平坦なものも散見される。

山形押型文 模式図は2単位、8条、端部は斜め。端部は斜めのものが圧倒的に多い。異種併用押型文に見られる山形押型文に端部平坦なものが稀に見られる。

格子目押型文 模式図は斜格子目押型文。この仲間に正格子目押型文やネガ楕円押型文がある。

矢羽状押型文 本稿では回転方向に左右に展開する矢羽状意匠を呈するものをとくに「矢羽状押型文」と呼称した。回転軸に対して左右に展開する矢羽状意匠を呈するものは「縦矢羽状押型文」とし、後述する細密な押型文の中の一分類とした。

柵状押型文 回転軸にほぼ平行な連続した刻みをもつもの。模式図は端部を平坦としたが、実際の資料は多少凹凸があるようである。

細密な押型文 1 複合鋸歯押型文。SB03出土異種併用押型文(第46図32)をモデルとした。実際の資料では刻みの切り合いも観察できるが、煩雑となるので、本図では切り合い関係は省略した。2 平行+斜行押型文。SB13出土異種併用押型文(第47図1)をモデルとした。細密な押型文は楕円押型文などと併用される異種併用押型文の原体として見られる。

施文方法 回転方向で縦位、斜位、横位の3種類と施文の手法として間隔を空けない密接施文と間隔をあける帯状施文に大別される(第196図)。

単位 文様の繰り返しから単位数を推定する。1・2・3の各単位があることが確認されている。

端部 端部が平坦なもの(平坦)と斜めに切り落とされたもの(ナナメ)がある。

軸長 原体の長さ。

軸周(軸径) 原体の周の長さ。文様の繰り返しを抽出できれば、軸周が推定できる。原体軸の断面を円形とし、その軸径を a とすると軸周は πa と表せる。よって軸周が得られれば、軸径を推定することができる。

(文様)割付線 原体軸に楕円押型文などを刻み付ける時に、軸に対して平行に刻み付ける場合と右巻きし左巻きなど斜交して刻み付ける場合がある。この時、文様を刻む方向を割付線と便宜的に呼称する(第198図)。実際にその線が土器の表面に現れるわけではない。あくまで押型文の文様の配列を理解するための概念的な線である。

段数 楕円押型文の刻み図のように回転軸に直交した方向を列として数えたとき、その数を「段」と呼称した。

条数 山形押型文の回転軸へ図のように刻みを入れたときに、刻みの数を「条」と呼称した。

(3) 押型文土器の属性分析の実例

個別の事例は、第4章ないし第5章を当たってもらいたいだが、ここでは代表的な例を4例挙げる(第198図)。

ア 押型文原体端部が刺突された例 (第107図楕円押型文167)

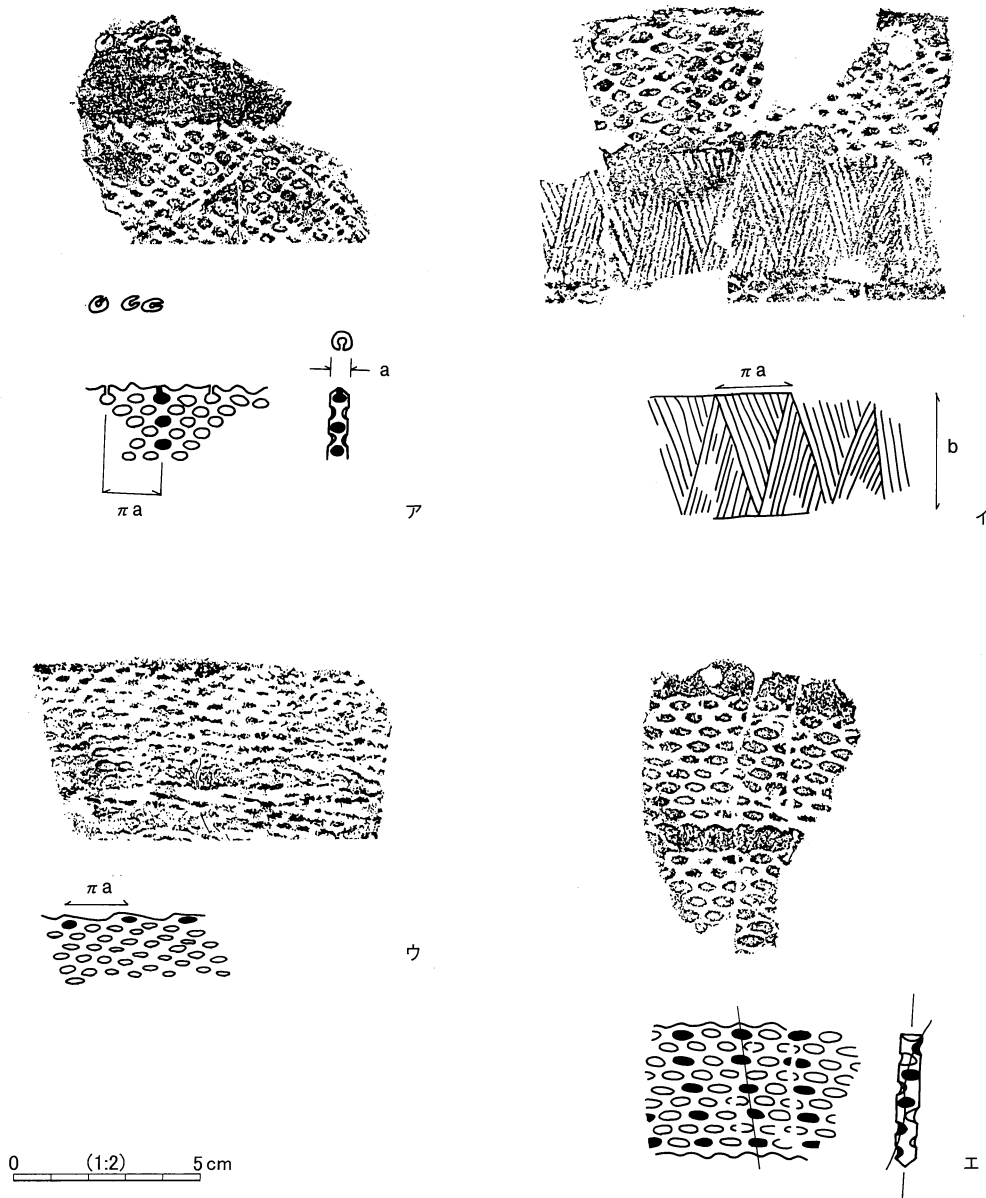
種類楕円押型文、2単位、端部斜め、軸周 (πa) 15mm、軸径 (a) 4.8mm、割付線平行。

この押型文原体は最上段の一つの楕円が欠損し、上端とつながってしまったため、繰り返し (単位数) が判明した。また頸部のC字形の刺突文は径が4~5mmで、押型文原体の推定軸径とほぼ一致する。C字の輪が切れた部分が、前述の楕円と上端が欠損してつながってしまった部分と考えられ、よって、原体の端部を刺突にも使用したものと推定される。また図のように楕円の配置の列が回転軸に対して平行なので、これを割付線平行とする。

イ 1単位の押型文の例 (第118図異種併用押型文33)

種類細密な押型文、1単位、端部平坦、軸周 (πa) 20mm、軸径 (a) 6.4mm、軸長 (b) 32mm、割付線斜行。

細密な押型文は複合鋸歯押型文。単位数は1。細密な押型文のほとんどは単位数1と思われる。端部を結ぶ区画を割付線とすれば、割付線は右巻と左巻ということになる。



第198図 押型文の属性分析例

ウ 3 単位の押型文の例 (第103図楕円押型文21)

種類楕円押型文、3 単位、端部斜め、軸周 (πa) 16mm、軸径 (a) 5.1mm、割付線平行。

種類は楕円押型文。端部の楕円の繰り返しから3 単位と推定される。割付線は一応平行としたが、原体の下部の方は乱れているようである。

エ 割付線斜行の例 (第108図楕円押型文172)

種類楕円押型文、端部斜め、軸長 (b) 36mm、9段、割付線右巻。

単位数は2 か 4 など偶数である、おそらく2 単位か。繰り返しは分からなかった。

3 山の神遺跡押型文土器の編年

以上の押型文土器の属性を考慮し、以下のような山の神遺跡を中心とした押型文土器の編年を呈示したい。

(1) 山の神遺跡早期中葉1期

山の神遺跡押型文土器1 群および4 群、立野式の文様構成をもつ楕円押型文土器 (胴部上半縦位密接回転押捺、胴部下半横位密接回転押捺。器形は朝顔形に開く。)に沢式 (胎土に黒鉛様粒子を含む帯状施文の山形押型文。器形は外反するが屈曲はしない。)がともなう。量的にはそれほど多くない。1 期に限定できる遺構も存在していない。沢式の摩滅も著しいので、あるいは今回の調査範囲の近くに1 期の遺構が存在している可能性がある。

(2) 山の神遺跡早期中葉2期

山の神遺跡押型文土器2 群、頸部に押型文を施文しない部分をもつ。口縁部は横位回転押捺が多いが、斜位回転押捺を施すものもある (第45図12など)。器形は頸部で窄まる。原体は楕円押型文と山形押型文が多いが、併用されることはない。原体端部は斜め、軸長をとらえるのは難しいが、3 期の原体よりは短いようである。施文順序は底部から頸部までは、下から上へ横位回転押捺、口縁部から頸部までは上から下へ横位回転押捺するものが多いようである。

山の神遺跡検出段階③で調査された遺構や包含層出土資料が2 期に対応するものと考えられる。住居跡はほとんどがこの時期のもの。

(3) 山の神遺跡早期中葉3期

山の神遺跡早期中葉3 群、頸部は喪失し、基本的に横位密接回転押捺。器形は外反するが屈曲はほとんどしない。原体端部は平坦なもの、軸長は30mmを超えるものや40mm近いものが見られる。また異種併用押型文が出現する。異種併用押型文には細密な押型文と呼称する複合鋸歯押型文、平行+斜行押型文、入れ子状押型文などが楕円押型文に併用される。

山の神遺跡検出段階②や①で調査された遺構や包含層出土資料が3 期に対応するものと考えられる。石列SH28などの石列や屋外集石炉、土坑の多くがこの時期。この時期のはっきりした住居跡はSB05だけである。また遺物集中SQ01などの異形部分磨製石器の大半がこの時期のもの。

4 まとめ

紙幅の関係上、編年の層位的な根拠、一括遺物の呈示などはまったくできない。これについては稿を改めて述べることとし、今回呈示された山の神遺跡早期中葉押型文土器編年が、従来の押型文土器編年とどのように対応するか予察し、まとめに変えたい。

従来ネガ楕円押型文あるいは格子目押型文を主体とし、胴部上半縦位密接、胴部下半横位密接施文の土器 (立野式) は、山の神遺跡からはまったく出土していない。従来長野県北部は立野式の分布範囲外だと

想定されることもあったが、小谷村林頭遺跡（小谷村教育委員会1999）、信濃町市道遺跡（信濃町教育委員会2001）、更埴市鳥林遺跡（長野県埋蔵文化財センター 1994）でもネガ楕円押型文や格子目押型文の立野式が出土しているので、山の神遺跡の所在する大町市周辺も立野式の分布域であった可能性は高く、山の神遺跡が立野式より後の時期のため、立野式が出土していないのであろう。

帯状施文の山形押型文は黒鉛様の粒子を含む土器いわゆる沢式が少数出土しているが、明確に樋沢式と特定できるものはなかった。

では、山の神遺跡早期中葉はどの押型文で始まったと考えるべきなのか。前項で述べたように筆者は1群土器（楕円押型文ではあるが、文様構成は立野式と一致するもの）と考える。

従来、立野式、樋沢式、細久保式の前後関係を論じる時に、樋沢式と細久保式の類似点については強調されてきたが、あらためて細久保式とされてきた楕円押型文を主体とする密接施文土器に立野式と共通する点が多いことに気が付いた。

望月町岩清水遺跡出土資料（福島1994）や茅野市馬捨場遺跡出土資料（長野県埋蔵文化財センター 2002）などである。前者は楕円押型文、後者は山形押型文で、器形は立野式同様緩やかに屈曲し、外反する。仮にこの原体がネガ楕円押型文あるいは格子目押型文であれば、立野式とされるのではないか。

山の神遺跡1群土器についても同様である。とくに口唇部に刻み目をもつ点や胴部上半と下半の境界に擬口縁がはっきり見られる点なども立野式的な製作技法といえよう。山の神遺跡1群土器を立野式に後続する土器ととらえた。

次に、刺突文あるいは沈線文が施される頸部をもつ土器の一群をおいた。2群土器をもって山の神遺跡早期中葉2期とする。これは従来諏訪市細久保遺跡資料（長野県考古学会1997）などに見られ、細久保式の一部とされる資料である。長野県北部では小諸市三田原遺跡に類例が知られている。

1群同様器形が外反するが、頸部で少し窄まる器形となる。擬口縁は明確ではなく、押型文原体の施文と粘土帯の接合もとくに一致させようとしているわけではない。立野式と直接的に関係する技法はあまりない。

2期に後続するのが、3群土器である。3群土器の中の異種併用押型文土器は信濃町塞ノ神遺跡（笹沢・小林1966）を標式とする「塞ノ神式」の代表的な土器である。

これは施文部位として頸部を持たず、さらに器形も外反するが屈曲はしない。山の神遺跡検出段階①ないし②で調査された土坑で、沈線文土器と共伴することが多い。よって、山の神遺跡の沈線文土器（田戸上層並行か）は3期3群土器に共伴するものと考えた。

以上の時期区分や押型文の特徴をまとめた（表14）。沢式・樋沢式といった帯状施文土器は、製作・施文技法からみて立野式や細久保式とはかなりの隔りがある。立野式や細久保式は比較的器壁が厚く、粘土帯を下から積み上げて、徐々に横位密接施文するが、沢式や樋沢式はこうした施文方法を取らない。底部から口縁部まで一気に成形し、帯状に施文する。器壁も薄手である。

つまり、立野式から細久保式へは製作・施文技法的に追っていくことが可能であるのに対し、沢式や樋沢式は極めて異質である。

よって、便宜的にはあるが、押型文土器の発展段階においては、沢・樋沢系列と立野・細久保系列という対比で理解した。

山の神遺跡における遺構内での出土状況の検証や押型文の段階名や標式遺跡などの抽出、検討が十分ではない。また多くの先学の研究史も踏まえることができていない。しかし、以上の編年に関する予察が今後押型文土器研究の引玉の瓦となれば幸いである。

他の系列		立野・細久保系列			
大川・神宮寺	沢・樋沢	型式名	標式遺跡(段階)	特徴的な押型文	押型文の施文部位
大鼻					
大川					
神宮寺					
	沢・樋沢	立野	美女	ネガ楕円押型文	上半部：縦位密接、下半部：横位密接
			鳥林	格子目押型文	
			細久保	岩清水・山の神1群	楕円押型文
	山の神2群				
		塞ノ神・山の神3群		異種併用押型文	口縁～底部：横位密接

表14 押型文土器編年表

引用参考文献

飯田市教育委員会1998『美女遺跡』
 小谷村教育委員会1999『林頭遺跡』
 岡谷市教育委員会2000『樋沢遺跡』
 川崎 保2002「山の神遺跡ほか」『長野県埋蔵文化財センター年報』18
 川崎 保2003「神村論文を読んで押型文土器編年を考えるー細久保式の成立と展開からー」『利根川』24・25(投稿中)
 笹沢 浩・小林 孚1966「上水内郡信濃町塞ノ神遺跡出土の押型文土器」『信濃』18-4
 信濃町教育委員会2001『市道遺跡発掘調査報告書』
 徳永哲秀2000「尖底土器を作る」『長野県埋蔵文化財センター紀要』8
 長野県考古学会縄文時代(早期)部会編1995『シンポジウム特集号表裏縄文から立野式へ 長野県考古学会誌』77・78
 長野県考古学会縄文時代(早期)部会編1997『シンポジウム「押型文と沈線文」資料集』
 長野県埋蔵文化財センター 1994『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書13鳥林遺跡ほか』
 長野県埋蔵文化財センター 2002『馬捨場遺跡』
 福島邦男1994「縄文時代」『望月町誌第三巻原始・古代・中世』望月町

第2節 山の神遺跡の異形部分磨製石器について

1 はじめに

山の神遺跡では異形部分磨製石器が41点出土している。国内最多というだけでなく、いずれも縄文時代早期中葉の遺物包含層から出土していて年代が限定でき、また出土状況が明らかであることから、今まで、用途・機能が不明であった異形部分磨製石器の性格解明の端緒としたい。

2 異形部分磨製石器とは

異形部分磨製石器の研究史は、岡本東三の論文に詳しい(岡本1982)。詳しい研究史は岡本論文を参照されたいが、岡本論文にもとづいて概略を触れたい。事実報告の最初は八木柴三郎が宮崎県西諸県郡須木村例をとりあげた(八木1893)。その後島田貞彦が滋賀県蒲生郡比都佐村出土例を紹介した(島田1928)。

戦後は鎌木義昌の岡山県黄島貝塚の調査(鎌木1949)、京都大学の平戸学術調査による長崎県志々伎村岡出土例の報告(京都大学1951)、江坂輝弥の茨城県刈又坂遺跡出土例の報告(江坂1955)がある。

その後東海地方の類例を紹介した紅村弘は「異形局部磨製石器」と命名した(紅村1963)。また安達厚三が、特徴をまとめた。安達は「異形部分磨製石器」と呼称する(安達ほか1965・安達1966)。研究史的には

紅村の命名の方が古いわけで、本来は異形局部磨製石器と呼称すべきかとも思われるが、山の神遺跡報告書では発掘調査段階で異形部分磨製石器として取り上げられてきた経過があり、便宜的に「異形部分磨製石器」としておく。ただ、紅村弘と安達厚三の示している内容は同じものであろう。また橋本正（1968）、津田守一（1976）副島邦弘（1977）らの報告がある。

また岐阜県内の類例を集成した吉田英敏は粘板岩などの砥石による「研ぎ」と打ち粉による「磨き」の工程を実験から推定し、さらに安達厚三同様「利器」ではなく「非実用的」あるいは「マジカルな」石器で狩猟動物と関係する石器だと推定する（吉田1976・1979）。

これに対し、岡本東三は全国の類例を集成した上で、1 磨痕の場所・状態が一定しない。2 まったく磨痕の認められないものがある。3 他の磨製石器に見られる磨製痕とはことなる。ローリングを受けたような「トロトロ」したような磨痕であることを根拠に、意図的な研磨ではなく、使用痕（磨耗）によるものとした。また一つの可能性として押型文原体を加工する道具ではないかと推定する。

岡本論文（1982）以降では、高山考古学研究会の集成（1984）、和田英寿（1989）、木崎康弘（1997）、木野本和之・新田智子（1997）の論文や報告がある。

和田は製品として搬入されていること、石材を限定していることから利器ではないとし、一括遺物中に破損品を含むことから回収を前提とした埋納ではなく、交易に伴う遺物ではないとする。さらに基部の抉りを入れたいわゆる当該期に盛行する「鋏形鏃」に類似する点から、狩猟活動に関与する儀礼に伴うものと推測した。

木崎は熊本県牟田原遺跡や瀬田裏遺跡で異形部分磨製石器と共伴した「男性器形石製品」に形態的な共通点があるとし、異形部分磨製石器は男性器を祭る儀礼に伴う石器だと推測する。さらに男性にかかわる祭祀としては、山の神信仰にかかわる狩猟祭祀を想定する。

長野県内では、川上元（1967）や菅平研究会（1970）が類例を紹介したほか、和根崎剛（2001）が最近資料報告を行った。

3 山の神遺跡の異形部分磨製石器

すでに第6章第1節で説明したように、山の神遺跡では41点の異形部分磨製石器が出土している。出土状況はグリッド I-V-23 の遺物集中 SQ01 から14点、およびその周辺でグリッド I-V-23 出土として取り上げられたものが13点、よってグリッド I-V-23 からはのべ27点が出土している。

また、グリッド I-V-18 の SK02 から2点、およびその周辺でグリッド I-V-18 出土として取り上げられたものが3点、よってグリッド I-V-18 からはのべ5点が出土する。

いずれも山の神検出段階①ないし②で発掘されており、IIb層からIIIa層の遺物である。よって所属時期は縄文時代早期中葉山の神遺跡3期（異種併用押型文を特徴とする塞ノ神・山の神3群土器段階）である。

異形部分磨製石器19・39・40はIVa層出土なので、縄文時代早期中葉山の神2期にさかのぼる可能性が高いが、これ以外は山の神3期の可能性が高い。

石材は今までの類例同様、チャート製が大半で、異形部分磨製石器29・30だけは玉髓（石英）製である。しかし、石鏃に多用されている頁岩製のものは1点もない。

また同じチャート製ではあるが、石鏃、搔器、削器に用いられるチャートとはかなり異なるチャートが異形部分磨製石器には用いられている。全体に青味がかかった灰色を呈し、また黒色の脈が入るものが多い。

法量は長さ9.2～1.8cm、幅4.45～1.25cm、厚さ1.3～0.25cm、重さ49.2～0.51gとさまざまである。

山の神遺跡の異形部分磨製石器の出土状況や特徴をまとめると、1 遺跡全体からまんべんなく出土している石鏃、搔器、削器とは出土状況が異なり、比較的集中して出土した。2 特定の石材に集中する。とく

に利器と考えられる石鏃、搔器などに多用される頁岩製の異形部分磨製石器が1点もなく、先学が指摘したようにチャート製のものが大半を占める。3法量は非常にばらついている。大きさより形態が重視されていた。4未製品、石核、原石がない。遺跡周辺にもこの手のチャートの存在が知られていない。製品として山の神遺跡に持ち込まれた可能性が高いといえよう。

以下の点から利器の可能性は極めて低いと思われる。1山の神遺跡の利器に多く使用されている頁岩製の異形部分磨製石器がない。2チャートでなければいけない用途だったとしても、石鏃や搔器などに用いられているチャートとはまったく様相がことなる。石鏃や搔器に用いられているチャートは色調が緑色や赤色などさまざまに黒い脈が入るものはない。逆に異形部分磨製石器は青味がかかった灰色が主体で黒色の脈がはいる特徴がある。つまり石材の質感や色調が重要なのであって、物理的な硬さや特徴が共通していても利器に用いられたチャートは異形部分磨製石器には用いられていない。

4 他の遺跡との比較

岡本は、安易な用途の推定は好ましくなく、遺跡の出土状況もよく検討すべきであると指摘する（岡本1982）。至言である。よって、出土状況が判明している他の遺跡と比較してみる。

まず、岐阜県高山市前平山稜遺跡では、東西南北を向くように大小4点の異形部分磨製石器が出土しているとされる。吉朝則富は異形部分磨製石器が着柄されて東西南北におかれたものと推定する（吉朝1993）。

熊本県大津町瀬田裏遺跡では20点の異形部分磨製石器の出土があったという（木崎1997）。うち発掘調査で出土し、出土状況が判明しているのが18点である（瀬田裏遺跡調査団1992）が、集石遺構から1点出土しているが、のこりはすべてグリッド、遺物包含層からの出土で、とくに集中したり、なんらかの土坑に伴っているわけではない。

三重県宮川村神滝遺跡例などをもって土肥孝は、「デポ」の可能性を指摘したようだが（土肥1987）、神滝遺跡例は発掘調査によるものでなく、出土状況を検討した木野本らによると畑の耕作によって徐々に発見され、結果として16点に及んだものらしい（木野本・新田1997）。

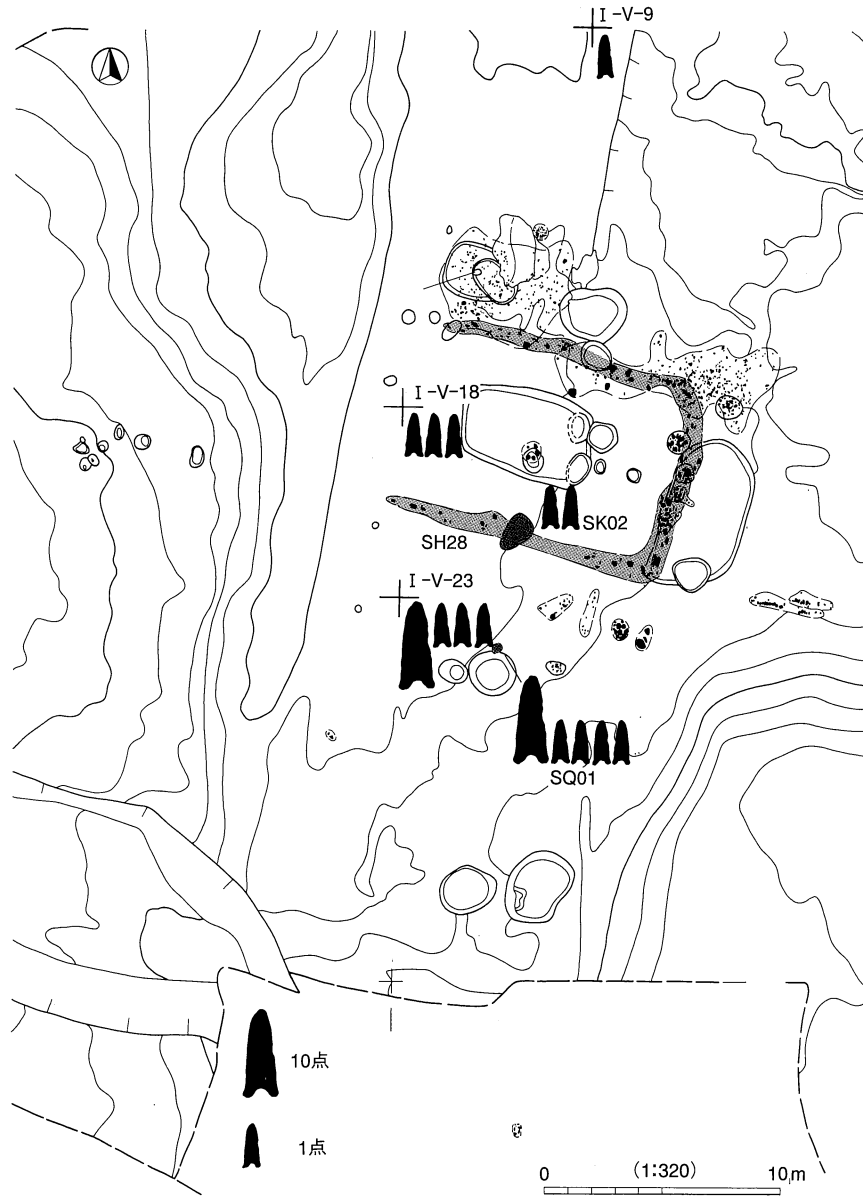
管見では10点をこえるような出土例は瀬田裏遺跡と神滝遺跡しか今のところ知られていない。よって、現段階では、なんらかの意図をもって一括埋納したような状況は発掘調査の所見からは得られていないといえよう。

山の神遺跡例も集中して出土してはいるが、土坑SK02には2点だけ伴っていただけであり、一括埋納というよりは、結果的に集中していたというような状況であり、遺物集中SQ01にも掘り込みは検出されていない。

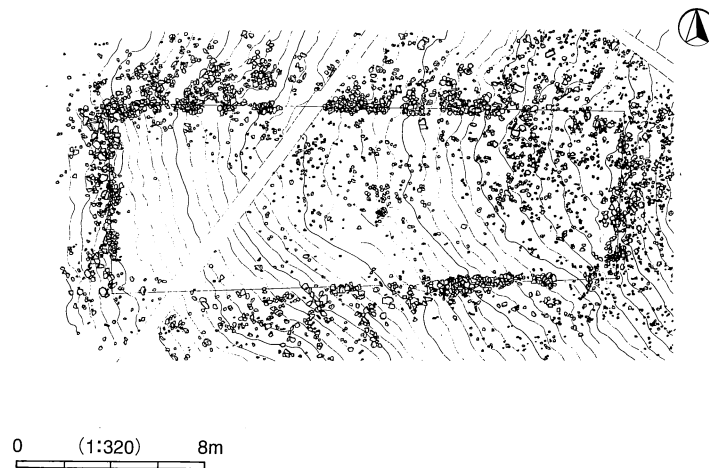
遺跡の中での位置付けを考えてみると、山の神遺跡の異形部分磨製石器の大半が検出された山の神遺跡Ⅱ～Ⅲ層（縄文時代早期中葉3期）は、確実な住居跡は1軒だけで、「コ」字状に区画される石列SH28や花卉形をしたSH01aなどの屋外集石炉が作られたと考えられている。煮炊き用と考えられる屋外集石炉はともかく、直線的な配列をしめすSH28などの石列の性格は不明である。ただ、遺跡全体の中で見れば、このSH28の南側に集中して異形部分磨製石器が出土していることになる。また、散在している異形部分磨製石器も石列をとりまくように出ているようにもとらえることができる（第199図）。

ここで注目されるのが、瀬田裏遺跡例である。瀬田裏遺跡でも長さ21m×幅7mの長方形配石遺構が検出された（第200図）。調査報告（瀬田裏遺跡調査団1993）によれば、「安山岩板石状の集石（個々の単位－ユニットをもつ）の集合体により構成される。個々のユニットの石材配石方法は1石材の小口部を揃えて積む2石材を交互に積み重ねるの二種類がある。」という。

山の神遺跡より規模がやや大きいがやはり早期中葉の押型文土器の遺構であり、石材の配置方法や石列



第199図 山の神遺跡石列SH28及び異形部分磨製石器出土分布



第200図 瀬田裏遺跡長方形配石遺構

の配置方向はほぼ東西南北を向いている点などが共通する。

現段階では縄文時代の長方形に区画する石列の類例自体がなく、他に比較検討のしようがないが、異形部分磨製石器の大量出土と石列になんらかの関係があるかもしれない。

5 まとめにかえて

以上非常に雑駁ではあるが、異形部分磨製石器については1利器の可能性は低い。2ほとんどの遺跡では数点しか出土しないが、稀に10点以上集中して出土する遺跡がある。3「デポ」などのなんらかの意図をもった一括埋納の可能性は現段階の出土状況からはいえないといった点が指摘できる。

また、山の神遺跡について大量に異形部分磨製石器を出土した瀬田裏遺跡に21m×7mの長方形の東西南北に向いた「配石遺構」が検出されている点は、注目に値しよう。

さて、仮にこうした石列・配石遺構が異形部分磨製石器の性格とかかわりがあったとしてどのような用途が推定できるだろうか。縷説することになるが、今のところ一括埋納を示すような出土状況は知られていない。

多くが、遺構検出面あるいは遺物包含層中から出土している。出土状況が比較的是っきりしている山の神遺跡や前平山稜遺跡の例をみれば、大きいものから小さいものまでがまとめて出土する点が共通する点である。

本稿では、発掘調査で判明した所見を中心に論じた。今後は異形部分磨製石器自体の磨耗痕の分析や他の遺跡での出土状況や類例の検討を行い、より研究をすすめていくことが期待される。

本稿を執筆するに当たってとくに以下の諸氏に多大なる尽力を得た。記して謝意を表する。

神村 透、木崎康弘、木野本和之、桜井秀雄、田中 彰、穂積裕昌、町田勝則、山田 猛、吉田英敏

引用参考文献

安達厚三・大参義一・井口喜春1965「織田井戸遺跡発掘調査報告（付）総濠遺跡発見の異形部分磨製石器」『いちのみや考古』6号

（大参義一・井口喜春との連名だが、異形部分磨製石器部分は安達の執筆）

安達厚三1966「異形部分磨製石器について—美濃、尾張地方発見例を中心として—」『いちのみや考古』9号

江坂輝弥1955「茨城県多賀郡刈又坂遺跡」『日本考古学年報』3（※）

岡本東三1982「トトロ石器考」『人間・遺跡・遺物—わが考古学論集1—』

片岡 肇1968「いわゆる異形部分磨製石器の新資料」『古代文化』20-3

鎌木義昌1949「備前黄島貝塚の研究」『吉備考古』77（1996『瀬戸内考古学研究』に再録）

川上 元1967「異形部分磨製石器の新資料」『信濃』19巻4号

木崎康弘1997「男性器形石製品とトトロ石器とのただならぬ関係について—トトロ石器の性格を考える—」

『人間・遺跡・遺物3麻生優先生退官記念論文集』

木野本和之・新田智子1997「宮川村神滝遺跡出土の異形局部磨製石器について」『研究紀要』6号、三重県埋蔵文化財センター

京都大学平戸学術調査団1951「平戸の先史文化」『平戸学術調査報告』（※）

紅村 弘1963『東海の先史遺跡総括編』（※）

島田貞彦1928『有史以前の近江』（滋賀県史蹟調査報告第1冊）（※）

菅平研究会1970『菅平の古代文化』

瀬田裏遺跡調査団1992『瀬田裏遺跡調査報告資料Ⅱ』熊本県大津町教育委員会

瀬田裏遺跡調査団1993『瀬田裏遺跡調査報告Ⅱ』熊本県大津町教育委員会

副島邦弘1977「大道端遺跡の石器について」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告（XⅣ）』福岡県教育委員会

高山考古学研究会1984「飛驒の考古学遺物集成（3）－異形部分磨製石器特集－」『岐阜県考古』9号

津田守一1976「神滝遺跡出土の異形局部磨製石器について」『歩跡』3号

土肥 孝1987「縄文時代の文化交流－近畿各地域の土器・石器の検討－」

『大阪湾をめぐる文化の流れ－もの・ひと・みち－』帝塚山考古学研究所（※）

橋本 正1968「回転押型文土器の問題－富山県の場合－」『大境』4号（※）

八木契三郎1983「本邦発見石鏃形状の分類」『東京人類学雑誌』9巻93号（※）

吉朝則富1993「石器」『前平山稜遺跡赤保木遺跡発掘調査報告書』高山市教育委員会

吉田英敏1976「中濃地方における異形部分磨製石器－津保川流域の分布－」『岐阜県考古』5号

吉田英敏1979「中濃地方における異形部分磨製石器PARTⅡ－長良川中流域の分布を中心に－」『岐阜県考古』7号

和田英寿1989「押型文土器文化期における特殊石器の一様相」『龍谷史壇』93・94号

和根崎剛2001「真田町傍陽・入軽井沢出土の『トトロ石器』」『長野県考古学会誌』93・94号

（※）原論文筆者未見。（岡本1982）（和田1989）による。

第3節 山の神遺跡出土の石器について

池谷勝典（アルカ）

1 属性表について

県埋蔵文化財センター作成の石器整理台帳をもとにして、その表の後ろに付け加えて属性表（第8章表13）を作成した。

石器の属性項目

「アルカ通番」：アルカでの整理通番のことでオレンジの丸シールを遺物袋に添付した。通番は1-292番である。

「アルカ器種」：アルカで認定した石器の器種について記載。

「アルカ石材」：岩石学的な名称を使用する。観察は肉眼で行った。

「形態」：石鏃については、基部形態の詳細について記載、打製石斧は従来の形態分類（短冊、バチ、分銅形）について記載。

「刃部形態」：刃部の平面形について記載、円刃、直刃、斜刃、凸刃、内湾刃。なお刃器類については刃部の縦断面形（両刃、片刃）についても記載。

「刃角」：刃部の角度を良好に計測できる部分を計測、必要に応じて3カ所計測しその平均値を記載。

「刃幅」：刃部の範囲を計測し記載。

「刃部加工」：刃部を形成している加工について記載。

「刃部加工方向」：竹岡俊樹1989『石器研究法』（言叢社）にならい加工の方向が正方向、反方向なのか記載した。「正・反」となっているものは、正方向と反方向の両方が混在して刃部を形成していることを示し、「正+反」のように「+」でしめされるものは、正方向で剥離して面を形成したのち、その面を打面にして反方向に剥離したことを示している。「反+正」の場合は上記の逆の加工順番である。

「形態形成加工」：石器の形態を整える二次加工の剥離技術について記載。剥離技術は、ハンマーの種類（ハードハンマー・「H」とソフトハンマー・「S」）と身振り（押圧剥離（P）、間接打撃（I）、直接打撃（D））の組み合わせであるのでそれらについて判別した。表中にはそれぞれの記号を記載。

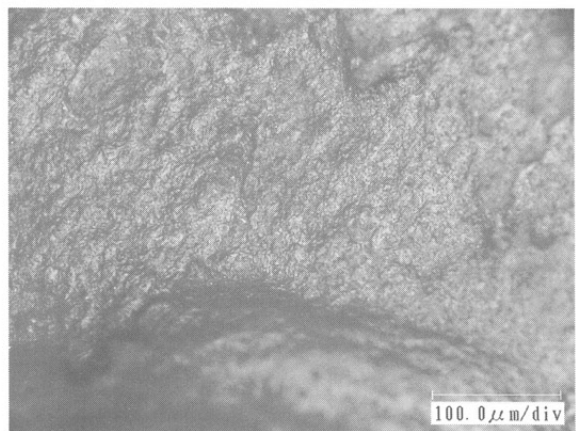
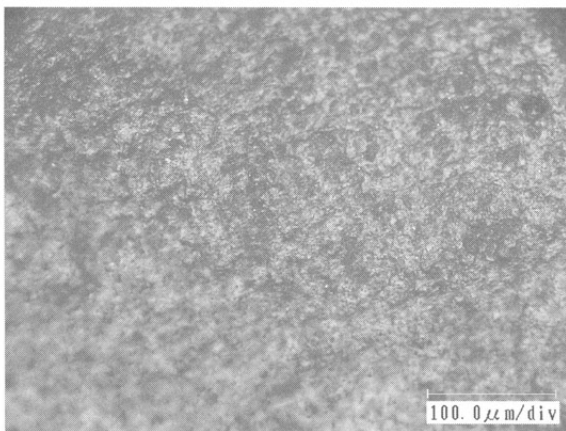
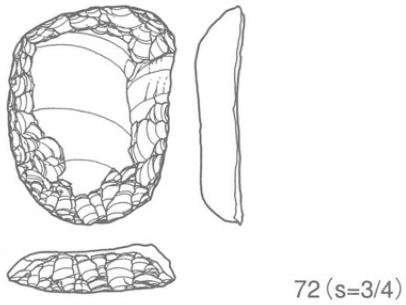
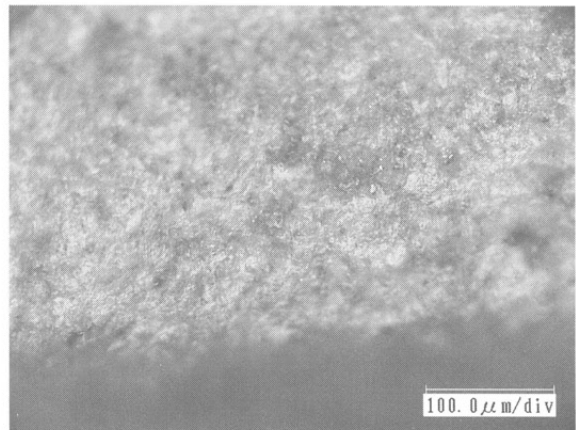
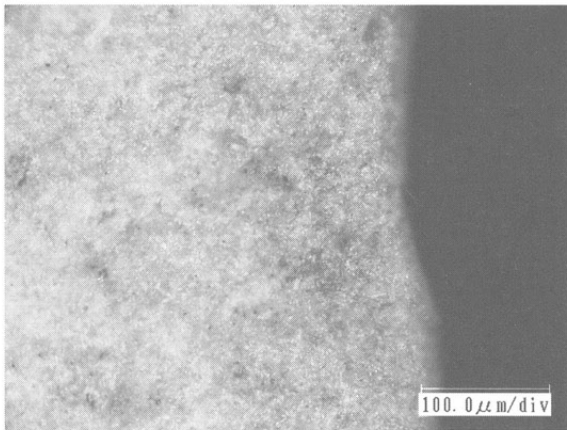
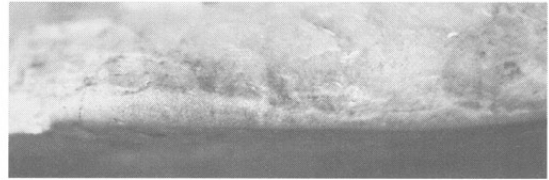
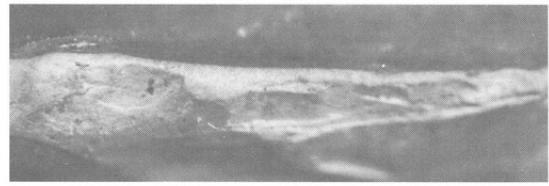
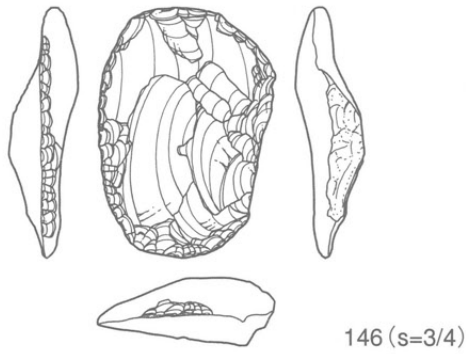
「素材形態」：素材剥片を剥離するときの剥離技術について記載。

「素材形態」：素材となっている剥片や礫の形態について記載。

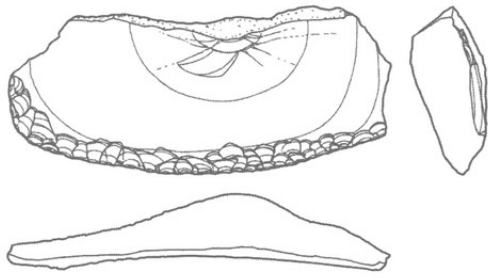
「残存率」：石器の破損状態について記載。わずかな破損で考古学的な誤差の範囲である場合は、完形として扱う。

「刃部使用痕」：肉眼、ルーペで観察された刃部使用痕の所見について記載。刃こぼれ、微細剥離（刃こぼれの一種であるが剥離面の幅が約5mm未満の細かな剥離）、刃潰れ、摩耗について記載。一部、高倍率顕微鏡による観察をおこなったものについては、光沢タイプについて記載。

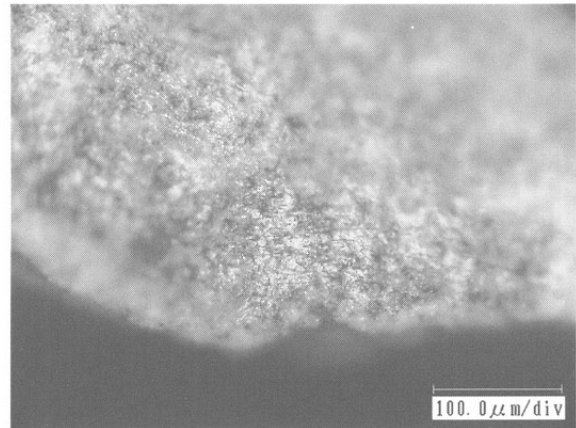
計測値：長さ、幅、厚さについて記載。計測方法は、竹岡俊樹（前掲）による。



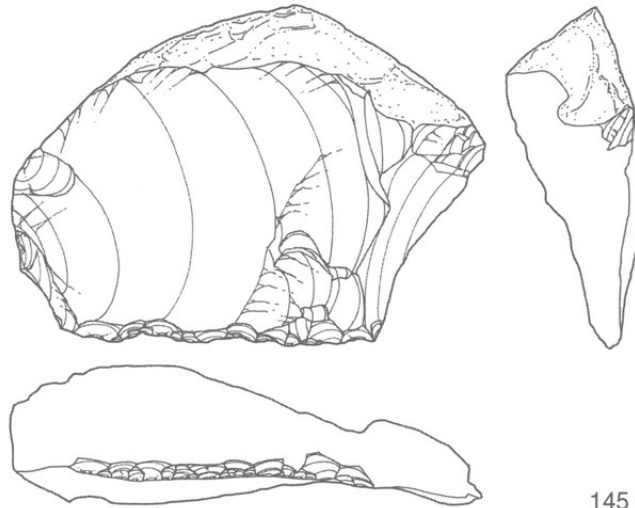
第201図 山の神遺跡使用痕写真その1



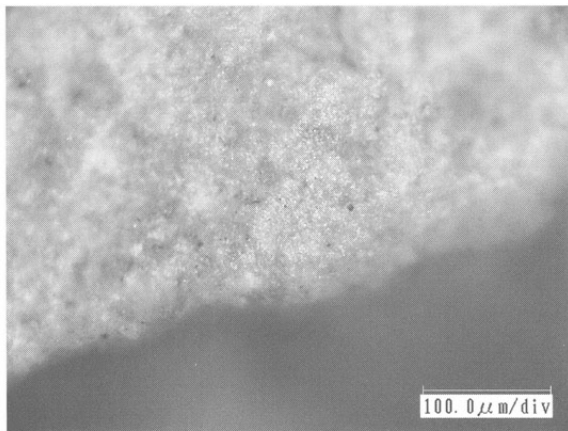
108 (s=3/4)



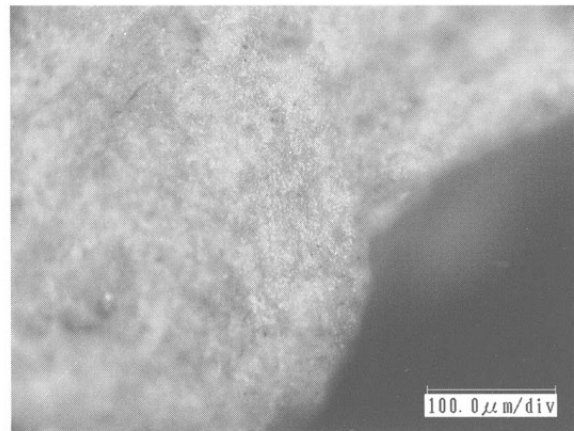
1 線条痕顕著、刃部に平行、F1タイプ



145 (s=3/4)

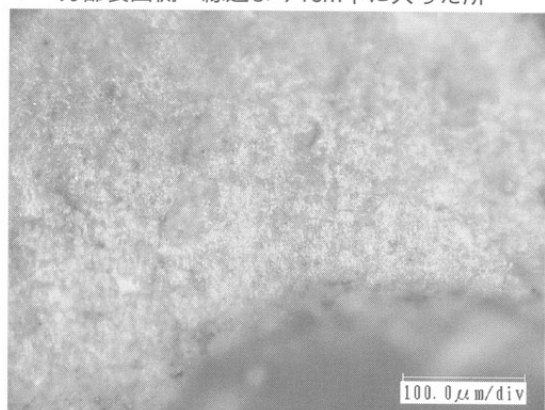
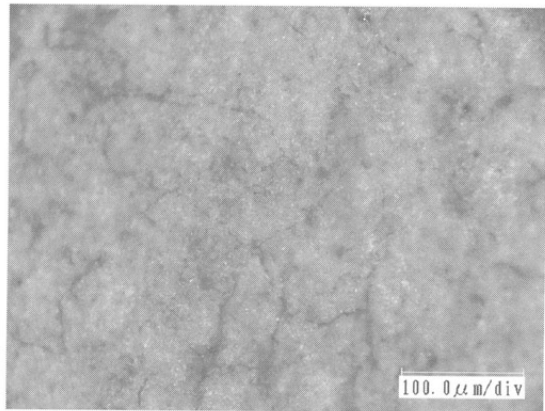
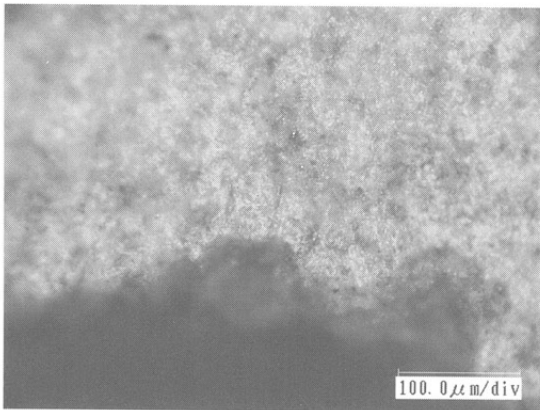
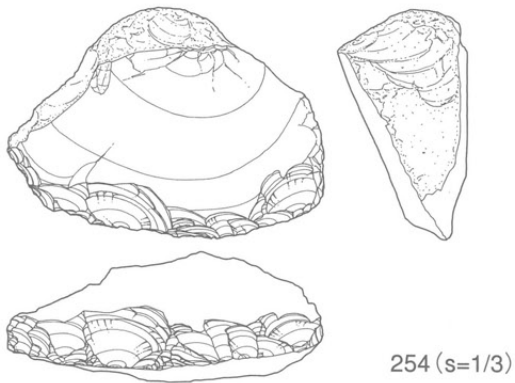
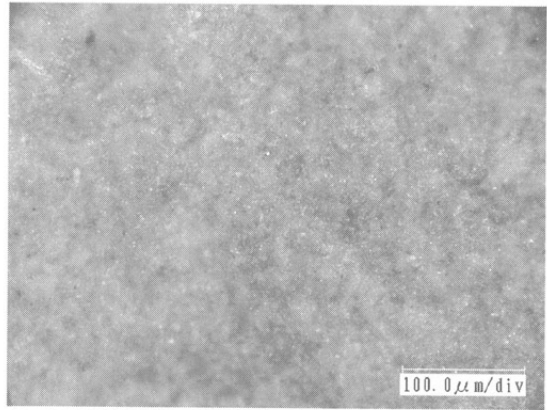
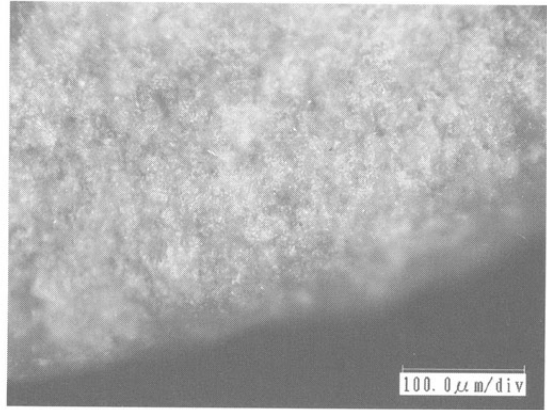
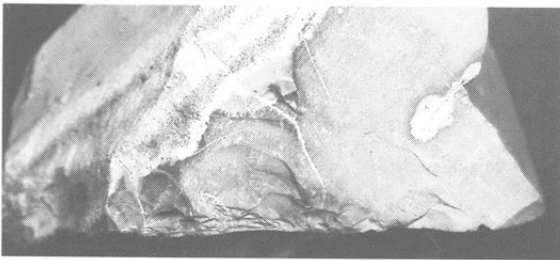
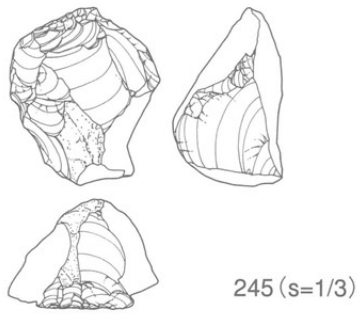


1 F2タイプ

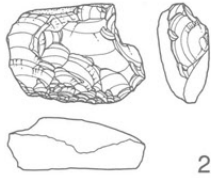


2 F2タイプ

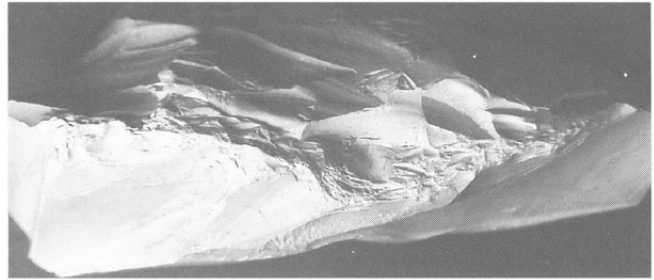
第202図 山の神遺跡使用痕写真その2



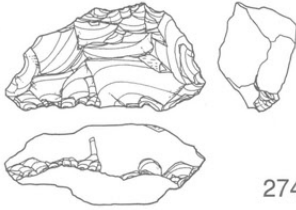
第203図 山の神遺跡使用痕写真その3



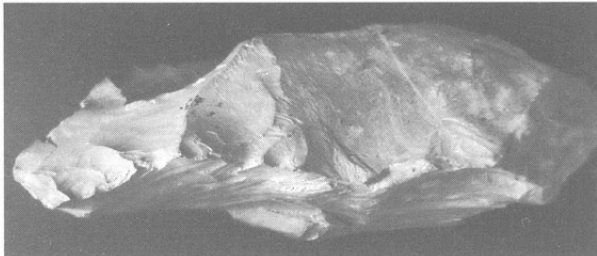
252 (s=1/3)



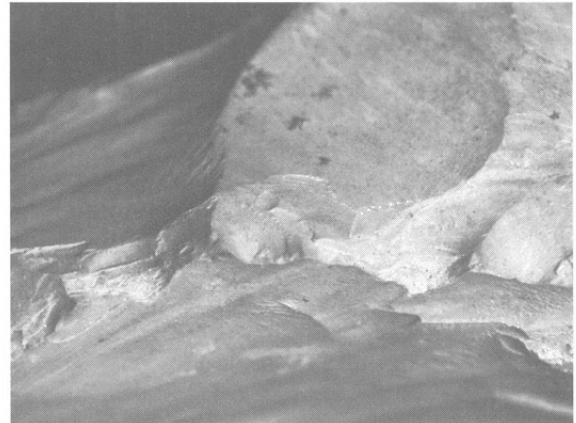
1 刃部刃こぼれと刃潰れ



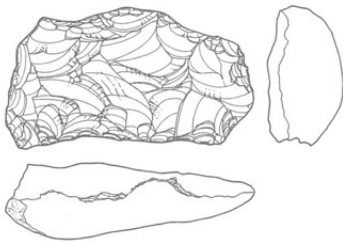
274 (s=1/3)



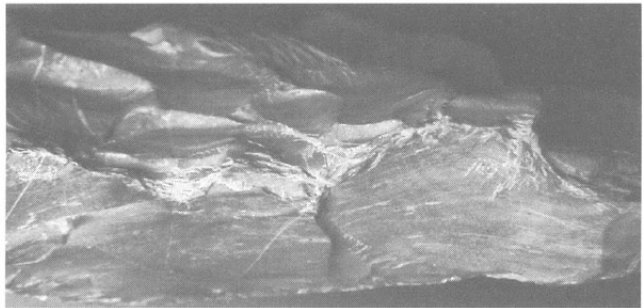
1 刃部刃こぼれ



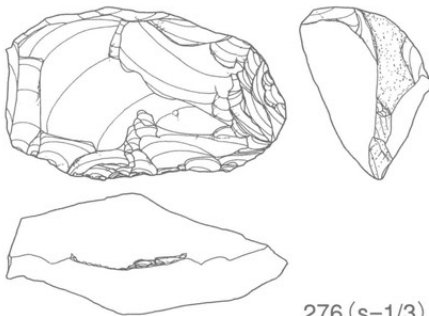
2 刃こぼれ拡大



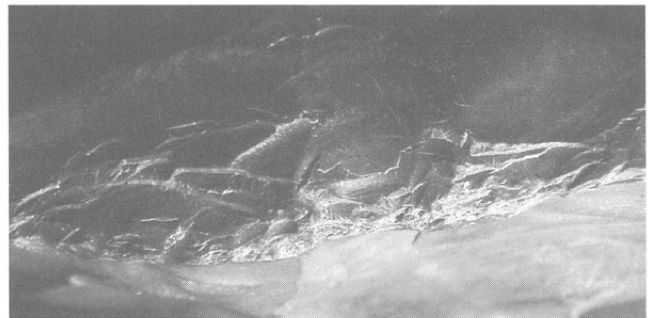
217 (s=1/3)



1 刃部刃こぼれと刃潰れ

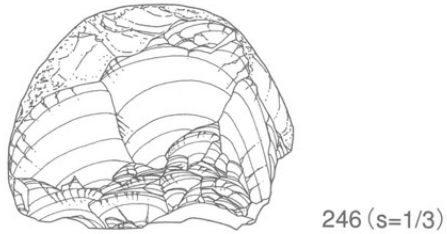
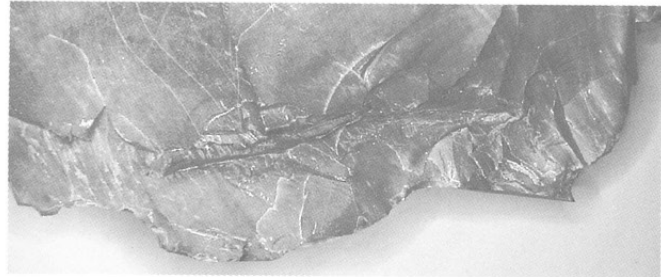
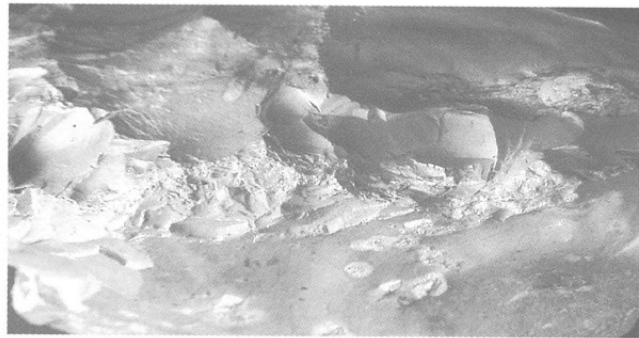
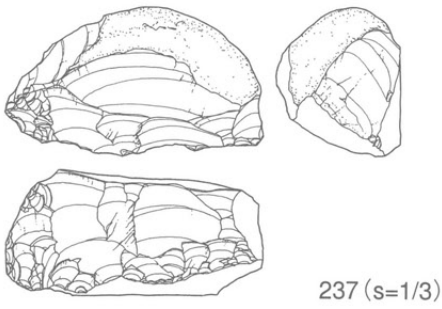
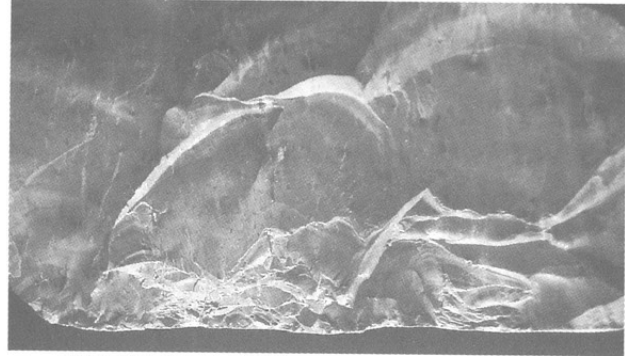
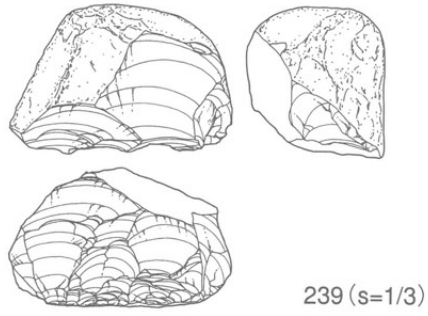
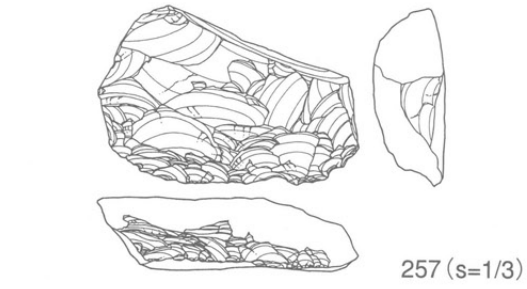


276 (s=1/3)



1 刃部刃こぼれと刃潰れ

第204図 山の神遺跡使用痕写真その4



第205図 山の神遺跡使用痕写真その5

2 石器群の概要

主要な器種について、その概要を記述する。

石鏃

石鏃は、ソフトハンマーの押圧剥離（SP）で整形された凹基鏃が主体である。この石鏃は基部の挟りが逆U字形になるほどに深い挟りが施されるのが特徴である。凹基鏃の他には、円基鏃、平基鏃が数点あるが、ハードハンマーの押圧剥離（HP）とSPで加工されるものがあり剥離技術と形態にまともではない。

石錐

刃部の加工は、HPのものが主体をしめ、形態は逆二等辺三角形になるものと基部が膨らみ、ちょうど親指と人差し指でつまめる部分をもつものがある。前者は、着柄された可能性が高く、後者は手持ちで使用された可能性が高いものである。また、使用痕は前者のものに顕著な摩耗がともなっているという特徴がある。

両極石器

本遺跡の両極石器は、剥片を素材として上下端部辺、側辺に楔タイプの剥離開始部をもつ石器である。剥離の開始部が楔タイプになる剥離は、ハンマーを垂直方向から打撃するためにおこる剥離である。重要な点は、この剥離技術がどういう目的（石鏃などの素材剥片をとるためなのか、二次加工なのか、楔として使用されたのか）で用いられているのかを見極めることである。本遺跡の場合は、微細剥離と縁辺の潰れからいわゆる楔として使用されたと推定される。

搔器

本遺跡で主体を占める器種である。押圧剥離は剥離で刃部を整形するものと、直接打撃で刃部を整形する中形・大形のものがある。石材について、黒曜石、チャート、良質な頁岩などの遠隔地石材のものについては、比較的小形で押圧剥離で丁寧に加工されており、着柄されて使用されたと推定されるものである。一方、節理がはいっているような頁岩の石器については、刃部だけ作出したものが大半で素材剥片にも原礫面をのこすものが多いという特徴がある。使い方としては、おそらく手持ちで使用したと考えられる。

削器

素材剥片の側辺に押圧剥離で長い刃部を整形する石器である。刃部は、直刃のものと外湾刃のものがある。本遺跡では、数点しかなく主体となる器種ではない。

刃器類

今回は、石器群の内容を観察し、従来の礫器とうの名称では分類しきれないことが判明したため、刃器として一括してあつかった。本遺跡における刃器とは、刃部がハードハンマーの直接打撃で整形され、刃部には、打点が明瞭な刃こぼれや激しい打撃によって刃潰れを起こしているという特徴をもつものを一括してあつかった。大きさとしては、手のひらの中にすっぽりと納まる小形、手のひらからすこしはみ出す程度の中形、手のひらから大きくはみ出す大形のものがある。

3 使用痕分析について

円刃の搔器と直刃の搔器、横刃の削器、大形搔器、小形—大形刃器について特徴的なものを低倍率と高倍率で観察した。

観察方法

観察は、キーエンス社のデジタルHDマイクロスコープ（VH-7000）による低倍率ズーム（VH-Z05）と高倍率ズームレンズ（VH-Z450）を用いて高倍率の使用痕光沢の観察をおこなった。観察倍率は、5倍～40倍と450倍～1000倍（倍率はマイクロスコープでの倍率で従来の金属顕微鏡の倍率比とは異なる）である。

観察面は、中性洗剤で洗浄をおこない、適宜アルコールを浸した脱脂綿で軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。使用痕光沢分類は東北大学の分類基準によっている（梶原・阿子島1981、阿子島1989）。

観察結果（第201～205図中の番号はすべてアルカ番号、斜字は第6章番号）

搔器（第201図146・第142図63、第201図72・第138図18、第202図145・第140図34、第203図245・第150図36当初刃器だったが搔器に変更、第203図254・第139図32、第205図257・第144図82）については、刃部の裏面側の縁辺に、使用痕光沢が観察され、光沢タイプはE1E2タイプであった。線状痕は、刃部に直行するものである。使用方法は、皮などに対する搔き取りが推定される。

横刃の削器（第202図108・第140図38当初搔器だったが削器に変更）については、刃部に使用痕光沢は観察されたが弱い光沢（F2）である。線状痕は、刃部に平行するものであった。推定される被加工物については、光沢タイプが弱いため不明である。操作方法は、カッティングが推定される。

小形～大形刃器（第204図252・第148図9、第204図274・第148図19、第204図217・第147図1、第204図276・第152図49、第205図239・第151図46、第205図237・第152図48、第205図246・第153図56）

低倍率で刃部の観察をした。刃部の特徴は、刃こぼれ、刃潰れが顕著で刃こぼれについては、打点が明瞭なものが多く、一方向に刃こぼれするものが多い。この刃こぼれの特徴から、チョッピングのように使用されたと推定される。

4 まとめ

本遺跡の石器組成は、石鏃、石錐、搔器、中形・大形刃器に代表される。この石器組成の内容からは、石鏃は狩猟具、石錐は加工具、搔器は皮加工具、中形・大形刃器は解体具という具合に非常に動物資源を活用するための道具のセットが一通りそろっている石器群の内容である。

参考文献

阿子島香1981「マイクロフレイキングの実験的研究（東北大学使用痕研究チームによる研究報告 その1）」

『考古学雑誌』66-4 pp.1-27

阿子島香1989『石器の使用痕』考古学ライブラリー56 ニューサイエンス社

梶原洋・阿子島香1981「頁岩製石器の実験使用痕研究ーポリッシュを中心とした機能推定の試みー」『考古学雑誌』67-1

角張淳一2002「石器研究の展望」『利根川』23 利根川同人

竹岡俊樹1988『石器研究法』言叢社

第10章 成果と課題

第1節 はじめに

乳川の左岸、乳川扇状地上に立地する山の神遺跡は、その横を今も餓鬼岳の登山口へ続く道がとおり、遺跡からも餓鬼岳の威容を眺めることができる。また、遺跡周辺には山の神の祠が存在しており、遺跡の地字はここに由来すると思われる。

大町市の詳細遺跡分布調査で縄文時代の遺物が散布していることが知られ、また県埋文センターの試掘調査で押型文土器が検出されたことから、縄文時代の中でも古い段階（早期）の遺跡であることが期待された。

調査では、試掘段階の予想をはるかに越えた長野県内はもとより東日本でも有数の早期中葉の集落遺跡であることが判明した。また、数回におよぶ乳川の土石流によって遺跡は覆われているので、遺物包含層も複数に分層され、早期中葉の遺構を層位からわけることができた。

実際の調査段階では土石流による堆積のためか、面的に掘り下げると層位の区分は思いのほか難しく、遺構検出も非常に困難を極めた。しかし、型式学的な分類と出土状況の検証により、縄文時代早期中葉の土器編年が構築できた。よってその成果を援用して、逆に遺構の時期を決定したものもある。

以下、層位および土器編年にもとづく時期区分を基準に山の神遺跡を概観し、成果と課題をまとめることとする。

第2節 山の神遺跡の各時期の様相

(1) 縄文時代早期中葉以前

早期中葉以前の資料は遺構、遺物ともに抽出されていない。当初出土した尖頭器（第133図1・2）は、早期中葉以前のものかと考えたが、これも出土層位や対応する土器などを勘案すれば、やはり早期中葉の遺物として扱うべきと判断した。

(2) 縄文時代早期中葉

山の神遺跡1期：土器は胴部上半が縦位もしくは斜位密接施文、胴部下半が横位密接施文の押型文土器11群（細久保式古段階）と黒鉛様の黒色粒子を含む帯状施文の山形文土器（沢式）を指標とする。竪穴住居跡はSB04、土坑はSK29が当該期の遺構の可能性があるが、層位的には次の山の神遺跡2期と同じIVb層上面（検出段階③-2）で検出された。遺物の量も極めて少ない。

山の神遺跡2期：押型文が施文されない頸部を持つ横位密接施文の押型文土器2群（細久保式中段階）を指標とする。竪穴住居跡は、SB01・SB02・SB03・SB06・SB11・SB12・SB13・SB15、土坑はSK49b・SK1072、集石・石列はSH36・SH58、さらにSF20などの焼土集中多くが当該期の遺構である。次の3期に比べると集石・石列や土坑は少なく、竪穴住居跡が多い。住居跡は切りあいがあるので、厳密な同時共存とは考えにくい。押型文の集落としては、大きい集落跡と言えよう。

山の神遺跡3期：横位密接施文の押型文土器で頸部は喪失する。異種併用押型文が出現する3群土器（細久保式新段階）を指標とする。沈線文土器はこの時期のものに伴うか。確実な当該期の竪穴住居跡はSB05だけであるが、土坑はSK01・SK14・SK15・SK16・SK17・SK18・SK41などがある。集石・石列も多く、

SH01a・SH01b・SH02～11の花弁状の屋外集石炉、SH15・SH26a・SH26bといった直線的な石列や「コ」字状に配列されるSH28といった石列が当該期のものである。また、異形部分磨製石器の大半が当該期のものであることが特筆される。

調査範囲に関しては、住居跡が少ないが、大規模な石列や多くの集石炉が作られたことや、遺物量も2期に遜色しないことを考えると、遺跡としての性格は変化した可能性があるが、引き続き人間の活動拠点として利用されたことは間違いない。

(3) 縄文時代早期中葉以降 (土器第123図)

条痕文や絡条帯圧痕文(1～9)が早期末か。底部に羽状縄文が施されるもの(12)は前期中葉、竹管文と縄文が併用されるもの(13)、浅鉢形土器?(14)が前期末か。玦状耳飾も前期だろう。隆帯が貼付された縄文土器(16)があるが中期以降の可能性がある。

玦状耳飾(第157図15)は前期、打製石斧(第155図1～5)や定角式磨製石斧(第157図9・10)は前期ないし中期の石器だろう。

早期中葉以降は土器や石器が散在するだけで、量も極めて少なく、縄文時代早期中葉以降は、定住的な生活の場ではなかったと推定される。

(4) 中近世

明らかに中世と限定できるものは土師質土器の内耳鍋の把手が採集されている(第123図19)。

近世は土坑SK1003から寛永通宝などの銭貨やキセルを伴った人骨が出土している(第7章第6節参照)。小形の凝灰岩製砥石(第158図11)も中近世のものか。

なお、SK1003を切っている溝SD02および同時期と思われる溝SD03は近世ないしそれ以降と思われるが、時期を特定できるような遺物は出土していない。

近世に山の神遺跡の南側に乳川の氾濫を防ぐために石堤が作られたという記録があり、一部石堤が現存するが、関連は不明である。

第3節 山の神遺跡の性格

(1) 縄文時代早期中葉各期の様相と性格

縄文時代早期中葉山の神遺跡1期には現在の調査範囲およびその付近に定住的な生活の場が設定されたことは間違いないが、規模としては遺物量から考えてもそれほど大きいものではなかったであろう。

2期に8+αの堅穴住居跡があるということは、すでに述べたように厳密な同時存在ではないにしても、早期押型文の段階としては比較的大規模な集落跡といえる。ただし、堅穴住居内からは明確な柱穴跡は検出されなかった。また屋内地床炉と考えられる焼土集中はみな小規模で、住居跡の切り合いも激しいことから、前期以降の集落の性格とは異なるものと考えられる。

3期は確実な堅穴住居跡は1軒であるが、多くの屋外集石炉と直線的な区画をもった石列が確認されている。異形部分磨製石器の大半がこの時期のものというのも、集落は維持されたにしても2期とは性格が変化した可能性がある。

石器は残念ながら早期中葉の各期に分別することができないので、早期中葉の全体的な傾向しかいえないが、頁岩製の剥片石器(石鏃、搔器、削器など)、石核石器(大形搔器、刃器)と花崗岩製の特殊磨石や台石が極めて多い。第9章第3節でも述べられているように、石器の使用痕などを加味した分析からは狩猟および動物の解体、処理などが想定されているようである。早期中葉の磨製石斧も到底、樹木伐採用とは考えにくく、生業の中心は狩猟であったのだろう。

(2) 早期中葉2期から3期への遺跡の性格の変化

竪穴住居跡がほとんどなくなり、変わって大規模な石列や花卉状の屋外集石炉が作られた。石器の石器は層位ごとに分別することはできなかったが、異形部分磨製石器の大半が3期に出現するのも、遺構の様相の変化と対応しているようで興味深い。

とくに3期の遺構の内容は従来知られていた長野県内の押型文期の集落としては、極めて異例の存在であり、全国的にみても対比できそうなものが、熊本県瀬田裏遺跡だけであり、かなり特殊な性格（仮に2期を一般的な生活的なものとするれば、3期は非日常的性格）をもった遺跡であった可能性がたかい。

ただし、石列の東西南北の区画はすでに2期の段階で出現しており、竪穴住居跡も石列の配置にほぼそっているため、この集落が形成される過程でこの東西南北の区画はなんらかの理由でたえず意識されていたことがうかがえる。また、異形部分磨製石器も2期の層（IVa層）から出土しているため、もともと3期的な性格はあったのかもしれない。

第4節 今後の課題

かろうじて今まで有名な割には内容が不明確であった早期中葉の細久保式の成立と展開がおぼろげながら見えてきた。さらに細久保式に先行する「立野式」や後続する土器型式の内容との検討比較する素材は提供できたものと思われる。

さらに今後は別系統として扱った帯状施文の山形押型文土器である沢式や樋沢式との関係や東海・近畿地方の押型文土器の大川・神宮寺系列、関東以北の沈線文土器といった周辺地域の土器型式と対比する必要がある。

また、石器の様相については主に事実報告しかできなかったため、今後さらに石器群の性格の解明が望まれる。

肝心の遺跡の性格であるが、考古学の報告書の内容としてふさわしいかどうか迷うところであるが、遺跡の一つの解釈として、参考になればと思い述べることにする。遺跡の性格と遺跡の名称である「山の神」やその信仰とのかかわりである。

第9章第2節でふれたように、吉田英敏は異形部分磨製石器が狩猟儀礼とが関わりとする。その後吉朝則富や木崎康弘らも同様な説を論じる。狩猟儀礼はさまざまなものがあるが、山の神とその信仰は木崎が指摘するように狩猟儀礼と深いかかわりがある。

山の神遺跡の場合、アルプスあづみの公園として買収されるまで、遺跡に隣接した場所ですら最近まで山の神のお祭りが行われていた。今も遺跡のある乳川扇状地にはいくつもの山の神神社や祠が存在し、現在も山内安全を祈る山の神のお祭りが行われている。

無論、こうした現代の山の神信仰やその場がどこまでさかのぼるかは、歴史学的あるいは考古学的にまったくできていないわけではない。しかし、偶然とは思えない事実がある。山の神遺跡について多くの異形部分磨製石器を出土した瀬田裏遺跡の大部分の地字が「山の神」という。また、3番目に多い神滝遺跡のある宮川村にも今もなお多くの山の神がここかしこに祀られている。

一方、山の神信仰が古代にも遡る可能性を指摘する研究がある。これは日本神話の例であるが、ヤマトタケルが伊吹山の山祇を侮ったため、病を得て、亡くなる逸話がある。少なくとも『記紀』が編纂されたころにはこうした山の神の伝承が伊吹山周辺にはあったのだろう。その伊吹山の山頂に石鏃が埋まっていた。狩猟活動を行った縄文人が忘れていったようなものではないと兼康保明は指摘する（兼康1996）。伊吹山の「山の神」の信仰の母体が縄文時代に遡るのではないかと推測されるのである。

ちなみに、現在も毎年行われている常盤地区の山の神のお祭りでは、剣形を二振り板に打ちつけた状態で奉納する。山の神は山の幸を人間にもたらす神であると同時に、嫉妬深く、時には人間に災いをもたらす恐ろしい神である。山の神を崇めるとともに威嚇する目的がこうした神話や祭祀には含まれているようである。剣形もこうした目的にかなっている。武器の形をしているが本当の武器ではない。大きいものも小さいものもある。まさに威嚇であり、象徴なのだから材質と形状が重要なのである。

この剣形最後はどのようになるのかと調べてみると、最初板とともに木に巻きつけてあったものが、板が木から外れ、木が腐ると剣形は山の神の祠周辺に埋まっていく。仮にこの埋まっていった状況を発掘調査すれば、剣形は集中して遺物包含層の中から検出されることになる。

考古学的に（あるいは歴史学的に）この剣形と異形部分磨製石器の系譜や関連性を証明することはできないが、異形部分磨製石器の性格を理解する上で、極めて重要な「補助線」となりはしないかと思考する。さらにこうした山の神のお祭りの場に大きな神社建築があることは稀で、たいていが巨大な木であったり、岩であったりする。山の神遺跡で検出された石列もこうした信仰の場にふさわしいものかもしれない。幸いにして石列SH28だけは、埋蔵して保存されることになった。願わくば、いつの日にか有効活用され、山の神遺跡の性格の解明に役立てられることが望まれる。

引用参考文献

兼康保明1996『考古学推理帖』大巧社



第206図 山の神「奉剣」

第11章 結 語

平成7・8年に試掘調査が行われ、平成9年から12年にかけて発掘調査を行った結果がここに報告書という形で記録保存されることになった。猛禽類の営巢の問題で調査期間の設定や周辺に水道などがなくことから水の確保などが難しかった。乳川起源の土石流で覆われた遺跡は、遺構、包含層と基盤の区別が非常に難しく、調査担当者を悩ませた。また冬になると積雪と寒気がすさまじく、山に近いという立地からすぐ暗くなってしまうなどの難点もあった。

しかし、山の神遺跡は乳川扇状地の扇頂付近ということもあり、水はけがよく、雨が降ったあとでもすぐ調査ができるという地質的な条件には恵まれ、遺跡周辺には野鳥が飛び交い、夏は涼しい林が広がり、さらに雄大な餓鬼岳を望むことができるという絶好の自然環境の中で、調査できたという体験は様々な困難を忘れさせるに十分であった。

調査の結果、縄文時代早期中葉（今から約8000年前）を中心としたの竪穴住居跡12軒、土坑143基、集石・石列72基、焼土集中45基、溝・流路6本といった集落遺跡は、長野県内はもとより当該期、日本列島有数の規模の遺跡であることが判明した。

とくに東西11m・南北9mの「コ」字状に区画した石列SH28は全国的に見ても非常に珍しい遺構であり、詳細な性格は不明であるが、「非日常的」遺構であることが推測される。

また、多くの土器、石器が出土したが、土器は、十数個体の土器が口縁部から底部まで反転復元することができた。従来「細久保式」と呼ばれてきた長野県を代表する押型文土器の型式が3期に区分できることが推測された。今後の検証を待たねばならないが、土器の型式学的研究上も極めて重要な資料であると言えよう。

石器は石鏃、尖頭器、石錐、搔器、削器、刃器といった頁岩やチャート製の石器と特殊磨石、磨石、台石といった花崗岩製の石器が大量に出土した。石器の分析からは狩猟およびその処理にかかわるという推定がなされている。今後さらなる分析・研究が望まれる。

石器のなかでは、とくに異形部分磨製石器が特筆される。41点というこれまでの調査の中で最も多い出土数というだけでなく、出土状況が記録されるという考古学研究上、最も基本的であり重要な所見が得られ、分析の礎となったことが重要である。

今後さらにこうした遺跡、遺構、遺物の研究が進展されることによって、大町市のみならず、安曇地方の縄文時代の特色や歴史的意義が解明されるのである。

発掘調査によって考古学的な研究が進む反面、記録保存という形ではあるが、実際の遺跡はこうした開発行為によって失われることになる。よって、発掘調査をし、遺物の洗浄、注記、接合、復元、遺物の実測、写真撮影、資料の分析、現場の実測図の検討、製図、事実記載、報告書の発刊が行われる。多くの金銭、時間と労力がこの発掘調査や報告書に費やされたわけである。今後この報告書の成果および遺跡のほぼ中央に埋蔵保存されている石列が広く公開され、活用されることを願ってやまない。

文末ながら、報告書刊行にあたって様々なご配慮を頂いた国土交通省関東地方整備局国営アルプスあづみの公園事務所、大町市、大町市教育委員会をはじめ関係機関、発掘調査、整理作業にかかわって頂いた皆様にはとくに感謝申し上げます。

写 真 图 版

左：平成7年度
試掘
右：平成8年度
試掘



左：平成9年度
トレンチ調査
右：トレンチ内
遺物出土状況



左：表土剥ぎ
右：面的調査



左：石列 SH 01
検出状況
右：遺物出土状況



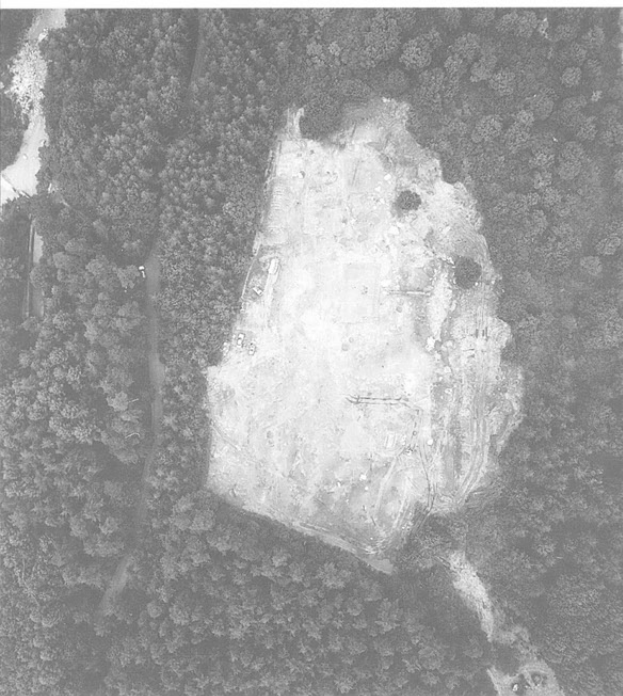
写真図版 2



左：平成10年度
Ⅲ層調査状況
右：調査範囲全景

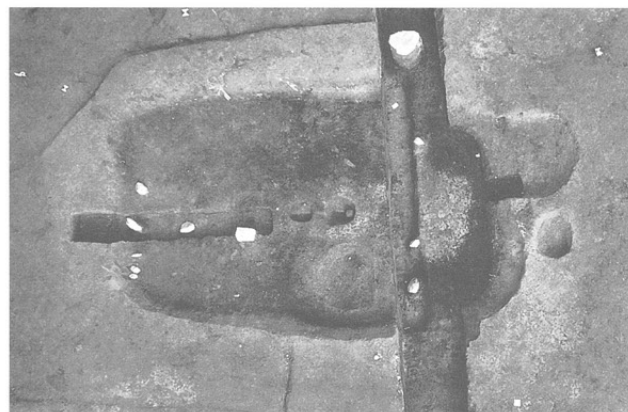


左：平成11年度
Ⅳ層調査状況
右：調査範囲全景



左：平成12年度
Ⅳ層調査状況
右：調査範囲遠景

左：SB 01
右：SB 02



SB 02
左：土器出土状況
右：炉跡

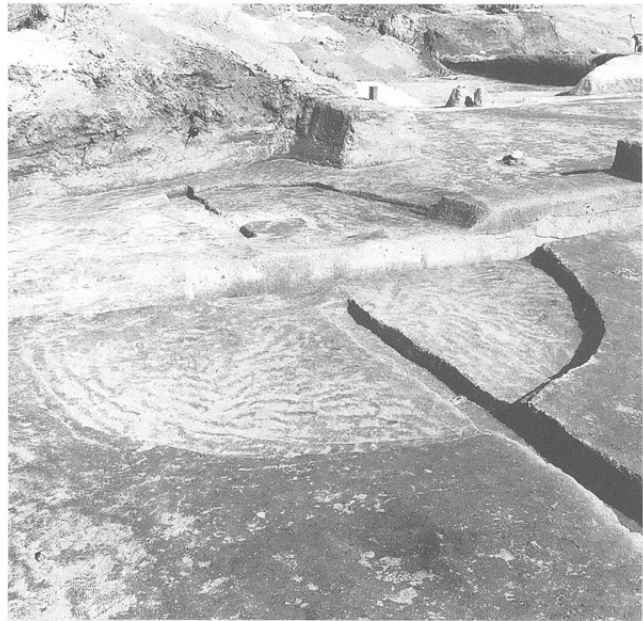
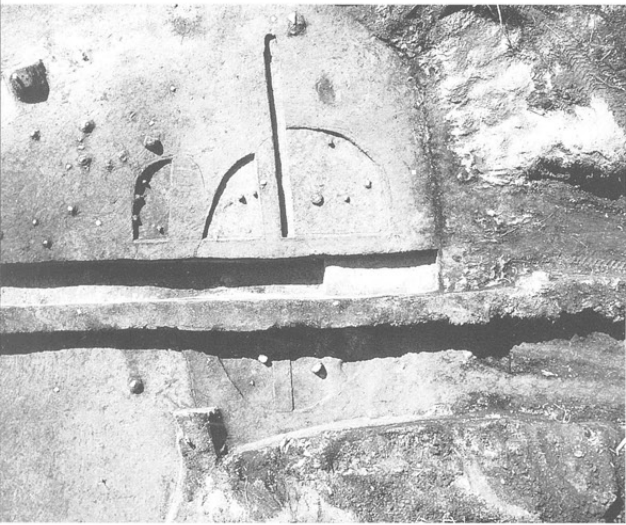
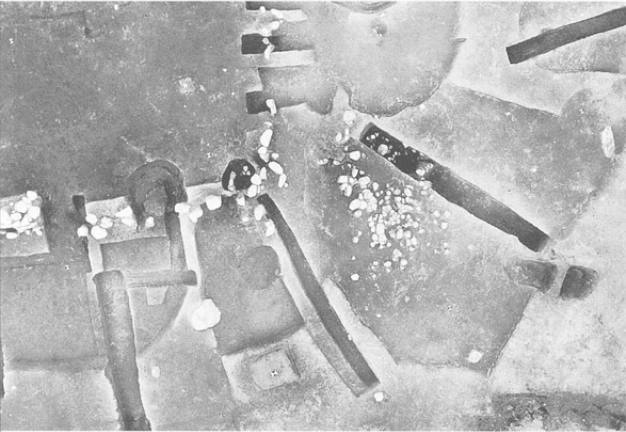
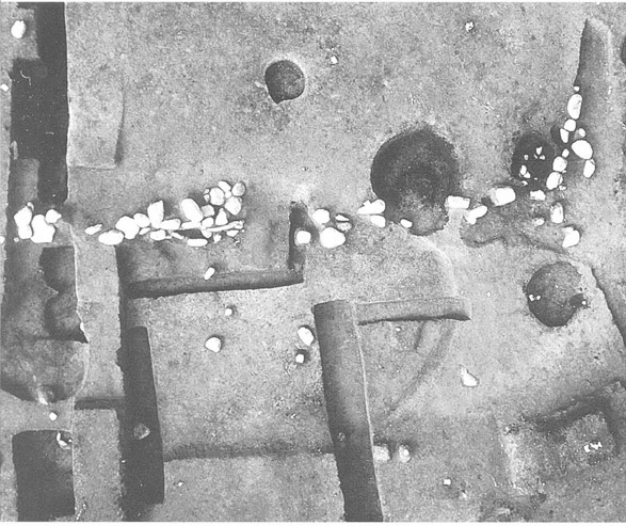


SB 03



左：SB 01とSB 04
右：SB 04





S B 05

S B 06

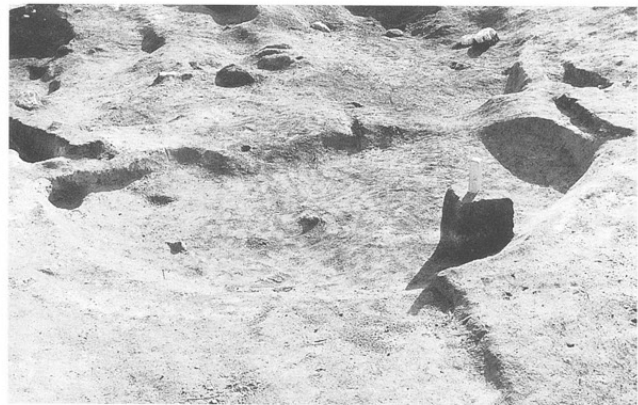
S B 11

左 : S B 12
右 : S B 13

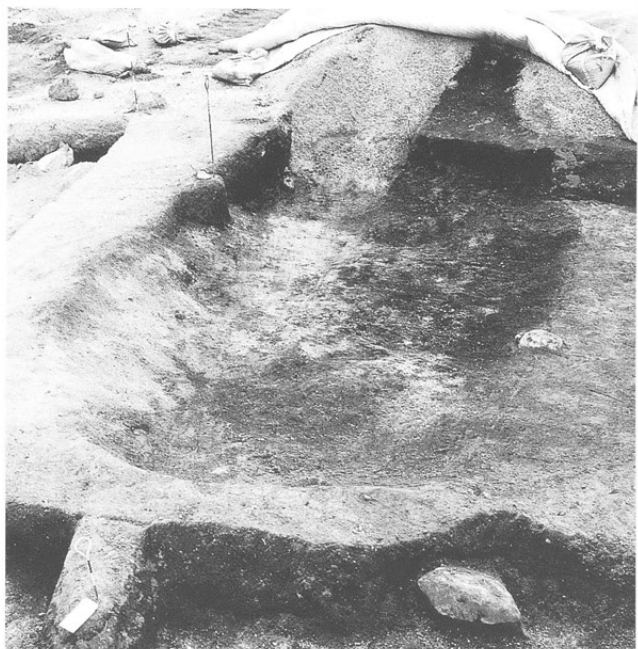
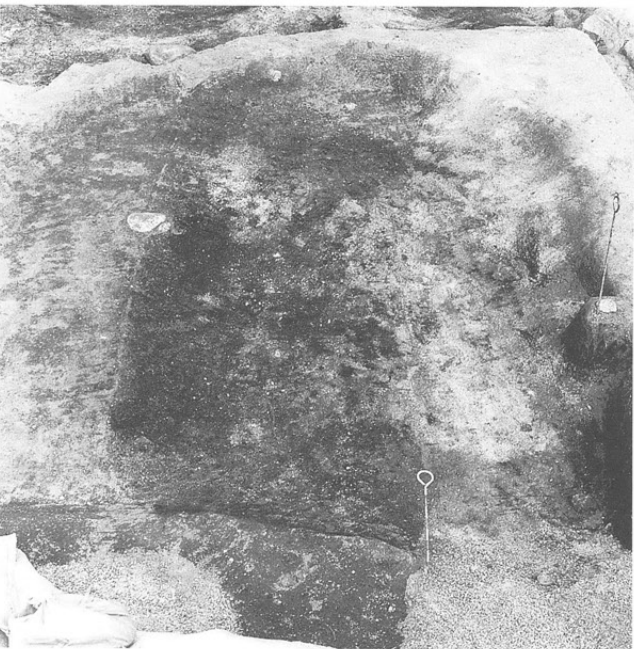
左：SB 14
右：SB 14・15



左：SB 03・12
・14・15
右：SB 15

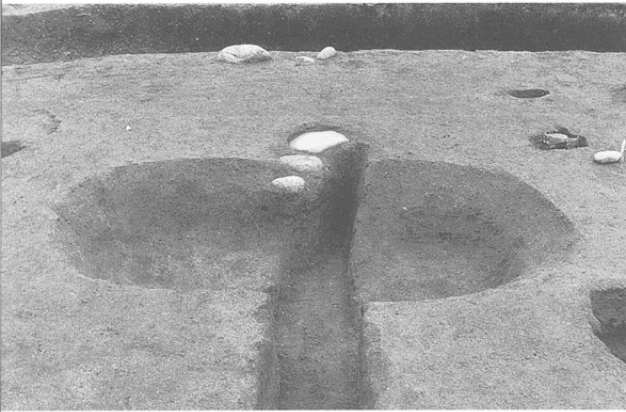


SB 16



SK 02
右：異形部分磨製
石器出土状況

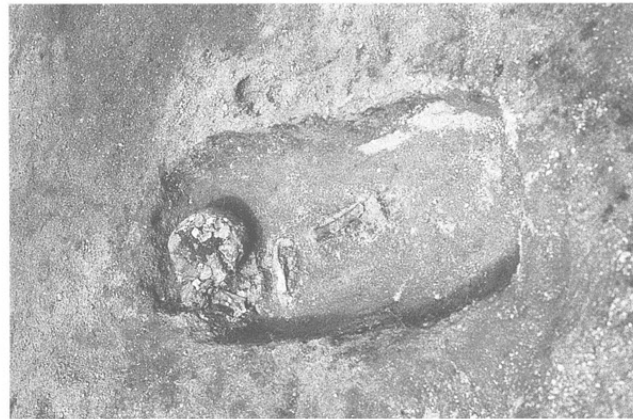




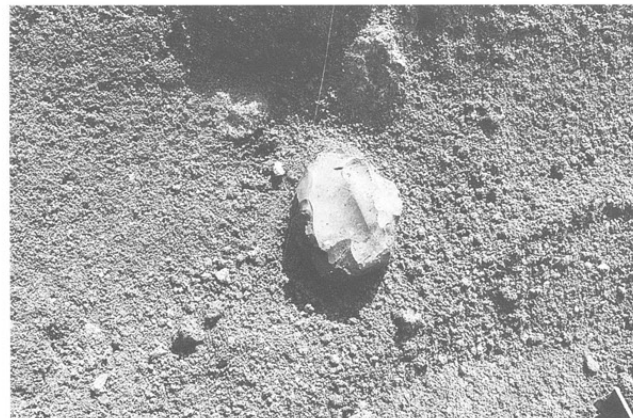
左：SK 06
右：SK 07



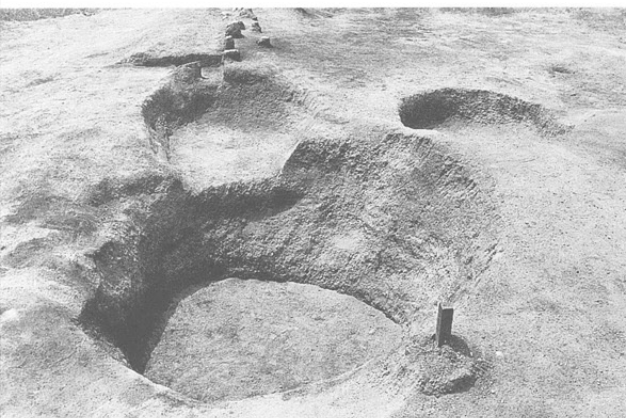
左：SK 15
右：SK 49b



左：SK 68
右：SK 1003



SK 1062
右：石器出土状況

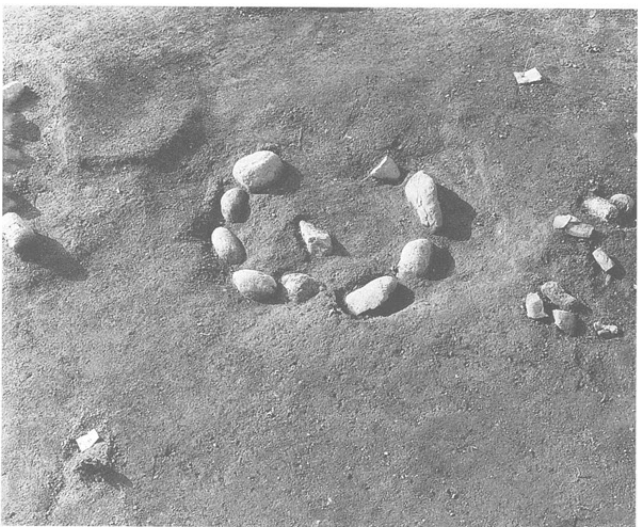


左：SK 1068
SK 1069
SK 1073
右：ロームマウンド6

左：SH 01・05～09
右：SH 01a・b



SH 06
左：検出段階
右：完掘状況

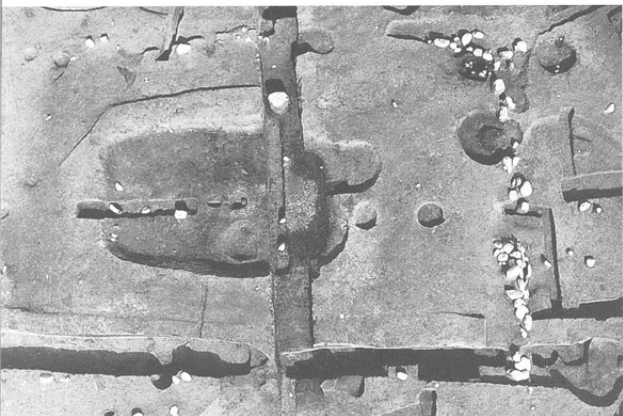


SH 08



SH 28





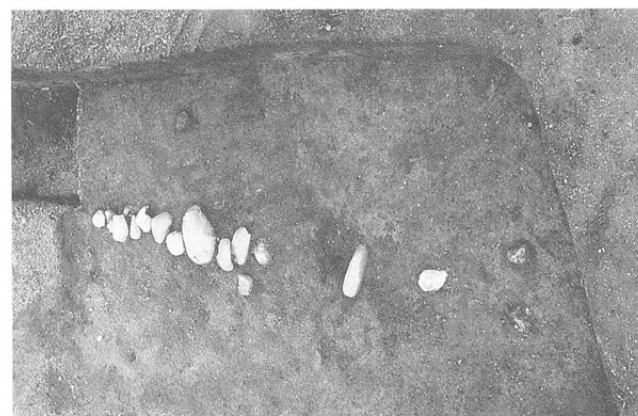
左：SH 28・SB 02
右：SH 28



SH 28 埋め戻し



左：SH 34
右：SH 35



左：SH 40
右：SH 59



左：SH 66
右：SH 68・69

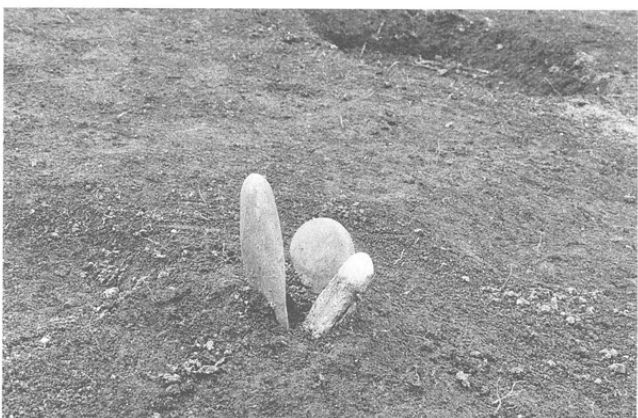
S D 03



S Q 01
異形部分磨製
石器出土状況



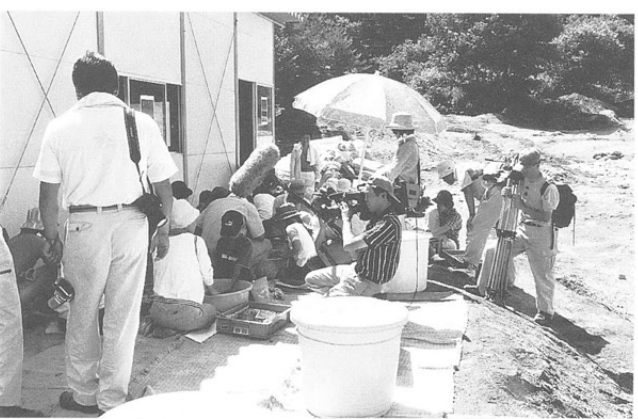
左：S Q 02
磨製石斧等
出土状況
右：S F 20

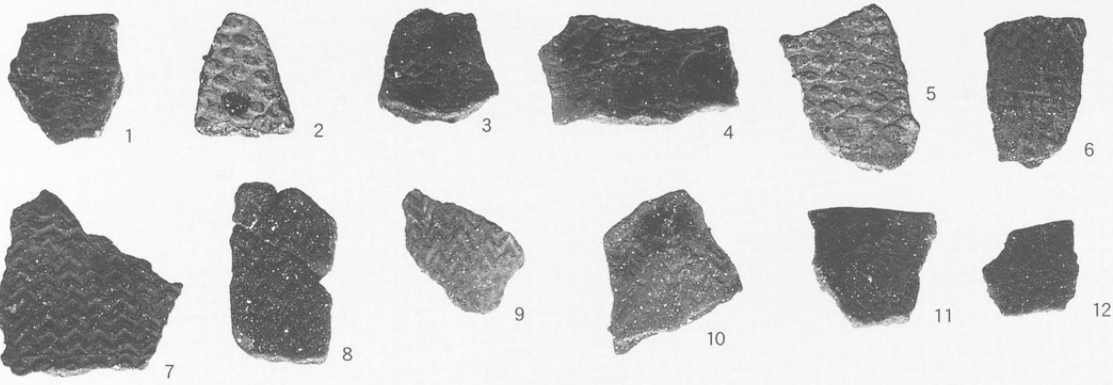


左：高所作業車による
写真撮影
右：平成11年度
現地説明会

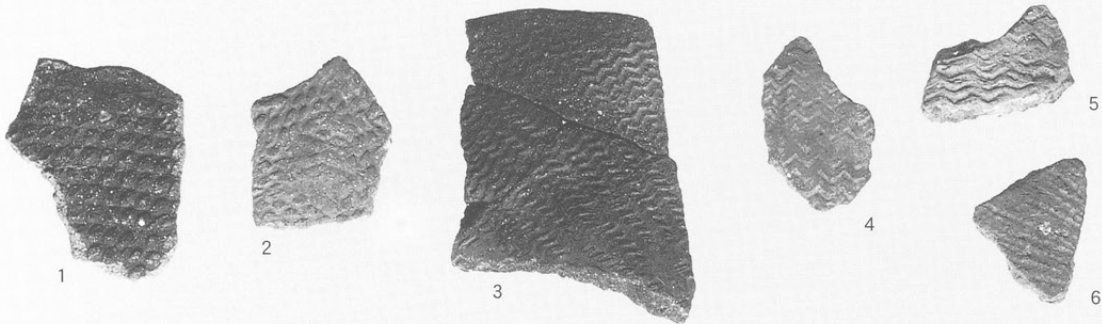


左：平成12年度
発掘体験会
右：山の神遺跡より
餓鬼岳をのぞむ

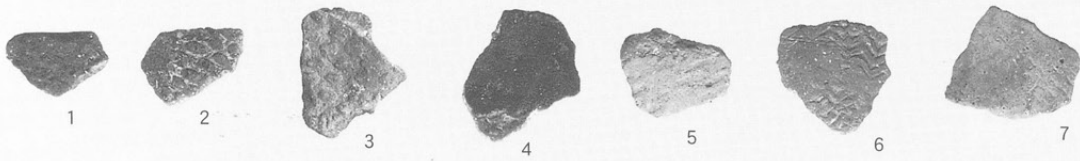




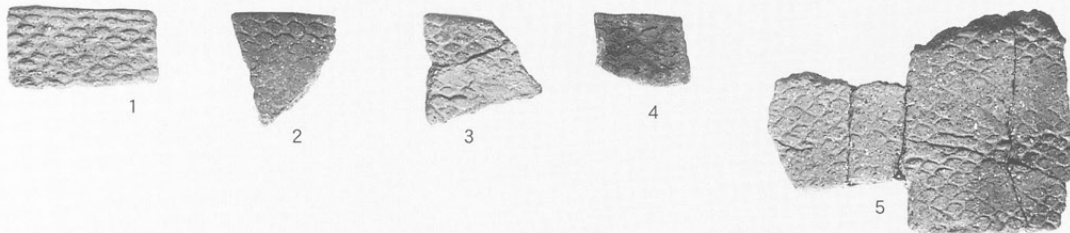
SB 01



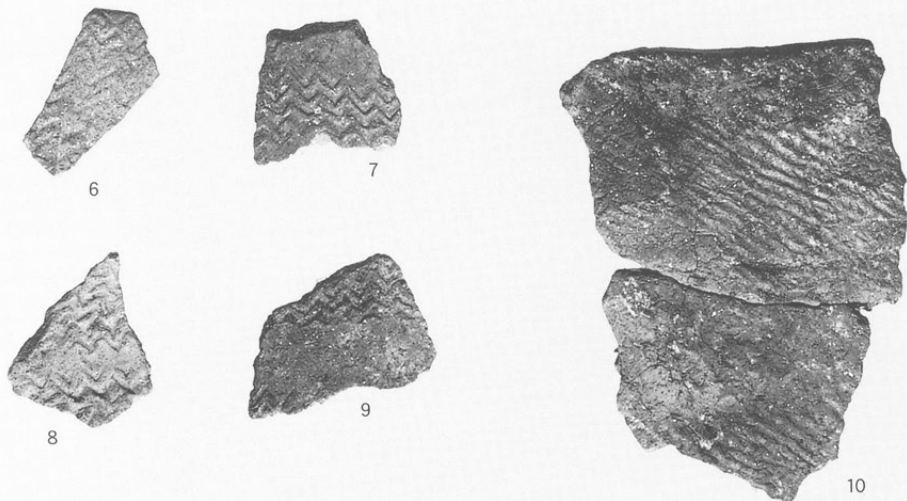
SB 04



SB 05



SB 02

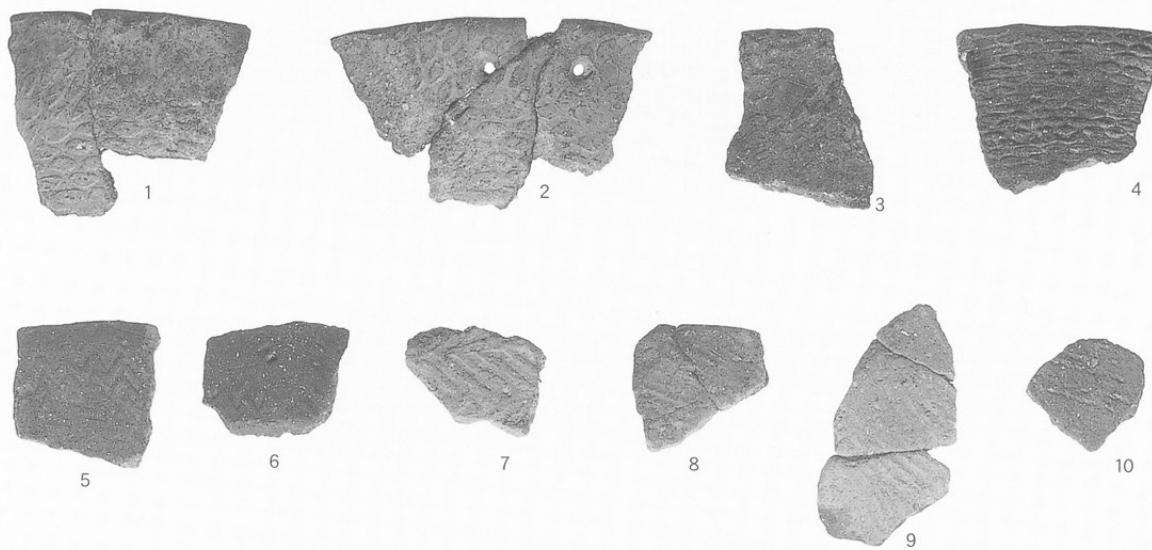


SB 02

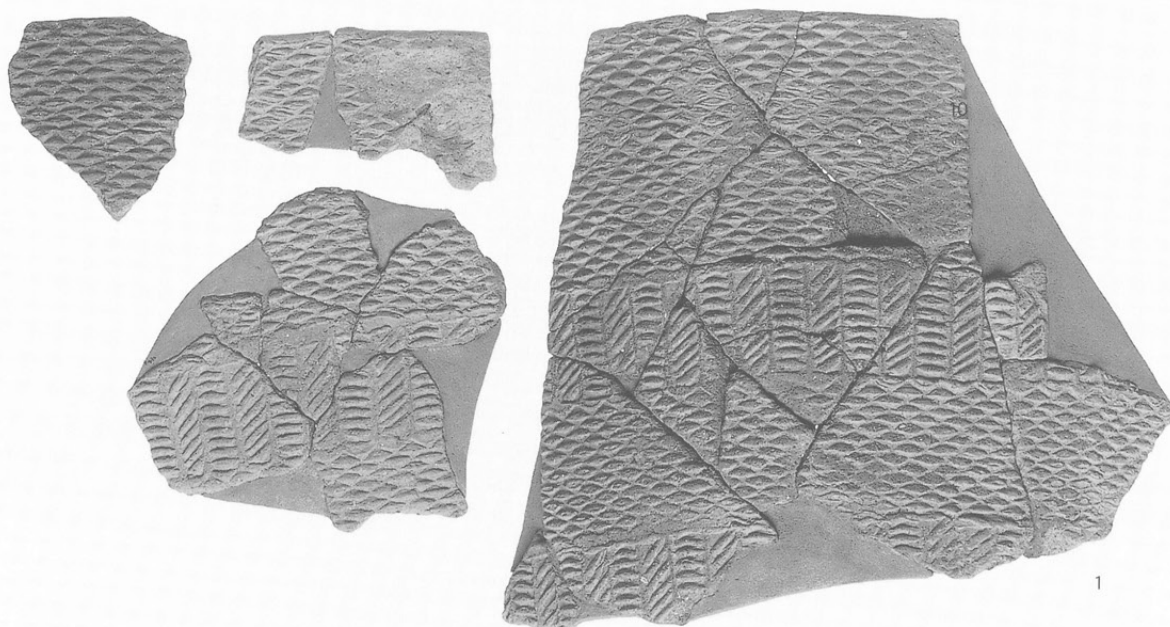




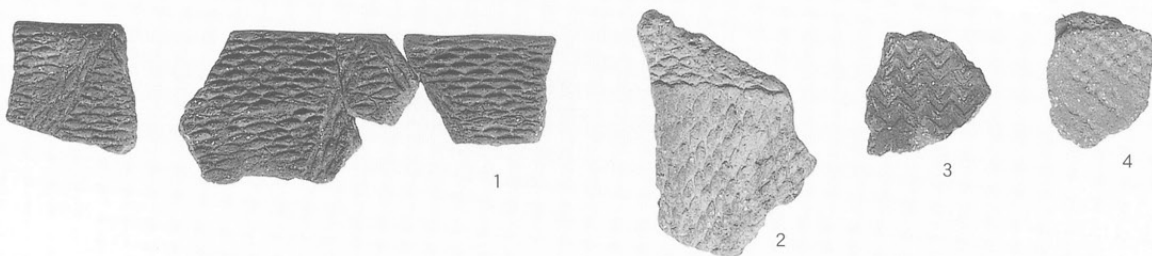
SB 06



SB 13

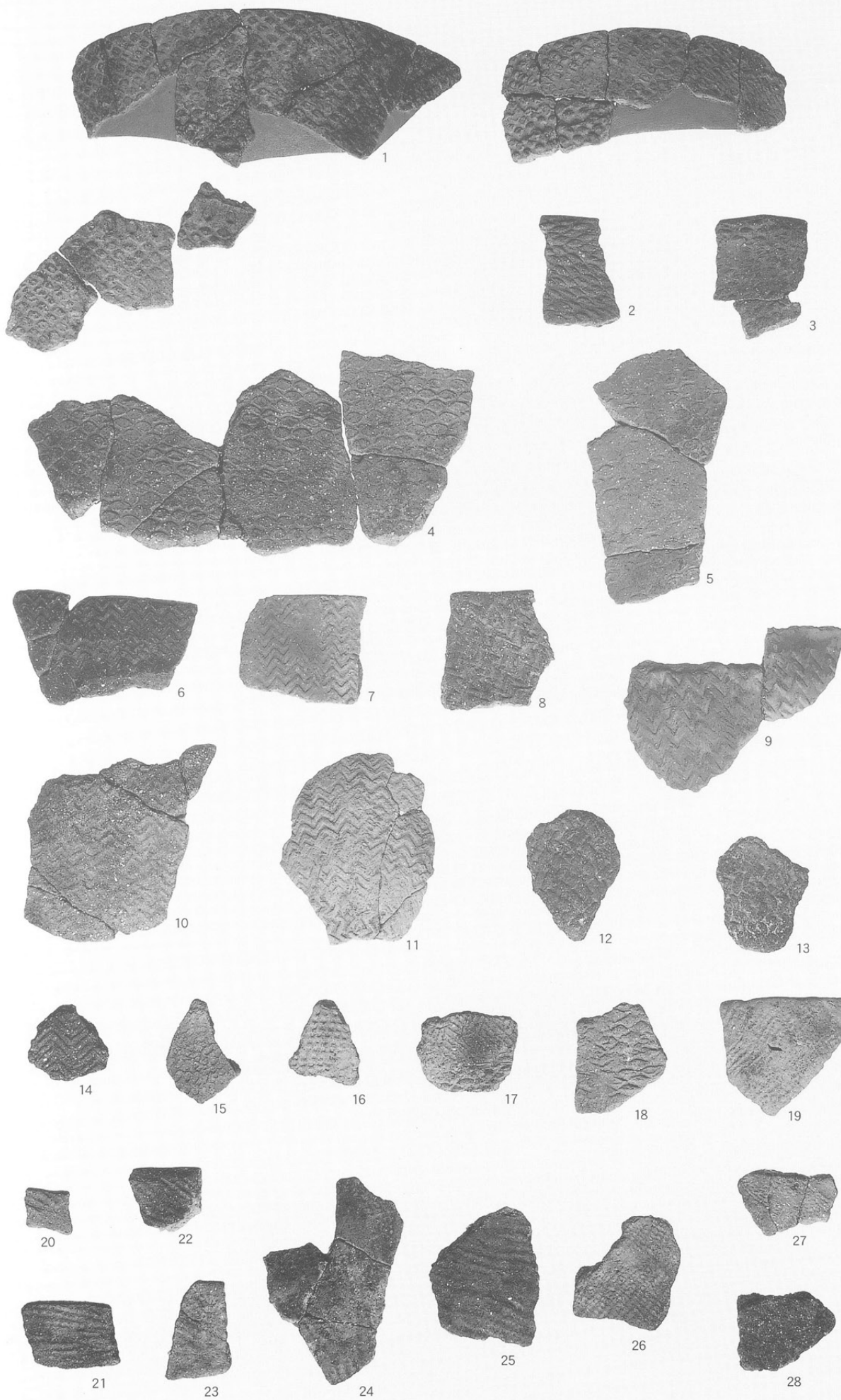


SB 15



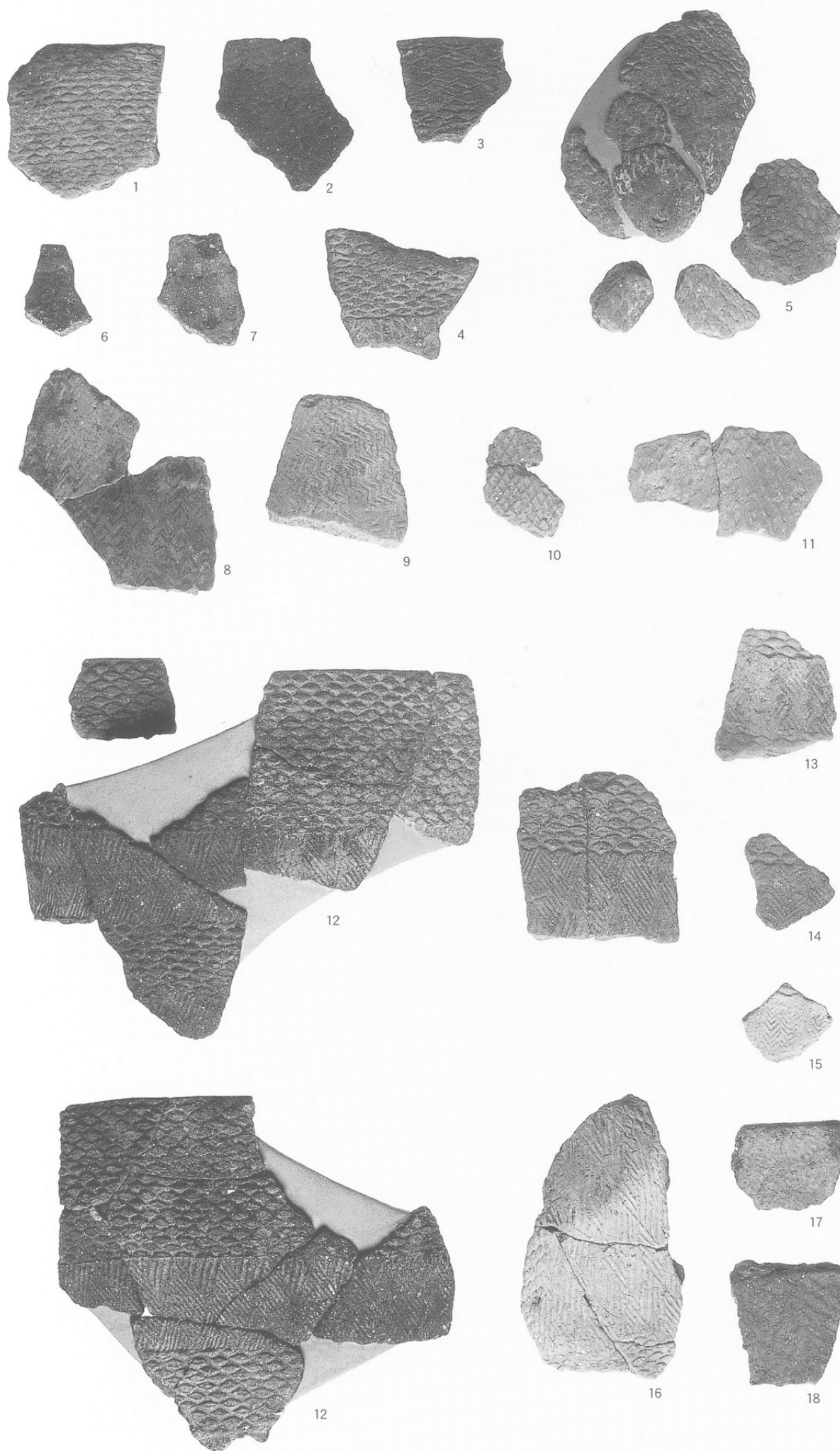
SB 16





SB 12





- 1 : SK 01
- 2 : SK 14
- 3 : SK 15
- 4 : SK 25
- 5 ~ 8 : SK 16
- 9 : SK 18
- 10 : SK 32b
- 11 : SK 38
- 12 : SK 67
- 13 : SK 68
- 14·15 : SK 1067
- 16 : I-V-16

